Vol. 71 通巻815号　平成2年2月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

ISSN 0912-8182

建築と社会

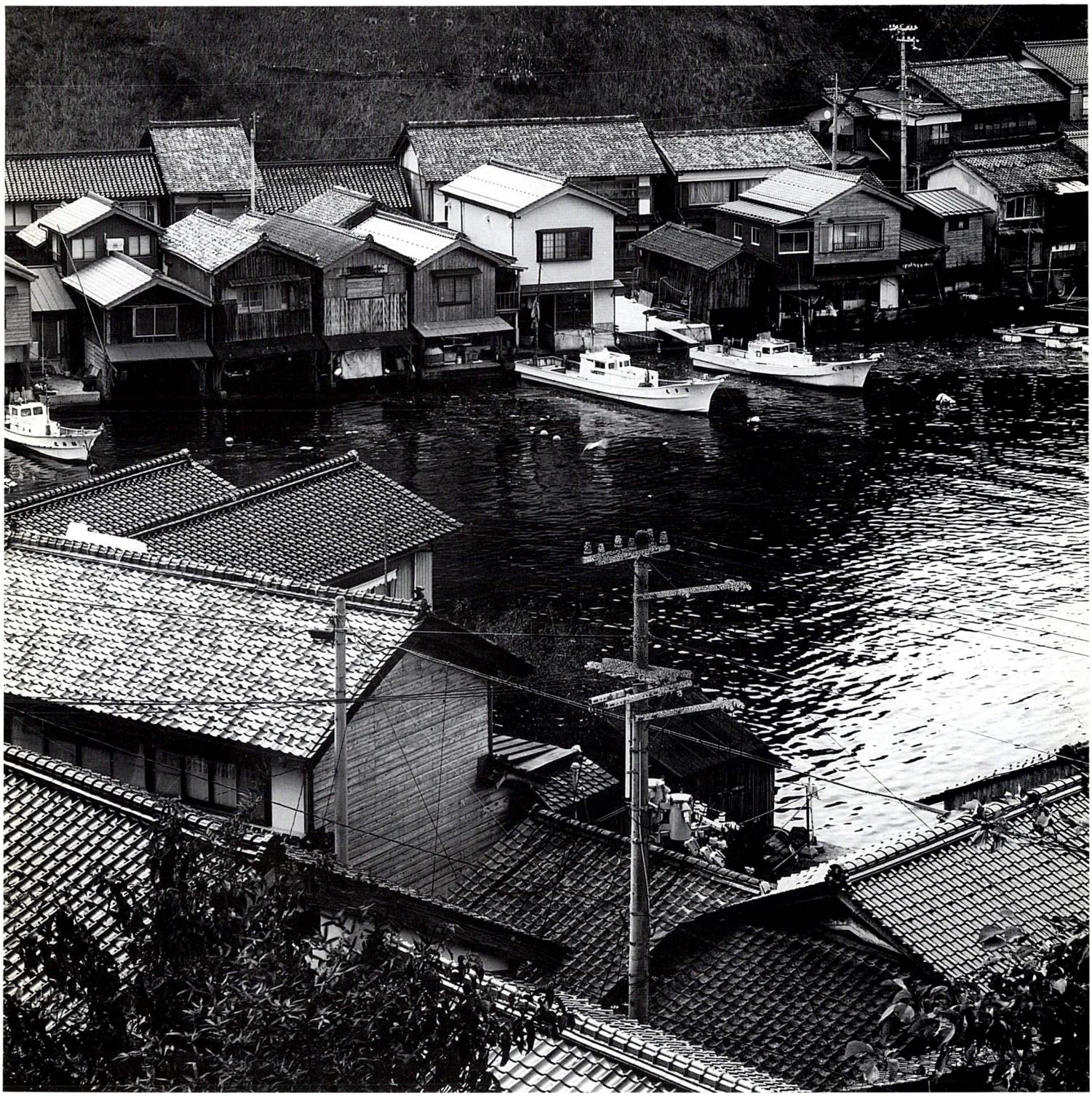
ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集

ニュータウン・ルネサンス

2

FEBRUARY



1990

日本建築協会

エルミンは常に窓開口部を見続けています。

おかげさまで25年。





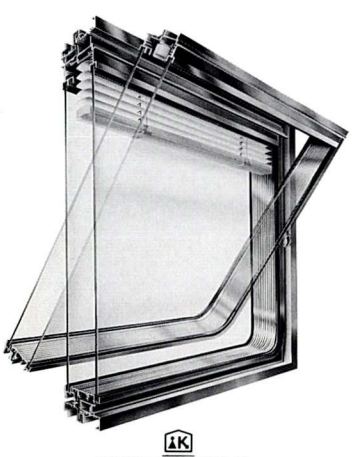




現代建築のクオリティを高める

エルミン窓

ブラインド内蔵二重硝子回転断熱窓



優良断熱建材認定品第2種59-009

現代建築に要求される窓開口部は、自然の光と風を豊かに採り入れた快適な住空間を創ることにあります。また同時に建物全体の美観にも大きな役割をもっています。しかも、省エネルギーの立場からは高い断熱性が、快適空間としての光のコントロールや防音、更にはメインテナンスに手間がかからない点など、実に様々なファクターがあります。

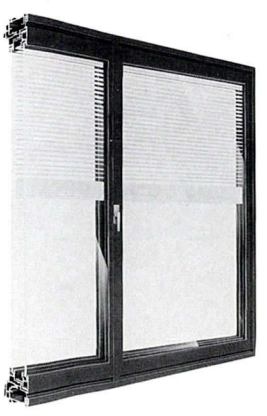
エルミンの窓はこれらファクターの全てに自信をもってお応えできます。空気汚染や騒音の酷い地域、酷暑や酷寒の地域でも、建物の中には快適さをお約束します。

製品はガラスやブラインドの組み込みまで全て工場生産。しかも施工も当社の責任施工ですので安心してお任せいただけます。建物のグレードアップにエルミンの窓をお役立てください。

建築のインテリジェント化に対応する

エルミンフラット

ブラインド内蔵同一平面引違い窓



日本エルミンサッシ株式会社

本社	〒101	東京都千代田区岩本町1-11-2	TEL.03-861-1891
大阪支店	〒550	大阪市西区京町堀1-7-9	TEL.06-441-1978
北海道営業所	〒060	札幌市中央区大通西8-2	TEL.011-222-3575
東北営業所	〒980	仙台市青葉区一番町1-14-23	TEL.022-221-1369
九州営業所	〒812	福岡市博多区博多駅東2-4-30	TEL.092-475-4820

北村陸夫建築展
―カレイドスコープの世界―



カレイドスコープⅠ　糸川邸

初めての個展です。
最近作や設計中の作品、
写真、模型、ドローイングそれにビデオもあります。

建築の本質はイリュージョン。
心の奥にふと胚胎したヒラメキ、
夢の世界に立ち現われる不思議な光景、
恣意的で断片的な思索やパッション、
私自身の個人的な想いが、建築のイリュージョンを描きだす。

私の想いは、ひとつの所に留まらず、
拡散し、旋回する。
その時代の風景に引き寄せられ、
あるいははじき飛ばされ、
空しく漂う。

カレイドスコープ（万華鏡）は鏡の迷宮、
風景を破砕し、
幾何学の牢獄に華麗に展開する。

私自身の心境であり、
現在の建築のコンセプトでもある、
カレイドスコープの世界。

そんな私の想いを、
ささやかな空間に放ちます。

どうか、ひとときの、
リゾートを。

北村陸夫



カレイドスコープⅡ　夙川アトリエ



北村陸夫氏プロフィール
1944年　奈良市生まれ
1967年　神戸大学工学部建築学科卒業
　　コンサルタント会社、設計事務所にて都市計画、建築設計を行う
1972年　北村陸夫建築設計室を開設
1979年　ＺＯＯＭ計画工房に改称
1987年　㈱ズーム計画工房一級建築士事務所に改組、現在に至る
その間、マロニエＦＤ専門学校講師、セキスイインテリアスクール講師を歴任
〈主な作品〉
輝ける廃墟／Ｔ邸（ＳＤレビュー入選）、ラ・コンクレート（商環境デザイン賞入選）、ＰＩＥＲ118（商環境デザイン賞入選）、ＧＥＮ－ＹＡ（商環境デザイン賞佳作入選）、夢の遊眠舎／マニフェスト甲陽園東山町、カレイドスコープⅠ／糸川邸、カレイドスコープⅡ／夙川アトリエ　他

■展覧会「北村陸夫建築展 ―カレイドスコープの世界」

開催期間　1990年 3 月20日(火)→ 3 月25日(日)
午前11時半～午後７時半（入場無料）
※ただし、入場は午後７時20分までにお願いします。

会　場　ソニータワー（心斎橋）９Ｆソニーサロン
（大阪市中央区心斎橋筋1-1-10）
TEL. 06-251-2391

■見学会・シンポジウム

日　時　1990年 3 月24日(土)
午後１時→午後６時
（午後６時より懇親会）

集合場所　阪急神戸線夙川駅前
（詳細は参加証にてお知らせします）

見学場所（予定）「ＧＥＮ－ＹＡ」、「夢の遊眠舎」
「カレイドスコープⅠ」（内部見学）
「カレイドスコープⅡ」（内部見学）

※シンポジウムはカレイドスコープⅠで行います。

講　師　北村陸夫氏（ズーム計画工房）

パネラー　大島哲蔵氏（評論家）
中野温子氏（京都大学建築学科４年）

定　員　40名

参加会費　会費3,500円、一般4,500円
当日受付にていただきます。
※移動のバス代、懇親会費、消費税を含みます。

申込方法　ＦＡＸ、電話で３月16日(金)までに、お申込みください。催し名（北村陸夫氏見学会・シンポジウム）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

●日本建築協会事業課
FAX06-348-0634、TEL06-348-0633

※おって参加証をお送りします。申込者多数の場合は抽選にて決定。

住友生命〝いずみホール〟見学会

大阪ビジネスパーク（ＯＢＰ）の住友生命ブロックに現在建設されているこの「いずみホール」は、オフィスカルチャーコンプレックスであるＯＢＰプラザビルの中にあり、クラッシック音楽を主体とした音楽専用ホールである。このホールは、住友生命創立60周年の記念事業の一環として企画され、音楽文化発展へのかかわりを通じて広く社会に貢献していきたいという住友生命の願いがこめられて建設された。

収容席数を821席という中規模のホールとしたのは、昨今の音楽愛好者からの「味の濃い親密な音との交わり」を望む声に広くこたえることを目的としたためで、この点にホールコンセプトの原点を据えている。ホール内観は、聴衆者があたかも楽器の中に包まれているようなぬくもりある雰囲気を、コンサバティヴなデザインモチーフによって具体化した。

平成２年４月に開幕する「国際花と緑の博覧会」と同時期にオープンするこのいずみホールは、大ホールにはないコンサートホールの良さを備えたもう一方の極の典型ホールとして、今後広く音楽ファンに親しまれ発展していくことが期待されている。

（与謝野　久／日建設計）



●建築概要

所在地	大阪市中央区城見 （住友生命OBPプラザビル内）
設計監理	日建設計
施工	竹中工務店・鹿島建設・ 熊谷組・住友建設ＪＶ
ホール性格	クラッシック主体の音楽 専用ホール
席数	821席
敷地面積	47,518㎡ （住友生命OBP地区全体面積）
建築面積	4,078㎡ （OBPプラザビル）
延床面積	38,294㎡ （ホールゾーン約4,300㎡）
構造規模	Ｓ＋ＳＲＣ、Ｂ２、17Ｆ Ｐ２（ホール：2~6F）
工期	1988年５月～1990年４月
オープン	1990年４月

日　時　1990年３月24日(土)　集合14:00～解散16:00

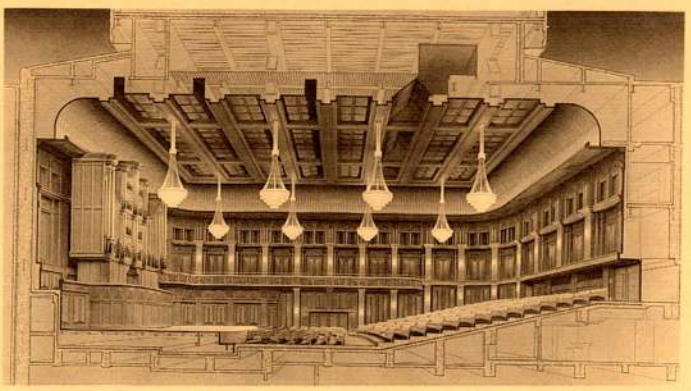
集合場所　現地（大阪市中央区城見、住友生命ＯＢＰプラザビル内）
＊ＪＲ環状線「大阪城公園駅」下車、徒歩約５分
京阪電鉄「京橋駅」下車、徒歩約10分

定　員　50名

参加費　会員500円、一般1,000円（含、消費税）
＊当日、受付にていただきます。

申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で、３月16日(金)までに、㈳日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（住友生命〝いずみホール〟見学会）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
㈳日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX06-348-0634、☎06-348-0633

＊３月19日(月)に参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。



ビデオ映写会

現代建築家ビデオシリーズ　第１回

日　時　1990年３月26日(月)　18:00～20:00

会　場　㈳日本建築協会会議室（大阪駅前第３ビル21階）

1　変貌するアメリカ建築　BEYOND UTOPIA（58分）

マイケル・グレイブス（ポートランドビルディング）、フィリップ・ジョンソン、ロバート・ヴェンチューリ、デニス・スコット・ブラウン、フランク・ゲーリー、ピーター・アイゼンマンなど、現代アメリカ建築の発展に重要な役割を果たした６人を紹介。

2　脱構築主義の建築　DECONSTRUCTIVIST ARCHITECTS（58分）

ポストモダニズムに問題を投げかけたピーター・アイゼンマン、ジャック・デリダを始め、フランク・ゲーリー、ベルナール・チュミ、レム・クールハース、ザハ・ハジッド、ダニエル・リーベスキン、ブリックス・シュヴィンスキーなど、脱構築主義建築家を紹介。

（制作・監督：マイケル・ブラックウッド、日本語版制作・発売元：デルファイ研究所、発売：丸善）





参加費　会員500円、一般1,000円（含、缶ジュース、消費税）

定　員　30名

申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で３月19日(月)までに、㈳日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（ビデオ映写会・現代建築家ビデオシリーズ第１回）、氏名、一般・会員の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
＊３月20日(火)に参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選で決定します。

●今後の予定

第２回　４月23日(月)　18:00～20:00
- ●日本のアバンギャルド　JAPAN OF AVANT-GARDE ARCHITECTURE（58分）
- ●安藤忠雄　TADAO ANDO（58分）

第３回　５月28日(月)　18:00～20:00
- ●フランク・ゲーリー　FRANK GEHRY（57分）
- ●ロバート・ベンチューリとデニス・スコット・ブラウン　ROBERT VENTURI and DENISE SCOTT BROWN（58分）

第４回　６月25日(月)　18:00～20:00
- ●ジェームズ・スターリング　JAMES STIRLING（58分）
- ●O.M.ウンガウス　O.M.UNGERS（58分）

第５回　７月23日(月)　18:00～20:00
- ●ミース・ファン・デル・ローエ　MIES VAN DER ROHE（58分）
- ●リチャード・マイヤー　RICHARD MEIER（59分）

1917創刊
1990
71集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

2 通巻 815

特集●佐賀市文化会館／ニュータウン・ルネサンス

SPECIAL FEATURES ON NEW BUILDING OF SAGA CULTURE HALL & NEW TOWN RENAISSANCE.

会告
北村陸夫建築展—カレイドスコープの世界—，住友生命“いずみホール”見学会，ビデオ映写会現代建築家ビデオシリーズ第1回，— 1

作品作風
スタンフォード日本センター — 設計施工：大林組 — 4
老人保健施設メデケアタマイ — 設計監理：都市環境設計 施工：榎並工務店 小西建設共同企業体 — 6
愛野カントリー倶楽部クラブハウス — 設計施工：清水建設 — 8

Gallery
古都 今 明日／勝村一郎 — 10

Being
近鉄劇場／宮川龍太郎 — 12

スケッチブック
最近竣工した新建築9点（No.2268～No.2276） — 14

法令コーナー
ポリカーボネート板を用いた建築物に関する基準／大森敬史・田中龍一 — 15

ニュース
第21回中部建築賞，第9回大阪まちなみ賞，第1回京都市都市景観賞，大阪市ハウジングデザイン賞 — 16

東海建築マップ
景観としての建築—愛知大学名古屋校舎，トヨタ記念病院 — 18

東海ルネサンス
対談：松岡伶子 vs 中島 一 —クラシックバレエの世界から— 19

レポート
綴織の里を訪ねて／阿部 修 — 23

新建材紹介コーナー
ＩＳスプレイコート／元木貞次 — 25

追悼文
松村雄二氏逝く／鴻池藤一・友成靖一，宮飼克二氏逝く／谷弘之助 — 26

レポート
アメリカ建設産業—アメリカからの報告—／嘉納成男 — 28

GBRCニュース
建築技術安全審査委員会について — 31

緊急レポート
京都の風致景観行政について／寺西章郎 — 32

建築の眼
建築と建物／前川道郎，咲くやこの花館（II）／森岡 進，私が建築創りに考えること（2）組織の程度／徳岡昌克，建築と造船／楠 正世 — 34

特集
佐賀市文化会館

グラビア
佐賀市文化会館 — 設計：東畑建築事務所・石橋建築事務所共同企業体 監理：佐賀市総務部文化会館建設室 東畑建築事務所・石橋建築事務所共同企業体 施工：松尾・大林・中野・上瀧共同企業体 — 36

本文
個性ある文化都市をめざして／白浜則雄 — 44
ホールの響き／古川宣一，市民参加を考えた舞台装置／藤本久徳 — 45
建築計画／八杉政一 — 46

特集
ニュータウン・ルネサンス

座談会
21世紀のニュータウン — 磯野 新・加藤育生・柏原士郎・田中直人 — 64

ルポ
ある休日の午後，千里ニュータウンで — 角島健二 — 73

アンケート
●これからのニュータウン像を求めて
失われた神を求めて／神田昌幸，ニュータウンに青い鳥はいるか？／清水治彦，“成人”千里ニュータウンの若返り／桑田 潔，これからのニュータウン開発／山地英雄，大都市地域問題解決型ニュータウンの登場／富安秀雄，神戸でのニュータウンづくりの経験から／田村健一郎，空間の機能複合体づくりへ向けて，矛盾する価値をいかに共存させるか／大久保昌一，社会の変化に対応するフレキシブルな都市づくり／片田俊彦，人間も空間も混在させたニュータウンに／笠原紀子・海ぎわニュータンのすすめ—「リンケージ開発」の導入を—／千葉桂司，多様な活動の場としてのニュータウン／細井ゆかり，時代の変化とニュータウン開発／飯塚良太，つくり続ける街なみ／森 裕史，畑違いのデイベロッパーとして／藤社 啓，「ピーターラビット村」や「地球人村」等のある集住複合体／延藤安弘 — 74

報告
●ニュータウン・ルネサンス
再開発型ニュータウン—都市の住まいづくり— — 山本英夫 — 84
再開発期を迎えた千里ニュータウン — 吉村英祐 — 86
住宅供給の一方策—泉北ニュータウンの賃借権付分譲住宅— — 鐘 哲男 — 87
住民参加によるニュータウンづくり—建築協定による住環境形成— — 鈴木克彦 — 88
高齢化に向けたニュータウン — 吉村英祐 — 89
ライフスタイルの多様化に向けたニュータウン — 鈴木克彦 — 90
千里ニュータウン・駐車場問題 — 角島健二 — 91
魅力あるニュータウンへのデザイン戦略 — 田中直人 — 92
複合機能都市の再生へ向けて — 河端秀直 — 94

構造の頁177
設備の頁179
施工材料の頁174
Information
中間階で免震したインテリジェントオフィス／宮崎光生 — 96
最近の地域冷暖房—大阪本庄東地区の熱供給—／宮本庄三 — 98
視野選択ガラス／小垣敦洋 — 99
シンポジウム「建築とアート—その不協和音」，第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ募集，都心型ニュートレンドハウジングの供給，建築家のビデオを無料レンタル， — 100

新刊紹介
プロのノウハウ「インテリアコーディネートの100ポイント」（町田ひろこ監修・松本 茂・村元俊子共著）／川道麟太郎 — 102

月報
日本建築協会月間の動き（平成元年12月分） — 103

「建築と社会」2月号表紙
表紙写真撮影 稲住泰広
表紙デザイン 藤田治彦

伊根の舟屋集落

伊根は京都府の日本海側西北部の奥丹後半島突端近くの集落である。今ではここでしか見られない2階建の舟屋が、断崖をつらねた海岸線沿いのわずかな平地にへばりついている。2階部分の立派な母屋が、かつて隆盛を極めたこの漁村の姿を彷彿させるが、今では機や養殖が地区の経済を支えているらしい。曲がりくねった狭い道から「写させて下さい」と撮影の許可を乞うたところ、「いいですよ」と見知らぬ私を親切に案内してくれた老女のやさしさも、ここにはまだ残っていた。

■特集予告
3月号／東海の都市景観
4月号／スケール感
5月号／プレハブ住宅技術の現在と未来

会 長 佐野正一
副会長 足立 孝・市川 宏
鴻池藤一・葉貝公明
編集委員会（平成元年度）
■編集理事
金井 弘次
金多 潔
小島 雄
城 憲一
須賀 好富
竹中 錬一
長谷部朔郎
松村 慶三
若山 繁
渡辺 忠
■編集委員長
長谷部朔郎
＊上田 信也
■編集顧問
東 孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
角島 健二
河端 秀直
小浦 久子
鈴木 克彦
○田中 直人
平岡 博
山尾 弘子
吉村 英祐
☆建築計画系
上杉 秀隆
江副 敏史
○加藤 晃規
北村 潤
鳴田 聖二
庄野 利博
西川 純一
前川 治彦
牧野由美子
三宅 淳
＊森田 晴美
矢野 裕芳
山中 恵子
山本 匡
☆インテリア・住宅
石倉 健彦
一ノ瀬満雄
大塚 慶子
○加藤 力
神谷 剛
＊北浦かほる
北山 喜与
駒田 哲男
細田 泰彦
増地 秀夫
★構造分科会
和泉 一義
清 孝好
馬場 研介
○福山 国夫
山崎 雅生
和田 勉
★設備分科会
安信 浩一
石野 幸義
遠藤 進
梶井 宏修
河津 隆之
○佐藤 秀彦
別所 清
村上幸三郎
★施工材料分科会
有光 利治
河戸 隆
○志水 史典
田添 寿昭
丹羽 稔
松村 勝実
★法令分科会
＊大前 博司
佐藤 勝
広瀬 丈洋
松井 昭
南出 和延
■作品作風小委員会
荒川 朱美
遠藤 公介
岡本 隆
北澤 修一
玉崎 良和
○塘 伸夫
富田 昌義
福地 一彦
松田 善弘
宮下 幹雄
＊水川 尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
赤井 富弘
伊藤 郁郎
稲木 裕子
＊今井 邦夫
上埜 京子
北村 恭一
小林 孝一
佐伯由紀子
柴田 厚
○高田 光雄
高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
溝口 正人
■広告企画小委員会
＊池渕 俊男
佐野 寛志
○下村 甫
橋本龍二郎
原田 常介
藤田 孝吉
山下 修司
○渡辺 忠
○印 副委員長と幹事 ＊印 同代行

印 刷 平成2年2月20日
発 行 平成2年2月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 日本写植印刷株式会社
電 06—606—1111㈹
青葉印刷株式会社
電 06—351—5428㈹
定 価 980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）



北面外観

スタンフォード日本センター

設計施工　大林組

所 在 地　京都市左京区岡崎法勝寺町52-2
敷地面積　1,999.72㎡
建築面積　464.38㎡
延床面積　1,477.09㎡
構造規模　RC、B1、2F
工　　期　1989年2月～1989年10月
最 寄 駅　京阪本線三条駅

撮　　影　島　修一

南西より見る



中庭



京都の魅力は奥が深い。長い時間をかけて育まれた美意識と新しいものが見事に調和している。その京都にスタンフォード大学の９番目の海外キャンパスが完成した。

計画のスタートは三年前の春に遡る。百万遍・東一条・北白川と候補地を尋ね歩いて、最後に辿り着いたのが、ここ岡崎法勝寺町である。古刹と史跡と文化施設の点在するこのあたりは、立派な屋敷が立ち並ぶ閑静な住宅街であり、この敷地も実は、ある個人の庭の一部である。従って、設計の主題をランドスケープに置き、●周囲の環境になじませること、●敷地のレベル差を上手く利用すること、●日本的なものを咀嚼（そしゃく）した上で、外国の人達に使いやすい場を提供することの３つをコンセプトに定めて計画をすすめた。

その年の８月にスタンフォード本校で行ったプレゼンテーションは、枕草子の冒頭の一節ではじめ、自然との調和、時間と空間の融合、非対称の構成、重畳的展開といったキーワードを使って説明をし、評議会の全面的な賛同を得ることができた。

この建物の特徴は、中庭をめぐる井桁型の平面、壁と窓と樋で構成したパターンの繰返しによる立面、エントランスでスキップした断面である。玄関にはいると、地階と１階が同時に見渡すことができ、ラウンジで寛げば、中庭の孟宗竹やドライエリアの緑が、目を楽しませてくれる。外観は伝統的な和風のデザインを踏襲し庭園との調和を図り、内部は研究と教育に相応しい環境づくりを目指した。

先ごろ完成した国際交流会館とともに、このスタンフォード日本センターは、岡崎における国際文化教育ゾーンの拠点として位置づけられている。

南禅寺の山門、永観堂の多宝塔、黒谷の三重塔を一望にすることができる、素晴らしい環境の中で学んだアメリカの若者達が、これからの日米関係をリードする新しい国際人に育っていくことを願っている。

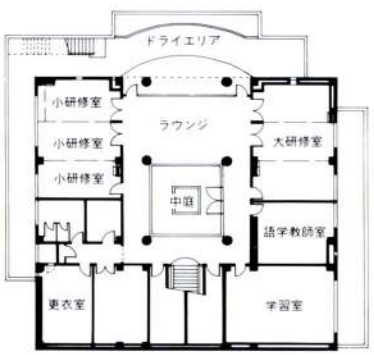
（三谷幸司、広田和正／大林組設計部）



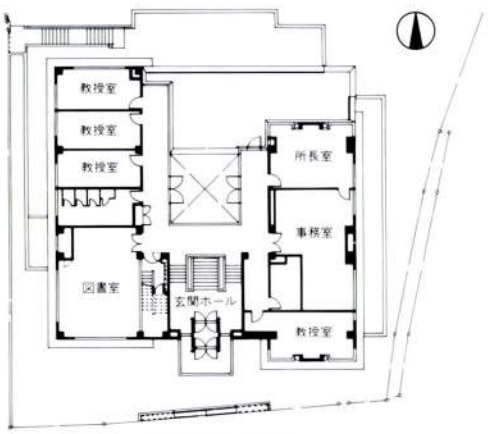
ドライエリアを見る



断面図　1：600



地下１階平面図　1：600



１階平面図　1：600

玄関ホール見上げ



玄関ホールより中庭を見る



老人保健施設メデケアタマイ

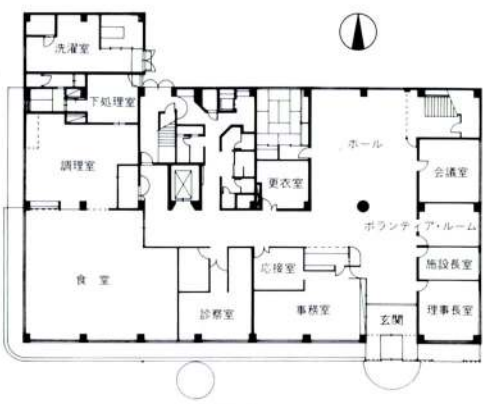
設計監理　都市環境設計
施　　工　榎並工務店　小西建設共同企業体



全景



正面外観



1階平面図　1：600

健康な生活を維持・増進するための地域施設として、老人保健施設“メデケアタマイ„は、南海本線・箱作駅より南へ徒歩5分のところにある。
近くには、阪南町ピチピチビーチもあり環境的には、海と山を間近にひかえた、ちょっとしたリゾート地へいった雰囲気もあり“オシャレ„なエリヤとなりつつある。
全体デザインは、Big・Box・House である。
内部は、わかり易く見通しのきく構成としたために、管理が容易に行なえることとなり、介護に十分な力をそそげることとなる、中廊下式4層プランとした。
居間的機能空間として、1階玄関ロビー、2階、3階には、海の見えるレクリエーション・ルームを配置してこれをオープン階段にて結んでいる。老人の活動性を高め、安全性の確保と日照調整を兼ねて建物周囲にゆったりとした回廊のようなバルコニーを設置し、避難用スロープを併設している。
1階には、食堂、サービス、管理部門を集約し外来のディケア者との対応の場とした。
2階、3階は、ほぼ同じ平面構造で、広い廊下をはさんで、東、南、西側に、療養室を配置して、日照、通風、換気を確保し、居住性を高めている北側には、サービス・ステーション、便所等とした。4階には、機能訓練室と通所者用デイ・ルームを可動式間仕切で、一本化もできる空間を得ることでより多目的に利用できる構成とした。
また、一般浴室は、北側に配置し、大阪湾を展望でき、明るさと快適性をもたせた。
まったく新しい用途の建築物であるため、大泉会・泉陽園の理事長をはじめスタッフの方々が永年培われた運営管理上、既存施設の不備な点・便利な点等について打ち合せ、協力を得ながら計画・設計を進めた。　（芳本　孝／都市環境設計）

所 在 地　大阪府泉南郡阪南町箱作2047-3、2046-2
敷地面積　2,221.000㎡
建築面積　994.017㎡
延床面積　3,344.463㎡
構造規模　RC、4F
工　　期　平成元年1月～平成元年10月
最 寄 駅　南海本線 箱作駅

撮　　影　D.P.パーラー　中道弘行


ホール


廊下


機能訓練室

愛野カントリー倶楽部クラブハウス

設計施工　清水建設

所 在 地　長崎県南高来郡愛野町野井山頭
敷地面積　912,889.00㎡
建築面積　　1,866.25㎡
延床面積　　2,463.39㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　平成元年1月～平成元年9月
最 寄 駅　JR長崎本線 諫早駅

撮　　影　寺崎　健(S.S九州)


正面外観

このゴルフ場は、長崎県諫早の愛野町の丘陵地に位置している。18ホールの本格的なチャンピオンコースのゴルフ場である。クラブハウスはコースを一望できる緩やかな北斜面の高台に立地し、見下しの先に有明海を展望することができる。

建物の配置計画では、その有明海と18番ホールを結ぶ軸線を強く意図し、その線上にエントランス、ホール、吹抜空間、スタートテラスを位置させ、その両翼に各諸室を展開させる構成をとった。

プランニングについては、眺望を生かすこと、明解な機能別ゾーニングを行うこと、客・サービス動線のシンプル化を計ることにより、訪れるゴルファーに対して平明な空間づくりを目指した。

外装デザインについては、ホール部分に求心性を持たせ高い45度の切妻屋根を設け、それを幾何学的なガラスカーテンウォール構成で見せることを特徴とした。最終ホール――18番から上がって来るゴルファーがこの求心部分に視線を落とすことで愛野カントリーゴルフ場の爽やかな印象が高まることを期待している。

（前田博親・林　寛三郎）

ラウンジ・喫茶コーナー



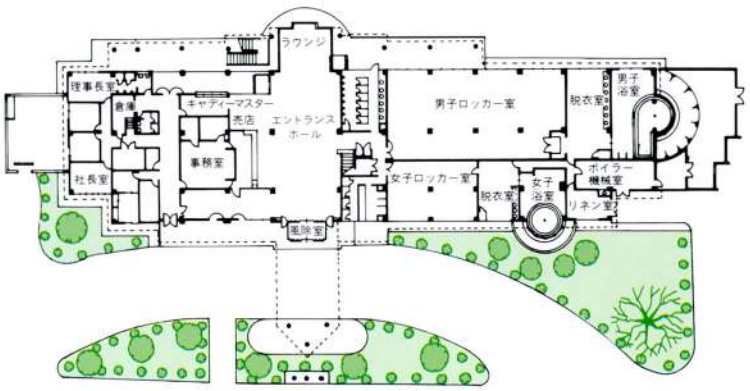
エントランス



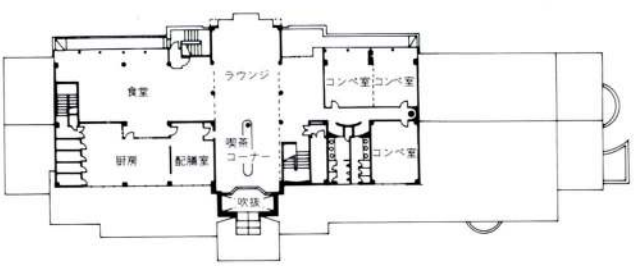
エントランスホール



食堂



1階平面図　1：1000



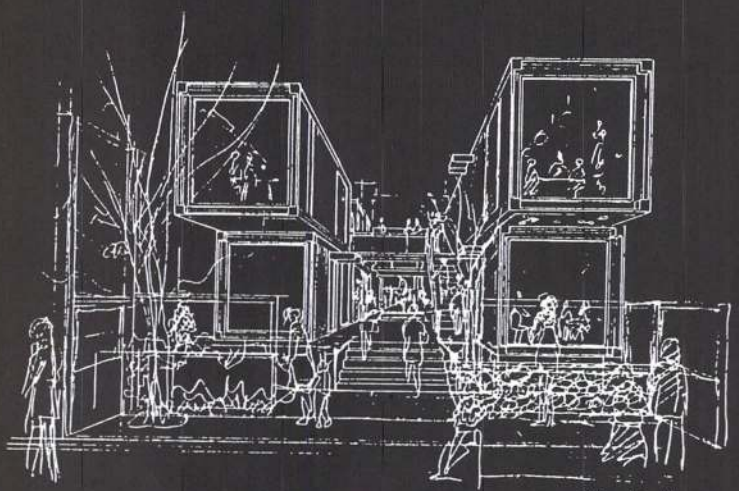
2階平面図　1：1000

Gallery

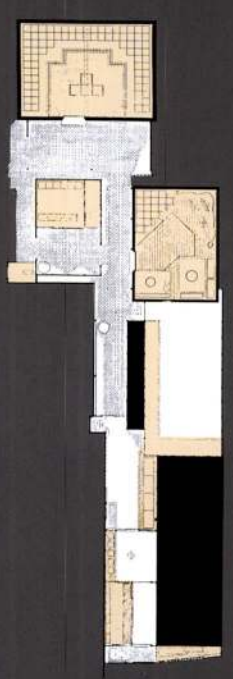
まち・建築・ひと



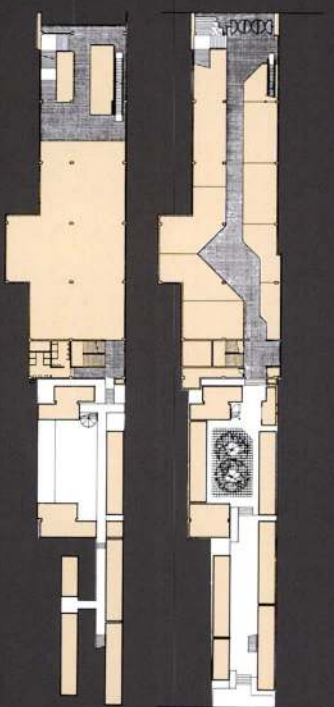
THE FOROM



コトーモール

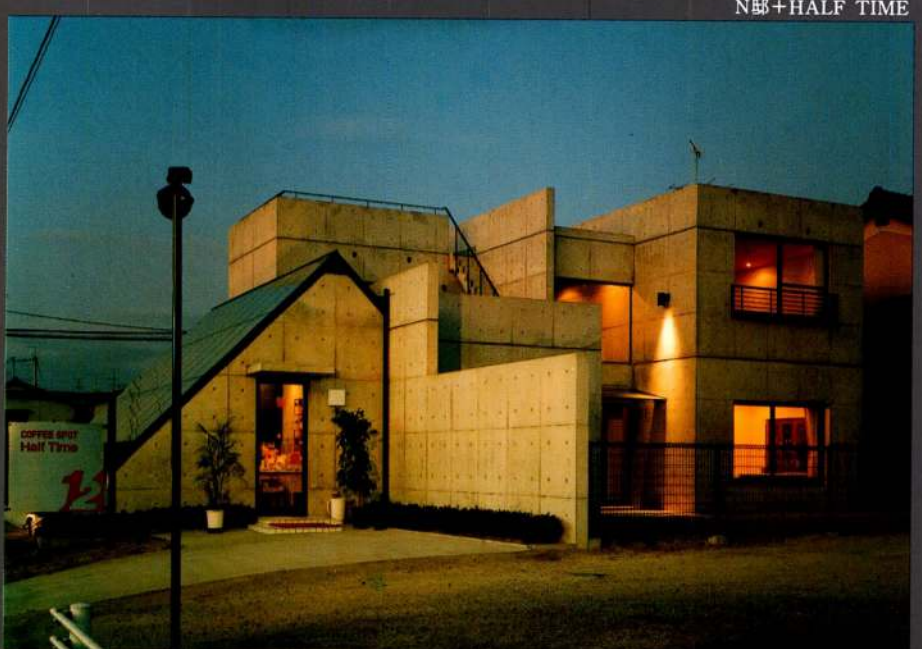


奈良町の再生「奈良オリエント館」



奈良町の風穴「コトーモール」

N邸＋HALF TIME



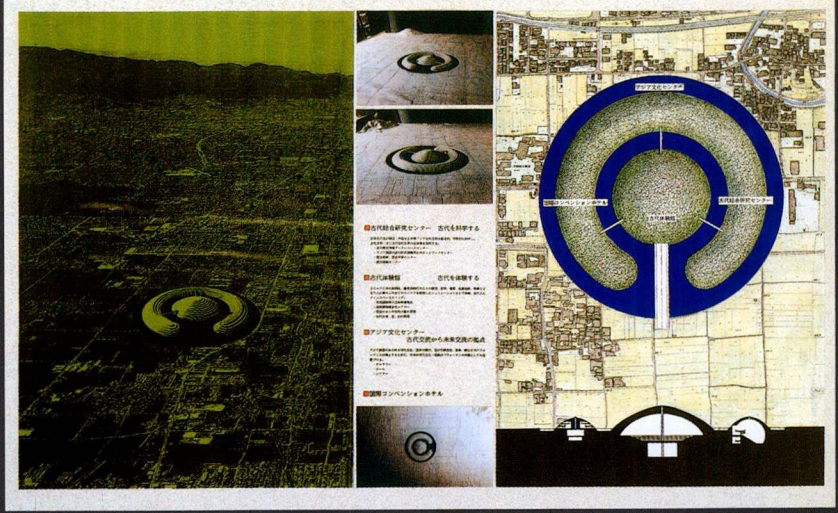
勝村一郎（かつむら・いちろう）
1948　奈良県奈良市に生まれる
1966　奈良女子大学文学部付属高校卒業
1971　名古屋工業大学建築科卒業
1971　大阪建築事務所(現・大建設計)に勤務（～'76）
1977　勝村設計事務所設立　現在に至る
1987　新建築住宅設計競技「日本の住宅・いま」に佳作入選
奈良町を考える会　奈良町づくりセンター理事
奈良21世紀未来研究会委員

企画編集　作品作風小委員会　宮下幹雄

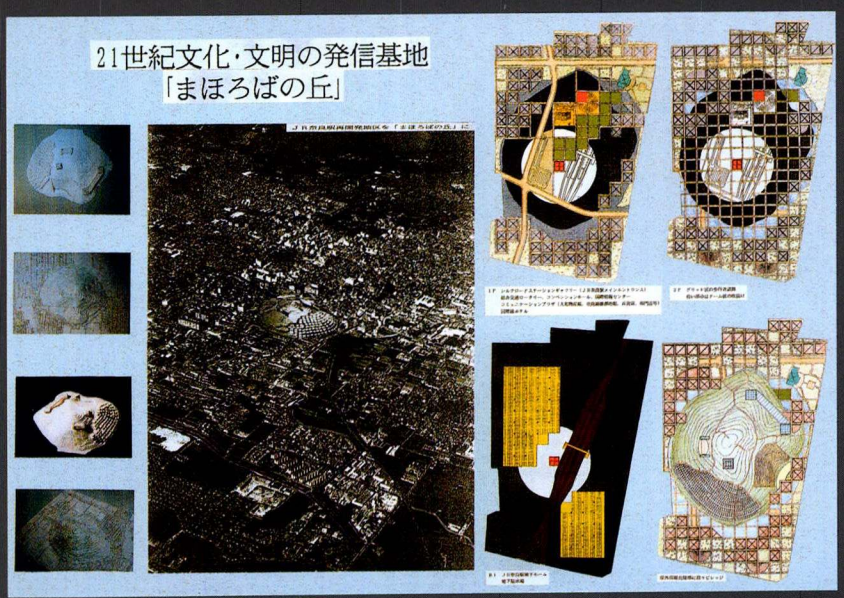
古都

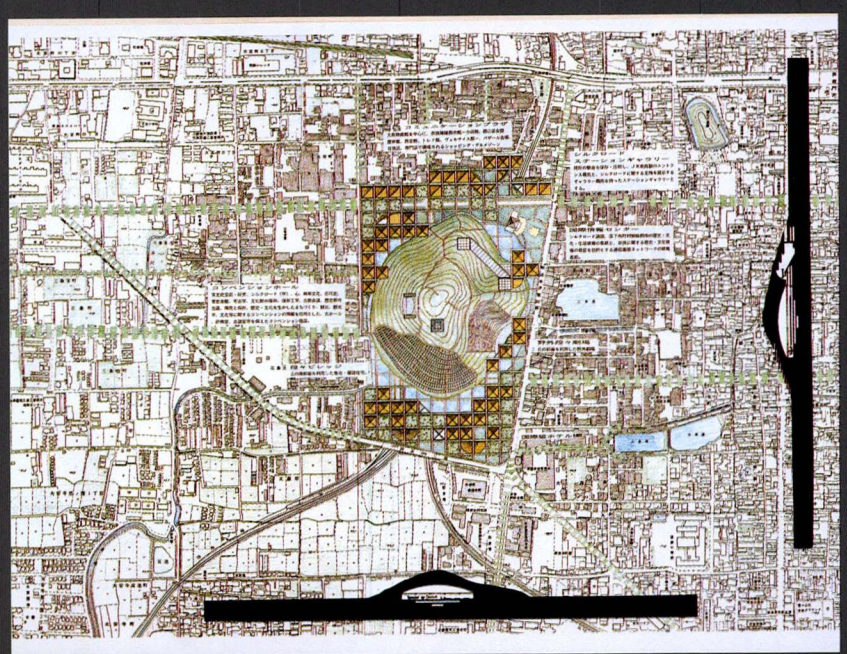
今　明日

古代歴史ワールド「まほろばの森」



21世紀文化・文明の発信基地「まほろばの丘」





この町をかつて文明が通りすぎた。
この町にかつて最先端都市があった。
見上げると軒に切り取られたかすむ空
通りの向うに開ける山並
何度も朽ち果て、再生されて1300年がすぎた町
現代ほど時間の歯車に切り刻まれた時代はない
路地を抜ける風は、裏庭をかけぬけてつぶやいた。

「どうせ人の造るモノ、いずれ朽ち果てるさ」

100年たてばすべてまほろし、生き続けるものだけ生き続ける、
大和は山の戸、ぐるっと見わたす山々も、春日山に登る月も、
通りを吹抜ける風も1000年前とかわらない。

物をつくるとは、物を破壊すること
町と自然にとけ込むことは個を殺すこと
この相反する定理の狭間でモノを造る
造る立場にあるからこそ時を空間としての自然を大切に想う
大和には地の霊、時の霊、風の霊が住んでいる
おうかがいをたてながらそっとモノを置いてみる
なだめすかして、いきなり風穴を明けてしまう
かつての文明都市はおおらかに受けとめてくれる
いかなる夢をも実現できる自由都市と対極にある古都
極限を知ることが全体を知る最も近道なのかもしれない。

人の想いと同様、建築は幻想に似ている
思いを込めて造るのはフロントグラウンド、手前の背景
シルエットの向う側に広がる山並と空
このハッとさせるシルエットが確かにある。
自己主張しながら、そのシルエットが
時と空間の中で大自然を感じさせる建築が確かにある
遠い昔の風景か、現代の白昼夢か、それとも明日の現実か。

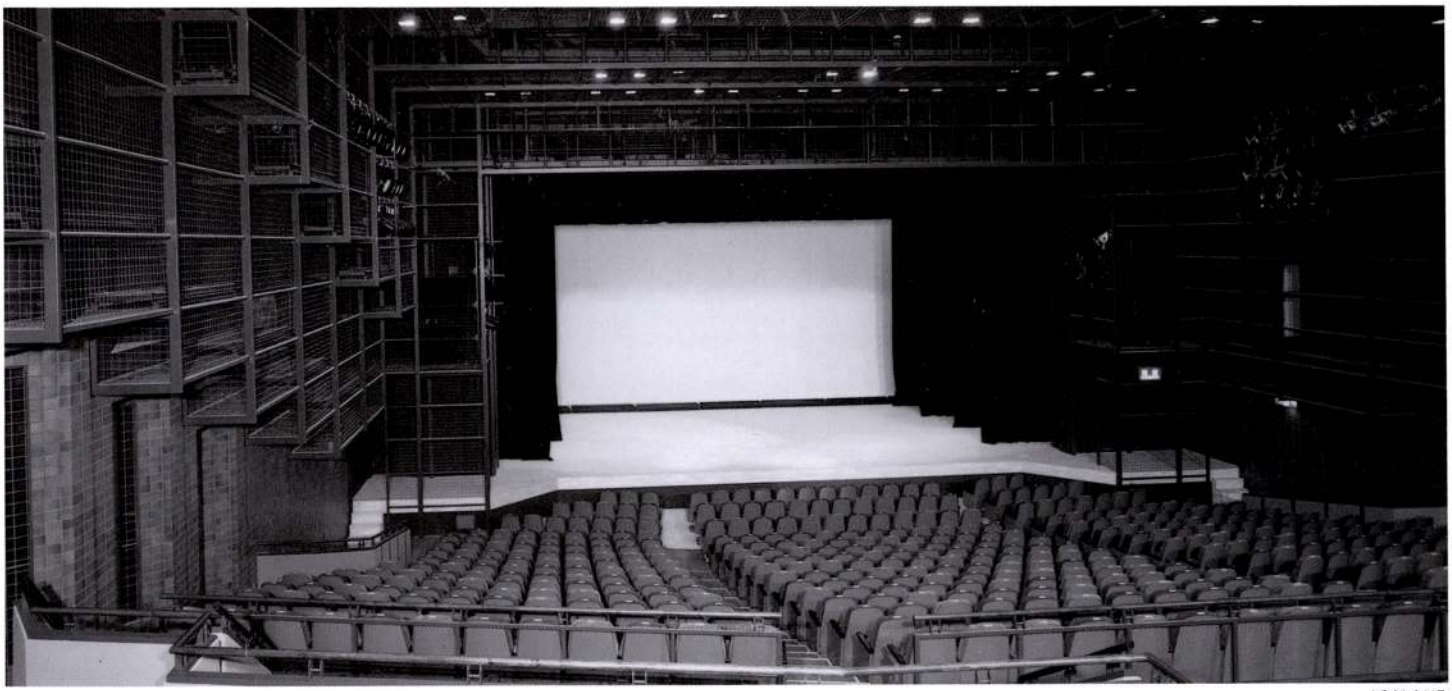
（勝村一郎）

being 19
近鉄劇場

近鉄劇場支配人宮川龍太郎劇場という名の“魔法の箱”を創る



劇団四季「オペラ座の怪人」の一場面より



近鉄劇場

早いもので、近鉄劇場・小劇場が開場して今年の10月で、もう満5周年を迎えます。かっては古めかしい映画館だったこの建物が、次第にその姿を変えて行くのを眺めながら、新しい舞台にどんなものをのせたらお客さまに足を運んでもらえるか、あれやこれやとラインアップに四苦八苦していたのが、昨日のことのように思い出されます。

新参の劇場が成功するかどうかには、3つの条件が考えられます。その1つは劇場そのものの機能で、いわばハード面がいかに充実しているかです。この点では、劇場設計の専門家であり、すでに東京のシアター・アプルで古い劇場を新しい感覚の空間に衣更えされていた斎藤義先生に依頼していたので安心でしたし、事実、開場後は俳優さんからは演じ易く、また、お客さまからは見易い劇場との評価をいただきました。

2つめは、その劇場のアクセスです。ご承知の通り、上本町6丁目は大阪のアミューズメント地図からいいますと、中心からややはずれ、わざわざ出かけるにはいささか億劫になる場所に位置しています。

そこで3つめとして、最後の砦は舞台にかける演(だ)し物の選択にかかってくることになりました。

そんなむつかしい状況の中で、願ってもない幸運にめぐり会いました。「キャッツ」の大阪公演の大成功で、長期にわたって公演できる劇場を探していた劇団四季や、商業演劇の名作を上演できる場を求めていた平岡企画などの要望とうまく噛み合い、劇場自体が企画した自主興行と相俟って、満遍なくスケジュールを埋めることができたのです。また小劇場では、第3世代の演劇といわれている劇団の数多くを東京から招き、若い演劇ファンを足場の悪い上本町に集めることができました。

演劇は俳優と観客が、舞台と客席という場を借りて心を通わせるもので、テレビのブラウン管や映画のスクリーンでは決して味わえないものです。その密接な関係を創り出すのが劇場という空間だとすれば、それは大きな“魔法の箱”のようにも思えてきます。

（宮川龍太郎）



宮川龍太郎（みやがわ・りょうたろう）
関西大学卒業。曽我廼家十吾の家庭劇文芸部、劇団笑いの王国文芸部を経て電通大阪支社に勤務（勤続22年）。番組・CM企画、イベント制作等を担当。1985年、近鉄劇場のオープンにより転進。現在、近鉄興業（株）劇場事業部長、近鉄劇場・近鉄小劇場支配人。
近鉄劇場・近鉄小劇場
所在地：大阪市天王寺区上本町6-5-28　Tel 06-773-5371



近鉄小劇場

スケッチブック

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



2268 KICHIRIN BLDG

設　計：御堂設計
施　工：安英工務店
a．大阪市北区曽根崎新地２－４－21
b．106.43㎡
c．　85.57㎡
d．289.00㎡
e．S、5F、P1
f．平成元年１月～平成元年10月
g．JR大阪駅



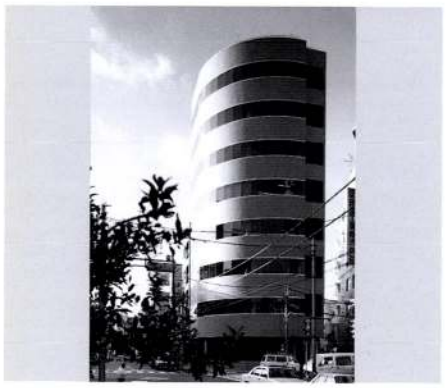
2269 朝日コーポレーション技術センタービル

設　計：戸田建設一級建築士事務所
施　工：戸田建設関東支店
a．埼玉県川口市栄町３－１
b．1,179.60㎡
c．　741.24㎡
d．4,462.23㎡
e．S、6F
f．昭和63年６月～平成元年４月
g．京浜東北線川口駅



2270 消防本部庁舎

設　計：堺市建築部、大三建築設計事務所
施　工：間組・森本組・浜田組JV
a．堺市大浜南町３丁１
b．3,356.06㎡
c．1,272.96㎡
d．6,110.71㎡
e．SRC、7F
f．昭和63年３月～平成元年７月
g．南海本線湊駅



2271 サワダビル

設　計：戸田建設
施　工：戸田建設
a．渋谷区東３－22－８
b．166.78㎡
c．126.07㎡
d．918.65㎡
e．SRC、8F、P1
f．昭和63年７月～平成元年７月
g．山の手線恵比寿駅



2272 A・HOUSE

設　計：松村組大阪本店一級建築士事務所
施　工：松村組大阪本店
a．大阪市北区天満２－１－33
b．207.97㎡
c．123.34㎡
d．332.70㎡
e．RC、3F
f．昭和63年９月～平成元年７月
g．阪神甲子園駅



2273 北野観光案内所

設　計：神戸市住宅局営繕部　坂倉建築研究所
施　工：山田工務店
a．神戸市中央区北野町3－11－6、7　12番－2
b．200.00㎡
c．81.79㎡
d．242.30㎡
e．RC、B1F、2F
f．昭和63年10月～平成元年７月
g．JR東海道線三宮駅



2274 山星屋神戸物流センター

設　計：ARI建築事務所　亀井晃治
施　工：熊谷組
a．神戸市須磨区弥栄台３－１－３
b．6,013.40㎡
c．3,540.82㎡
d．6,714.02㎡
e．SRC、B1F、5F、P1
f．昭和63年７月～平成元年８月
g．地下鉄西神線総合運動公園駅



2275 南船場大治BCビル

設　計：ARI建築事務所　亀井晃治
施　工：清水建設
a．大阪市中央区南船場３－19－２
b．　246.11㎡
c．　183.10㎡
d．1,443.30㎡
e．S、10F、P1
f．昭和63年６月～平成元年９月
g．地下鉄御堂筋線心斎橋駅



2276 U. HOUSE（漆喰の家）

設　計：小南設計計画事務所
施　工：松島工務店
a．尼崎市東園田町３－84－２
b．413.85㎡
c．23.60㎡
d．22.70㎡
e．W、平屋
f．平成元年７月～平成元年10月
g．阪急神戸線園田駅

法令コーナー

編集委員会法令分科会

245

ポリカーボネート板を用いた建築物に関する基準

平成元年３月31日付けで、「屋根にポリカーボネート板を用いた建築物」について、建築基準法第38条および同法第67条の２に基づく建設大臣による一般認定が行われた。これにより、屋内プールやスポーツ練習場等の建築物について、通常の建築確認だけで建築が可能となったので、その基準についての概略を述べる。

なお、紙面の都合上、詳しくは「ビルディングレター」1989年４月号等をご参照願いたい。

ポリカーボネート板屋根材の特徴

ポリカーボネート板屋根材は、優れた耐衝撃性、難燃性を持つ透明材料である。また、常温で強制的に曲げ加工もできるため、高度なデザインニーズにも応えることのできる屋根材である。

建築物に関する技術的基準

この基準は、屋根の全部または一部にポリカーボネート板を用いた建築物に適用する。文中では法＝建築基準法、令＝建築基準法施行令、ＰＣ板＝ポリカーボネート板とする。

①用語の定義

ＰＣ板屋根部分とは、ＰＣ板で造られた部分、補強するための部分、その他これらに類する部分をいい、ＰＣ板屋根を有する部分とは、ＰＣ板屋根部分を有しており、かつ、その他の部分と床もしくは壁または戸で区画されている建築物の部分（区画されていない場合においては建築物）をいう。

②ＰＣ板の品質および規模

ＰＣ板は、日本工業規格Ｋ6719－1981およびＫ6735－1980に適合するもの、またはこれらと同等以上の品質を有し、厚さが８㎜以下のもので、一つのＰＣ板屋根を有する部分の各階の水平投影面積（吹抜け等を有する場合においては、当該部分の面積を除く）の合計は、2000㎡以下としなければならない。また、一つのＰＣ板屋根を有する部分について、ＰＣ板屋根部分の水平投影面積の合計は、防火地域および準防火地域内の建築物については 500㎡（ＰＣ板の厚さが５㎜以下のものを用いる場合においては、800㎡）以下としなければならない。

③用途および防火区画等

ＰＣ板屋根を有する部分は、水泳場・テニスの練習場、その他これらと同等以上に火災の発生のおそれがきわめて少ないものか、十分に外気に開放されている通路、休憩所、停車場、作業場、自転車置き場、その他これらに類するものの上家に限定しており、その用途でも、延焼のおそれのある部分には設けてはならない。また、ＰＣ板屋根を有する部分を水泳場、テニスの練習場、その他これらと同等以上に火災の発生のおそれがきわめて少ないものに用いる場合においては、ＰＣ板屋根を有する部分とその他の部分とを耐火構造の床もしくは壁（これらの床または壁を貫通する給水管、配電管、その他の管の部分およびその周囲の部分が令第112条第15項および第16項並びに第129条の２の２第１項第７号の規定に適合しているものに限る）、または常時閉鎖式防火戸である甲種防火戸もしくは乙種防火戸、もしくはその他の甲種防火戸もしくは乙種防火戸で、令第 112条第14項第１号、第２号および第４号に定める構造のものにより、区画しなければならない。

なお、ＰＣ板屋根を有する部分のＰＣ板屋根部分以外の部分の主要構造部は、耐火構造とし、または不燃材料で造らなければならない。

④耐火建築物としなければならない場合等の構造

法第27条、第61条、第62条の規定により、耐火建築物としなければならない建築物にＰＣ板を用いる場合においては、当該建築物のＰＣ板屋根を有する部分以外の主要構造部は耐火構造で、外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、防火戸その他の防火設備を設けるものとする。

法第27条、第61条、第62条の規定により、耐火建築物または簡易耐火建築物としなければならない建築物にＰＣ板を用いる場合は、当該建築物のＰＣ板屋根を有する部分以外の主要構造部は耐火構造または法第２条第９号の３のイもしくはロのいずれかに該当する構造で、外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、防水戸その他の防火設備を設けなければならない。

また、法第22条または第63条の規定により、屋根を不燃材料で造り、またはふかなければならない建築物にＰＣ板を用いる場合においては、ＰＣ板屋根を有する部分以外の部分の屋根は、不燃材料で造り、またはふかなければならない。

なお、屋根にＰＣ板を用いた場合の防火上および避難上の建築基準法に対する見直し規定については、「建築行政協会報」No.52(1989－７)の49～50ページを参照のこと。

構造設計基準

①適用範囲

板厚２㎜以上15㎜以下のポリカーボネート板（防火基準に適合する場合は８㎜以下とする。12㎜を越える場合は、12㎜を基準として計算する）。ポリカーボネート板を架構の一部として構造耐力を負担させることはできない。

②使用可能な材料

JIS K 6735に定められた性能を有するポリカーボネート板。

③取付方法

ポリカーボネート板は、構造耐力上主要な部分である柱、横架材その他の部分、またはサッシもしくはフレームに、その全周を緊結されていなければならない。なお、たわみが生じても脱落しないよう適切な取り付け方法とすること。

サッシまたはフレームに取り付ける場合は、荷重撓みによるずれ量と熱膨脹を十分考慮し、脱落しないようにサッシ深さ（呑み込み代および膨脹クリアランス）を決定すること。また、サッシまたはフレームは、荷重または外力に対して安全上支障がないことを確かめられたものとすること。

なお、ビスまたはボルトによる取り付け方法、および必要サッシ深さの詳細は、「ビルディングレター」'89．４を参照のこと。

④形状および大きさの制限

ポリカーボネート板の形状および大きさは、次号に適合するものとしなければならない。

(イ) ポリカーボネート板は、一様な厚さを有するもので、平面および円筒板（曲面板）として使用すること。また板自体に開口部を設けてはいけない。

(ロ) ポリカーボネート板の平面板を常温曲げして、円筒板として使用する場合には、弧の中心角が90°以内であり、原則として$a/b \geqq 2$であること（ここで、a：円筒板の弦長、b：円筒板の梁間隔）。ただし、$2 > a/b \geqq 1$の場合は、そのときのbの長さにたいしてaを２倍と仮定して計算すること。

(ハ) 熱間曲げ加工の円筒板の場合には、(ロ)にかかわらず、弧の中心角が180°以内としてよい。

(ニ) 円筒板として使用する場合で、著しい非対称荷重が想定される箇所は、影響を考慮すること。

(ホ) ポリカーボネート板の全周を緊結された部分の見付け面積（円筒板の場合には、弦を含む平面への投影部分の見付け面積）は、10㎡以下であること。

(ヘ) ポリカーボネート板の撓み量が、短辺の長さの１／15以下であることを確かめねばならない。ただし、形状が長方形でない場合は、外接する長方形として計算する。または、長辺の長さが短辺の長さの３倍を超える場合には、短辺が長辺の１／３として撓み量を計算する。なお、撓み量計算の詳細は、「ビルディングレター」'89．４を参照のこと。

おわりに

このような新素材は、旧素材に比べ多くの長所もあるが、短所があることも事実である。長所を生かしつつ、短所を最小限に抑える方法が設計基準である。

この基準を理解していただき、正しく運用し、新しい建築の世界を開いていただくことを、切に望むものである。

（大阪市計画局建築指導部審査課
審査係・大森敬史、構造強度係・田中龍一）

●ニュース

第21回中部建築賞

中部地域の地域社会発展に寄与したと認められる作品を表彰する「中部建築賞」の、入賞および入選作品が昨年10月25日の審査会で決定した。
これらは、平成元年３月31日までに中部圏で竣工した作品で、今回は、一般部門71、住宅部門16の応募の中から選ばれたものである。

■一般部門入賞 5点

AMMNAT SQUARE
設計：三菱地所、竹中工務店名古屋支店　施工：竹中工務店名古屋支店

県民の森　すぎの木センター
設計：建築計画連合　施工：三河建設工業

公立松任石川中央病院
設計：共同建築設計事務所　施工：清水建設・真柄建設・古野建設共同企業体

飯田市美術博物館
設計：アトリエ・ファイ建築研究所　施工：吉川建設

斎宮歴史博物館
設計：梓設計名古屋支社　施工：前田・北村・双羽建設工事共同企業体

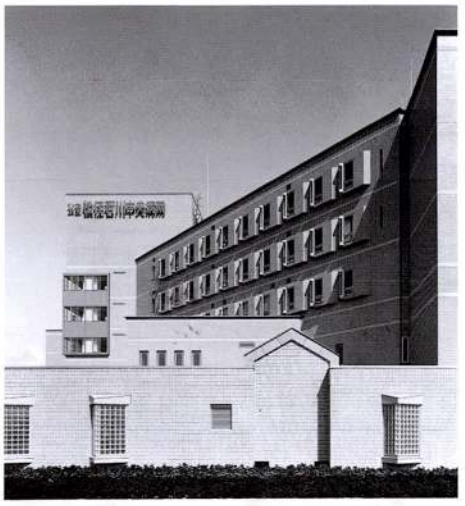
■住宅部門入賞 1点

風を聴く家　設計：笠嶋建築工房　施工：辰喜建築工芸



AMMNAT SQUARE　名古屋市中区


飯田市美術博物館　長野県飯田市


公立松任石川中央病院　石川県松任市


風を聴く家　名古屋市名東区


県民の森　すぎの木センター　愛知県南設楽部


斎宮歴史博物館　三重県多気郡

第21回中部建築賞
入選作品　一般部門10点
　　住宅部門１点

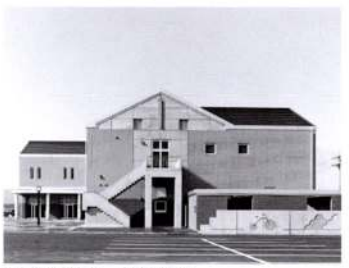

トヨタ博物館　愛知郡長久手町


名古屋市科学館(生命館)　名古屋市中区


石川県営・松任市営村井共同住宅　石川県松任市


岐阜メモリアルセンター　岐阜市


高山屋台会館　岐阜県高山市


湖西市立図書館　静岡県湖西市


富山県立高岡高等学校校舎改築　富山県高岡市


鷹巣ひかり保育園　福井市


すし久　三重県伊勢市


鈴鹿市文化会館　三重県鈴鹿市


江南の家　愛知県江南市

—住宅部門—

第9回大阪まちなみ賞

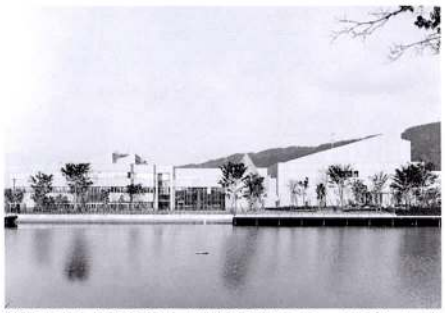
昨年末、1257人から推薦された建物・まちなみ225点の中から、入賞したのは、奨励賞4点を含めて下記の作品で、計7点。

【大阪府知事賞】
河内長野市庁舎（設計／佐藤総合計画）
【大阪市長賞】
肥後橋シミズビル（設計／清水建設）
【大阪府建築士会長賞】
キリンプラザ大阪（設計／高松伸建築設計事務所）


河内長野市庁舎　河内長野市


肥後橋シミズビル　西区土佐堀


キリンプラザ大阪　中央区宗右衛門町


箕面市立中央図書館・中央生涯学習センター・メイプルホール
箕面市箕面


堺市都市緑化センター
堺市上野芝町


ジオン商事安治川配送センター　西区安治川


相愛学園南港学舎（相愛大学・相愛女子短期大学）住之江区南港中

第1回京都市都市景観賞

京都のまちにふさわしい優れたデザインの建築物、広場・緑地、屋外広告物を表彰する「京都美観風致賞」は過去5回にわたり実施されてきたが、京都市制100周年を記念して、これをさらに発展させるべく「京都市都市景観賞」が昨年制定された。応募作品80点の中から、写真審査と現地審査を経て、5点が受賞作品に決定した。

【建築物】
●明治生命京都パストゥール研究所
設計／大林組　施工／大林組・淺沼組・大平工業
●SACRA
設計／山野設計　施工／大林組
●JO-IN・NEXUS
設計／聖拙社　施工／松村組
【建築物・広場】
●京都外国語大学新キャンパス
設計／園建築事務所・鹿島建設　施工／鹿島・熊谷JV
花豊造園
【屋外広告物】
●京都府京都文化博物館
設計／トータルメディア開発研究所　施工／商工美術


明治生命京都パストゥール研究所　左京区田中門前町


JO-IN・NEXUS（ジョイン・ネクサス）東山区新橋通


SACRA（サクラ）中京区三条通り


京都外国語大学新キャンパス　左京区西院


京都府京都文化博物館　中京区


グランドメゾン帝塚山　阿倍野区北畠


武田淀川ハイム　淀川区新高


森之宮スカイガーデンハウス　東成区中道

大阪市ハウジングデザイン賞

平成元年6月1日～7月15日に推薦の公募をしたところ、大阪市外内から187点の推薦があり、133点を対象に審査した結果、3点が選ばれた。

■グランドメゾン帝塚山
事業者／積水ハウス
設計／積水ハウス　施工／藤木工務店
■武田淀川ハイム
事業者／武田薬品工業
設計／日建ハウジングシステム、竹中工務店
施工／竹中工務店
■森之宮スカイガーデンハウス
事業者／アーバネックス
設計／遠藤剛生建築設計事務所　施工／竹中工務店

愛知大学名古屋校舎

所 在 地　愛知県西加茂郡三好町大字黒笹字清水374-1
設　　計　山下設計名古屋事務所
施　　工　鹿島建設名古屋支店
敷地面積　201,530.610㎡
建築面積　14,643.350㎡
延床面積　29,045.543㎡
規　　模　地下1階　地上8階　塔屋1階
構　　造　鉄筋コンクリート造及鉄骨鉄筋コンクリート造
竣　　工　1988年3月



東名高速道路沿いの小高い丘陵地の緑は、高速で走り抜けるドライバーには、必ず記憶にとどまるものである。敷地の法面には、低木の常緑樹がおおい、それがさりげなく緑の演出をしていて、人びとの心に安らぎを与えてくれる。この反対側は、この付近としては数少ない紺碧の愛知池を回らしている。その水際にはちょっと突き出した岬が、さながら箱庭を引き伸ばしたように静かに佇んでいる。

敷地は、この間をぐるりと緑で囲まれその中に白亜の校舎が配されている。

池の向う岸にまわって見てみると、緑棚引く絨緞のその奥に、南の教室棟、中央の図書館と研究室、北の管理棟と厚生棟が日の光に白さがさらに映え、思わず感嘆の声がもれる。

この景観は、市民に深く訴えてか、最近この周辺に建設される建築物群にも影響を与えていることは、うれしい。







トヨタ記念病院

所 在 地　愛知県豊田市平和町1
設　　計　トヨタ自動車一級建築士事務所
　　日建設計・名古屋
施　　工　竹中工務店
敷地面積　52,599.00㎡
建築面積　14,463.62㎡(駐車場含む)
延床面積　46,264.19㎡(駐車場含む)
規　　模　地下1階　地上8階　塔屋2階
構　　造　(高層部)鉄骨鉄筋コンクリート造
　　(低層部)鉄筋コンクリート造
竣　　工　1987年8月

豊田市の都心から南へ約4㎞、車で走ってもすぐである。そんな感じになるのは、この道筋が自然林でおおわれ、見る目にも清々しさを感じさせてくれるからだろう。ましてこの敷地は、矢作川沿いに、保安林に隣接し、自然緑地も多く、全く恵まれた環境にある。

いうならば、この病院は、林の中、緑の中にひっそりと息を堪しているようである。しかし、出入りするカラフルな乗用車、また通院する人びとの姿が、静かな佇ずまいに動きを与えているようである。

敷地は南北に長く、東側に向って丘陵地を利用した建物配置とし、中央診療部門に正面玄関、その北側の1、2階に外来診療部門を、南側に高層の病棟を配している。これらの各棟の配置は、非対称ではあるが、そこには計算され尽した対称へのデザインに、景観への絶妙さはうまい。

東海ルネサンス

対　談

クラシックバレエの世界から

松岡伶子
松岡伶子バレエ団

VS

中島　一
本会東海支部長・愛知工大教授


松岡伶子氏


中島　一　東海支部長

中島　名古屋は昔から芸の里といいますが、たしかにそうしたものもありますね。

松岡　はい。

中島　しかし、松岡先生はクラシックバレエの方に入られた。その辺の名古屋人の受けとめ方などについてもお聞かせいただきたい。また、名古屋の町づくりのこと、都市の景観のこと、21世紀に向けて国際都市名古屋を目指しまして、果たしてそれが国際化になるかどうかというような辛らつなご意見なども伺えれば……。（笑）

松岡　厳しいですね。（笑）

そうですね、やっぱり私たちがバレエをはじめましたのは、ちょうど戦後の全く何もない時代でした。ですから、それ以前というのは、名古屋にはバレエというものは皆無に等しいというんでしょうか。

中島　なるほどねえ。

松岡　ですからね、私がバレエを始めたのは、もともと運動が大好きでしたでしょ。

そしてね、要するにスポーツが出てきましたよね、また戦後になって。そのときに、模範演技を体操でやってほしいと言われたりして、やっていたんです。そうしたらね、そのうちに1年上級生が「バレエというのがあるけど、あなたなら向いているからやらないか」って勧められたんですね。「バレエってどんなもの？」と聞くと、「タカラヅカみたいにきれいなものだ」と言うんですよね。

中島　はい。

松岡　それから、「赤い靴」という映画が来ましたでしょう、昔ね。

中島　ええ。

松岡　で、あれに憧れてね、バレエってこんなにきれいなものだったんだと思って、やっぱりバレエがやりたいということで、高校卒業と同時に東京に行ったんです。ところが、まだそのころは食糧難が続いてまして、外食券食堂というんですか、食券がないと御飯が食べられないという時代でしたよね。お米の配給制度ですから。

中島　そうですね。

松岡　お金もないし、まだ下宿もない。東京も焼けちゃってますからね。だから、私のお友達がたまたまそのときに東京芸大——上野の音楽学校ですね。昔ですから——あそこに邦楽科というのができたんですね、お琴の。宮城先生がつくられて。それで、そこへ、東京芸大へ行きたいと。お金もないし、二人で一緒に住みましょうということになったんです。東京でお互いに下宿先を探して。

中島　そうですか。

松岡　谷中ですね、上野の芸大の近くで、そこに又借りをして二人で暮らしました。

中島　そうですか。

ところで、この7月15日から名古屋で、3会場に分かれて世界デザイン博が開かれましたね。その中の、名古屋城会場で利休とダ・ビンチの展示を東海銀行館でやられました。

実は、レオナルド・ダ・ビンチといいますとご承知のとおりイタリアのルネッサンスの地ですね、いわゆるメジチ家が中心になりましたフィレンツェで盛んにダ・ビンチだとかミケランジェロが活躍した時代ですけれども。私、名古屋城会場を見に行きましてね。利休の姿とあるいは生涯と、そしてダ・ビンチの作品なんかをずっと見てきたんです。よく私、フィレンツェへ行くものですから、その当時のことを思い出しまして、いまさらのごとくダ・ビンチのことを思い出したんです。

実は、レオナルド・ダ・ビンチはイタリアのミラノでですね、宮廷バレエの——。

松岡　デザイナーとか色々してましたね。

中島　ええ。

松岡　そういう時代がありましたよね。やっぱり昔は、そういう優秀な方たちが随分こういう仕事にかかわっていたようですね。

中島　そうですね。あるいは、それからフランスへ行きますと、ルイ14世ですか、例のベルサイユ宮殿を最初につくったのが、ルイ14世ですけれども、あの人が非常にバレエに理解がありましてね。

松岡　ええ、そうなんです。

中島　そして、バレエの学校をつくったわけですね。また、パリにもつくりましたけれども、それが何と公立のバレエの学校でした。パリに行きますと、例のオペラ座前というのが地下鉄の駅にありまして、そこを上がりますと黒い色をした柱の上だけ金ぴかの装飾のついたガルニエが設計したオペラ座がありますけれども、実はあれはルイ14世の肝いりでできているわけですね。考えてみますと、ヨーロッパはやはりイタリアのメジチ家がつくりだしたフィレンツェから、それから花の都パリへとどんどん移ってきたわけですけれども、最初にやはりパリだとか、あるいはイギリス、それから途中でアメリカへ行きましたときはあまり受け入れられなかったという話ですね。

松岡　そうです、ええ。

中島　日本は明治になってからですか。

松岡　日本に入りましたのはね。大分後ですね。

中島　なるほどね。

松岡　だから、入ってきたといっても、明治よりももう少し後じゃないでしょうか。だから、そういう意味では、外国の場合はいい文化はどんどん取り入れている。ルイ14世がいなかったら、ここまでバレエは栄えなかったと思うんですよ。

中島　しかし、バレエというのは、確かに動きがありますよね。そして、もちろん音楽が入ります。動きがありますということは、非常に我々に、見ている人に感動を与える率が高いと思うんですね。

ところが、先ほどちょっとふれましたけれども、デザイン博の中で利休とダ・ビンチのことをお話ししましたけれど、千利休というのは非常に動に

対して静ですね。落ち着き、動きがない。そして、非常に狭い極限の空間の中で、我々の心を引き立てようとしていました。

ダ・ビンチの方はそうではなくて、動きの中に我々を引きつけていこうというような発想ですが、日本の古典芸能というのは、どちらかといいますとあまり動きはない。能にしましてもね。

松岡　はい。

中島　ですから、例えば桃山時代から江戸時代にかけましても、やはり動きのない美の世界として茶道だとか、あるいは華道でもそうですし、能の世界もそうですね。

ところが、明治になってから、ヨーロッパの文化が入りましてからは、相当変わってきたわけですね。

「あゝ野麦峠」をバレエにする

松岡　そうですね。やっぱりどうでしょう、鎖国が解けて、いろんな文化をばあっと取り入れてきたときに変わってきたんじゃないでしょうか。私がね、昨年たまたまバレエ団の35周年で、「あゝ、野麦峠」をバレエにしましてね。そのときに、やっぱり私は「野麦峠」のとらえ方というのは、日本では大変悲惨な少女ですね、女工たちの話がいろいろ出てきていますね。私としては、あの時代をああいう形で支えてきた人たちですけれども、あの女の人たちは働いて帰ってくると、あのころで2階建ての家が1軒建ったというんですね。

中島　そうですか。

松岡　だからね、あの人たちはそういう意味では自分たちが家計を支えるという誇りもあったし、それだけの収入はあの田舎の中ではありませんよね、岐阜や高山の田舎では。

中島　それはそうです。

松岡　だから、その中に非常に誇りを持っていたと思うんです。

そういう面からあの「野麦峠」をとらえたんです。幕開きに少し鹿鳴館の場面を入れまして、鹿鳴館の舞台を初めて二重構造で使ったんですけど、前面は鹿鳴館で踊っていてバックで雪の峠を越えていく女工たちという二重構造。

しかも女工さんが片一方で一生懸命働いている、片一方では、戦争で戦っている男性たちというのを舞台の上でつくってみたんですけれどもね。とても評判になったんですけどね。

そういう意味では、原作の山本茂実先生が見にきてくださって、とっても喜ばれましてね。「僕が思っている野麦峠というのは、君が初めて理解してくれた」と言われましたけどね。「映画やドラマになるとどうしても汚らしくて悲惨なものになるけれども、本当のところはあんなものじゃないんだよ」と山本先生が言われましたけども。

中島　なるほどね。

松岡　やっぱり、ああいう日露戦争のころに、絹を輸出することによって日本にどんどんお金が入りましたよね。

それと同時に文化がいろいろと入ってきたんですね。

中島　そうですね。

松岡　そう思いますね、私はすごく。だから、私は絹糸を織った女工さんたちというのは、日本の文化の発展に役に立った女性たちじゃないかということを思うんですけどね、本人たちはひとつもそんなことは思っておりませんけど。

中島　ということは、バレエの発祥を見ますと確かにメジチ家という財閥、あるいは最後はフィレンツェの支配になったメジチ家の宮廷に捧げるものであったわけですね。しかし、これはバレエだけではなくて、音楽だってそうですし、先ほどお話に出ましたミケランジェロの彫刻にしましても、ダ・ビンチの絵画にしましても、みんな王様に捧げるものであったわけですね。

もちろんルイ14世にしましても、自分のためというようなことですし、自分の権力をもとにしまして宮廷の者にですね、見せるための手段であったんですけど、今おっしゃった「野麦峠」のあたりになってきますと、これはもう国民の物語で、ともに演じておられる方も観客も一体となって見たり考えたりしようというわけですが、このあたりの開かれたバレエになったのはいつごろからなんですか、日本で。ヨーロッパの方は何ですが、日本は最初からもうみんなに見せるというか……。

松岡　そうですね。一般に見せるということは、日本の場合はだれもバレエを保護してくれませんでしょう、だから、自分たちが自分たちの身を守るためには、一般に切符を買ってもらわなければいけないという問題から出発してきていますから、そういうだれかの援助というものは全くないですね。それは今でも同じですけどね。だから、一番厳しい世界ですよね、ある意味で言えば。

中島　しかし、例えばヨーロッパの方へ行きますとそういった劇場ができますと、劇場がちゃんとバレエ団を持ってまして、そして完全にそのもとでいろいろとトレーニングしているわけです。しかし、日本の場合というのは、何か劇場ができましても貸しホールですよね。

松岡　貸しホールですものね。

それともう1つは、外国はオペラやバレエ劇場、日本のホールの場合は多目的ホールなんですよ。あらゆるものが、いつもそれでトラブルが起きるんですけど。要するに、劇場だけ建てて、この劇場では何でもできますということですよね。片や、日本舞踊もやりますし、バレエもやるしオペラもやるし、芝居もやるというホールですから、逆に言えばすべてのものがやりにくいんです。そういうことがあるんですね。

中島　そうですね。東京の方に国立第一劇場、あれは大体日本のものですから、今度コンペでですね、第二国立劇場……。「二国」ですね。あれはバレエとオペラということですけど、どうして国立劇場なんですかねえ。もともとバレエにしてもオペラにしても日本のものでなかったんですけれども、もう日本になってしまったわけですか、バレエは。

松岡　そうなんでしょうね。

今、日本のバレエ界のレベルは大変高くなってきていますよね。

中島　そうですか。

松岡　で、レベルが上がってきていますので、随分今見直されてきつつあるところです。

今までは、要するに異文化が入ってきたわけですから、みんながなんとなく遠巻きにながめていたという……。それから、やる側も見る側も女子供のものという感覚が随分あったわけですよね。

ですけども、最近そういうことではいけないということで、我々のグループとしても社団法人の組織をつくりましてね。そういう1つの組織でだんだんだんだん組織が大きくなってきていますから、「二国」をつくるときにも随分いろんな意見を出し合って、ぜひそういうバレエ、オペラのための劇場がほしいということを言っているんですけどね。

関係者200人のステージ

中島　そうですね。

ところで、バレエをステージの上で演じておられる方は、我々目で見てますと何人とわかるわけですがね、しかし、あの人たちだけじゃなくて、あといろんな支えている音楽の方とかおられますが、大体何人くらいで一つのバレエが成り立つのですか。まあ、一般的にですけど。

松岡　一般的にですとね、舞台の上は大体50人いますよね。大きなものをやろうと思えば、踊り手が50人ですよね。裏方さんが約30人くらいいますね。オーケストラをフルメンバーで使いますと100人から要りますでしょう。だから、膨大な人が動くわけですよ。

中島　そうすると、50人、30人、80人……。

松岡　100人。（笑）だから、180人。200人近い人が動きますよね。例えば、また受付係とか外が必要ですからね。舞台の中だけじゃなくって、外の関係者が要りますから約200人の人が必要なわけですよ。それを全部合わせますと、膨大な経費になるんですよね。

中島　1つやろうと思ったら相当な経費がかかるんですね。

松岡　外国なんかはお金をかけてつくっても、何カ月か公演しますよね。それを持って、さらに

外国へ出かけますよね。何班にも分かれて、パリに残っている人もあれば、外国へ行っている人も——1班は例えば東南アジアに行く、1班はアメリカに行くというふうに動いてますでしょう。そういう形でやっているからいいんですけど、われわれ日本の場合はすべてがアマチュア団体ですからね。プロの団体は1つもありませんでしょう。

中島　そうですね。

松岡　例えば「白鳥の湖」とか「くるみ割り人形」とか既にあるものですと、これはレコードもありますし、音楽ももう既に作曲されていますから、それは簡単なんですね、上演することは。

中島　しかし、音楽はレコードってわけにはいかないでしょう。

松岡　それはもうテープに録音をとって、テープでやりますから。再生してやりますから。

中島　なるほど。

松岡　だから、日本のバレエの場合は、オーケストラの演奏で個人が公演するなんてことは不可能なんです。とても不可能なんです。

要するにオーケストラを頼めば、すごく高い経費がかかりますからね。だから、オーケストラと指揮者とを含めますと300万円近い経費がかかりますでしょう。ですから、私達も余り使えないわけですよね、使いたくても。指揮者も余りバレエの伴奏に慣れてないわけですよ。そうすると、舞台が非常に不安定になっちゃうんです。テンポの問題で。

いつもいつもやっている指揮者が稽古から立ち会ってずっといれば、そういうテンポの不安定ということはないわけですよ。

中島　それはそうでしょうね。

松岡　ですけど、1回か2回合わせただけでやりますと、テンポがすぐくずれますから、もう今我々は慢性化しちゃってますので、その不安定な音楽でやるよりかは絶対間違いのないテープの音楽でやった方が安心ということになってしまいます。ちょっとゆがんだ形ですけどね、これは。本来の形からすれば違うわけですけどね。

家元制度のない世界

中島　そうですか。

ところで、日本の古典芸能的なもの——邦楽なんかも含めますけど、家元制度というのは、西洋の方の関係ではそういうのあるんですか。

松岡　いえ、全くありません。そういうものは。もう全然ないんですね。

中島　じゃあ、運営していかれるのは大変なことですね。

松岡　だから、例えば私がこうやって35年間ずっと教えてきましても、今でもそうですけど、きょうから入ってきた3つの小さい子からみんな教えますからね。

だから、私なんかの場合は、たとえばですね、——うちの場合は組織が大きくなっていますから、代稽古の先生もたくさんありますけども、それでも私たちは学校組織になっていないものですからね。だから、生徒と親と私たちの信頼関係でしかつながってませんよね。「あそこへ行ってみれば、不親切だ。教え方がまずい」と言えば、やめられてしまいますから、生活にこれ直結していますでしょう。だから、そういう収入の問題もありますので、常に稽古場に行って稽古をやっているときは、稽古場にいてそれで教えているわけですよ。だから、音楽の場合でも美術の場合でも、日本にはちゃんとした学校がありますけども、バレエだけないもんですから、そういう地位が確立されていないわけです。

ですから、例えば大変変な話をすれば、私のところのお稽古場に1年ぐらいだれかお稽古をしたとしますね。その人が隣で稽古場を始めても、文句を言う筋合は何もないわけです。

中島　なるほどね。

松岡　ですから、よく私たちも名古屋でね、よそでお稽古をしていたときに顔を合わせた方が、「どこでお稽古していらっしゃったんですか」と聞いても、そんな先生があったのかしらというような方が随分あるんですね。そうしますと、何でもそうでしょうけれども、最初の基礎の段階で変な癖がついたら直らないんですよ。

中島　なるほどねえ。

松岡　それと同時に、例えばこれだけやらないと先生になれませんよという資格が何も今のところありませんからね。その人に対して文句は言えないわけですよ。それからもう1つお母様方もそこまで見る目がないのかどうか、たまたま隣近所で便利だから、バレエだったらみんな一緒だろうと思ってお稽古にいらっしゃるということがありますからね。だから、そういう意味では、何ら私たちのポストはね、安定がないんです。何年やっても。ただ、何年間かやって、それである程度信用が得られているということだけですよね。

中島　そんなにすごいとは思ってもみませんでした。

松岡　そういう世界なんですよ。

中島　家元制度というのは、日本独特なんでしょうねえ。

松岡　そうですね。国が守ってくれないから、お師匠さんたちが自分の身と日本舞踊を守るためにその制度を守っているんではないでしょうか。

中島　そしたら、バレエとかオペラとか、そういう場合は自分で守らなければなりませんが、それだってやっぱり今のような日本のものと違って、守るにも限界がありますよね。

松岡　そうなんです。今までにもありましたけども、先生が、すごく立派なものをずっとつくってこられた方がありますね、でも、その方がある日突然亡くなられたらそれでおしまいなんです。どんなに長いこと守っていらっしゃっても、それを守ってくれる人がないとそこで切れてしまうという厳しさがありますね。それから、病気をしてその稽古に出られなくなったら、もうそれでおしまいになる。その時点で何の保障もないわけですよね。

手のポジション

中島　ところで、バレエの場合ですけれども、じっと見てますと非常に表情がこう一つの様式があるんですね。悲哀をあらわすためには、こういった表現をしなさいとか、手振りはもちろんですが脚の姿とか、腰だとか、体の動きというようなのが出てきますよね。

松岡　はい。

中島　ああいう点を見てみますと、非常にきちっとした表情を持ちながらも、さらに連続性といいますか、それが非常にうまいですよね。

松岡　そうですね。バレエの場合は、テクニックの基礎がきちっと確立されていますよね。それはフランスで確立されて、ソ連がさらにそれを研究して、よくしてという形がありますけども、それはやっぱり人間の骨格の問題ですね。ここの骨格がこうなっているとかということから、脚の動きはこうなって、こういうポジションになって1番、2番、3番、4番、5番という5つのポジションが一番基礎なんです。それと同時に、手のポジションというのがありますよね。要するに、手が一番下にあったり、胸の高さ、頭の上に上げる、それのすべて変形で動いているわけですね。

基礎はすごくきちっとしたものがあるんですけど、最近よくベジャールなんて言っていますね。ああいうベジャールとか、新しいジェローム・ロビンスとかいろんな人たちが出て、今随分新しいバレエの方向に変わりました。それで、昔の古典はあくまでも古典としてちゃんとやりますけど、例えば去年私は「野麦峠」をやりましたね。そういうような作品になりますと、古典の形をすべて崩してしまう。

中島　そういうことですね。

松岡　それからもう1つは、同じ古典をやってましても、時代とともにテンポが違んです。早いんです。今は。やっぱり、ある程度むだな部分を省略していってしまうのですね。

そういうふうに同じ古典をやっていても、変わってきてますし、それから音楽の使い方も変わってきています。

中島　しかし、古典のバレエの場合、これはヨーロッパで盛んになりましたですね。

松岡　はい。

中島　ところが、ヨーロッパの人たちのですね、

例えばラテン系の人たちの骨格だとか、あるいは体格は日本とは違いますよね。

松岡　違います。

中島　ですけれども、同じ様式でやるわけですか。

松岡　基礎の形としては同じなんですけど、日本の場合は、そういうカリキュラムがちゃんとしたものがないですから、そこが自由にできると言えば自由なんですけど。

ただ、私なんかはヨーロッパの人と同じことをしていたんではだめだと思うんです。確かに日本人の体形は今よくなってきています。ですけれども、例えば、黒人の持っている筋肉ですね。あのシューッと引っ張られたようなきれいな筋肉をしていますよね、黒人というのは。

中島　ええ。

松岡　それで、黒人というのは余りこういう筋肉質にはなりませんよね、どっちかと言えば。常に何かぴーんと引っ張ったようなきれいな筋肉をしています。日本人というのは、ひとつ間違うとみんな筋肉質になっちゃうんですね。だから、脚なんかでもこんなに太くなっちゃって、ころころになってしまうというようなところがありますね。だから、それはやっぱり違うんじゃないかと思うんですね。

今は、外国との交流が盛んになりましたから、そういう意味では、随分外国の先生が日本に教えに来ているという部分があるんですけどね。ただ、果たしてそれが本当に日本人にいいのかと思うことはあります。

舞台装置と演出

中島　なるほどね。

ところで、そういった踊り子さんが踊りますよね。踊り子さんといったら失礼ですけれども、バックなんていうのがありますでしょう。いわゆる舞台装置が。

松岡　舞台装置、はい。

中島　あれは、やはり演出の人の考え方がちゃんと入るわけですね、当然。

松岡　そうです。もう完全に古典のものはいいんですけど、創作物の場合ですと完全に自分で考えて、こういうものがほしいということをこちらから言うんです。すると、美術の方が、それに対してデザインを持ってきてくれるわけです。何回やっても合わない場合もありますけどね。ですけども、一応そういう形で話し合いましてね、それで決めていくんですけどね。

中島　そうなりますと、我々建築をやっていますと時間と空間というのがあります。バレエも全く同じですね。

松岡　そうです。要するに、我々ですと空間の芸術ですよね。

中島　そういうことですよね。

松岡　ですから、そういう意味では劇場の四角い箱の中をどういうふうに使うかということが、一番難しい問題ですね。

中島　確かにおっしゃったようにステージの平面的なものはもちろんですけれども、額縁的なプロセミアムですね。この中での演出ですが、今はやはりそういったものから抜け出して、例えば観客の席の中に入って、いわゆるアイアン型のステージというのがありますが、バレエは難しいんでしょうか。

松岡　そうですね。バレエの場合は、要するにどこでも踊れるというものじゃないんですよね。トゥシューズをはいて踊れば、当然こういうじゅうたんの上では踊れませんよね。だから、バレエの場合は滑らないようにということでリノリウムをひいてますから、それのない部分へ行くと滑ってひっくり返ってしまうんです。

中島　なるほど、そういった装置があるんですか。

松岡　そういう意味で、どこででもできるというものじゃないんですね。

例えば、小さい子が、適当に踊る分には何でもいいんですけども。

中島　しかし、観客が演じている人と一体になって、観客が自分がそこでやっているのと同じ気持ちになりたいという、そんな感じを持つ人が多いと思うんですね。そうしますと、ステージがありまして、プロセミアムというようなアーチ、額縁をもって見ている人とやっている人とが隔絶されるということに対して、悲しさを感じている人があると思うんですよね。

大いに民衆の中へ溶け込んでもらいたいというような……。それは、なかなかやりにくいわけですか。

松岡　現実問題としては、ひじょうにやりにくいんですけど、舞台でやられている今の作品ですね、古典は別ですけど、新しくできている作品が随分そういうふうに変わってきていますよ。現実にステージからはなかなか外へは出ませんけれど、観客とのギャップをなくそうと思って作品が随分変わってきています。

中島　そういえば、ステージの前にエプロンというのがありますよね。

松岡　エプロンステージがありますよね。

中島　あれなんかは確かにそういった気持ちがあるのかもしれませんね。

松岡　でも、もう作品そのものが、昔のようになってませんので、そういう意味で今の作品は非常に感性に訴える作品が多いんですよね。

中島　なるほどね。

松岡　ですから、随分舞台と客席が離れてても、観客がその中に溶け込めるような作品も随分つくっています、最近は。

名古屋人の気質

中島　ところで、名古屋の町も大分きれいになりましたが、名古屋人の気質についてどのように思われますか。

松岡　私ね、名古屋人てね、すごく臆病だと思うんですね。名古屋の人たち全体が。だから、石橋をたたいて、なおかつ渡らないという人が多いんじゃないかと思います、名古屋の人というのは。ほかの地域のように八方破れの人というのは非常に少ないのですね。だから、私なんかは、本当に世界デザイン博をやるときに非常な不安を感じましたね。

中島　どういう点でしょうか。

松岡　ほら、冒険ってそうでしょう、こういうものにはやっぱりあるんで、どこかに非常な冒険もないと見ている人、おもしろくないと思うんですよ。

中島　確かにおっしゃるとおりですよね。

松岡　ありきたりのものでね、絶対間違いのない線でやってみたところで、間違いはないかもしれませんけれども、もっとおもしろみがないんじゃないかなという気はするんですね。だから、果たして最初のオリンピックのときからも思いましたけどね、名古屋の人って、どうしてもそういう引っ込み思案なのと、いわゆる日本人の「三歩下がって師の影を踏まず」みたいな仁義が——何て言うんでしょうね、「なるべく出ないように出ないように」をモットーとしているようなところがあると思うんですね。

中島　しかし、名古屋というのはもともと物をつくることは非常にうまかったですね。技術だとか技能というものは、確かにうまかったと思いますよ。そういった基盤があったからでしょうか、工業生産高というのは日本で一番高いということもうなずけるわけですけども、物をつくることがうまいだけじゃなくて、何をどうつくるかということがちょっと今までは希薄でしたね。

松岡　そうですね。

中島　きょうは、いろいろと大変楽しいおはなしを聞かせていただきまして、どうもありがとうございました。

*

とき　1989年7月28日(木)　13：30～15：00
ところ　名古屋コクサイホテル

綴織の里を訪ねて

阿部　修

と　き　平成元年10月24日(火)
ところ　川島織物中央技術・文化センター
　　京都市左京区静市市原26
参　加　24名

10月24日、京都の秋はあくまでも青く澄みわたった空があった。

建材委員24名が分乗した車は、京都地下鉄の北大路駅を出発し、落鮎をねらう釣人の散在する賀茂川を右手に見ながら右折、鞍馬街道を北上して行った。やがて、市街地の喧騒をはなれ、鞍馬の山々の前山というべき向山の麓の市原の里、本日の目的地である㈱川島織物中央技術・文化センターに着いた。

望む向山は、杉の緑、落葉樹の赤と黄、空の青に溶けあって、原色の鮮やかさと精緻さはまさに「織り成す」の言葉どおりで、これから見る綴錦の世界を予感させた。

到着した中央技術センターは、錦鯉の群れる前池があり、澄みきった水に緋色の対比がよく映え、工場というと殺風景であるというイメージに軽くショックを与えられる。

ご挨拶を頂いた南副社長によれば、川島織物は天保14年の創業、今年で146年を迎え、2代目当主が明治19年にフランスのゴブラン織りを参考に、廃れていた日本の綴織を再興し、以来、「日本美術工芸の織物の文化を未来に伝えることを企業理念とする」とされているとの説明があり、伝統を大切にし、技術の継承に力を注ぐ京都企業の心根をみる思いで深い感銘を受けた。

工場見学に移る。工場は最新の生産設備と手織工場が共存し、「伝統」と「革新」の両方を目ざし、同社の姿勢を象徴するかのようである。

最新設備では、撚糸・染色・整経の各ラインがコンピュータ制御され、従業員も少ないが、手織工場は、各工程が専業化され、人の手と目による伝統的手法で生産されている。

ここで、特に印象の深かった綴織について述べてみたい。

織物はまず企画・図案作りから始まる。原画などを参考に図案が作成され、図案をもとに色糸が選別される。千種に及ぶ色糸のなかから数種の色を選び1色ごとに札がつけられていく。数種の色糸を混合することによって、その深みが増すとのことである。指定の見本糸から杼(ヒ)のなかに入れる管に緯糸(ヨコイト)を巻く作業が続く。

綴織(ツヅレオリ)は機(ハタ)に張った経糸（タテイト）に金銀糸や色糸を杼でひと越しづつ織っていく。杼というのは、舟の形をした木製の道具で、中をくりぬいて糸を巻いた管を仕込んであり、これを経糸の間をくぐらせて緯糸を通す。

その時、指の爪の先で糸をひっかけ、手前の緯糸に密着させる。綴織は「爪の芸術」とも呼ばれ織手の爪は中指と薬指を鋸歯状にギザギザに刻んであり、1日おき位にヤスリで研いで手入れをするという。

経糸の下には図案が敷いてあり、その図案どおりに杼を通し、爪先で1本1本糸を織り込んだあと、筋立(スジタテ)という櫛のようなもので詰め込んでいく。熟練と根気が求められる作業で、精巧な図柄では1日に3センチほどしか織れないという。

この爪を実際に見、昆虫の動作のような指の動きを見ると、いまさらながら、人間の極限をみる思いであった。

次に、テキスタイルスクールとマイスタースクールで伝統技術の継承と先端技術の開発に努められている様子を見学の後、織物文化館へと歩を進めた。

織物文化館では、高野(こうや)主任から「歴史と織物」と題する講演を頂いた。氏はＮＨＫの番組でも紹介された方で、藤の木古墳の古代錦の復元作業に尽力され、復元作業の苦心談や美術織物の制作談はあたかも名人の芸談の趣があった。

特に、古代裂の断片を分析して染料の割り出しを行い、織り方のミスを発見して、織り方が判ったというのは、推理小説を読むような、興趣つきないものがあった。

氏には、展示館では8万点にもおよぶ「川島コレクション」のなかから代表作を、さながら名画の解説を聞くように説明をいただき、美酒の酔いにも似たおももちで同館を辞した。

外はもう陽が西に傾き、茜色の空は今見た綴織の色合いと重なり、全員興奮覚めやらぬおももちで帰路に着いた。

•

末尾になりましたが、この貴重な1日を提供頂いた㈱川島織物の皆様に厚くお礼申しあげます。

（松村組施工管理本部技術研究部長）


中央技術センターより向山を望む


織物文化館にて古代裂の講演を聞く


カワシママイスタースクール

川島テキスタイルスクール

創業130年の記念事業として昭和48年に開校し、服飾・インテリア・アートにおけるテキスタイルの学習と技術修得の場として、初心者からプロまでの幅広い層に門戸を開放しており、全員が寄宿できる施設を完備し、年齢・性別・学歴・国籍を問わない自由な校風を確立している。

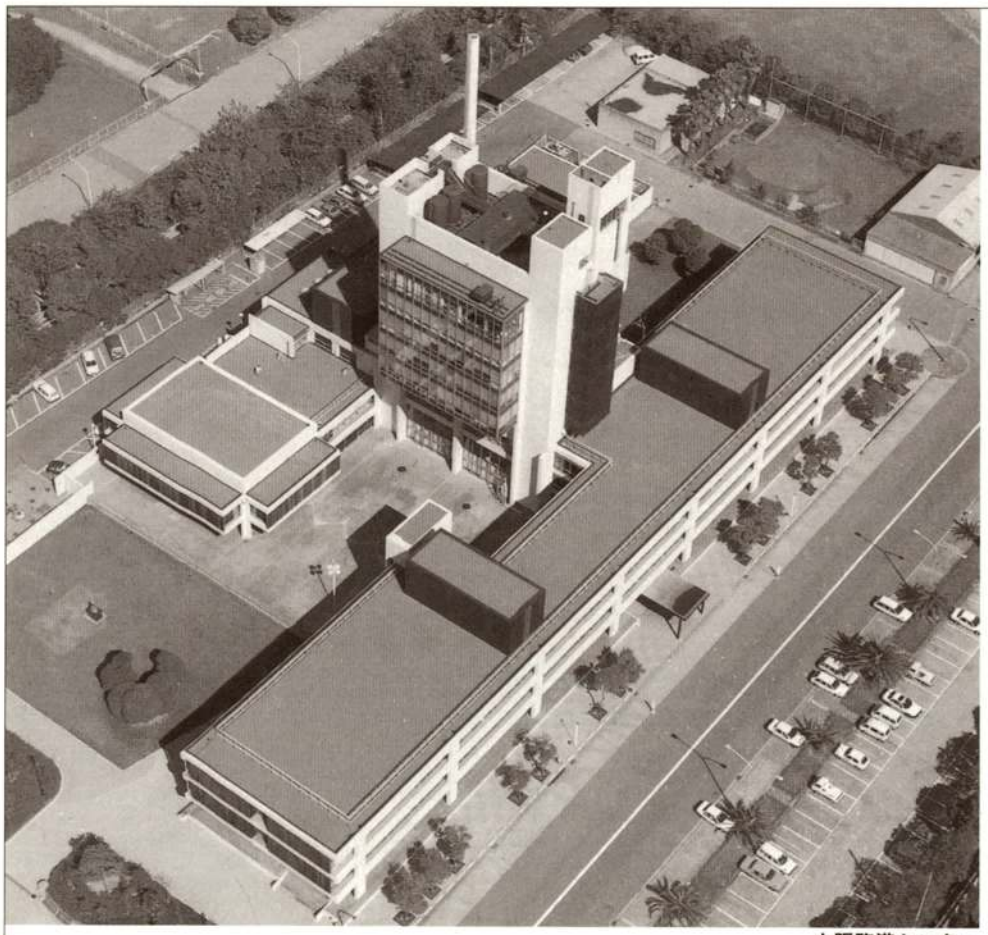
織物文化館

創業140年の記念事業として昭和59年10月に開設したもので、8万点にもおよぶ『川島コレクション』を公開展示する公共性の高い文化施設である。コレクションは、2千年前のエジプト裂から現代の作品に至るまでの貴重なもので、日本の染・織・繍の史資料を一堂に揃え、織物文化の歴史を知ることができる。

カワシママイスタースクール

創業145周年を記念して昭和63年に設立開校した、認定職業訓練校で、その目的は、"住宅の質的改善"豊かな生活環境を醸成するための壁装材、床材等のインテリア製品の高度な施工技術を身につけた、優秀な技術者を養成し、伝統的な、あるいは時代の先端をゆく、インテリア施工技術を将来に伝幡させる事を目指して開設された。

建物の
メンテナンス&リフォーム
改質アスファルトルーフィングのパイオニア



大阪臨港センター

《調査・診断から施工までのトータル改修システム》

■あらゆる下地に対応できる屋上防水システム

タフネス（熱工法）
ハイネス（常温工法）
ソプレマ（トーチ工法）

タフネス防水仕様例

駐車場標準仕様

PF105E	エバゾール 0.3ℓ	フジシールII 1.2kg	S S S 35	フジシールII 1.5kg	アスコン50㎜以上(別途)

ＡＬＣ露出標準仕様

LS105E	エバゾール100P 0.5ℓ	短辺目地処理 ガードテープ(幅200)	フジシールII 1.2kg	S S S 35	保護塗装(別途)

信頼と実績

ゴムアスファルト防水工事業協同組合
〒151 東京都渋谷区代々木1-11-2
ＴＥＬ 03(320)2020

昭和シェル石油㈱グループ
昭石化工株式会社
〒530 大阪市北区梅田2-4-9（産経ビル）
ＴＥＬ 06(341)6395
東京本社 東京 大阪 名古屋 札幌 仙台 新潟 金沢 広島 福岡

ゴムアスファルト吹付塗膜防水

ISスプレイコート

（特許出願中）

昭石化工株式会社　〒530 大阪市北区梅田2-4-9（産経ビル）
TEL 06(341)6395
東京本社 東京 大阪 名古屋 札幌 仙台 新潟 金沢 広島 福岡

1．はじめに

いま、大阪地区周辺は慢性的な土地不足から、建物は高層化するとともに、地下の有効利用として、遊歩道を兼ねた地下ショッピング街や駐車場等を設置することが常識となっている。

特に、都市部においては駐車場不足が深刻化しており、駅前再開発や新築建物には必ずといってよいぐらい駐車場が併設されており、殆んどが地下である。一方、自動車や鉄道等の輸送機関網は高架化か地下となり、さらに、各種産業廃棄物処理施設も外部環境条件の制約や環境汚染等を考慮して、地下埋没タイプが多く取り入れられている。

従来まで、防水と言えばアスファルト防水かシート防水が主であり、地下構造物の防水については躯体防水や樹脂防水（モルタル防水も含む）や浸透性防水等が使用されているが、地下利用の重要度が増すにつれて、防水、止水についても信頼性の高い防水機能を有しかつ施工性がよく、下地条件に左右されずに確かな防水層を形成する防水工法が要求されるようになった。昭和シェル石油㈱が開発した瞬時固化型ゴムアスファルト系エマルジョンを応用開発したISスプレイコートは、地下外壁防水や冷凍倉庫の防湿材や薫蒸庫の防臭層等に幅広く利用されている。

2．特徴

●シームレスの防水層を形成

エアレス方式の双頭ガンにて同時に吹付けし瞬時固化する為、垂直面、天井面でもタレたり、流れたりせず、遊離水の発生も少なく、比較的早く乾燥して、均一でシームレスの防水層を形成し、優れた防水性を発揮する。

●下地条件に左右されずに施工も簡便

瞬時固化型ゴムアスファルト系エマルジョンであるため、湿潤下地でも施工でき、多少の不陸や複雑な箇所でも、スプレー吹付けなので、容易に施工でき、重機械類も必要なく、施工が簡便である。

●施工時の安全性が高い

エマルジョンタイプの常温工法なので、火気の危険もなく、かつ有機溶剤等の毒性物質を一切使用していないので、作業者の健康への害及び大気汚染等も心配なく安全である。

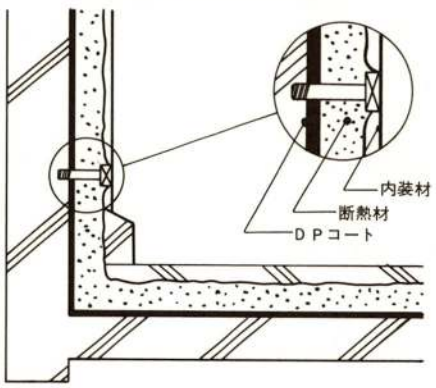
●経済的で工期が短縮

アスファルト防水やシート防水、塗膜防水等に比べて、約⅓の期間で仕上がり、総体的コスト面においても非常に経済的である。

その他

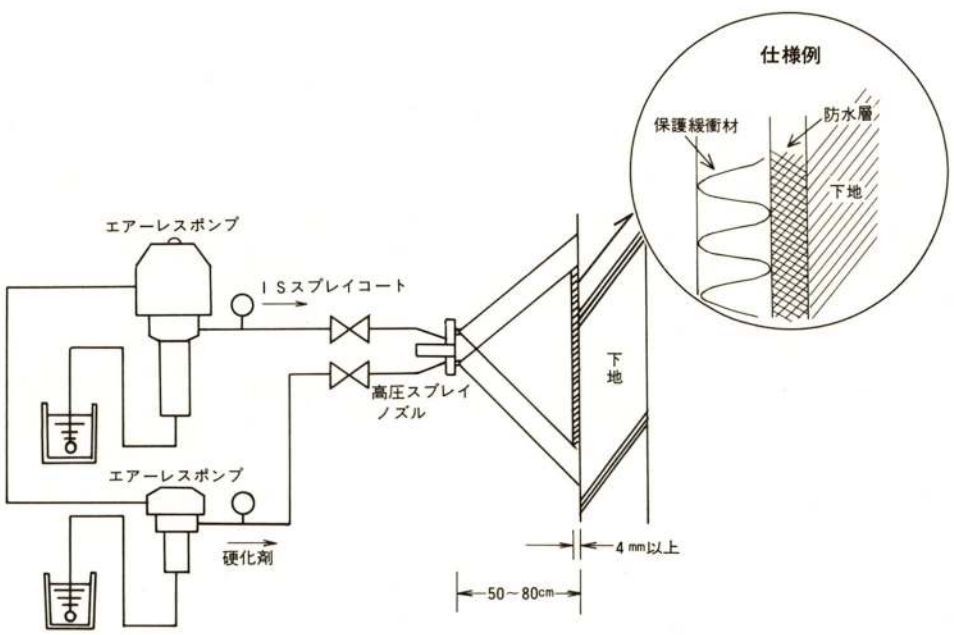
冷凍倉庫、冷蔵倉庫の防湿材として、一液性エマルジョンタイプの吹付け防湿材「DPコート」もあり、施工が簡便で、エマルジョンであるので密室での使用の安全はもとより、コンクリート、合板、鉄等あらゆる下地面にもよくなじみ、強固に接着する。

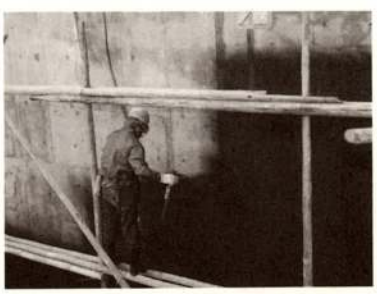
DPコート施工断面図



（元木貞次／建材委員）

ISスプレイコート工法のシステム





代表性状値

色　　相	黒褐色
PH	8.5
比　　重	1.0 @25℃
固　形　分	55.0 %wt
粘　　度	100cps @25℃
軟　化　点	150℃以上
フラース脆化点	−37℃
引張強さ	5.1kgf/cm²（JIS A 6021に準拠）
破断時の伸び率	1000%（〃）
引裂強さ	4.6kgf/cm²（〃）



前副会長

松村雄二氏逝く

■ご略歴
・生年月日　明治36年３月９日生まれ
・昭和３年３月　早稲田大学法学部英法科卒業
・昭和３年４月　㈱松村組入社
・昭和26年３月～昭和46年１月　㈱松村組代表取締役副社長
・昭和46年１月～昭和58年１月　㈱松村組代表取締役社長
・昭和58年２月～平成元年12月　㈱松村組代表取締役会長
・昭和46年６月～松村観光㈱代表取締役
・昭和48年１月～福昌開発㈱代表取締役社長
・昭和48年５月～松和土地㈱代表取締役
・昭和48年６月～㈱豊富ゴルフ場代表取締役社長
・昭和49年７月～（学法）岡山瀬戸内学園（倉敷高等学校）理事長
・平成元年12月13日ご逝去。享年86歳

■団体歴
・昭和28年10月～昭和30年９月　沖縄水曜会（在沖縄日本人建設業者団体）会長
・昭和51年２月～昭和55年２月　㈳大阪建設業協会会長
・昭和53年５月～昭和57年５月　㈳全国建設業協会副会長
・昭和54年４月～平成元年３月　㈳日本建築協会副会長

■公職歴
・昭和51年２月～昭和55年２月　（特法）建設業退職金共済組合大阪府支部支部長
・昭和51年６月～昭和55年２月　財日本建築総合試験所副理事長

■賞罰
・昭和37年５月３日　産業功労により大阪府知事表彰
・昭和38年７月10日　産業功労により建設大臣表彰
・昭和40年10月13日　黄綬褒章　受章
・昭和48年11月３日　勲四等旭日小綬章　受章
・昭和56年４月29日　勲三等旭日中綬章　受章

●追悼文

建設業界を代表して

社団法人　全国建設業協会会長
社団法人　大阪工業会会長
鴻池藤一

謹んで、株式会社松村組代表取締役会長故松村雄二殿の御霊前にお訣れの言葉を申し上げます。

いま私は、全国建設業協会ならびに大阪工業会を代表して深い悲しみのうちに永久のお訣れを申し上げることになりました。

静かに、あなたの御霊前に立って、あなたの卓越せる高邁な識見と豊富な指導力、親しみ深いお人柄を偲ぶとき、立派な先輩に先立たれましたことは、我々業界はもとより産業経済界におきましても痛恨の極みであります。

あなたは、関西建設業界の名門松村組を六十有余年の長きに亘って支えられ、松村組隆昌の基盤を築きつつ、業界のリーダーとして、激動の戦後昭和期を乗り切ってこられました。

この間、大阪建設業協会の会長、全国建設業協会の副会長などの要職に就かれるとともに、一方では大阪工業会の理事、大阪商工会議所の理事など在阪経済団体の要職をも歴任され、業界、経済界の双方にわたりその発展に大きく寄与されたのであります。

故松村会長には、いつお目にかかりましても円満な笑みをたたえられ、個人的にも心易く御相談を申し上げることが出来ましたが、常に「和」と「協調」を第一に高所に立ち大局からみたご指導と御盡力を賜わりました。その偉大な御功績は、私どももって範とすべきものでありました。

とくに、あなたが幅広く地域社会活動に貢献されました一端として、かって岡山県等関係者の強い要請をうけ、岡山瀬戸内学園の再建に盡力せられ、自ら学校法人の理事長として、私財をも投じて再建に心血を注がれ、今日の倉敷高校の基盤を築かれましたことは、あまり知られていないゆかしいお話であります。

また、大阪建設業協会長時代に大阪商工会議所建設業部会長として、日中建設技術交流に積極的に盡力されて以来、中国からの研修生受入れを始められ、今なお中国政府関係者との交流が続いておりますことも業界の大きな特色となりました。

さらに昨年で75周年を迎えました大阪工業会におきましても、40年間に亘り会員としてご盡力を賜わり、会の発展に大きな力となっていただきました。

このように、あなたが社会に幅広く貢献された御功績は、正に燦然として後世に輝くものであり、昭和48年に勲四等旭日小綬章次いで56年には勲三等旭日中綬章の再叙をもって賞せられましたが、この度は１月８日に正五位を賜わり、あなたの御生前の御功績を讃えられました。これは業界にとりましても大きな栄誉でございます。

あなたは、若き頃には満州松村組の役員として現地に於て御活躍、終戦直後は現地でソ連の軍工事を手掛け、戦後は沖縄米軍工事をと、およそ20数年を外地生活に過ごされましたが、その豊富な御体験と内に秘めた豪気を寸豪も表に出さぬ柔らかさは、誠実な暖かなお人柄と包容力につつまれて、接する人は何人も心からお慕い申し上げたのでありました。

生者必滅、会者定離は、人の世の定めではありますが、今、あなたとお訣れし、幽明境を異に致しますことは限りない悲しみであります。

然しながらあなたの御遺業は、あなたが育まれた方々によって立派にうけ継がれており、今後更に一段と発展を遂げられることでありましょう。

我々も又、あなたの御遺志を体し、業界の協調と向上発展を図るべく覚悟を新たに致すものでございます。

どうか在天の御霊、とこしえに安らかならんことを心からお祈り申し上げ、謹んでお訣れの言葉といたします。

平成２年１月18日

友を送る

同級生総代　友成靖一

親愛なるわが良き友、故松村雄二君のご霊前に立ちてお別れの言葉を述べることをお許し下さい。

松村君、君との最初の出会いは大正11年４月、早稲田大学に同時に入学し、うららかな春の一日、大隈邸園の芝生に腰を下ろして、僕は福知山から来た松村です。僕は阿波の徳島中学から来た友成ですと名乗り合った時から、お互いに仲良く願いますよと誓い合ったのでした。大学で顔が合うと、今日のお昼は高田牧舎で洋食を、又は、今朝庵のきつねうどんにと、舌鼓をうちながら時を過ごすのが何よりの楽しみでした。

大学に進むにつれ、僕は高等文官試験を受けるので、暇をみては図書館に籠るのでしたが、君はそんなむつかしい試験は受けないが、折角、大学まできたのだから、せめて大浜信泉教授の商法だけは、真剣に勉強したいと言って、図書館へ一緒に通うのでした。

程なく君は、僕の下宿に引っ越してきたのでした。夕食後には商法を論じ、文学を語り、特に帆足教授の哲学概論を語り合って、夜の更けるのを忘れることしばしばでした。当時は、純真な青年学徒であったことを今もなお、時折思い出すのです。なつかしい思い出が限りなく湧き出るのです。

昭和３年３月早稲田大学法学部を卒業いたしました。「大学は出たけれど」と言う言葉が大流行した程の不況時代でしたが、君は直ちに家業たる松村組の人となられたのでした。僕は幸い在学中に高等文官試験に合格していた精もあってか、内務省、司法省、三菱合資会社から、就職の呼びかけを受けたのでした。何処へ行くべきか迷っていた時、君の「三菱本社に決めろ、実業界へ進めよ」とのお言葉に応えて三菱社員となったのでした。

新調の背広に身をかためて三菱へ通い出したある日「僕は、今度、帝国ホテルに暫く宿をとることにした。君も帝国ホテルに宿しないか、君の仕事は丸ビル始め、丸ノ内の赤煉瓦ビルの管理運営と数多くのテナントの方々との交渉ごとであろうが、その種のビジネスのお手本は帝国ホテルで見習うのが一番よいと考える」との、お言葉に同感して、暫く帝国ホテルに宿することにした。

６月中頃から７月の始めにかけて日１日と暑さが酷しくなる頃、ホテルの部屋には、ウェスチングハウス製の六インチの扇風機がただ一個あるだけで、しかも使い古びたものでブーガラガラ、ブーガラガラと音はすれども風は来ずで、到底安眠も出来ない状態となり、ホテルを逃げ出すことにした。

落ち着く先は、北鎌倉円覚寺の境内にある寿徳庵と言うお寺で、若い坊主と飯たきの婆あやの二人暮しで、広い部屋で朝夕の食事付で寄寓することとなった。

和尚は毎朝５時に起床、仏前で般若心経を唱えること約30分、終ると本山に上って座禅すること約１時間、７時過ぎには私共３人で朝食を頂くのでした。お茶碗からお箸の持ち方、一粒のご飯も

残してはならぬなど、毎朝お説教を聞かされるのでした。

松村さん、君も僕も若き日に円覚寺と言う格式高き禅寺に幾月日を過すことによって、もろもろの修行を身につけたことがわれわれの人生行路に資するものがあったことを感謝しようではありませんか。

昭和７年満州事変があり、満州建国が成り、新京を首都と定め、満州国並びに関東軍の要請を受けて、三菱は首都新京に延約１万坪の康徳会館ビルを建設し、なお白山住宅 2,000戸を建てることとなり、僕は、そのテナント探しに昭和11年11月新京に出張していた時、君は可愛いい新妻を同道して新京に乗り込んできて、松村組新京支店を開設し、異国の地で大いに活躍せられることになったのでした。

又、昭和20年８月15日大東亜戦争終結後、米軍が沖縄に進駐し飛行場に、港湾に、道路に、各種の建造物の建設が始まるを聞くや、同業者に先駆けて沖縄に松村組支店を開設したのです。

雄吉社長には国内を、外地は僕が担当することにしようと思うとのお話があった時、僕はそれを結構ですねえ、大いに頑張って下さいと励ましの言葉を差し上げたことを今も尚、記憶に明らかに残っております。

思えば、昭和３年大学卒業と同時に家業に入られ、今日迄60余年の長きに亘り、由緒ある名門松村組を、今日の発展に持ち来らしたことは、多くの先輩重役、社員一同、並びに取引先のご愛顧の賜物たることは勿論申すに及ばぬことながら、君が脇目も振らず、家業一途に奮闘努力した結果であって偉大なる功績なりと申さねばなりません。

今ここに、改めて限りなき敬意を表わす次第であります。

終りに臨みまして、誠にせん越至極に存じますが、本日ここにご来賓下さいました皆々様、どうぞ長男の雄吾社長をもり立てて、松村組の永遠の発展の為、相変らざるご愛顧とお引立てをお願い申し上げます。又、重役の皆々様、並びに社員諸君、何卒一致協力して、社業の発展に一層のご努力を祈念申しあげます。

今は亡きわが心の友、松村雄二君心安らかに永遠に眠り給え、さようなら、さようなら。

蕪辞を述べてお別れの言葉といたします。

平成２年１月18日

（早稲田大学理事・商議員／弁護士）

●追悼文

名誉正会員

故 宮飼克二さんを悼む

谷　弘之助



故 宮飼克二氏

■ご略歴

・明治28年３月７日生れ
・大正６年３月　名古屋高等工業学校建築科卒業
・大正６年４月～大正６年11月　㈱多木製肥所建築係勤務
・大正６年12月～大正15年５月　設楽建築事務所勤務
・大正15年６月～昭和46年３月　宮飼建築事務所代表者
・平成元年12月26日ご逝去。享年94歳。

■団体歴

□㈳兵庫県建築士会ご経歴

・昭和32年12月～昭和54年３月　常任理事
・昭和40年４月～昭和44年３月副会長
・昭和61年５月24日　名誉会員

□㈳日本建築協会ご経歴

・大正７年１月17日　入会
・昭和29年４月～昭和41年４月　兵庫副支部長
・昭和30年４月～昭和32年３月　理事
・昭和41年５月～昭和56年３月　兵庫支部長
・昭和42年２月27日　名誉正会員

風も無く、白い雲とて無く、宇宙の無限を想う紺碧の空の下、長寿院の静かな庭の奥の本堂で宮飼克二さんのお葬式がしめやかに執り行れました。享年94才、宮飼さんの生前の徳が偲ばれるような師走にしては珍らしい小春日和の26日の昼下りでした。

宮飼さんは６年程前から心臓と肺の障害に依り４度の入退院を操り返しての闘病生活をしておられたようです。便りのないのは達者の証しなんて誰が言ったのでしょうか。近年は年賀状の便りを頼りにして私は一度もお見舞に伺う事もせず申し訳けない事をしてしもうたと悔んでおります。

宮飼さんは明治28年（1895年）３月７日に神戸市でお生まれになり、お兄さんは幼い頃に亡くなられたので宮飼家の一粒種の可愛っ児で育てられたそうであります。

神戸一中を経て名古屋高等工業学校建築科を大正６年に卒業され、その年の暮に父君が親友でいらっしゃいました設楽建築事務所に約10年間お勤めになり、大正15年に明石で宮飼建築事務所を創設され46年の永い間お仕事をして来られました。

その足跡として今も数多くの建築物が街々に残されています。殊に人世の終幕の式典を自からが設計監理を行った長寿院の本堂で、然も山門、鐘楼まで整えて行う事が出来たことは、何と建築家冥利のお方と宮飼先生の徳が改めて偲ばれます。

宮飼さんは建築家としての意識が強い方でありましたので、若い頃から建築界の発展に意欲を燃して来られました。

終戦後まもなく、社団法人日本建築協会の評議員となって会勢の拡大に運営に務めて来られました。

又、昭和27年４月建築士法の制定により、建築士が誕生するや直ちに兵庫県建築士会の創立に尽力され、評議員そして、昭和29年４月には明石支部の結成を生み県建築士会の常任理事と共に明石支部長として斯界の発展の基礎を造られた方であります。

その後も日本建築協会の兵庫支部長をもお務め頂く等、常に建築界の発展のみに尽され、晩年は両会共名誉会員として終身その功績に感謝申し上げた方であります。

昭和54年４月に勲五等瑞宝章の授章の栄に浴されました。宮飼さんは終生の感激として感謝しておられました。宮飼さんはもの静かな方でスケッチと写真がご趣味のようでした、旅に出かける時、現場に行く時等によくスケッチをされた様子で、過日お宅にお伺い致しました時、娘さんご夫婦からその説明をお聞きし乍ら想い出の絵を見せて頂きました。

ご家族の方に宮飼先生のことで何か思い出をとお聞きしますと、写真を撮って来て見て楽しんでいるが片付けるのが苦手だったのか、そのままで楽しんでいるのを見ていると、父は一生ぼんぼんで美しい人生を送ったと、一面の幸を想いますと結んで下さいました。

会員の皆さんに謹んで宮飼克二さんの訃報を申し上げ、共にご冥福をお祈り申し上げます。

（本会会員／明石土建工業株式会社取締役社長）

アメリカ建設産業
——アメリカからの報告——

嘉納成男

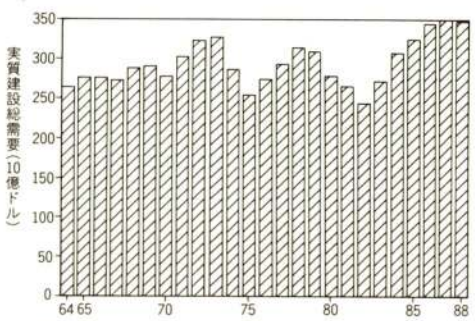
スタンフォード大学での約10ヵ月間の研究生活において、直接、間接的に見聞したアメリカの建設産業、建築活動の状況は、日本で伝え聞いていたものとそれほど違いはないものの、実際に見るアメリカ流の仕組みや方法には、日本の建設産業の将来を考える上で参考になる事項は多い。

アメリカの建設産業は、現在大きな転換期を迎えていると言って良いであろう。最近までアメリカの建設技術は、工業技術と並んで世界の最先端をいくものであり、強い国際競争力を有していた。しかし米国産業の低迷とともに、最近では各種の技術開発力が停滞し、以前ほどの活力はない。この現状に対して、1、2年前から危機感が深まっており、政府・民間ともに建設産業の技術力並びに活力の復活に必死になっているところである。

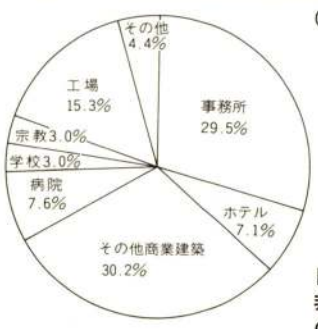
本レポートでは、アメリカにおける建設産業の現状について、その概要を述べる。

建設活動

先にも述べたが、アメリカの建設業は国内産業の低迷と政府や州の公共投資予算の削減のために、停滞を余儀なくされている。統計では1988年度アメリカの国民総生産は、4兆4,000億ドル(616兆円)、建設投資額は4,000億ドル(56兆円)であり、約9%の建設投資比率である。これは統計処理方法の違いを勘案しても、日本の約15%に比べて低く、先進工業国家にしては低い値となっている。この値の低さの理由として、アメリカの公共施設がすでに充実しているということが挙げられるが、実際にはそれらは老朽化や陳腐化のために改修や再建築の必要なものが多い。昨年10月17日(現地時間)のサンフランシスコ地震において大災害を引き起こした高架高速道路は、以前からその構造的問題点が指摘されていたにもかかわらず、予算の関係から放置されていて、大きな被害を出す結果となったものである。



図—1　アメリカの実質建設総需要の動向
(基準年度：1982年)



図—2
非住宅建築工事の用途別内訳

民間工事も同様に停滞している。事務所建築工事現状を見ると、この2年間ほどは活発に新規工事が着工されていたが、1989年後半からは急激に市場が冷え込んできている。その原因は、都市部における事務所スペースの過剰であり、ある調査ではニューヨークやロサンジェルス等の大都市での事務所の空室率は13%に達していると言われており、経済の停滞が建築活動を大きく阻害しつつあると言える。

アメリカの建設需要は、**図—1**に示すごとく、この20年間においてその実質額はほとんど増加していない。最近の予測では、1989年以後、建設需要はさらに低下すると言われている。

アメリカの建築工事は、土木も含めた全体建設需要の75%を占めているが、非住宅工事の比率は建築需要の約1/3、残りの2/3は住宅工事となっている。これは日本の建築需要の約半分が非住宅工事であるのと大きく異なっている。金額で比較すると、非住宅工事の需要は約1,000億ドル(14兆円)、住宅工事の需要は約2,000億ドル(28兆円)であり、日本がそれぞれ15兆円、17兆円であることを考えると、非住宅建築については日本とおおむね同規模の建設市場を有している。非住宅工事の内容を用途別に見ると、**図—2**のごとくになる。事務所建築工事は全体の約30%、工場工事は約15%、その他では病院、ホテルなどの比率が高い。

建設業

建設工事を実施する体制は、日本のそれとは若干異なり、アメリカでは部分工事ごとに各専門工事業者に分離発注され、元請建設会社は主として工事管理を行っている。これは、各専門工事業者が、その施工や品質管理を独力で実施できる技術能力を有しているためである。このため、年間建設工事高の大きい建設会社は、エンジニアリング会社的な役割を建設工事の活動で果たしている。

アメリカの主要建設業の総工事高は年度によって大きく変化するため、その工事高順位は毎年大きく変化する。日本に比べて、大きく上下する原因は、建設会社の評価が工事額の大小ではなく会社の利益額で評価されるため、赤字になるような工事は決して受注しないためである。このため、その会社が得意とする分野の工事が経済環境によって低迷すると、その年間工事受注額が半減することも珍しくない。また、この背景には、アメリカでは雇用制度が日本のごとく終身雇用を基盤としていないため、社員の解雇が容易であり、建設需要の動向に合わせて社員数を調整することができることがある。

最近では、主要建設会社はCM(Construction Management)契約による工事の受注が多くなっている。CM契約とは、建築プロジェクトの企画から施工段階までの総合的管理を行うことを施主から請け負うもので、工事の実施のみを請け負う方式とは異なる。CM契約

表－1　総工事高による主要建設会社20社　（単位：100万ドル）

順位	社名	年間工事高
1	Fluor Daniel Inc.	12,169.40
2	Bechtel Group Inc.	10,877.00
3	M.W. Kellogg Co.	9,303.90
4	Parsons Corp.	6,177.60
5	Lummus Creast Inc.	5,430.00
6	Rust International Corp.	5,170.00
7	CRSS	3,875.00
8	Morrison Knudsen Corp.	3,794.00
9	Turner Construction Co.	3,668.10
10	Foster Wheeler Corp.	3,079.00
11	Ebasco a Services Inc.	2,202.10
12	Jones Group Inc.	2,115.70
13	Brown & Root Inc.	2,031.00
14	Jacobs Engineering Group Inc.	1,818.00
15	Centex General Construction Corp.	1,750.00
16	ICF－Kaiser Engineering Group Inc.	1,724.00
17	Stone & Webster Engineering Construction	1,527.90
18	Kiewit Construction Group Inc.	1,385.10
19	BE & K Inc.	1,319.90
20	Austin Co.	1,319.90

（ＥＮＲ 1989年調査結果より）

表－2　建築工事高による主要建設会社20社　（単位：100万ドル）

順位	社名	年間工事高
1	Turner Construction Co.	3,582.90
2	Centex General Construction Corp.	1,750.00
3	Clark Construction Group Inc.	1,088.90
4	McDevitt & Street Co.	997.40
5	HCB Contractors	975.00
6	Fletcher Construction Ltd.	956.60
7	Austin Co.	887.30
8	Jones Group Inc.	829.10
9	Rust International Corp.	803.40
10	Fluor Daniel Inc.	746.30
11	Bechtel Group Inc.	640.20
12	Perini Corp.	589.80
13	C.L. Peck/Jones Brothers Construction	589.80
14	McCarthy	455.00
15	Swinerton & Walberg Co.	434.70
16	Koll Const. Co.	425.20
17	Marnell Corrao Associates Inc.	416.00
18	M. W. Kellogg Co.	409.80
19	CRSS	400.10
20	Gibane Building Co.	381.90

（ＥＮＲ 1989年調査結果より）

の場合は、各部工事はＣＭのアドバイスに基づき、施主が直接専門工事業に発注することになる。主要建設会社でのＣＭ契約の比率は年々上昇する機運にあり、現在では主要建設会社の総受注額の50%から60%を占めるようにまでなっている。

アメリカにおける主要な建設会社を、1988年度の実績をもとにリストアップすると、**表－1**のごとくなる。また、建築工事のみを対象としてその順位を調べてみると、**表－2**となる。工事高を円換算すると、日本の建設会社とそれほど差はないことが判る。しかし先にも述べたごとく、会社の体制を建設需要の動向に合わせて変化させるとともに、その業務が主として工事マネジメントに集中しているため、施工に関する技術力では日本の方が充実していると言える。

また最近では、アメリカ建設市場への日本やヨーロッパの企業の進出が目立ち、これがアメリカ建設業の差し迫った課題となりつつある。これら外国建設業による工事は現在100億ドル程度であると言われ、これはアメリカ全土の工事額の約2.5%に達している。比率的には2.5%の値は小さいが、これら外国企業が受注する工事は比較的大工事が多いため、それが問題になっていることは想像に余りある。さらに、建設会社の外国企業による買収も現在盛んに進められており、日本の主要な建設会社のほとんどがアメリカ市場を意図した企業買収をすでに済ませているのが現状である。

設計事務所

アメリカにおける主要な設計事務所を、その設計契約額によって調べると、1988年度においては、**表－3**のごとくなっている。建築工事が大規模になり、かつ内部の設備が複雑になるに従って、組織的設計事務所の活躍が目立ってきている。とくに最近では建築プロジェクト全体のプロジェクトマネジメントをも含めた形で、企画、設計、工事の監理を一括してサービスする形態が多くなりつつあると言う。

アメリカの設計者に聞くと、建築の企画から工事段階までの一貫した関与が設計の質の向上につながるとしている。このため、設計者は基本設計図、仕様書、さらに細部にわたる詳細設計から工作図に至るまで、すべてを設計事務所内で実施する体制が今でも強く守られている。したがって、アメリカでは、設計はおのずと組織的設計に移行する傾向にある。この組織的設計は必ずしも画一的設計を意味するものではなく、各設計者の創造性が十分発揮できる組織づくりに各設計事務所は苦労している。

たとえば、筆者が訪れたアメリカ最大手の設計事務所であるSOM

表－3　建築設計を主とする主要設計事務所

順位	社名
1	Skidmore, Owings & Merrill
2	A. Epstein and Sons Inc.
3	Hellmuth, Obata & Kassabaum Inc.
4	Gensler and Associates/Architects
5	Ellerbe Associates Inc.
6	RTKL Associates
7	HKS Inc.
8	Syska & Hennessy
9	Leo A. Daly
10	The NBBJ Group
11	ATEC Associates
12	Hansen Lind Meyer Inc.
13	Kohn Pedersen Fox Associates
14	3 D International Inc.
15	The Hiller Group
16	Tribble Harris Li Inc.
17	PHH Neville Lewis
18	The Kling－Lindquist Partnership Inc.
19	Haines Lundberg Waehier
20	The Kober Group

（ＥＮＲ 1989年調査結果より）



SOM（サンフランシスコ支部）のスタディオ風景

（Skidmore, Owings & Merrill）のサンフランシスコ支部でも、組織的設計の利点を活かした上に、個人の創造性豊かな設計環境を確立している。ここでは、スタジオ制度を採用して、各スタジオごとにその主席の下に約30名から40名の設計者を組織化し、独立した組織として設計活動を行い得るようになっている。また、パートナー制度は全米ＳＯＭ全体の相互協力とその独自性の発揮に役立っているようである。

建設工事費

アメリカは日本の約25倍の国土を有しているために、建設工事費は日本で考えられないほど地域差が大きい。たとえば、全米平均を1.0とすると、ニューヨーク市は1.4、サンフランシスコ市は1.3、テキサス市は0.9等である。全米の平均的工事費について、手持ちの資料から地上６階以上の事務所建築物を対象に工事費を見ると、延べ面積１㎡当たりの平均的な建設工事費は、約700ドルから900ドル近辺にある。

日本に比べて平均的工事費が安くなるのは、土地の値段が比較的安いために地下階を造らない場合が多く、土工事に費用がかからないためである。さらに一部の建築プロジェクトを除くと、こちらの事務所建築物は、その投資効率を高めるため経済性を重視して設計されていることが多いからである。ちなみに、賃貸事務所の賃貸料は、大都市地域で１ヵ月１㎡当たり30ドルから40ドルが相場となっている。

地上15階、地下なし、延べ面積12,500㎡の事務所建築工事（外構工事は含まず）の平均的な工事費内訳例を**表―４**に示した。これからも判るように、基礎、地下並びに軀体工事費の合計は、全工事費の20%ほどである。

労務費については、ユニオンのそれが一つの基準となっている。大工の例で労務費を算定すると、１日当たりの平均的労務費は、実質賃金や保険等を含めて１人当たり219ドル、すなわち30,660円となる。ただしこれには労務管理経費は含まれていないため、これに管理経費率10%を加えると33,730円ほどの労務費になる。この額は日本で労務下請けから調達する労務費におおむね相当するであろう。

表―５は、各職種についての平均的基準労務費を算定したものである。比較的労務費が高い職種は、溶接工、鉄骨工、配管工等である。大学卒のエンジニアが５から10年の経験で年俸40,000ドルであることを考慮すれば、これらの技能労働者の賃金はそれほど悪い額とも言えない。ただし、建設労務費は、その地域における労働者の需給関係によって決まるため、この値よりは若干低いのが実状のようである。

労務費は、ユニオンの労働者を使う場合は賃金が高くなる上に、ユニオン独自の就業規則のために工期の遅れや余計な出費がかかる心配がある。しかし、ユニオンでは労働者の職業訓練や各種の研修を推進しているため、生産性や技能のレベル等を考えると、必ずしも非ユニオン労働者の方が安いとは言えないとする意見もある。

材料費については、法規や建築仕様の違いから一概に比較できないが、その軀体関係について紹介すると、つぎのごとくなる。構造用鉄骨はトン当たり61ドル、鉄筋はトン当たり50ドル、また生コンクリートは１㎥当たり68ドル程度がアメリカ全土での平均となっている。

このほかの建築材料の価格を聞いてみると、日本よりもむしろ安いものが多い。実際に製品を見ると精度が劣る面や色むらがあったりで、日本で通常使用している建築材料よりも質は落ちるようであるが、しかし、アメリカ人からすると「この程度の質のもので十分である」という意識が強く、高い金を払ってこれ以上の質を求める必要はないという考えらしい。多くのアメリカ国内の建築物を見ると、日本に比べてそのゆったりしたロビー、廊下や室内の広さに圧倒され、これら材料の欠点がほとんど目立たなくなるのが不思議である。

表―４　事務所建築物の工事費内訳

積算費目	工事費比率(%)
基礎工事	1.6
地下工事	0.2
軀体工事	18.3
外装工事	18.8
屋上工事	0.4
内装工事	15.1
エレベータ工事	8.2
給排水設備工事（空調配管含む）	15.5
電気設備工事	9.1
建設会社諸経費	13.0
計	100.0

（地上15階、地下なし）

表―５　各職の労務費

職種	労務費
大工	258.00
レンガ工	261.60
ガラス工	259.60
ペンキ工	236.40
左官工	240.80
板金工	289.60
鉄筋工	299.60
溶接工	309.60
鉄骨工	309.60
給排水設備工	289.20
電気工	284.80
建設機械工（クレーンオペレータ等）	266.00
トラック運転手	209.20
一般軽作業者	203.20

（単位：ドル/日）

おわりに

アメリカの社会、経済、産業は、現在大きな問題をいくつも抱えており、そのあるべき姿とは程遠いところに位置していると言わねばならない。経済の低迷、技術力の停滞、人種問題、麻薬、犯罪等はその原因を調べていくと複雑に絡み合っており、その一つ一つを個別に解決していけば良いという簡単な問題ではないところに、アメリカの悩みがある。

建築生産において、アメリカは優れた設計者、技術者、研究者、施工者を有しているが、それぞれは独自の専門領域を確立しており、その間のコミュニケーションに若干欠けているように思われる。同じ建築プロジェクトの目標に向かって働いている人々が仕様書、契約書、文書のみでしか意思の疎通を図らなくなったアメリカ建設産業の現状を、嘆く技術者は多い。アメリカでは良い意味で個人主義、専門家主義が貫かれているため、局部的分野においては非常に優れた業績を示す。しかし、広い領域における知識や活動が必要な分野においては、個人主義、専門家主義がその一体化を妨げているようにも思える。逆に言えば、日本は狭い分野における革新的業績を果たすことには不得意であるが、その総合力や組織力においては世界をリードする能力を発揮していると言える。

（かのう　なるお
早稲田大学建築学科教授、スタンフォード大学客員教授、工学博士）

建築技術安全審査委員会について

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391 FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00（第2、第4土曜休日）

1.はじめに

当委員会は、昭和50年1月近畿行政連絡会議の要請により建築主事の諮問機関として発足し、同連絡会議が定める構造等取扱要領に掲げられた建物等の安全審査（以下「審査」という）を行うことを目的としています。同要領は、昭和56年6月の建築基準法施行令の改正に伴なって建設省住指発第96号の通達を受けて改訂され、高さが45m（鉄筋コンクリート造は31m）を超えて60m以下の高層建築物についての安全性を判断する「評価」が追加されました。

なお、当委員会では近畿以外の地域の物件についても「評価」や「審査」を行っております。

2.運営

当委員会は、主に近畿における大学の先生方で構成されており、月1回開かれる常任委員会において申込み案件を審議し、案件ごとに2・3名の委員からなる小委員会（部会）を設けます。詳細審議はこの小委員会で行われ、通常2・3回開かれます。審議終了後、担当委員により報告書（案）が作成され、常任委員会での審議を経て報告書が交付されます。

常任委員会での受付から報告書の交付までの期間をできるだけ短縮するよう配慮しておりますが、その期間は通常ほぼ2ヶ月余となっています。

3.申込み方法

建築主事から建築確認申請予定物件について、当委員会の評価あるいは審査を受けるように指示された場合、下記の書類をそろえて、常任委員会開催1週間前までに当試験所にお申込み下さい。

なお、資料等の作成にあたっては、事前に当試験所と相談の上進めていただくようお願いします。

○評価又は審査申込書（当試験所所定の用紙）……1通
○建築主事の意見書（審査項目を記載したもの）……1通
○総括説明書（常任委員会及び小委員会用資料）……16部
○構造設計図書一式（小委員会用資料）……6部

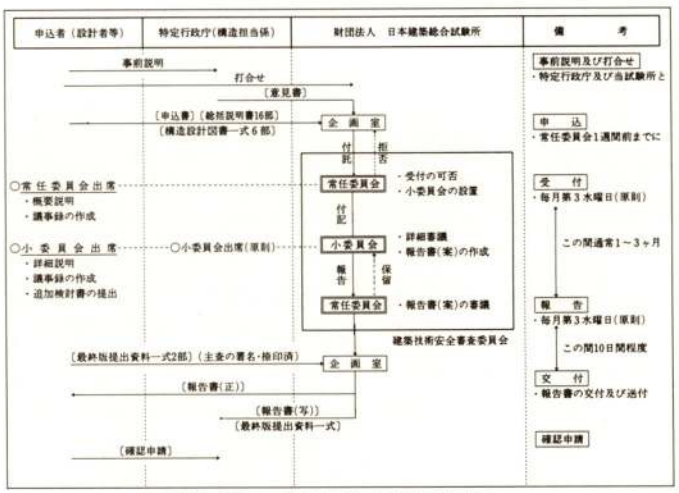
4.評価・審査の手数料について

常任委員会での受付終了後、当試験所より申込者に対し、請求書を送付しますので、所定の銀行に振込んで下さい。

5.常任委員会の開催日

平成2年の常任委員会開催日は、昨年同様、原則として毎月第3水曜日です。但し、3月及び8月は第4水曜日、12月は第2水曜日の予定です。

ご不明の点は、当試験所の企画室までお問い合わせ下さい。



構造審査(評価・審査)に伴う事務手続きのフロー

建築技術安全審査委員会委員名簿(50音順)　任期　自　昭和64年1月1日　至　平成2年12月31日

委員長	横尾義貫	京都大学名誉教授	委員	富永　恵	京都大学助教授
副委員長	若林　實	日本建築総合試験所	〃	鳥海　勲	大阪工業大学教授
委員	浅野幸一郎	関西大学教授	〃	永井興史郎	京都工芸繊維大学助教授
〃	五十嵐定義	大阪大学教授	〃	中田啓一	近畿大学助教授
〃	石崎凝雄	京都大学名誉教授	〃	中村　武	京都工芸繊維大学教授
〃	石田修三	京都工芸繊維大学教授	〃	中村恒善	京都大学教授
〃	井上一朗	大阪大学助教授	〃	野中泰二郎	京都大学教授
〃	井上　豊	大阪大学教授	〃	藤原悌三	京都大学教授
〃	大場新太郎	大阪工業大学教授	〃	日置興一郎	大阪市立大学教授
〃	岡田光正	大阪大学教授	〃	堀内三郎	京都大学名誉教授
〃	桂　順治	京都大学教授	〃	益尾　潔	日本建築総合試験所
〃	金谷　弘	神戸大学教授	〃	俣野善治	日本建築総合試験所
〃	金多　潔	京都大学教授	〃	松井克俊	明石工業高等専門学校助教授
〃	川村純夫	大阪市立大学教授	〃	松浦邦男	京都大学教授
〃	河野允宏	京都大学助教授	〃	松永裕之	摂南大学教授
〃	日下部馨	神戸大学教授	〃	南　宏一	大阪工業大学助教授
〃	国枝治郎	京都大学助教授	〃	南井良一郎	京都大学教授
〃	柴田道生	摂南大学教授	〃	六車　熙	京都大学教授
〃	鈴木計夫	大阪大学教授	〃	森田司郎	京都大学教授
〃	田川健吾	福井大学教授	〃	八尾真太郎	関西大学教授
〃	竹内吉弘	大阪工業大学教授	〃	山肩邦男	関西大学教授
〃	田村　博	日本建築総合試験所	〃	山田　稔	神戸大学教授
〃	辻　文三	神戸大学教授	〃	脇山広三	大阪大学教授
〃	寺井俊夫	京都大学教授	〃	渡辺史夫	京都大学助教授

常任委員会委員名簿(50音順)　任期　自　平成2年1月1日　至　平成2年12月31日

委員長	若林　實	日本建築総合試験所長	委員	辻　文三	神戸大学教授
委員	浅野幸一郎	関西大学教授	〃	中村　武	京都工芸繊維大学教授
〃	桂　順治	京都大学教授	〃	野中泰二郎	京都大学教授
〃	河野允宏	京都大学助教授	〃	南　宏一	大阪工業大学助教授
〃	日下部馨	神戸大学教授	〃	八尾真太郎	関西大学教授
〃	鈴木計夫	大阪大学教授	〃	山肩邦男	関西大学教授

京都の風致景観行政について

寺西章郎（京都市計画局風致課課長）

京都は昔から言われているように、三方を山に囲まれた山紫水明のヒューマンスケールのまちであり、日本の文化が最も凝縮されストックされている歴史都市であります。そのために、この京都の風致・景観を守るために、わたしたち風致行政に携わる者は、日々研鑽を重ね、わたしたちの先輩達が築き上げてきた風致行政のよい点は守り、改善すべきところは改善してまいりましたが、市民や建築の設計者のみなさんのご協力がなくてはこの働きは有効に機能しません。「建築と社会」1989年11月号・12月号に掲載されたH.Wさんからの風致行政に対する疑問にはいくつかの誤解や意思疎通の不十分さがみられますので、紙面をお借りして簡単ではありますが風致課としての考え方を説明いたします。

1. デザインガイドの功罪について

わたしたちは、京都の歴史と伝統を踏まえた建築様式についての行政指導のキーワードを、「伝統様式」や「和風感」と「周辺との調和」であるととらえています。ただ、「和風」という言葉では抽象的すぎてよくわからない、どうすればいいのかもっと分りやすく示してほしい、という行政内外のニーズに対して「種別基準等」というデザインガイドを作っています。デザインガイドというものはそもそも「功・罪」相反する評価がありますが、どちらもそれなりに妥当なものがあります。それは、極論的にいうとレベルの低い設計者には、それを引上げる役割を持ちますが、レベルの高い設計者には不要であるばかりか、ブレーキになるだけだという考え方があります。

H.Wさんの批判は「罪」の側面にスポットライトを当てて強調されている面があります。そこでわたしたちは「功」の部分を語ってみることにします。

もし、デザインガイドがないとするとどうでしょう。基本的な意匠・細部仕上げ等について、設計者と担当者の力関係によって決められたり、主観的判断が先行したり、首尾一貫性がなく場当り的になったりするなど、無責任な恣意的指導になる恐れがないとは言えません。指導が混乱すると、結果的にはまちなみが混乱することにつながります。また、建築の設計者にとっては、どのようなデザインが求められているのかの情報もなかなか蓄積できず、許可を得るまでの手間や時間を浪費するかもしれません。このためにデザインガイドを必要とするわけです。

ただ、このデザインガイドの内容の豊かさといった面については、いつも原点にフィードバックしながら点検されるべきものであると考えます。また全てをデザインガイドに示すことができるものではなく、設計者と担当者のやりとりの中で、デザインを洗練させていくべきという要素の方が大きいということはあります。

このような「功」の部分だけでなく、画一化・形骸化といった「罪」の部分を合せ持ったものであることは承知の上で、わたしたちは「罪」の部分はなるべく少なくしていくとともに、「功」の部分を充実させるために、京都を愛する心としての、デザインマインドを豊かにするよう努力を続けたいと考えています。

2. 京都のまちなみとしての建築デザイン

風致課の窓口では、まずこのデザインガイドにそって指導するわけですが、つぎのような問題がよく起こります。

建築の設計者の中には、自分が考えたその建築物単体の「独創的」なデザインが最も良いと思っておられるところがあります。別の例でいうと、広告物の時はもっと端的に自分のところが目立とう、洒落たセンスを見せつけようという考え方が強いわけです。いずれにしても風致課では、まちなみ全体の落着きや京都らしさを求める指導をしますから、ある種の軋轢が生じます。

このような場合に「伝統様式」や「和風感」と「周辺との調和」というキーワードによって指導するという、京都ならではのスタイルを作り上げて来たのです。大阪や東京から来た設計者には、この京都アイデンティティとしての美意識がすぐには伝わらないことがよくあります。しかし、このような文化的ギャップ、お互いのローカリティの差からでた場合は、たとえ時間はかかっても設計者と担当者のやりとりの中で、デザインを洗練させていくことはできます。

もうひとつのケースは、施主が高さや容積等を目一杯利用することだけ主張し、京都らしさとかデザインとかは全く考慮していない場合です。このときは、いいものを求めて洗練させていくといったプロセスはほとんど成立せず、条例や基準として、これだけは守りなさいということと、小手先の改善やうわべだけの化粧にならざるをえないことがあります。

わたしたちが、デザイン指導のバックグラウンドとしている京都アイデンティティの美の一例として、いつも引き合いにだされる町屋には、言うまでもなく全体のまちなみとしての調和の美と、坪庭などのよくいきとどいた洗練された美があります。この調和の美というのは、今風に言うと“公共性（パブリシティ）＋良識（コモンセンス）”ということになります。

京都では、自分だけが目立とうというのでなく、自己抑制の利いた落着きのある、さらに言えば、風景に融けこんだような風情のデ

ザインが、多くの京都人の高い美意識にマッチするということがあります。

ここではあまり詳しく展開することはできませんが、これらのことを背景としてデザインガイドが出来上がってきているわけです。しかし、窓口指導においては、ときどき「誰がこんな基準を作ったのか、和風にもいろいろある』などの苦情があります。H.Wさんの論点もまずこの辺の誤解があるのではないでしょうか。

3.「和風」を基調とした新しい「京都」デザインの創造を

設計者と担当者のやりとりの中で、デザインを洗練させていくべきとはいっても、デザインレベルということを抜きには語れません。前にも述べましたが、デザインの「デ」もないような劣悪な計画は、なにも施主の責任だけではありません。基準法をいかにかいくぐるかを旨としていたり、申請と現場の乖離に無頓着であったりする、建築の設計者の中にも責任があります。このようなケースはここではこれ以上ふれないことにします。

敷地や予算の限られた枠の中で、いいものを設計しようとしている場合にはデザインレベルが問題です。わたしたちが用いているデザインガイドとは、バイブルではなくシビルミニマムのようなものであって、それ以上の試みを排斥しようとするものではありません。

ただ、本当にいいものを創り出すためには、設計者自身が没頭したり手間暇をかけたりする内なる活動のほかに、外への説得が必要ではないでしょうか。周囲の景観との調和を考慮したパブリシティと一時の流行や奇抜さでないコモンセンスなどが踏まえられているか、細部の納まりなど仕上は洗練されているか、こまやかな心遣いが伝わって来るような味わいがあるか等は、むしろよき批判者を得てこそ、その葛藤と緊張の中で新しい創造が始まるのではないでしょうか。このような設計者と担当者のやりとりの中でデザインレベルが問われるのだと思います。担当者だけでなく、複数の合議・相談員の諸先生・美観風致専門小委員会など行政としても独善に陥らないためのステップは用意されています。

わたしたちは行政の在り方として、わかりやすくリーズナブルな指導を心掛けたいと思っています。今後とも、風致課職員一同、市民や建築の設計者のみなさんと共に、京都の素晴らしいまちなみのなかで、新しい「京都」デザインの創造にむけて頑張って行きたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願い致します。

（てらにし あきお）

「建築の眼」掲載の若林広幸氏のエッセー

「京都の風致・景観」を巡る京都市風致課のレポートの発端となった本誌1989年11月号、12月号「建築の眼」頁に掲載された若林広幸氏(若林広幸建築研究所主宰)の「拝啓京都市風致課殿—1、2」と題するエッセーは、つぎのとおり。

拝啓　京都市風致課殿—1

京都が国際的レベルの文化遺産を持つ歴史都市として、風致を守って行かねば成らない事は百も承知しております。その為にも和風的景観を守ろうとしておられる事も大賛成であります。しかし、瓦の勾配屋根やじゅらく色をしてれば良いといった表面的な要素でのみ、和風を指導しておられる事がどうしても納得できないのです。更に素材もコンクリートの打ち放しは駄目、やれ鉄板を使った屋根は駄目、曲面の壁は駄目のと言った具合に、制限しておられる事も全く根拠が稀薄です。この様な指導を行なっていては、良識を持って建築行為に勤しむ建築家の、創作意欲がそがれてしまいますし、良い建築は残ってはいきません。これはまさしく憲法の“表現の自由”に対する違反行為です。そもそも誰が現在の風致の基準をこしらえたのかは知らないのですが、本来もっと本質的な部分で日本の風景が語られるべきじゃないのでしょうか。それが無理なら、木造の伝統的和風住宅以外は駄目と言切ってしまったほうが、余程すっきりします。コンクリートでも鉄板でも使い方次第で、決して和風から逸脱しているとは思いませんし、むしろ、現行の基準で表(おて)づらだけをつくろった、安直で貧しいデザインの“申し訳瓦+リシン壁建築”を容認している事の方が、余程罪だと思うのですが。（次号に続く）　（H.W）

拝啓　京都市風致課殿—2

誰が考えだしたのかはしりませんが、パラペットの周囲に申し訳程度に屋根瓦やシングルをのっけ、中を陸屋根にした実に陳腐なデザインがありますね。京都市の風致の基準にもしっかりとうたわれている様ですが、一体あれは何なのですか。中高層の建築で、しかも風致地区や美観地区の至る所で見る事ができる様ですが、もしあれを京都の風景として了解しておられるとしたら、京都はもうお終いです。もともと和風建築で高層の建物等は、塔や城や寺院の様に極限された建物しか無く、町並を作って来た建築はせいぜい3階止まりの木造です。そこに中高層を建てようとする時、無理矢理瓦を載せねばならない根拠は一体何なのでしょうか。確かに東京の九段会館のように、近代和風様式の中でパラペットに瓦を載せた建物が有るには有りますが、デザインのレベルが違い過ぎます。やはりこれも現行の基準で表づらだけをつくろっているに過ぎないと思いませんか。風致をまもるという事は表面的な“和風もどき”を作る事では無いはずです。京都の風景の中でいかにして豊かで完成度の高い風景をつくり上げて行くかを考える事です。それは京都のバナキュラーを形成してきた“ち密な心遣い”が有ってこそ成り立つもので、その部分がもっと真剣に指導されなければならないと思うのですが。　敬具　（H.W）

建築の眼



前川道郎
九州大学教授

森岡進
大阪市建設局咲くやこの花館
展示課長代理

徳岡昌克
徳岡昌克建築設計事務所代表取締役

楠正世
戸田建設大阪支店設計室長

建築と建物

architectureの日本語として定着したと考えられる「建築」とは何をいうのか。日常用語としてはそれは「建物」と同義に用いられることが多いだろうが、建築教育を経た者なら誰でも、そこに何らかの意味の差異を直観するだろう。伝統的に西洋では、architecture＝building＋something と理解されてきたように思う。その際、かつてはsomethingとは「装飾」を指すと考えられたこともあったようだが、しかし、それを建物に外的に付加された飾りに限定するわけにはゆかない。何らかの美的価値をもった建物そのものが建築であろう。

ウィトルウィウスが建築に実用性と堅牢性と美という三つの理(ことわり)を認めたように、すべての建築は美的価値と無縁ではありえない。さらにいえば私はsomethingを、感情的な美的価値を超えて、ひろく精神的な価値と解釈している。もちろん、かつてのような「美術建築」と「実用建築」（前者はarchitecture、後者はbuildingの意であろうか）といった区分は考えられない。すべての建物は建築である、いかなる建物も何らか人間の実存的意味にかかわっている、したがって、すべての建物は建築を求めて建てられなければならない、というのが私の考えである。

（M．M）

咲くやこの花館（II）

私は、植物や造園、緑化に関する仕事にたずさわっていて、建築協会にも緑を通してお世話になって来たから、私にとっては「建築と社会」というより「建築と緑」であった。今、花の万博の大阪市出展パビリオン〝咲くやこの花館〟においても、緑に関することを担当している。咲くやこの花館は、我が国でも最大級規模の大温室である。館内の中央部に各種イベントが行われたり、休憩コーナーにもなる多目的ホールとしてのフラワーホールを設け、この周囲に熱帯から砂漠などの乾燥地帯、高山、極地圏までの地球上のさまざまな気候に生育する植物を温室、冷室内に８ゾーン（６室、２コーナー）に分けて配置し、栽培展示している。一つの建物内に、温室冷室を一体的なものとして合わせもつ大温室は、他に例をみないもので、当館の特徴である。大温室内は、東南アジアやアマゾン等のジャングルを再現した熱帯雨林植物室（熱帯水生植物コーナー、食虫植物コーナーを含む）、タヒチやハワイ等の南国の楽園をイメージした熱帯花木室、熱帯地方の池や川の水中植物を集めた熱帯水草室、中南米、アフリカ、マダガスカルなどの乾燥地帯のサボテン類を集めたサボテン・多肉植物室、ヒマラヤやアルプス、北海道などの高山の植物を集めた高山植物室、南極園や北極圏のコケや地衣類を展示する極地植物室の８ゾーンから構成されていて、約2600種、15,000株の植物を展示する予定で、館内を一周すると、いながらにして世界の植物に接することができる。

（S．M）

私が建築創りに考えること　(2)組織の程度

きびしい寒さのなかで、柿、栗、ぶどう、キウイ、胡桃(くるみ)、林檎(りんご)等、静かに眠っているようにも見える。果樹づくりはこの時期が一番大事に思える。

芽が出そろってからの世話も大変だが今の時期に、昨年よく実をつけた樹にはお礼肥を、また、つけなかった樹々も夫々手入をして今年に備える。根が活動を始める前に深く耕し施肥し、また、クローバ等の種を蒔(ま)いて下草の変化を促し、土質の改良に努める。春秋には嵐はつきものだがら防風林の手入や病虫害から守るための消毒作業も欠かせない。柑橘類のように寒さに弱いものには薦掛(こもかけ)けも要る。種類も異なり、又、一本として同じ樹は無いのだから、何よりもまず、どこまできめこまかい愛情のこもった世話が出来るか、こちらの能力次第で樹は育っていくように思う。これによって組織の程度も決めようと思う。又、梅や桃のように、一本でも花も咲き実もなるものも多いが群生により結果の良いものや、林檎やさくらんぼのように異種交配によらないと結果しないものや、キウイのように雌雄(しゆう)のあるのもいる。剪定は必要だが、野放図に育っている樹、異種混生の世界、一見無駄にみえる実のならない雄の樹、このなかの秘められた可能性も組織の程度の条件にしておきたい。梅の蕾もふくらみ、桃の葉芽、花芽も鮮やかに、初春の陽光をうけ、夫々の息吹が感じられる。

（M．T）

建築と造船

久々に建築業界にも陽が当っている。こうなると人手も不足なら材料も品薄でコストは上昇する。それも金余り現象のせいか株価やゴルフの会員券ほどではないにしろ上りっぱなしである。相当のぼりつめなければ、「やめとこう」ということにならないらしい。このどさくさにまぎれて、ここ半世紀質素と合理性がバックボーンだった建築デザインも一気に複雑化し豪華になってきた。かつて重厚長大産業の中で造船の合理化が評価され建築は遅れているといわれたが、今もそれ程進化したとは思えない建築に陽が当り、先進していた造船には当らず大型ドックを他用途に転用する計画もあり皮肉なものである。薬の世界ではいっぱつで効く完全な薬は、宣伝も殆んど不要であり、売上も安定し伸び悩むと聞いたことがある。わずかな例の一つが「虫下し」だそうである。少し効いてすぐには完治しない方が売上が伸び他の類似薬品も売れることになる。船体作りは究極の合理化を達成したのだろうか。建築は完璧なものがまだ出来ないため、いろいろなデザインが模索されているのだろうか。はたまた建築は服飾のように好みの占める割合が高いから、金余り時代に受けるのだろうか。

（M．K）

特集

佐賀市文化会館



●グラビア

佐賀市文化会館

●本文

個性ある文化都市をめざして
白浜則雄
ホールの響き
古川宣一
市民参加を考えた舞台装置
藤本久徳
建築計画
八杉政一

撮影
河野博之

佐賀市文化会館

設　計　東畑建築事務所・石橋建築事務所共同企業体
監　理　佐賀市総務部文化会館建設室
　　東畑建築事務所・石橋建築事務所共同企業体
施　工　松尾・大林・中野・上瀧共同企業体

音響技術協力　NHKエンジニアリングサービス
劇場技術協力　劇場工学研究所
環境技術協力　ZEN環境設計



市民広場からみた全景





空　撮

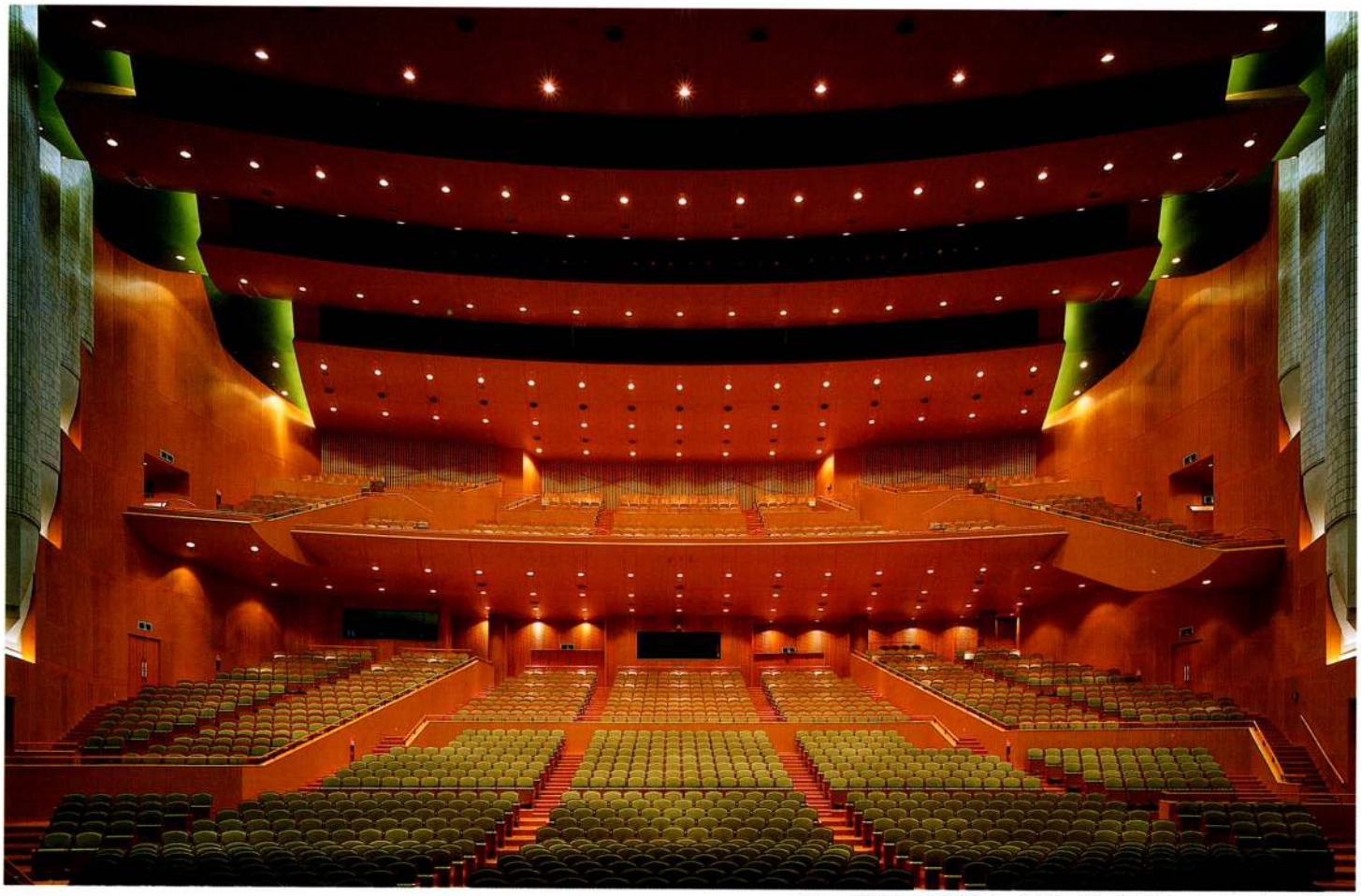


人と車の交点　アプローチデッキ、1階右側は管理部門

大きなガラス壁面と佐賀錦のパターンがホールの興奮へと導いてくれるメインエントランス。



市民広場から階段・デッキへと続く文化創造へのアプローチ空間。



大ホール舞台から客席をみる、佐賀平野の緑色に染まったワインヤード型段床。

レニングラードの夕べ

1985年のある寒い冬の一日。
私は事務所のY君と共に、新しい文化会館の構想づくりのために、佐賀のまちを足を棒にしながら歩いていた。静かなおだやかなまちではあったが今一つ何かもの足りなさを感じながら……。

美しく豊かで平和な佐賀平野。長く深い伝統と歴史をもつまち。このまちに新しい何かをプラスすることができれば……。

もう少し力強いもの、自由で新しい形、発展的なもの、人々が集い何かに熱中できる場。このまちと平野がもつおだやかさと伝統のもつ味わいを、もう少し力強く自由な形で表現しよう……。

おおらかな曲面と白と黒とのコントラスト。
大階段からホールへと昇り、グランドギャラリーが建物を貫通してまちの東西をつなぎ、前面に広々とした緑の空間をもつこの建物を、ある人は、佐賀地方で有名なかささぎの一種「カチガラス」のようだと云ってくれる。そう云えば親子のカチガラスのようだと思ったりもする。竣工の日、カメラを下げた私の頭上を数羽のカチガラスが、しきりに美しい羽根を広げて飛びかっていた。

足かけ5年の歳月をかけて建物は昨年—1989年の秋に完成した。10月1日のこけら落しのあと、設計を担当した私達にとっては最後の審判とも云える行事が待ちうけていた。それが「レニングラードの夕べ」である。世界の至宝と讃えられるレニングラード・フィルが、10月14日の夕刻この佐賀市文化会館でコンサートを開くことになっていた。

レニングラードは、ソヴィエトの最西端のまち、バルト海に面する遠い異国の地である。ここに世界の誇る超一流のオーケストラ、「レニングラードフィルハーモニー交響楽団」が誕生して久しいことは衆知のことであるが、このオーケストラが、新しい「さがホール」で演奏することになっていたのである。

会場となるべきホールは、美しく豊かな響きをもつと共に、自由闊達な雰囲気をつくりだしたいとの考えで、音楽には不利と云われる扇形プランを敢えて採用し、それにワインヤードの音場理論を組合せた新しい試みをもつものであった。それだけにこのホールが音響的に失敗すれば、これまでこの建物にかけてきた様々な努力が全て無に帰するとの思いが私達にはあった。そういう意味でこの「レニングラードの夕べ」は私達にとって、まさに最後の審判なのであった。

レニングラードの新しい首席指揮者ユーリー・テミルカーノフ氏による管弦楽組曲「展覧会の絵」で締め括られたこの音楽会は、幸いにも大成功のうちに幕を閉じた。演奏のあと、オーケストラの皆さんや市長さんを囲むパーティーが催され、お互いの街のこと、音楽のこと、ホールのこと等に話の華が咲いた。その中で、「すばらしい演奏に感動しました」との当方の言葉に対して、「いや、ホールが良かったのです」と答えて下さったテミルカーノフ氏のにこやかな笑顔を眺めながら、この夕べによって佐賀の設計の仕事が一応終ったと感ずることができた。館の建設に全力を尽してこられた関係者の皆さんの、くたびれたような、ホッとしたような、そしてまぎれもなく喜びの顔がそこにあった。

（谷淳之介／東畑建築事務所）



大ホール全景、側面反射壁の白磁タイルが佐賀の響きを奏でる。



佐賀らしさにつつまれたエントランスロビー、照明は稲穂の束をデザインしている。



華やいだ雰囲気の中ホールホワイエ、床のカーペットはささんかの花。

所在地	佐賀市日の出1丁目21番10号
敷地面積	30,000㎡
建築面積	9,701㎡
延床面積	18,424㎡
構造・規模	SRC、S(一部屋根)、B1、4F
工期	昭和62年8月～平成元年8月





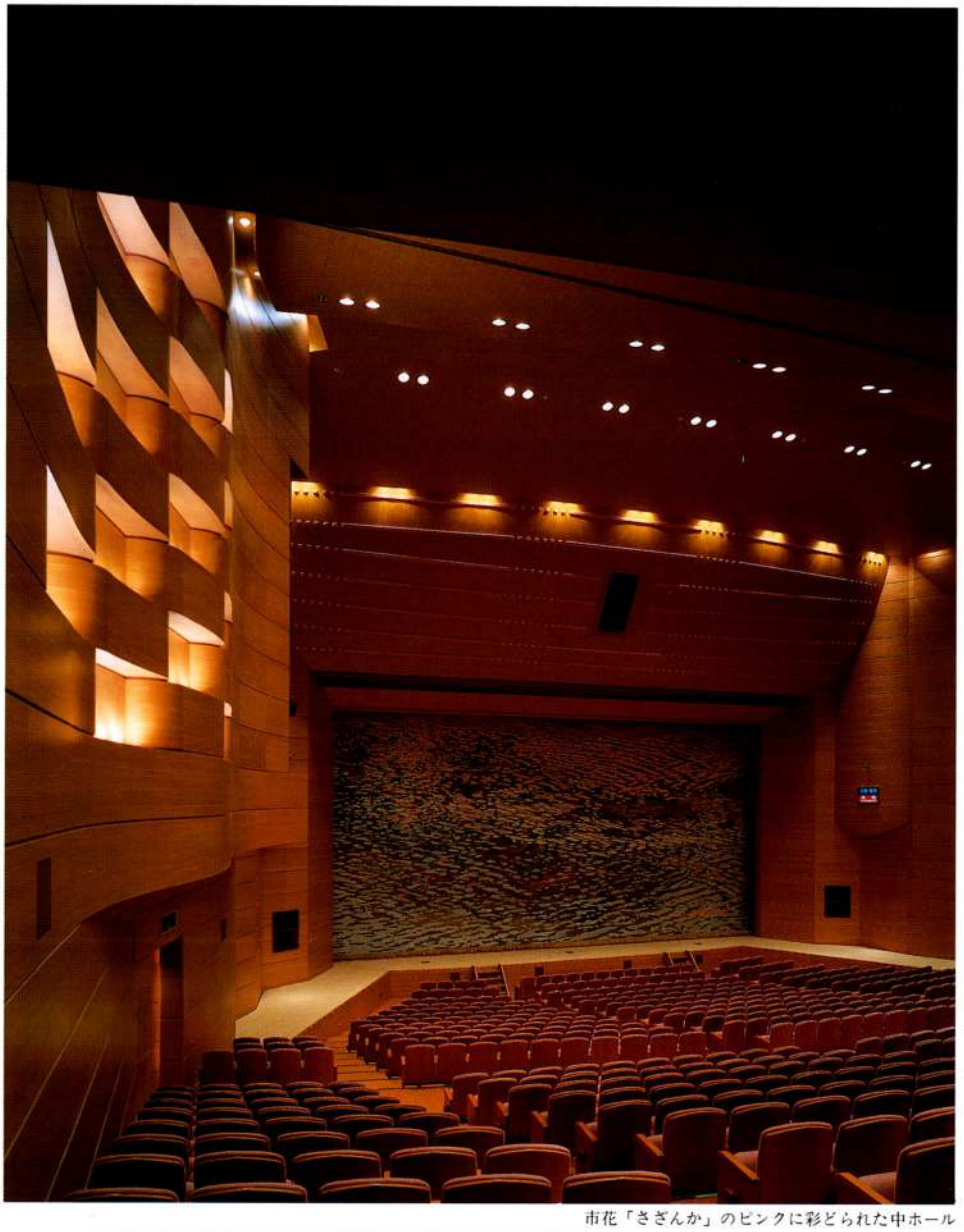
佐賀平野のおだやかな陽差しが空色に降り注ぐグランドギャラリー。

施　工

電　　気	九工・佐電工共同企業体
	山陽・装電社共同企業体
空　　調	須賀・栄城・昭栄共同企業体
給排水・衛生	三機・佐賀空調・西川共同企業体
ガ　　ス	佐賀市ガス局
舞台機構	三精輸送機
舞台照明	松村・電興共同企業体
舞台音響	松下電器産業
固定椅子	コトブキ・福岡アイチ
合併処理槽	岩尾磁器工業
昇 降 機	日立製作所
植　　栽	葉隠・若葉造園共同企業体
緞　　帳	川島織物・龍村光峯
家　　具	三越



3階会議室ホワイエよりグランドギャラリーをみる。



市花「さざんか」のピンクに彩どられた中ホール



喫茶・レストラン



和室会議室



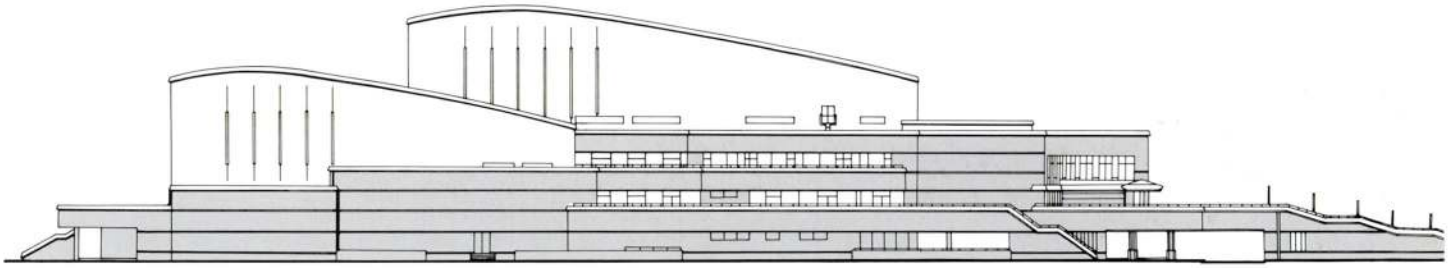
特別会議室



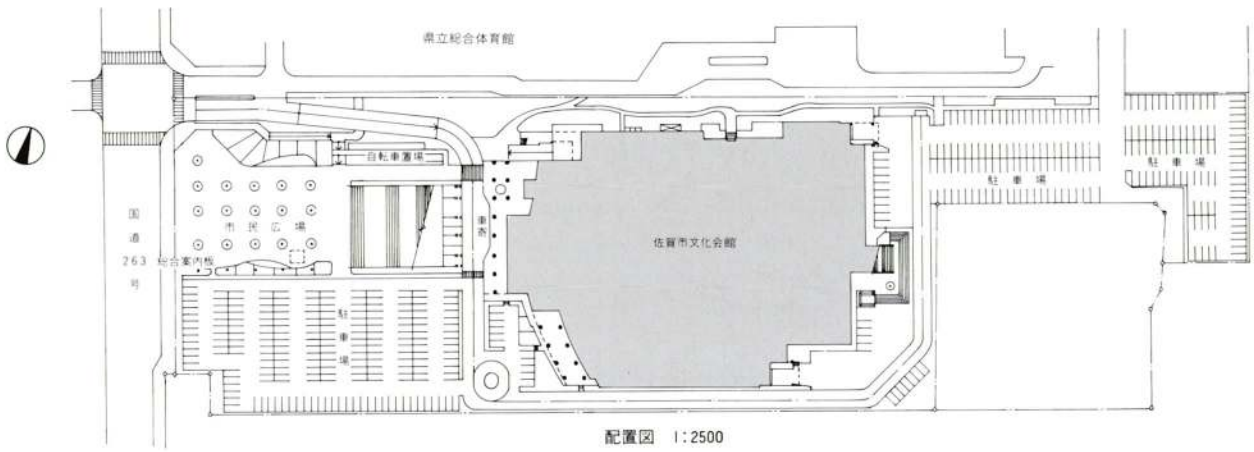
レセプションに佐賀の文様「佐賀錦」が華を添えるイベントホール。

施設概要

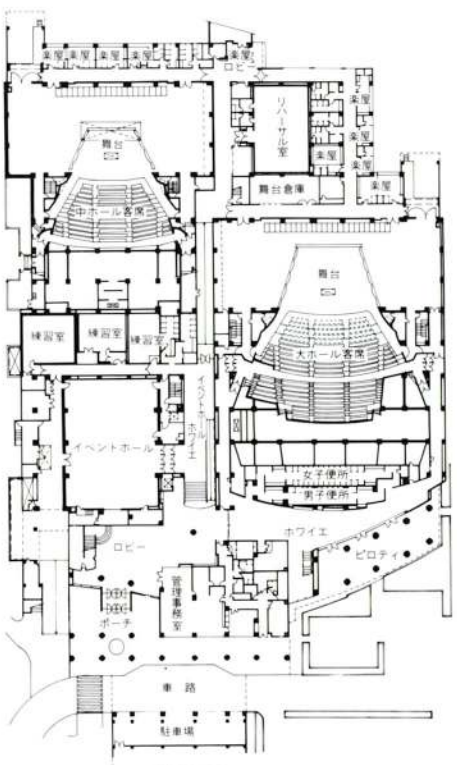
大ホール	用　途	音楽を主とした多目的ホール
	客席数	1,811席（車椅子席５席）
	舞　台	間口20ｍ、奥行18ｍ、高さ10ｍ
	設　備	オーケストラピット、小迫り、音響反射板、残響可変装置、楽屋（大部屋２、中部屋１、小部屋２）
中ホール	用　途	演劇を主とした多目的ホール
	客席数	814席（車椅子席６席）
	舞　台	間口16ｍ、奥行18ｍ、高さ８ｍ
	設　備	大迫り、小迫り、音響反射板、楽屋（中部屋２、小部屋２）
イベントホール	用　途	調光・音調設備を有する多目的平土間ホール
	収　容	立席500人、椅子席400席
リハーサル室	用　途	音楽・演劇等のリハーサル及び日常の練習
	広　さ	204㎡
練習室	用　途	市民の音楽・演劇等の日常練習
	広　さ	大練習室(135㎡)　1室
		中練習室(97㎡)　1室
		小練習室(63㎡)　1室
会議室	広　さ	大会議室(205㎡)130人収容　1室
		小会議室(56㎡) 20人収容　1室
		特別会議室(56㎡) 10人収容　1室
		和室会議室　30畳　1室
喫茶・レストラン		84席



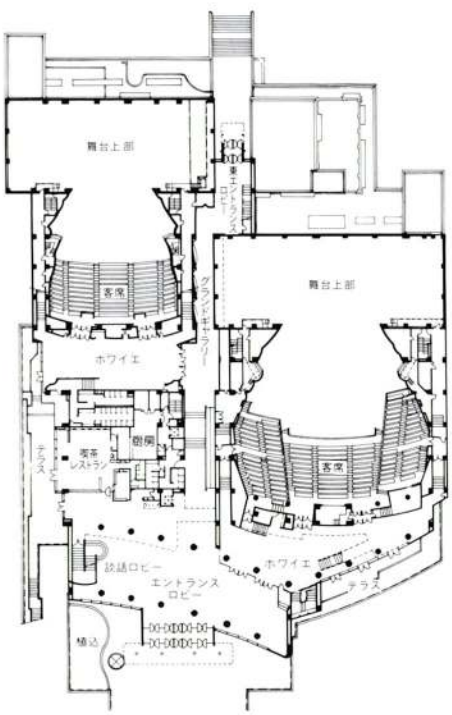
北立面図



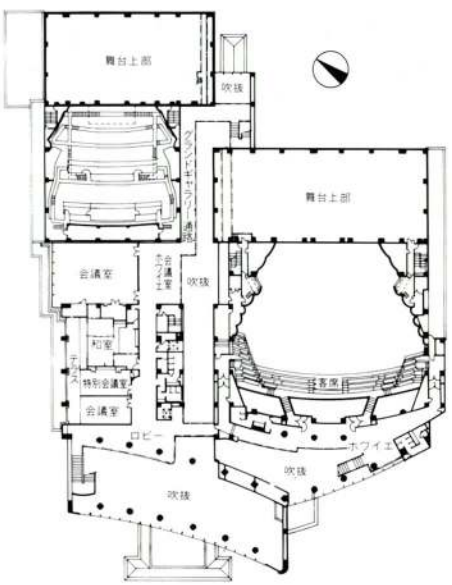
配置図　1:2500



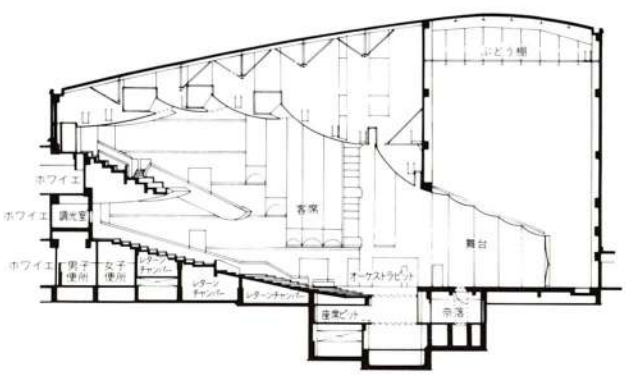
1階平面図　1:1500



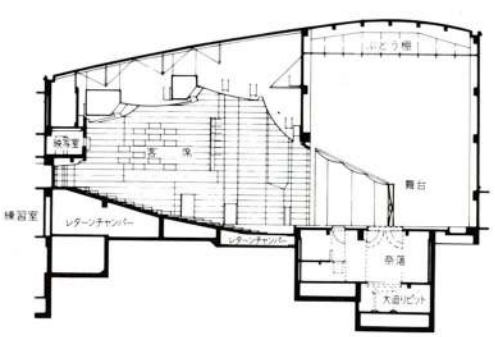
2階平面図　1:1500



3階平面図　1:1500



大ホール断面図　1:800



中ホール断面図　1:800

個性ある文化都市をめざして

白浜則雄

県都佐賀市は昭和57年12月「活気あふれる水と緑の文化都市」を都市像に総合計画を策定した。

佐賀は豊かな自然の恵みと、歴史の厚みの中で歩み進んできた。そこには住む人の情感と、佐賀の風土のにおいが満ちている。

豊かな人間性と創造力に富んだ市民を育てる。そこに多様で個性的な文化の心が芽ばえる。人々の生活にうるおいがあり、心によろこびがあふれる。これが佐賀市の求める文化都市像である。

これらを踏まえ総合計画の重点施策の一つとして、また市制100周年記念事業として「個性ある文化都市の創造」を掲げた。

豊かな情操と文化的要素を身につけようとする、文化的欲求が高まる中で、生活に密着したものから高度な芸術活動まで、市民の多様で自主的な文化活動を支援し、その発表・交流の場、あるいは優れた芸術活動の拠点として、市民のみならず広く県民に親しまれ、利用される文化施設の建設推進が打ち出された。

昭和58年7月、文化会館調査特別委員会が設置され、建設予定場所・建設スケジュール・規模等の調査、審議が行なわれた。

昭和59年5月、文化会館建設準備室設置、これは大型プロジェクトであることから専任で建設準備にかかるためである。

続いて同月に、建設にかかわる基本的問題について幅広い観点から意見等を提言してもらうために、有識者による懇話会が設置され、規模・内容について、佐賀らしさについて、街とのつながり等について論議がなされ、佐賀市の文化施設として求められるものやあるべき姿について、その概要が昭和59年11月に報告書として提出された。

県都佐賀市に相応しい活力ある都市形成の実現を目指し、佐賀市の歴史と伝統を生かしながら、同時に豊かな市民生活・市民文化創造の拠点「文化会館」を建設するにあたり、議会・市民文化団体等の意見、懇話会の報告等を踏まえ、十分に検討、審議し昭和60年7月「文化会館建設基本構想」を策定。

つまりこの構想は、建設の目的・会館の性格・規模・内容・建設経費等についての基本的事項を示し、佐賀の風土に根ざした、佐賀文化の拠点としての建設条件を設定したものである。

昭和60年8月、設計競技指名審査委員会設置（7名）、設計事務所の選定に入り指名7社による「設計競技方式」を採用し、先の基本的事項を示し応募作品の提出を求めた。

昭和61年2月、設計審査委員会の慎重な審査の結果、東畑建築事務所の案が当選となり、更に当選作品に対する意見聴取等を細部に亘り行ない、検討、調整後昭和61年6月、東畑建築事務所・石橋建築事務所共同企業体と設計業務契約締結をし、その後、建築事務所・音響・劇場・環境の各コンサルタントと協議を重ね、本格的実施設計作業に入り昭和62年3月設計が完了。

その後、施工業者の選定後17業種に分離発注し、議決後昭和62年8月21日に工事着工。着工直後からの鋼材の高騰、各種技能労働者の極度な不足等々、建設事情の悪い時期に遭遇し、各方面におかれて大変苦慮されるも最大の努力と最善の手配をもって、平成元年8月全工事が竣工した。

着工以来2年余の長い年月と、総事業費76億4千万円の巨費を投じて、今日の見事な成果を見るに至った。

当会館は、基本構想をもとに文化の拠点をと、敷地及び建物全体に佐賀の風土と歴史的素材を形・色・表情に生かし、佐賀らしさを醸し出しているのが大きな特徴である。また、優れた設備を装備し、建物内部・各ホール・各室共それぞれの意匠性・機能性にも特徴をもたせており、県都にふさわしい規模内容を誇っている。

この文化会館が平成元年10月1日開館、オープンしてから3ヶ月間は佐賀市制100周年と会館落成を記念する行事・催しが続き、市民・県民の文化活動の発表の場、創造の場、国内外の優れた舞台芸術鑑賞の場として、また国際大会の交流の場等々、知的感動や陶酔、心の遊び場として大いに利用、活用されている。

「すばらしいホールですね、西日本有数ですよ」「佐賀の田舎にこんな立派な文化会館が出来たとは……」と感嘆の声。世界の至宝と言われる歴史をもつ、レニングラードフィルハーモニー交響楽団の首席指揮者／音楽監督、ユーリ・テミルカーノフ氏の「すばらしい音響だ……」との感想の弁。夢とロマンに満ちたアジアで初めての世界的スカイスポーツ「第9回佐賀熱気球世界選手権」交流会場での各国選手達の「すばらしい建築、すばらしいホールだ」との称賛など評価も高いようである。

●

さて文化会館の管理運営には、財団法人佐賀市文化振興財団（理事長西村正俊佐賀市長）が当たっている。貞森比呂志館長は、次のように言っている。

『文化会館には、文化を高める・文化を広める・文化を深める、この三つの役割があり、「多くの人の集まる場所」「楽しみのある施設」として活用されるように努めて行くのが使命、また、佐賀には文化への旺盛な欲求、渇望やエネルギー、いわば「文化マグマ」がものすごく潜っている感がする。秘めた文化マグマを爆発させ発揮する場所として、「文化会館を文化マグマの噴火口に」』と。

輝く芸術文化の拠点として、晴れの桧（ひのき）舞台上の演奏と演劇が観衆と一体となって、感動の輪を広げ本物の芸術文化の土壌を醸し出している。佐賀市の街づくり「個性ある文化都市の創造」に文化会館は確かに新たな息を吹込んでいる。

●

最後に当会館の設計及び工事関係各位のご尽力、ご協力に対し工事担当者として深く敬意を表します。

（しらはま　のりお／㈶佐賀市文化振興財団参事
元、佐賀市文化会館建設室室長）



レニングラードフィルハーモニー交響楽団公演後
首席指揮者・音楽監督　ユーリ・テミルカーノフ氏を囲んで
左より白浜（佐賀市）、ワレリー・クレショフ氏（ピアニスト）、八杉氏（東畑事務所）、ユーリ・テミルカーノフ氏、谷氏（東畑事務所）、三迫氏（東畑事務所）、古川氏（元NHK）、宮野氏（NHK）

ホールの響き

古川宣一

大ホール：このホールの特徴は、図面を見れば分かるように客席の平面形が左右（上手側と下手側）非対称となっていることと、天井面の投光用開口部のところに電動の蓋を取り付け、クラシック音楽などの生の音を楽しむ、響きの長い状態のときには、この舞台照明用の開口を閉めて、天井の反射面が連続して形成されるようにし、演劇や各種ショウなどのように舞台照明を必要とする催物の場合には、この投光用開口部分の蓋を開けて光を舞台に当てるとともに、音を開口部分で吸収させ響きを短くすることを考えていることである。

ホールの用途は多目的であるが、いわゆるクラシック音楽の演奏に重点を置いて考え、舞台に音響反射板を設置した状態での音の伝わり方に注目し、舞台音響反射板と客席の壁、天井の形状を検討し決めている。その基本的な考えは、楽器の演奏音や歌声、話し声にとって最も大切な音源からの直接音がすべての客席へ確実に届くことと、それを補強する時間おくれの少ない、減衰の小さい初期反射音が同じように客席へ到達することである。従って、初期反射音を得るために必要な壁面、天井面は反射性の材料で構成し、初期反射音が十分な音圧で各客席へ届くようにしている。

初期反射音に必要な壁面、天井面を残し、他の仕上面を全体の響きの調節に使用している。まず、クラシック音楽の演奏に適した長い響きが得られるように内装仕上材の選定、配置を行っている。つぎに、集会や講演会、演劇、電気音響設備を使用する催物などの用途にも対応できるように、前述の天井面の一部（舞台照明用投光室の蓋の開閉）および客席後壁の一部（3階客席後部の格子壁の内側にカーテンを設け、これを拡げることで吸音する）を利用して響きの長さを調節している。これらの残響可変装置により、このホールの残響時間は中音域で空席時2.4秒から2.1秒まで0.3秒短くなり、さらに、舞台音響反射板を取り除いた講演・集会などの幕設備を設置した状態にすると同じく中音域で1.8秒と0.3秒短くなる。全体として0.6秒程度の残響可変幅をもっていることになる。

●

中ホール：演劇の上演に重点をおくとともに、講演会からピアノリサイタル、コーラス、小編成の管弦楽まで市民が幅広く使用する空間である。従って、舞台に音響反射板を設置した響きの長い状態で設計するとともに、音響反射板が無い（反射板を舞台両袖上部に吊り上げて収納している）状態にしたときの響きが短くなるように、舞台壁面の内装仕上げを吸音性に、特に、低音域を吸収する構造にするべく配慮したが、経費の面からやや心残りな結果となっている。しかし、中音域の残響時間は、舞台に音響反射板を設置したリサイタルやコンサートの状態のときに、空席時1.6秒、満席時推定1.5秒と音楽に適した響きであり、幕類を設置した講演会などの状態で空席時1.3秒、満席時推定1.2秒となり、この規模のホールとしてはまずまずの値である。

（ふるかわ　せんいち／古川建築音響研究所
元NHKエンジニアリングサービス建築音響技術部部長）

市民参加を考えた舞台装置

藤本久徳

市制施行100年を記念して建設された佐賀市文化会館は、音楽の演奏を主目的とする大ホール。演劇の上演を主目的とした中ホール。

多目的な利用に対応する平土間式のイベントホール。この3ホールを中核としてリハーサル室、練習室などによって構成されています。ここは、佐賀市民が舞台芸術を鑑賞するとともに、市民自らが芸術文化の創造と発表の場として利用することができる文化施設として計画されました。従って、舞台機構の計画に際しても、専門家（プロ）による公演だけではなく、一般市民（アマ）の利用を十分に考慮して、利便性・安全性を優先しました。

佐賀市文化会館の**大ホール舞台**は、舞台公演に必要な十分な広さ（間口20m・高さ10m・奥行18m）を持ち、床機構は、小迫り、オーケストラ迫りは2基に分割された本格的な設備となっています。吊物機構も電動式の緞帳類（オペラカーテンなど）、大道具用のバトン15本、一文字幕・袖幕13本、サスペンションバトン5本、ボーダーライト4本、などが設けられています。さらにオーケストラ迫りを前舞台として使用した場合の照明効果を考えて、客席サスペンションライトを設け、演劇・バレエ等の上演に対応できるように配慮されています。**中ホール舞台**は、演劇・バレエ等の上演に適した空間（間口16m・高さ8m・奥行18m）をもっています。そして、幕類（変型絞り緞帳など）、大道具用バトン17本、一文字幕・袖幕等14本、サスペンションライト5本、プロセニアムライト1本、ボーダーライト3本。床機構として小迫り、大迫り各1基を有する機構は、演劇の上演を最適なものとしています。

また、大・中ホールともに、大道具用バトン、一文字幕用バトン、照明バトンは、舞台開口幅よりも長い寸法を有し、全て同一寸法とされています。さらに一文字幕・袖幕用バトンは、大道具用バトンに転用することができるように、積載荷重等を同じ仕様としてあります。この方式は、吊込む大道具のバトンの位置を選択する条件を増やすことができ、上演効果を高めることが期待できます。

イベントホールは、大・中ホールと異り、平土間型式をとっています。設備も、展示及びオープンステージ型式での上演を考慮して、昇降式の吊物機構ではなく、パイプを格子状に天井から吊下げ、照明用スポットライト、幕類、展示用のパネル等を自由に取付けることができるように配置されています。

音響反射板については、演劇等の上演に影響を与えるとして関係者から常に問題とされていますが、この会館では、大道具用のバトン数を多くするとともに、さらに均等に配置するために、正面反響板を、大ホールでは舞台奥まで移動して吊上げるようにし、中ホールでは大迫りで奈落に格納するように工夫されています。迫り機構には、任意の位置に自動停止することが出来るデジタル設定器を設け、操作性を向上すると同時に安全性も確保されています。

このような諸設備を持つ佐賀市文化会館は、多くの市民参加による多彩な催しによって、その幕を開けました。佐賀市の芸術文化活動の拠点施設として、優れた芸術文化の提供とともに、市民による郷土文化創造の場として、これからの運営に期待しております。

（ふじもと　ひさのり／劇場工学研究所所長）

建築計画

八杉政一

はじめに「計画のテーマ」

文化会館建設も、大都市から中小都市へと広がり、公立ホールの数も1,000館を越えている現況の中で、ホール建築は今、その画一化・多目的化が種々議論されている。地方都市に建設されるホールこそ、優れた本物の舞台芸術を通じて豊かで個性的な、その地方独自の文化を育て市民文化創造の拠点として位置づけられるべきだと思われる。地域の歴史と伝統を生かし、風土に根ざした独自性のある空間を実現させ、個性的な地域文化創造の場として、気軽に利用でき、市民に親しまれる施設の建設が望まれる。

当文化会館の建設にあたっても「佐賀市建設基本構想」の中で、

- 市民の多様で自主的な文化活動を推進する場
- 市民生活のシンボルとして佐賀の文化を育て、優れた舞台芸術に接することのできる場――――――――などが唱われている。

その地域のもつ自然条件や歴史・伝統などの独自性を充分に生かした個性的な空間づくり。具体的には江戸時代初期より当地で起こり長い歴史の中で磨きあげられてきた白磁（有田焼）や染付の呉須色、伝統的な文様である佐賀錦、小説次郎物語の舞台ともなったゆったりとおおらかな佐賀平野や、くど造りのワラ葦屋根など、佐賀の歴史的素材と伝統を生かした「佐賀らしさ」の表現をその計画のテーマとした。

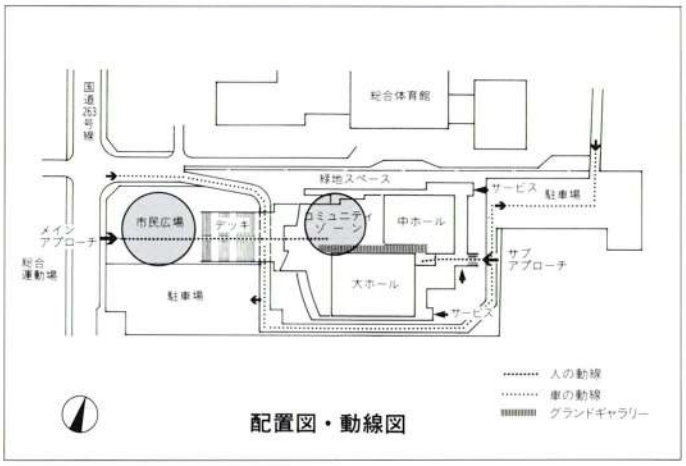
配置計画

敷地はJR佐賀駅を中心に、南域佐賀城跡周辺都市核（県庁・図書館・美術館他）と相対する北側約2kmの位置にあり、佐賀市を南北に走る国道263号線に面している。周辺既存施設として敷地北側に県立総合体育館・国道を隔てた西側に県立総合運動場が隣接している。この地区は今後、市の文化的発展の新しい核として位置づけられ、三施設一体となったスポーツ・文化ゾーンとしての機能が期待されるところでもある。

配置計画の上で最もポイントとしたところは、計画建物を敷地内東側ゾーンに位置させることにより、この地区の中心的空間として敷地西側に幅50m×長100mの広場空間を設置したことである。この広場は地区の中心的スペースとして、市民相互のふれあいの場となると共に、優れた文化創造・芸術鑑賞へのアプローチとして、除々にその期待感と心の高まりを盛りあげていき又エンディングの余韻を楽しむ空間として、シンボルツリー（市木イチョウ）や佐賀錦モチーフのペーブ等ドラマチックな空間構成としている。

会館へのアクセスとして土地柄多量の車が考えられるが、駐車場については、国道263号線に接した敷地西南側と将来アクセス量の増大が見込まれる東側とに計400台設置している。いずれも歩車分離を原則としているが特に西側（広場側）については、広場からのメインアプローチと立体交差させている。

北側に隣接している総合体育館との間は、建物を雁行にセットバックさせながら緑地スペースとし、散策路をとる等地区の一体化・相互利用を計っている。



配置図・動線図

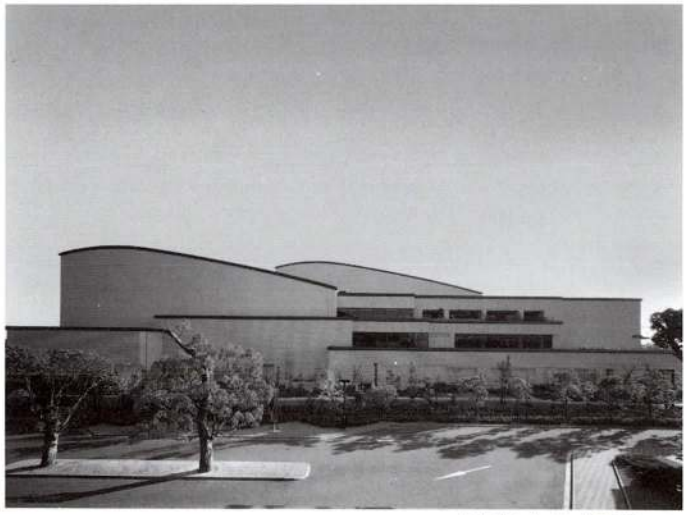
動線計画

当敷地への主要なアクセスは、車及び路線バスを利用しての西側国道263号線からのものが大半であり、将来的には東部地域からのアクセスも増加が考えられる。

不特定多数の人々の利用が考えられる文化会館において、外部・内部ともに人・車・サービスの各動線を単純かつ明快に分離し、わかり易く、使い易い施設とすることが、動線計画における最も重要な点である。

本計画においては、建物の構成を東西に分け一般来場者は西側で受けとめ、ホール舞台の位置よりサービス動線を東側からとした。西側広場からのメインアプローチに対しては、ペデストリアンデッキ・階段を設置し、人の動線をアプローチの心の高まりと共に2階へとスムーズに導き、下部通路を車の動線とし歩車動線を立体交差させた。建物内の動線としては、アプローチ段階をあがった2階をベースフロアーとし、エントランスロビーより東エントランスへと建物内を東西方向に貫通するグランドギャラリーを設置、東西両方向からの自由なアプローチを可能とし、これを主軸に各階主要諸室を明快につないだ。

車の動線はデッキ下部を建物への寄りつきとし、これを経て西駐車場へ、さらに敷地南側に連絡路をとりホールのサービスヤード、東駐車場へと接続させている。これにより、メインアクセスに対しては、ほぼ完全な歩車分離が行なえ、完全な広場と北側緑地が確保でき、建物内においても人と物の流れを立体的に分離、明快で機能的な動線計画とした。



総合体育館より北壁面をみる

建物構成計画

文化会館の建物構成を考える上で、大きなウェートをしめるのがホールの位置である。本計画では大ホール（1,800人収容）と中ホール（800人収容）の二つのホールがあり、ボリューム的にも景観構成を決定づけるポイントとなっている。

構成の基準としては、先に述べたグランドギャラリーがその軸線となる。大・中ホールの位置は、この東西に貫らぬかれた主動線をはさんで南北に相対させ、さらに東西方向にずらし、ボリュームの大きな大ホールを南側、中ホールを北側とし最も高さを必要とする舞台部分を東側においた。これにより、地区全体の景観上のバランスを保ち、北側体育館への日照確保と空間的融合を計った。また広場から階段へとメインアプローチの心の高まりと盛りあがりを西側から東側へと除々に高くなっていくビスタラインに表現した。

エントランスホール、グランドギャラリーは、主動線にふさわしい空間ボリュームをもち、2～3階に大きく吹抜けとして内部諸室への展開をひらき、視覚的にも明快に主要室をこれに面する形とした。また1階に対しても、西側エントランス部に客用階段・EVを設けて上下3層をつなぎ、この部分を中心に市民が気軽に集い語る場、創作活動の場、会合やパーティの場としてのコミュニティゾーンを形成した。（1階にはイベントホール・練習室、2階には談話ロビー・喫茶レストラン、3階会議諸室としている。）

これらのコミュニティ各室は体育館側緑地に面し、潤いと季節感のあるさわやかなスペースとなっている。

ホール計画

各ホールの計画に先立って、まずその使用目的を明確にすることから始めた。いわゆる多目的ホールではなく、より専用化された機能をもつホールということをその基本方針とした。

佐賀市建設基本構想に基づき、大ホールには音楽ホールとしての、中ホールには演劇ホールとしての機能に重点をおき、さらに具体的な上演可能演目の設定を行い、これをもとにホールの形状・仕上材の選定・舞台機構・照明・音響等の計画を行った。

●大ホール

上演演目としては、オーケストラによるクラシックコンサートを主に、オペラ・ミュージカル・電気音響による音楽ショー、さらに各種大会・式典等を最適演目と設定した。これにより、音響的にはコンサート専用ホールとしての性能が求められ、ホール形状は非対称な平面と7ブロックからなるワインヤード型段床を基本とした。その他建築音響的に細部を検討、歪みのないライブな響きを目指した。

付属設備としては、主演目の為にオーケストラピット・小迫り・残響可変装置が設けられている。残響可変は天井面投光室の開閉と後壁残響可変ブースの開閉とによって行なっており、コンサート演奏時の残響時間のもっとも長い状態から短い状態までの可変幅は中音域で約0.6秒程度である。

●中ホール

上演演目としては邦舞・邦楽・新劇等の伝統芸能・郷土芸能を主に、演芸・講演会等を最適演目とし、さらにその規模設定の上から一般市民の文化活動の発表にも使えるよう計画した。

演劇ホールとして必要とされる諸機能を重点的に検討、特に視距離・可視線・舞台の広さ・フライタワー等プロの使用に充分対応し得るものとし、舞台設備としては大迫り・小迫りを設置している。

また細部にわたって演技者と客席との一体感を重視し、よく見えるホールを目指した。

ホール諸元	大ホール	中ホール
客席数（固定席）	1,806席	808席
舞台（全幅×奥行）	46×18m	41×18m
プロセニアム（間口×高さ）	20×10m	16×8m
残響時間（満席、500Hz）	2.1秒	1.35秒
客席面積	1,505㎡	585㎡
室容積／室表面積	3.01	3.14
室容積／客席数	10.1㎥/席	8.8㎥/席



床に描いた佐賀錦模様



アプローチデッキ列柱

意匠計画

「佐賀らしさ」の表現を仕上材や形・色に生かし、個性的な独自性のある空間づくりをテーマとして内外装材の選定を行い、また色彩計画の基調とした。

外観は、豊かに広がる佐賀平野に点在するくど造りのワラ葦屋根を大・中ホール屋根のゆったりと穏やかな曲面で表現し、外装には佐賀の育てた美しい白磁の肌合いを低層部の山型二丁掛タイルとホール側壁面の白磁砕粒吹付仕上げとに生かしている。タイルは有田で焼いたもので、原料の陶石も有田焼発祥の地となった「泉山」のものを使い、やや青みを帯びた白磁の美しい透明感を表現した。また高層部の仕上材は白磁色の陶磁器片を微砕粒とし、コンクリート打放し仕上面に吹付けたもので、有田焼のもつ味わいを新しい形で表現している。

内装についても、メイン空間であるエントランスホール～グランドギャラリー壁を白磁タイルと白磁吹付けとし、ポイントカラーとして呉須（有田染付に用いる中国原産の藍色顔料）色を用い、建物全体に有田焼の色合いをただよわせている。また床仕上（磁器タイル）や天井材（発泡クロス）に佐賀錦をモチーフにした模様をとり入れ、白磁壁面と調和させている。

ホールについても、「さがホール」としての個性と存在感を表現するため、イメージカラーを設定しそれぞれホワイエや楽屋ゾーンにまで発展させている。

大ホールはコンサートホールとして豊かな響きを目指し、木質系仕上を基本に佐賀の響きを客席側面の反射拡散壁を白磁タイルとすることで求めた。ホールカラーは「佐賀平野の緑色」とし、客席椅子張やホワイエ床（稲穂のモチーフ）に用い、緑濃い佐賀平野で稲穂がシンフォニーにおおらかに揺れ動く様子をイメージした。

中ホールは舞台・客席の一体感を盛りあげるために、暖かみのある木質系仕上とし、ホールカラーを市花の「さざんかのピンク」として客席椅子張・ホワイエ床（さざんかの花のモチーフ）に用い、演劇ホールらしい華やかさを求めた。

有田焼については、特注照明器具やサイン板・ドアー把手・ファニチャーにまで至り、まさに地元有田をあげてご協力をいただいた。

（やすぎ　まさかず　東畑建築事務所設計部）

佐賀市文化会館設備概要

設備

空調

熱源：都市ガス(主)＋電力(副)
ガス吸収式冷温水機　200ＲＴ×２基
(ガス直焚二重効用30%省エネルギー型)
空気熱源ヒートポンプチラー　120ＲＴ×１基
空気熱源ヒートポンプパッケージ　233ＲＴ計83台
空調：ホール系統　単一ダクト方式
ロビー系統　ファンコイルユニット方式
諸　室系統　単一ダクト方式又はカセット型
(天吊室内外機一体型)

衛生

給水：飲用・雑用とも高置水槽による重力方式

受水槽	飲用	ＦＲＰパネルタンク	20m³
	雑用	地下ピット	45m³
高置水槽	飲用	ＦＲＰパネルタンク	10m³
	雑用	ＦＲＰパネルタンク	25m³

給湯：中央給湯(楽屋系統)及び個別給湯方式
排水：建物内汚水・雑排水分流式
接触ばっ気式合併処理槽　ＢＯＤ30ppm 2,120人　１基
消火：屋内消火栓、スプリンクラー消火、連結散水
動力消防ポンプ設備

電気

受電：３相３線　6.6KV　60Hz
設備容量　3325KVA

機器	高圧盤	屋内閉鎖型	7面
	低圧盤	屋内閉鎖型	12面
	コンデンサ盤	屋内閉鎖型	3面
変圧器	一般電灯	200KVA	3台
	一般動力	500KVA	2台
	非常電灯	75KVA	1台
	非常動力	400KVA	1台
	大ホール照明	300KVA	2台
	中ホール照明	400KVA	1台
	イベント照明	200KVA	1台
	ホール音響	50KVA	1台

非常用発電機：自己通風解放保護形　３相３線　6.6KV
500KVA　水冷式ディーゼルエンジン　空気始動
蓄電池：キュービクル形式　ＨＳ－Ｅ　400AH
中央監視：16ビットミニコン、電力・空調・衛生制御監視
計測　20インチＣＲＴモニター
インカム：系統Ａ・Ｂ２チャンネル及びワイヤレス
親機は音調室設置、子機は場所により３種類使い分け

昇降機

乗用	油圧間接式15人乗	30m/min	1基
人荷用	油圧間接式11人乗	30m/min	1基

舞台設備

機構

		大ホール	中ホール
オーケストラ迫り	前後２分割ラック押上式	1基	—
客席収納ワゴン	ラック自走式	1基	—
大迫り	ラック押上式	—	1基
小迫り	スクリュー式	1基	1基
緞帳	電動昇降ＣＷ式	1台	1台
〃	大ホール・オペラカーテン、中ホール・絞り緞帳		
吊物バトン	電動昇降ＣＷ式	12台	10台
	手動昇降ＣＷ式	32台	33台
ライトタワー	電動ワイヤードラム巻取式	4台	4台
定式幕	メッセンジャーワイヤー式	1台	1台
音響反射板	電動ワイヤードラム巻取式	1式	1式
客席残響可変機構	天井投光室電動開閉式 後壁ブースカーテン開閉式	1式	—

照明

調光装置　電子コネクション方式
大ホール　調光406回路、切替26回路、直25回路
中ホール　調光332回路、切替17回路、直16回路
操作卓　デジタルコンピューター制御、1000シーンメモリー
ツインＣＰＵによるパラレルランニング
ノンフェーダー、プリセットフェーダー併用方式

		大ホール	中ホール
照明器具	客席サスペンションライト	1列	—
	プロセニアムライト	1列	1列
	ボーダーライト	4列	3列
	サスペンションライト	5列	5列
	ホリゾントライト(アッパー、中アッパー、ロー)	1式	1式
	トーメンタルライト　1KW	24台	16台
	フロントサイドスポットライト　1KW	64台	48台
	第１シーリングライト　大ホール1.5KW 中ホール　1KW	40台	36台
	首振スポットライト　1KW	2台	2台
	第２シーリングライト　大ホール750W 中ホール1.5KW	36台	24台
	センタースポットライト　2KWクセノン	3台	3台
	タワースポットライト　1KW	32台	32台
	サイドフォロースポット　1KWクセノン	2台	—

音響

調整卓　大ホール　マイク入力24、グループ出力８
中ホール　マイク入力20、グループ出力８
18マトリックスアウトプット
電力増巾架　大ホール　4,900W　計13台
中ホール　3,300W　計14台

		大ホール	中ホール
デジタルディレイ	プロセニアムＳＰ用	2台	1台
グラフィクイコライザー	プロセニアム・サイド・ステージ用	7台	5台
チャンネルデバイダー	プロセニアム・サイドＳＰ用	5台	3台
プロセニアムＳＰ	ALTEC製２ウェイ	3基	1基
サイド・ステージＳＰ	ALTEC製２ウェイ	2基	2基
モニターＳＰ	ALTEC製２ウェイ	3基	3基
３点吊・エレベーターマイク		1基	1基
マイク回線		290本	226本


大ホール音響調整室


大ホール調光室


残響可変装置(天井投光室閉鎖)

個性ある文化都市の創造



松尾建設・大林組・中野建設・上瀧建設　共同企業体

松尾建設株式会社

取締役社長 松尾幹夫

本　社　佐賀市多布施1丁目4番27号 〒840 ☎0952(24)1181
支　店　東京・大阪・広島・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島
営業所　名古屋・神戸・下関・北九州・久留米・唐津・鳥栖・佐世保・沖縄

株式会社大林組

常務取締役九州支店長 庭屋浩二

東京本社　東京都千代田区神田司町2-3 〒101 ☎03(292)1111
九州支店　福岡市博多区下川端町9-12 〒812 ☎092(271)5721
佐賀営業所　佐賀市駅南本町５－１ 〒840 ☎0952(24)4456

株式会社中野建設

代表取締役社長 中野良次
代表取締役副社長 中野昭則

本　社　佐賀市水ヶ江２丁目11番23号 ☎0952(24)3211代
福岡支店　福岡県春日市平田台１丁目68 ☎092(595)1049代
営業所　唐津・鹿島・武雄・伊万里・久留米

株式会社上瀧建設

代表取締役 上瀧勝

本　社　佐賀市今宿町２番５号 ☎0952(29)3111大代表
支　店　福岡市中央区警固2丁目1城東ビル ☎092(781)6965代
支　店　伊万里市新天町２番地10 ☎0955(23)6261
営業所　長崎・佐世保・唐津・武雄・鹿島・熊本

より大きな感動と情熱を伝える舞台づくり
それは三精輸送機の使命です。



大ホール舞台

豊富な実績と経験から得た幾多のノウハウに、最新の技術を加えた三精輸送機の総合力は
あらゆる舞台機構のニーズに的確にお応えします。



大ホール所作舞台



中ホール能舞台

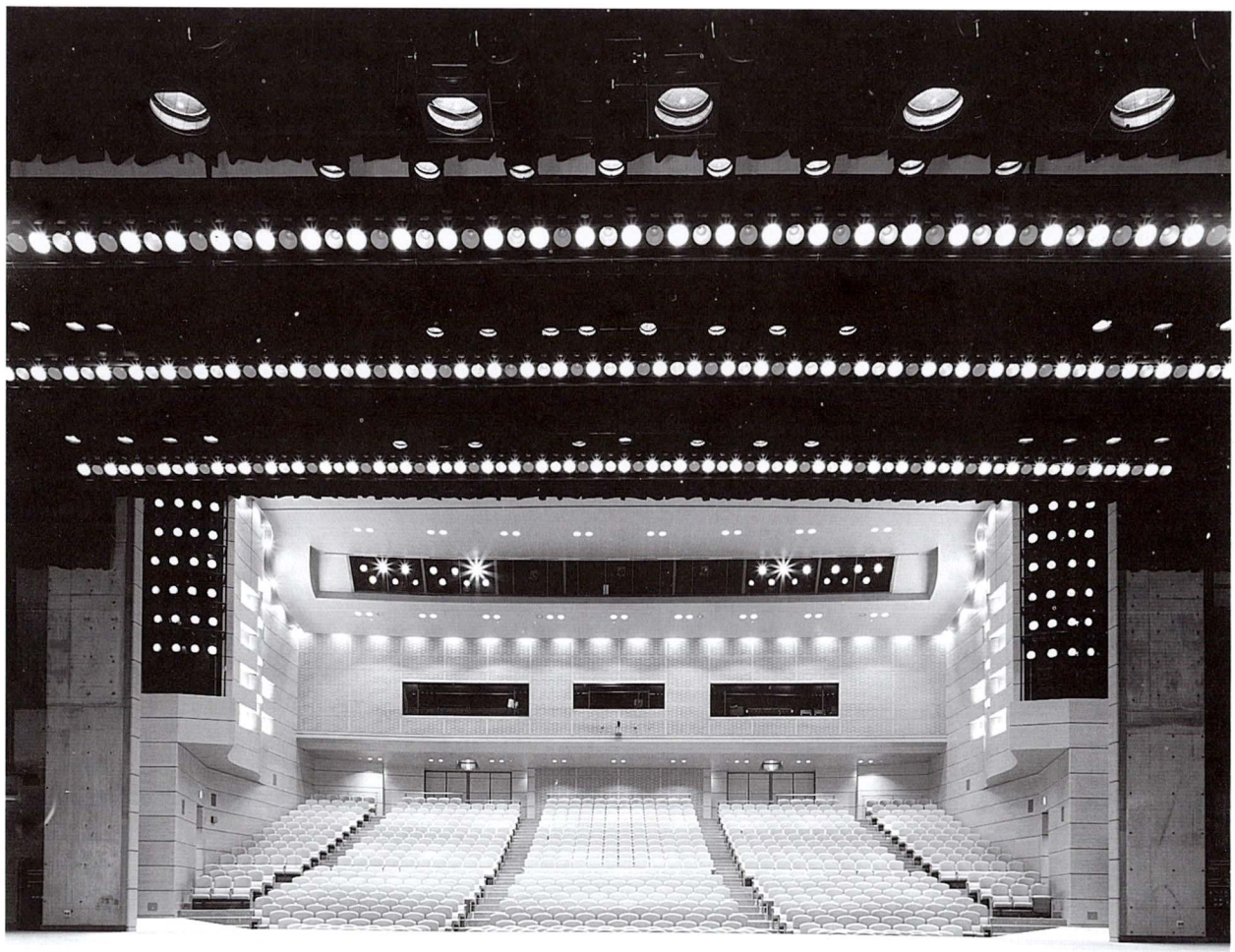
舞台機構・昇降機・立体駐車装置・遊戯機械装置
設　計／製　作／施　工

三精輸送機株式会社

代表取締役社長　太　田　昭比古

本　　社	大阪府吹田市江坂町1丁目13番18号	〒564 TEL 06(385)5621(大代表)
東京支店	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目29番11号(ナカニシビル)	〒151 TEL 03(356)5651
九州出張所	福岡市中央区天神1丁目14番16号(三栄ビル)	〒810 TEL 092(751)1824
出張所	札幌・青森・仙台・秋田・金沢・名古屋・広島	
工　　場	京都府福知山市長田野町2丁目45番地	〒620 TEL 0773(27)1211(大代表)

MDS



佐賀市文化会館
舞台照明設備　設計・製作・施工

スポットライトからコンピューター調光装置まで
松村電機は舞台の総合システム産業の担い手として幅広く文化に貢献しています。

MATSUMURA
electric mfg.co.,ltd.

㈱松村電機製作所

本　社　〒113 東京都文京区根津2－12－1　☎03(821)6161㈹ FAX03(821)6186

大阪営業所　〒530 大阪市北区天満2－12－16　☎06(352)0245㈹ FAX 06(352)2972
仙台営業所　〒980 仙台市青葉区中央4-10-6セントラルビル　☎022(221)7791㈹ FAX022(267)6892
名古屋営業所　〒465 名古屋市名東区上社3-102 東名ビル　☎052(702)1326㈹ FAX052(703)0529
広島営業所　〒732 広島市東区光町2-11-17 カルチャービル　☎082(263)8161㈹ FAX082(263)1537
福岡営業所　〒812 福岡市博多区博多駅前1-15-20 日本団体生命ビル　☎092(451)3831㈹ FAX092(451)3829

天然銘木を使いたいが防火規制がある
そこで――

燃えない銘木「ダンカー」



防火制限のある場所でも、天然の木質建材が使えたら――。ダンカーは、このようなニーズに応える画期的な「燃えない銘木」として登場しました。確かな防火性能に加え、合板なみの施工性・加工性を兼備し、防火制限にとらわれることのない自由な木質インテリアのプランニングを約束します。

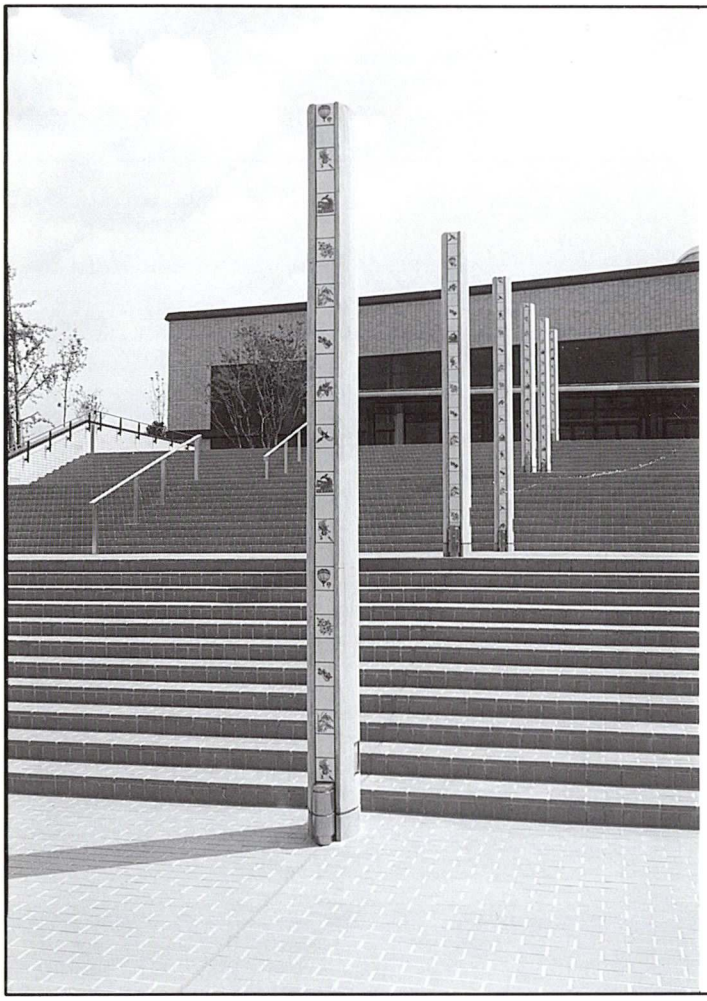
不燃銘木壁・天井材

ダンカー 不燃

■建設大臣認定　不燃(個)第1601号・第1602号

WOODTEC 朝日ウッドテック株式会社

本社　大阪市中央区南本町4-5-10 〒541 Tel.06-245-9505
東京支店　東京都千代田区岩本町2-1-15 吉安神田ビル6F 〒101 Tel.03-862-1321



空間文化の創造

イワオジキは、「空間文化と先端技術の創造」をテーマに、幅広い分野でセラミックスの可能性を追求しています。

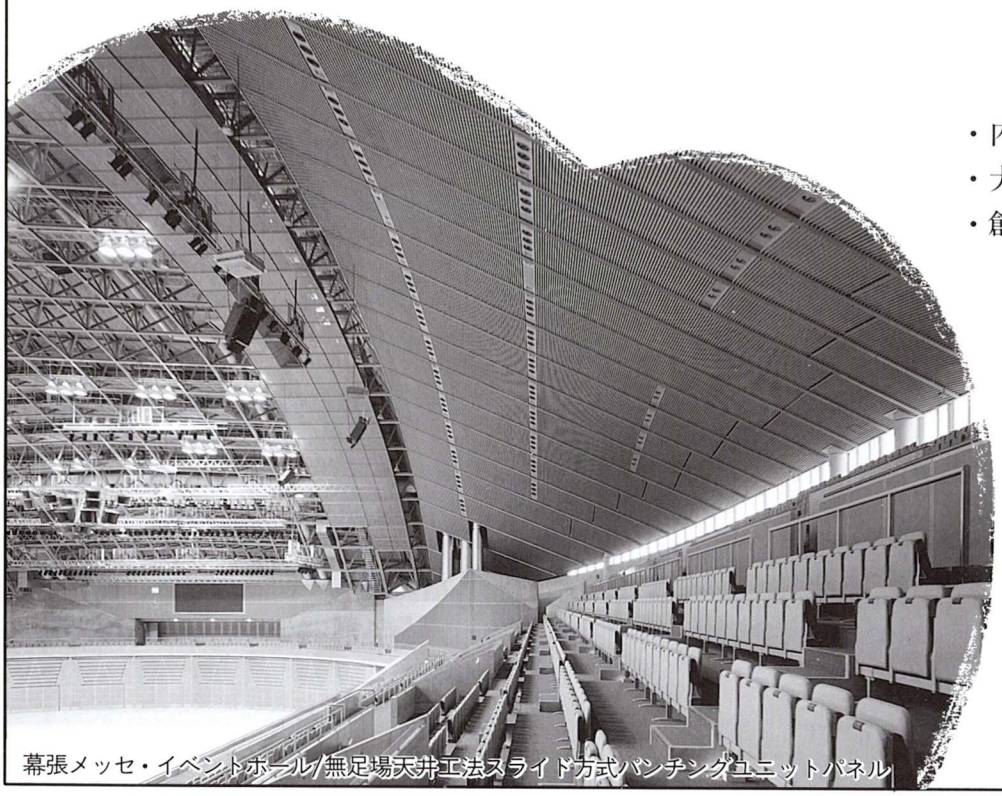
- 建築用内・外装特注タイル
- 磁芸レリーフ・磁器ファニチュア
- 水処理設備
- 工業用磁器・ニューセラミックス

イワオジキ

岩尾磁器工業株式会社

本社・工場　佐賀県西松浦郡有田町１２８８番地　☎0955-43-2111
東京営業所　東京都中央区銀座２－８－５岩尾ビル　☎ 03-561-1191
大阪営業所　大阪市北区東天満１－９－18大河内ビル　☎ 06-353-6171
中部事業部　岐阜県可児郡御嵩町御嵩2143平芝工場団地　☎0574-67-3131
九州営業所　福岡市博多区博田駅東2-6-23住友博多駅前第2ビル　☎092-471-1801
有田営業　佐賀県西松浦郡有田町１２８８番地　☎0955-43-2111

ハートウォーム——人も技術もあったかい



幕張メッセ・イベントホール/無足場天井工法スライド方式パンチングユニットパネル

・内外装金属パネル施工システム
・大ホール無足場天井工法
・創作パネルシステム天井

OKUJU
スペース クリエイター

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530
TEL (06)312-4131　FAX (06)316-1205
東京・九州・名古屋・仙台・宮崎・横浜

奥村重兵衛株式会社



片山鉄骨橋梁株式会社

概　要

創　業	昭和8年10月10日
資本金	100,000,000円
営業種目	鉄骨・橋梁・鉄塔・製缶機械据付設計製作 上記に附帯する土木建築工事一式
建設業許可	福岡県知事(般-63)第54900号
役　員	代表取締役社長　片山喜一郎 常務取締役　大牟田工場長　西山勝次 常務取締役　管理部長　徳永謙輔 取締役　事務部長　田中暢 取締役　森田定市 (東海大学名誉教授・通商産業省顧問) 常任監査役　松永龍雄

本社・営業所・工場

●**本社・福岡営業所**　福岡市中央区天神2-8-49(富士ビル)
TEL(092)711-1691
FAX(092)771-1401

●**大牟田工場**　大牟田市大字草木137
TEL (0944)54-5281～9
FAX (0944)52-4162
TELEX 744408 KATASSJ

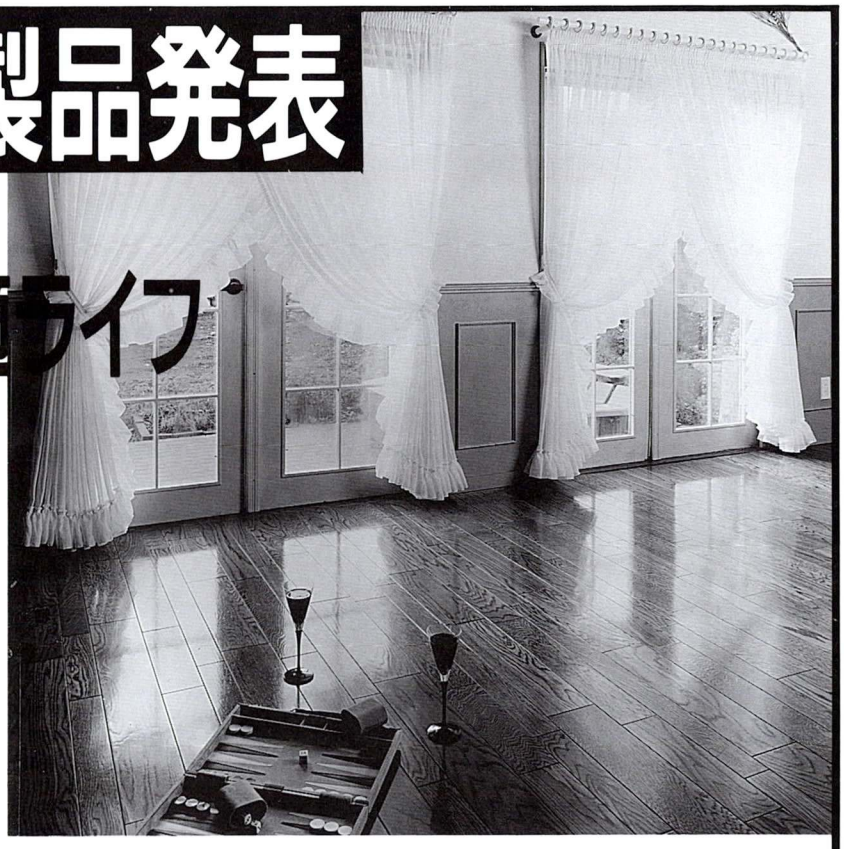
●**瀬高工場**　福岡県山門郡瀬高町大字浜田329-6
TEL (09446)2-5281～3
FAX (09446)3-7610

●**東京営業所**　東京都千代田区神田司町2-7(福禄ビル)
TEL (03)294-0898
FAX (03)291-6525

Refined Tech
Kawashima

新製品発表

REFINED TECH
人に響感－快適ライフ



'90-'92新製品

Kawashima Interior Fabrics
カーテン・カーペット・椅子張

個性あざやかニュープレステージ

心に与える快適度が物の価値を決める現代。
住む・働く・遊ぶ　あらゆる生活場面を快適に、楽しく豊かに彩るファブリックスが求められています。
川島織物は、一過性ではなく、永い時の流れを経て、なお評価を受け続けた物のみが持つ心地良さを新たな物創りの原点として、それぞれの生活ステージで望まれる快適機能を今の時代の先端技術で具現化した、魅力あふれる新商品をお届け致します。
"Step up"を合言葉にニュープレステージを創造し、生活進化を支え、真の快適ライフの実現を目指す。これが'90-'92 プロパー開発の基本姿勢です。

川島織物

株式会社 川島織物　中央技術文化センター ☎(075)741-3111　本社事務所 京都市上京区東堀川通一条上ル竪富田町432 ☎(075)431-7891(代)　東京営業本部 ☎(03)506-0800　大阪営業本部 ☎(06)347-0451
ショールーム：札幌 ☎(011)261-2131　東京 ☎(03)355-0575　京都 ☎(075)621-0292　大阪 ☎(06)347-0423　広島 ☎(082)292-1618　パリ・ニューヨーク・ミラノ・モントショールーム：東京 ☎(03)498-8595
東関東営業所 ☎(0472)25-9250　宇都宮営業所 ☎(0286)33-3473　北関東営業所 ☎(0486)45-9411　横浜営業所 ☎(045)662-4634　静岡営業所 ☎(0542)47-2852　新潟営業所 ☎(025)247-8831
名古屋営業所 ☎(052)221-1311　京都営業所 ☎(075)612-3020　金沢営業所 ☎(0762)91-0090　大阪営業所 ☎(06) 347-0431　南大阪営業所 ☎(0722)23-1981　神戸営業所 ☎(078)332-5625
岡山営業所 ☎(0862)26-2677　高松営業所 ☎(0878)35-3518　松山出張所 ☎(0899)25-7170　広島営業所 ☎(082)232-4009　福岡営業所 ☎(092)573-2474　鹿児島出張所 ☎(0992)55-9107
株北海道川島織物 ☎(011)261-2131　旭川営業所 ☎(0166)48-6731　帯広営業所 ☎(0155)22-6806　株東北川島織物 ☎(022)235-5341　盛岡営業所 ☎(0196)53-1325　郡山営業所 ☎(0249)22-9931

Seating Specialist

シーティング スペシャリスト

コトブキでは、さまざまな目的で建てられる施設にあわせて
連結イス、観覧席、議場家具、学校家具をはじめとした
各種パブリックファニチュアをフレキシブルな考えで設計・
製作しています。

コトブキ

本 社　東京都千代田区有楽町１－２－12 コトブキビル　〒100　TEL. 03-591-1311(代)

金

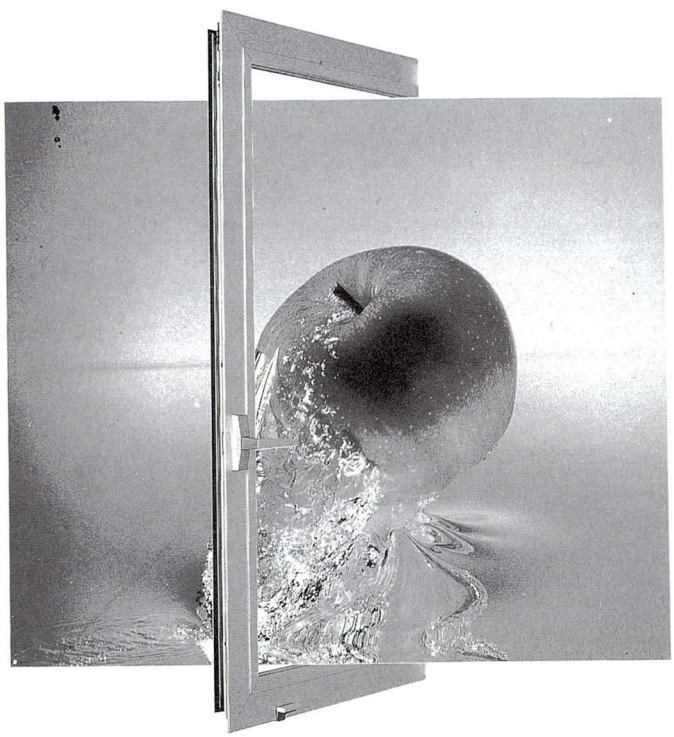
株式会社 佐賀玉屋

佐賀市中の小路２－５
☎０９５２－２４－１１５１（大代表）

株式会社 玉屋装工

本社・工場　福岡市博多区博多駅前南４－６－２３
☎０９２－４３１－１７６１（代表）

新世紀への勢い



静かに澄んでいる水は美しいけれど、
勢いよく流れ、躍動する水には、
力強さがあります。
いいものをつくる勢い、
新しいものを生み出そうとする勢い、
のびようとする勢い……
いろいろな勢いをもって、
二十一世紀への時代を
切り拓いていきたいと考えます。

昭和サッシ
昭和鋼機株式会社

本社／174東京都板橋区前野町6丁目1番10号
TEL 03-969-1101／FAX 03-960-1409

大阪支店 ☎06-543-1501(代表)　横浜営業所 ☎045-662-8281(代表)　所沢工場 ☎0492-58-1101(代表)
札幌営業所 ☎011-231-3424・3486　名古屋営業所 ☎052-582-2011(代表)　明石工場 ☎078-942-9111(代表)
仙台営業所 ☎022-227-1481(代表)　九州営業所 ☎092－473－9161～3　昭和鋼機サービス株式会社 ☎03-969-1181(代表)

素敵になるね、目に見えて。

閉まってもお店は注目のマト……クリスタルパネル



お店のセールスポイントをかくすことがなく、閉店後の夜でも、注目度100%のアピール効果を発揮します。業種・店舗形態を選ばない洗練されたデザイン。防水、耐風などのセキュリティ効果にも優れた新しいタイプの透明シャッター〈クリスタルパネル〉で、貴店もぜひ、お客さまの視線をしっかりキャッチしてください。

親会社鈴木シャッター工業株式会社は、明治36年4月創業以来、重量シャッターのパイオニアとして八十有余年の歴史を持ち、常にお客様のご要望に応えて時代にマッチした製品づくりに努力いたしております。

鈴木シャッター九州販売株式会社

本　　社　福岡市博多区奈良屋町3－11
☎(092)291－9175㈹ FAX(092)291－9179
北九州営業所　北九州市小倉北区浅野2－15－2第二小倉興産ビル
☎(093)521－1427㈹ FAX(093)521－1520
大分営業所　大分市都町3－1－1
☎(0975)32－2758 FAX(0975)32－1820
鹿児島営業所　鹿児島市荒田2－26－1
☎(0992)58－1261㈹ FAX(0992)58－1262
長崎営業所　長崎市上小島5－3－7
☎(0958)24－4894・26－8759 FAX(0958)24－4894
熊本営業所　熊本市水前寺6－8－8
☎(096)383－4125 FAX(096)383－4126
宮崎出張所　宮崎市大字塩路244－13
☎(0985)39－8307 FAX(0985)39－8465

SUMINOE

OA時代のニューオフィスづくり
タイルカーペット"シーザー"





耐久性、吸音性に優れています。

簡単に施工、敷替えができ、メンテナンスが容易です。

アンダーカーペット配線システムに最適です。

スミノエタイルカーペット
Caesar（シーザー）

ゆたかなインテリアライフをお届けする信頼のブランド
住江織物株式会社

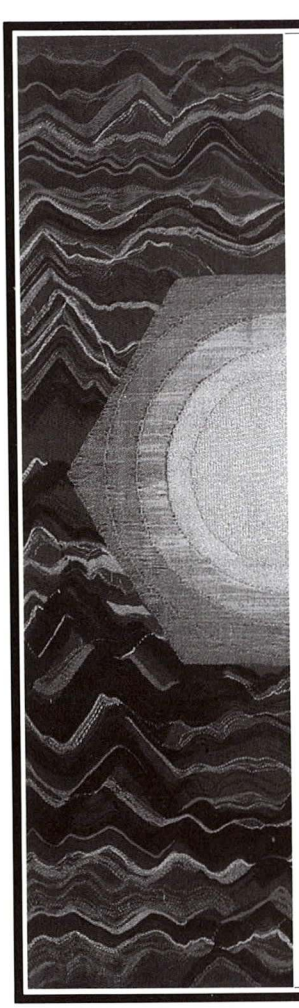
福岡営業所
福岡市博多区博多駅南4-3-18 TEL.092(474)2661

株式会社スミノエ九州
福岡市博多区博多駅南4-3-18 TEL.092(411)3764

SP−SSDパイル
STパイル・SLパイル
大同SSパイル（無振動・無騒音工法）
回転ミルク根固め工法（KMN工法）
スクリューパイリング

大同コンクリート工業株式会社

東京都千代田区神田神保町2−4　Tel 03-265-7350
大阪市中央区淡路町2-2-9　ニュー北浜ビル　Tel 06-202-8480

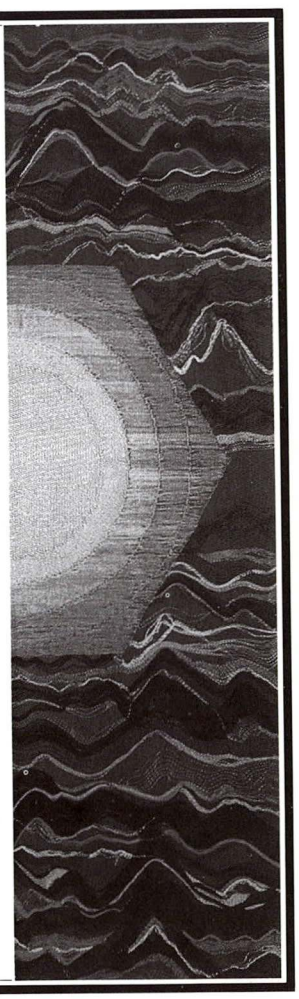


TAPESTRY
WALL ART

緞帳

A tapestry or curtain for a stage with the woven fabric's warm texture playing its melody.
the intricately crosshatched weave telling its story,
and the many-hued threads giving voice to its song……
There is in the beauty of such a tapestry an art that survives the trials of a brutal age,
an art of which one never tires, an art that returns to us true spatial harmony,
like that of the walls of pre-modern classical buildings. This is TAPESTRY WALL ART.

株式会社 龍村光峯
〒603 京都市北区紫竹下の岸町25
TEL.075-492-7275 FAX.075-493-8806



暮らしにフィットする家具を。



Tendo

私たちと生活を共にする家具、いっしょに暮らす家具。それはもう道具というより、生活の一部であり、時代を語る文化といえるでしょう。天童木工はそう考えて、時代を見つめ暮らしにフィットする家具づくりをしています。天然木を素材にした成形合板技術をはじめ、新しい素材・新しい技術にチャレンジして、家具に新しいクォリティをつくり出しています。

天童木工

本社・東北支店・工場・ショールーム 〒994 山形県天童市乱川810 ☎0236(53)3121／東京支店・ショールーム☎03(432)0401／大阪支店・ショールーム☎06(531)4131
札幌営業所・ショールーム☎011(222)2323／名古屋営業所☎052(204)3021／広島営業所☎082(243)3301／福岡営業所・ショールーム☎092(771)5606

■豊富なデザインバリエーション。
ビルの個性に合わせて自由にお選びください。
たとえば,数多くのデザインを揃えた天井と,10種類の豊富なかごの側板の自由な組み合わせで,ビルの個性に合わせたエレベーター空間が演出できます。

■エクセレントな雰囲気が,
ビルの個性をより引き立てます。
「立体的な高い天井」と「光」で,乗る人が「快適」と感じるエレベーター空間。
ひときわゴージャスな演出はホテル,結婚式場などに最適です。
(90,105m/min機種用有償付加仕様)

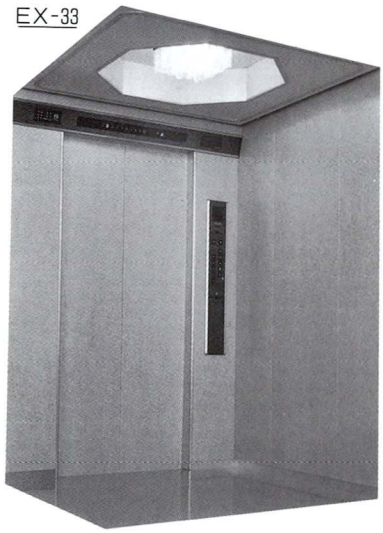
着こなし上手なエレベーターです。

HITACHI
技術の日立

EX-31



EX-33



EX-32



ビルエース プリード PULIDO III

株式会社 日立製作所 九州支店 〒810 福岡市中央区天神2丁目12番1号(天神ビル)TEL(092)741-1111(大代)

個性と機能の

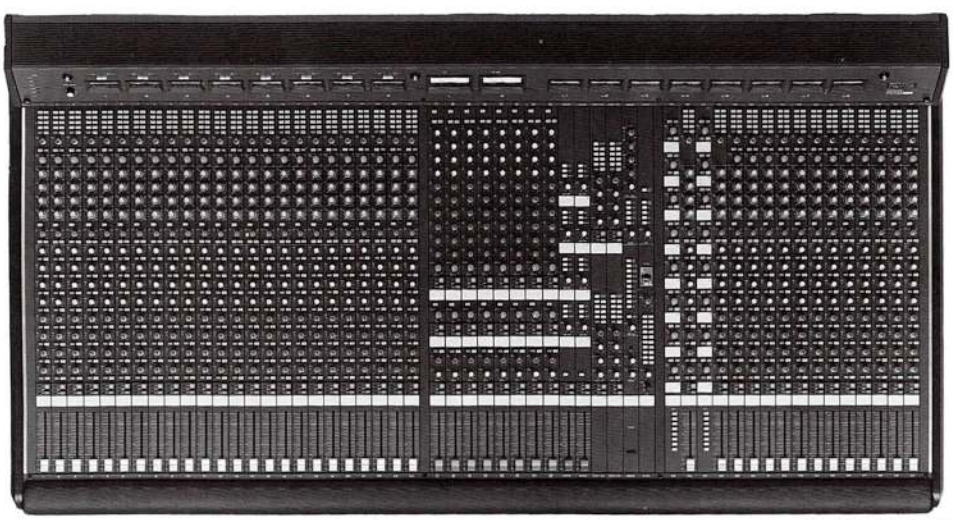
アイチのイス

株式会社

福岡アイチ

福岡市博多区博多駅南三丁目２－３
TEL（092）４４１－１２４６代表

Panasonic



こだわった結果。

実験室では息をひそめていたノイズが、現場で姿を現わす。幾多のミキシングエンジニアを悩ませ続けたこの難問に、ラムサはこだわり続けました。そのひとつの結果が、グランディングの徹底追求です。S840シリーズはさらに、S/N比、音質、強度といったコンソールに求められる基本性能も現場の立場から追求しました。その真価を、ぜひ現場でお確かめください。

S840シリーズ　ラムサ40インプットミキシングコンソール〔受注対応〕　フォールドバックモニター・コンソールWR-S840F　ハウスPA・コンソールWR-S840H

RAMSA

お問い合わせ…●松下電器産業㈱ システム営業本部九州支店 〒812 福岡市博多区博多駅前1-9-3 福岡MIDビル ☎(092)481-1135(大代表)
●九州松下システム㈱ 〒812 福岡市博多区住吉2-2-1 朝日生命福岡第3ビル ☎(092)281-7800(大代表)
●松下通信工業㈱ AVシステム事業部 〒226 横浜市緑区佐江戸町600 ☎(045)932-1231(大代表)

心を満たす先端技術——Human Electronics　松下電器・松下通信

現代とクラシックの美を感じさせる
清楚なタイル



MITSUI

タイルは清楚な優美さを持ち、その色彩の妙は周囲と調和しアクセントとしての芸術性も高く人の心を和ませてくれます。
時間をかけ作り出された1枚は、冷たさの内にも暖かさを秘めています。
※自由に選べるバリエーション。
個性作りのお手伝いをいたします。

タイルの内に明日が生まれる

三井鉱山
三井タイル・有田タイル

本店03(241)1324 仙台営業所022(221)1471札幌支店011(251)3146名古屋支店052(561)8233大阪支店06(488)2012広島支店082(243)2431九州支店092(271)8828

人にやさしく。

進化するテクノロジー社会の中で、つい人間性を失いがちな空間づくり。三越は310余年の歴史を誇る百貨店ならではの、経験と実績、きめ細やかなノウハウを建築分野にフィードバック。先端技術とヒューマニティの調和を計り、基本計画から設計・施工まで展開。人と空間との新しいコンセプトづくりをめざしています。

官公庁 劇場 寺社 住宅・別荘 店舗・商業施設 ホテル・旅館 レジャー・スポーツ施設 不動産

MITSUKOSHI

株式会社 三越 建装事業本部
〒103-01 東京都中央区日本橋室町1-4-1 TEL.03-241-3311(大代表)
札幌・仙台・千葉・横浜・新潟・金沢・名古屋・大阪・神戸・倉敷・広島・高松・松山・福岡

コンクリート打ち放し面の繊細な地はだに、洗練された輝きが見事にマッチします。

U-ピー®(UP)

ユーピー（UP）は、コンクリート打ち放し面に特殊アクリル樹脂をバインダーに天然石、陶磁器砕粒、添加剤等からなる主材をまばらに吹付けて、コンクリートの持つ微妙な色合いや地はだを十分生かしながら、リシン状のパターンを創り、乾燥後耐候性、耐久性、耐汚染性等に優れたクリヤータイプの上塗材をコーティングする特殊工法仕上塗材です。

ユーピー（UP）は、コンクリートの地はだと見事に調和し、素地の美しさを生かした深みと趣きのある落ち着いた仕上げとなり、コンクリート打ち放し建築物の内外壁に、さらに多彩な色合いで種々な表情を描き出します。



佐賀市文化会館　　松尾・大林・中野・上瀧ＪＶ

明研化学工業株式会社

本　社　明石市中谷町888 〒673
TEL(078)928-3456㈹ FAX(078)928-1779

東　京 TEL(03) 375-7911㈹
名古屋 TEL(052)775-4311㈹
大　阪 TEL(06) 338-1431㈹
兵　庫 TEL(078)928-3458㈹
広　島 TEL(082)291-5927㈹
高　松 TEL(0878)22-1127㈹
福　岡 TEL(092)411-4426㈹
熊　本 TEL(096)380-9377㈹

新刊　全国書店で好評発売中！

「建築技術」12月増刊号

実践　建築工事検査Ⅱ

鉄筋・型わく・コンクリート工事の検査・試験方法を、それぞれ項目をおって解説していく品質確保のための必携マニュアル。

亀田泰広　監修　Ａ４判　300頁　税込定価3,300円

床構造入門

スラブのはなし

さまざまな構造形式のスラブを、それぞれの特徴を上手に生かして使い分けるためのガイドブック。

松井源吾　著　Ａ５判　167頁　税込定価2,300円

良い杭をつくるために

指標　場所打ち杭工法

20余年間も土を掘り続けてきた著者が、基礎の施工でいかに欠陥が多いかを痛感して新しく書き下ろした警告の書。

北中克巳　著　Ａ５判　500頁　税込定価7,500円

株式会社　**建　築　技　術**

〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2　福西ビル
TEL.03(5371)3811　　FAX.03(5371)8282

建築技術者必携の専門誌　**建築技術**　3

2月18日
全国書店一斉発売
税込定価1,240円

◉特集

新・スラブ設計読本

（設計から施工に至るまで建築活動全般にわたって関連をもつスラブ。3月号では、建築設計者がスラブを設計するためのポイントをビジュアルに紹介します。）

1．スラブの現状と動向
- ●スラブの遮音、制振、大スパン化
- ●省力化・工期短縮・工費節約のニーズ
- ●特殊スラブ（フォークリフトが走行する倉庫・精密機械工場など）

2．スラブの種類と使い分け
- ●スラブの種類と特徴、用途
- ●スラブの構造特性（たわみなどをビジュアルな手法で定性的に解説）
- ●設計の要点（たわみ、ひび割れ、振動などの防止対策、遮音対策）

3．スラブの設計例
- ●オフィスビルのスラブ
- ●集合住宅のスラブ
- ●倉庫のスラブ
- ●精密機械工場のスラブ

4．スラブの故障対策
- ●たわみ、ひび割れ故障の対策
- ●振動障害を生じたスラブ制振対策例
- ●遮音振動対策

5．コンクリート合成スラブ
- ●合成スラブの種類と構造特性
- ●各種合成スラブの技術資料および実施例

連載◉建築法令を考える

検証 建築強度規定の変遷と建築構造技術 8

―物法施行規則・昭和７年改正―

明治中頃、本格的な建築法制を望む声を機に開始した〝市街地建築物法令〟紆余曲折を経てここに施行される!!

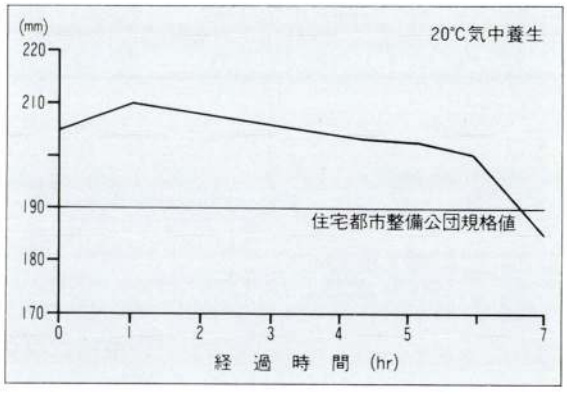
セメント系セルフレベリングモルタル材

エスレベル®

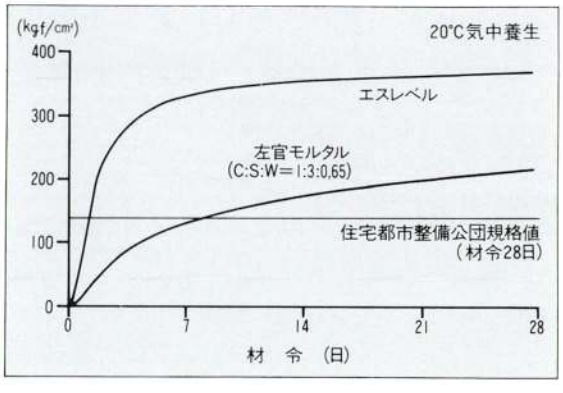


エスレベルは、セメントと砂を主成分とした既調合型自己水平性モルタル材で、所定量の水とともに高速モルタルミキサーで練り混ぜたスラリーを流し込むだけで水平度が高く、かつ短期間で硬化するモルタル層が形成できます。熟練工不足・現場省力化時代にふさわしい床下地モルタル材・ベースモルタル材です。

●フロー値



●圧縮強度



●特長

①抜群のセルフレベリング性と施工能率

②優れた物性

③モルタル塗りに匹敵する経済性

●用途

①床下地用——貼り床、塗り床、置床の下地モルタル材として使用できます。

②基礎天用——コンクリート造基礎のベースモルタル材として使用できます。

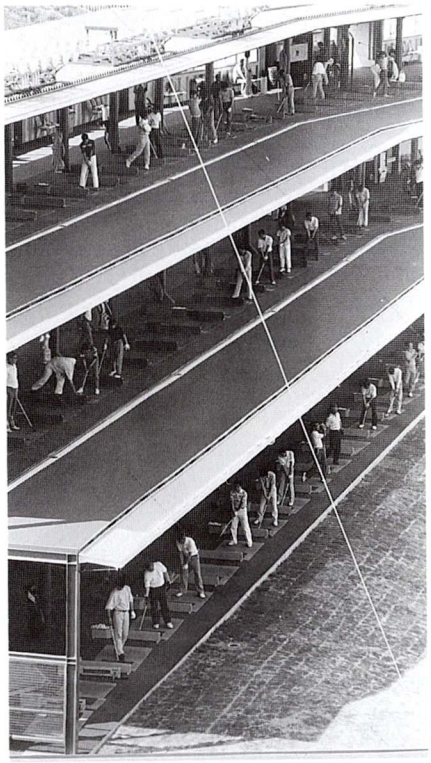
新日鐵化学株式会社

本　　社

〒104　東京都中央区銀座5丁目13番16号　TEL(03)542-1321(代表)

大阪支店

〒530　大阪市北区中之島3丁目2番4号(朝日新聞ビル)　TEL(06)202-5251



それぞれの思いを乗せたボールは
意に反して飛ばないものもあり
大空にアーチを描くものもある。
一つ一つのボールは緑の大地に
アトランダムな全体の構図の中で安息する。
個のモデュールにあわせて計画的に生み出された打席は
唯一、自己のプレーを楽しむ生活空間かもしれない。
ニュータウンは
わがとりでを手に入れたい人々へ
計画的に用意される新しい生活空間ともいえる。
人間と環境の関わりを完全に把えることは難しいが
可能なかぎりまちの魅力を高め、
ライフスタイルに対応したニュータウンづくりが求められる。
すでに生きづくニュータウンにも
これから創られるニュータウンにも。
多様な思いを乗せて飛びかうボールが
美しいシンホニーを奏でるように…。
このような視座から〝ニュータウン・ルネサンス〟という
ＫＥＹ ＷＯＲＤを打ち出したい。

特集■ニュータウン・ルネサンス

I

座談会■21世紀のニュータウン
磯野新／加藤育生／柏原士郎／田中直人

ルポ■ある休日の午後、千里ニュータウンで／角島健二

II

アンケート■これからのニュータウン像を求めて

失われた神を求めて／神田昌幸
ニュータウンに青い鳥はいるか？／清水治彦
〝成人〟千里ニュータウンの若返り／桑田潔
これからのニュータウン開発／山地英雄
大都市地域問題解決型ニュータウンの登場／富安秀雄
神戸でのニュータウンづくりの経験から／田村健一郎
空間の機能複合体づくりへ向けて、矛盾する価値をいかに共存させるか／大久保昌一
社会の変化に対応するフレキシブルな都市づくり／片田俊彦
人間も空間も混在させたニュータウンに／笠原紀子
海ぎわニュータウンのすすめ―「リンケージ開発」の導入を―／千葉桂司
多様な活動の場としてのニュータウン／細井ゆかり
時代の変化とニュータウン開発／飯塚良太
つくり続ける街なみ／森裕史
畑違いのディベロッパーとして／藤社啓
「ピーターラビット村」や「地球人村」等のある集住複合体／延藤安弘

III

報告■ニュータウン・ルネサンス

再開発型ニュータウン―都市の住まいづくり―／山本英夫
再開発期を迎えた千里ニュータウン／吉村英祐
住宅供給の一方策―泉北ニュータウンの賃借権付分譲住宅―／鑓哲男
住民参加によるニュータウンづくり―建築協定による住環境形成―／鈴木克彦
高齢化に向けたニュータウン／吉村英祐
ライフスタイルの多様化に向けたニュータウン／鈴木克彦
千里ニュータウン・駐車場問題／角島健二
魅力あるニュータウンへのデザイン戦略／田中直人
複合機能都市の再生へ向けて／河端秀直

本号特集編集幹事

角島健二／河端秀直／鈴木克彦／田中直人／山尾弘子／吉村英祐

21世紀のニュータウン

出席者　磯野　新（株式会社千里タイムズ代表取締役社長）
加藤育生（住宅・都市整備公団、財団法人関西文化学術研究都市推進機構調査役）
柏原士郎（大阪大学助教授）
（司会）田中直人（神戸市開発局計画課主査）

田中（司会）　英国のハワードの田園都市構想とか、英国をはじめ各国で、あるいはわが国でいろいろ展開されておりますニュータウンの事例を通じて、「ニュータウン」のいろんなイメージがあるようです。大阪の千里ニュータウンは、30年ほどたっておりますが、こういったニュータウンというまちも、すでにニュータウンじゃなくて、オールドタウンみたいな形を呈してきているわけです。

きょうは21世紀のニュータウンをめざして、「ニュータウン・ルネサンス」ということで、日ごろニュータウンにかかわっていろいろご苦労されてます皆様方から、こういった昨今の状況も踏まえて、お話を伺いたいと思います。

磯野　千里ニュータウンが出来るということで、わたしの父親が37年6月、新しく入居してくる人と地元の市とか行政、そういうところをつないでいく仕事ということでローカル新聞、地方新聞をつくることを考え、千里ニュータウンの入居が始まる少し前に「千里タイムズ」を発刊したわけです。わたし自身は昭和52年の4月から、父親と一緒に仕事をするようになったんですが…。地域に住む人の声を、とにかくそのまま行政に伝えていこうと…。そのことによって行政はまたその地元市あるいは大阪府が、そこに住む人の生活がより満たされるような施策を進めていくように、というような感じの活動といいますか、紙面づくりをしてきたわけです。

将来的に千里ニュータウンをどうするのかというのを、行政だけじゃなしに、そこに住んでいる人が、これからのニュータウン再開発にしろ、見直しにどう関与していくのか、関与できるのかという部分が、大事になっていくんじゃないかと思います。そういう意味でわれわれも、また住民の視点というか、関与の仕方というのを探っていきたいなと思ってるんです。

加藤　私は公団に入り、昔は宅地開発部門、いまは都市開発事業と呼んでますけれども、そこに配属され、いわゆる郊外ニュータウンづくりに携わってきたわけです。私は企画セクションに非常に長くいて、地区選定というふうに呼んでますけれども、新しいニュータウンをどういう形でつくっていくかという、その土地を探し、企画立案をして、実際の土地を買いにいく、その前段の仕事をずっとやってきたわけです。常にどういう形で人に住んでもらえるかということを、ずっと気にして仕事をしてきました。

当初は、とにかくたくさん供給すればいいということで公団もやってきました。それが社会的な命題でもあったわけですけれども、いまは、もっと多様ないろんな人が住むにふさわしいまちをつくっていく、あるいは、すでにつくられたニュータウンでも、どんなふうにそれが可能なのかということを考えていかなきゃならないときにきたんだなと。そういう意味では新しくつくる側の責任というのは非常に重いな、ということを感じている次第です。

田中　ニュータウンにおける住宅を含めたいろんな施設の張り付き状況等を研究なさっておられる柏原先生のほうから願いたいと思います。

柏原　千里ニュータウンをじっくり研究したというそのきっかけは、たまたま大学のキャンパスが千里ニュータウンの隣にあり、まちを歩いてみて、大変きれいなまちで整っている、けれど、何か欠けたものがあり、非常に味気ないと感じまして、これはどういうことからくるかと、非常に素朴な疑問があったわけです。もう一つは、当時、研究者の間では近隣センターはさびれてくるという問題がもうすでに論じられていたわけですけれども、住宅を供給すると同時に、それ以外の、いわゆる地域施設すなわち教育・医療・商業・文化・諸々の施設をどのように配置・供給していったらいいかということは、まだじっくりやられてないと感じまして、それを研究テーマにしようかなと感じたわけです。

人口当たりの施設の数を調べると、いわゆる自然発生的なまちに比べて千里ニュータウンは非常に低い。その辺のメカニズムと、それをクリアーするためにはどういう手法・提案があるかというあたりが、研究者としての一つのねらいだったと…。

都市機能の受け皿としてのニュータウンは、いま

田中　いわゆる住宅系のニュータウンだけじゃなくて、多岐にわたる都市機能の受け皿としてのニュータウン、いわゆる業務系とか産業系のものもあわせてやっている事例も多々見られると思います。今までのニュータウンを見ていくと、生活機能として非常に欠けたものもあるということが千里ニュータウンの実際の生活の中でいろいろ出てきているんでゃないかと思われます。特に医療施設とか、生活の根幹にかかわるようないろんな施設についての問題も多々あったように聞いています。

このような地域施設の欠損状況等について、住スタイルの多様化とか、いろんな社会的な背景、動きもある中で、もう少し具体的にご紹介いただきたいんですが…。

磯野　医療施設については、各住区の診療センターでは通いのお医者さんが多く、夜になると診療できず、夜は医療砂漠になるというのが、私どもだけじゃなしに日刊紙なんかでも取り上げられて、かなり社会問題になったような実例があります。それが、新千里病院、国立循環器病センター等の高度な医療機関が周辺に出来たということで、ある程度は充足されてきた。ただ、いまの時代、住民の年齢構成が高くなる、あるいは偏りが出てくるということで、科目によっては全然はやらない、そういう科目が出てくるわけですね。実際何かあったときに必要な科目というのが揃うのかというと、なかなか揃いにくい面というのが、いまの千里ニュータウンの医療の現実的な悩みと違うんかなと思うんです。
それともう一つには、10年規制がはずれて、いまは各住区の中の戸建住宅の中でも開業できるということで、はやる科目については過当競争になって、お医者さんにとっては死活問題も出てきていると思うんです。

田中　いまのお話に、非常に面白いテーマが潜んでいると思うんです。ニュータウンを、計画的、人工的に、つくったと…。本来人間の自然発生的な欲求から出来るような施設であっても、行政とか計画者のほうで、つくった。お医者さん、それから学校、教育施設、商業、すべてにわたって。ところが、本来の人間の持っている欲求や、生活に根差したところの欲求との間に、ずれがあったんじゃないか、10年なりのタイムスパンの中でいよいよその本質がのぞいてきたという感じがするわけです。あるべきニュータウン論で言いますと、施設をこれから計画的につくるにしても、もう少し違った誘導の仕方があるんじゃないかと思うんですが…。

混在させるパターン

柏原　いわゆる聖も俗も排除された都市と言いますか…。千里は、先ほどの施設水準で言いますと、量的にも非常に低い。さらに、普通のまちでしたら、聖のほうで教会があるとか、キリスト教から仏教からいろいろな宗教が揃っている。一方、俗のほうで言いますと、極端に言うとラブホテルとか、そういうものまでも全部ある。ところがニュータウンには、そんなものが一切ないわけですね。それを考えますと、大規模なニュータウンというのは、あくまでも行政主導型で、官庁がかかわっており、特に新住法の場合にはいろいろな制約があるということですね。
それから、計画というのは歴史的な流れがいろいろありますが、非常にヨーロッパ的というか、計画的に何かをつくるという考え方があったわけですけれども、人間というのは本来必ずしもそういうものにそぐわない面がいっぱいあるんではないかと思います。だから、そういうものに対する批判というのが、特に昭和30年代後半から40年代前半にかけていくつかあるわけです。それはニュータウンと限らず、まちづくり計画における用途地域の批判と言いますか、機能ごとに地域を分けていく考え方に対する批判が出ているわけですねその最たるものが、私はニュータウンというふうな感じがする。
長い歴史的な流れを考えると、こういう均質な、あまりにも均質な住宅地ばっかりのまちというのは、人間本来の生き方というものに対していろいろな問題を生じさせるのではないかと…。セネットは、社会心理学の世界で、人間というのはもっと葛藤がなかったらいかんと言っているわけです。
結論的に言いますと、もっとある程度まぜこぜにしたようなまちづくり、いわゆる自然発生的なまちに近いような形でニュータウンをつくらないかんのではないかと思いますね。

田中　たとえば“学ぶ”という機能を住宅団地に入れてみたり、あるいはひっつけてみたり、あるいは業務系の施設を入れるというのも、一つの混在のパターンだと思うんですけれども、若干、機械的というか、食住近接の概念的なパターンで、計画者あるいはつくり手の論理でやってる面も多少あり、今後よりよき混在の実現手法が求められると思います。
ところで、住宅地の中にも“街角施設”をつくろうという計画がすすんでいますが、加藤さんどうでしょうか。

加藤　住宅地づくりにしてもいろんなメニュー、昔のかまぼこ型じゃなくて、いろんな形の中層、高層、あるいは供給にしてもコーポラティブであるとか、いろんなやり方でやられてきましたが、いまの話に関連しますのは、街角施設ですね。いわゆる戸建住宅を一応つくるんですけれども、あるところにはアイ・ストップも兼ねて、レストランとか喫茶店を配した街角施設をつくるとか。それからこれは公団の北摂ニュータウンでやったんですが、歩行者用道路に開口部を設けて、しかもこれは共同分譲という、家を一緒につけて売る方式でやるんですけれども、その中にたとえば本人の意思があれば喫茶店が経営できるとか、ちょっとしたお店が出来てという、そういう住区をあわせてつくらせた。もう少し人間っぽさのある生活をつくれないかということで、そういう事例が出来てきています。
それからもう一点、いわゆる新住法の限界というのは、あるというふうに思うんですね。私は平城ニュータウンに住んでいるんですけ

リチャード・セネット　（1943年～）　アメリカの社会学者。主著“The Use of Discover”において、現代の都市の特徴である官僚的なコントロール様式が、真の人間の成熟を妨げていることを分析・批判し、無秩序の活用の必要性を説く。


磯野　新 氏


加藤育生 氏


柏原士郎 氏

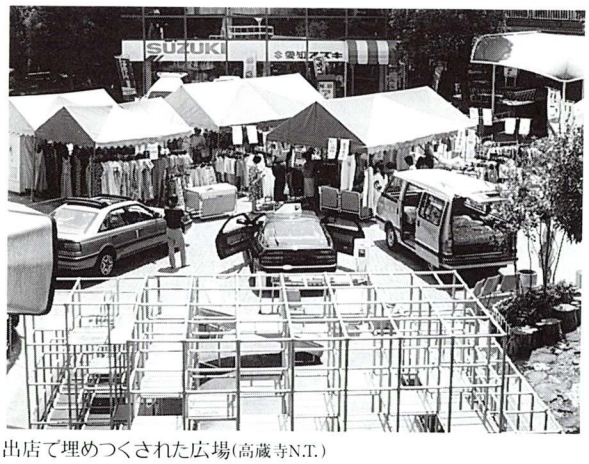

田中直人 氏

れども、これは区画整理ですが、たとえば教会が二つありますし、それからお寺があります。開業医については、それこそ市場原理で、どこでも出てくる。それから……これは1種住専違反という話もあったんですが、中華料理屋さんが出てきたりとか、あるいは小さい小売りの店、あるいは酒屋さんなんかが、それぞれに土地を買われて進出してくるという形で、かなりフリーにお店が出てきています。これで、まだまだ理想には遠いと思うんですけれども…。
ただ、非常に残念なのは、そういった動きをよしとしない住み手がかなり多数を占めるわけですね。どういう形でそういうものをつくっていくかというときには、住んでる人と一緒になってやらないとむずかしいのかなという気もしてるんです。

魅力あるニュータウンへの仕掛けを考える

田中　いろいろニュータウンの成り立ちや住民の意見等も調べてるんですけれども、明らかに新住法でやられた地域と、土地区画整理でやられた地域と、その手法によってかなり違いが見られますね。用途とかいろんな規制がかかってますので、その規制の枠の中で本来あり得るべきようなものが押さえつけられてみたりという傾向があるんじゃないか。そういう意味で、10年たってから本当のまちづくりがスタートする。10年はとにかく一つの導入部分で、それから実際の人々の要求に合ったものをつくっていくんだという感じがするわけなんですね。できましたら、10年たってから考えてみようじゃなくて、いままでの貴重な教訓がありますので、最初からそういうものを仕掛けていくという、アト・ランダムがいい意味での計画的な線になっていく、そういうコントロール手法あるいは仕掛けみたいなものが計画論として要るんじゃなかろうか、と感じています。いくつかニュータウンの計画をする中で、いくつかの柱、目標を描いてるわけなんです。その一つは、“賑わいづくり”。これは利便性とか楽しさにつながると思うんです。それから、安らぎとか触れ合い、“ふるさとづくり”と言いますか、そういう施策が要るんじゃなかろうか。もう一つは、これは多分にハード面につながるような話も多いわけですけれども、いわゆる“町並みづくり”、景観形成ですね、それが自然とか環境の中で調和した形でうるおいを与える。そういった“賑わいづくり”“ふるさとづくり”“町並みづくり”、これ以外にもいろいろあると思いますが、そういったいくつかの柱で、まちづくりの仕掛けを考えていくことは、魅力あるニュータウンづくりというような将来展望につながる話じゃなかろうかという気もしているわけなんです。ただ、具体的にニュータウンなりそういう事業の中でどうやっていくかということについては、まだまだ研究の余地があります。

●ニュータウン散歩



出店で埋めつくされた広場(高蔵寺N.T.)

支え合うシステムの保証 ―心の世界も大切―

田中　これからの21世紀というのは高齢化社会で、ハード面でもソフト面でも、いろいろ問題点が指摘されているわけです。特に福祉のまちづくりということで、ハード面では段差を解消しましょうとか、いろんな基準をつくったりしてますけれども、住宅の問題しかり、それから周囲の道路、公園、それからそういった福祉施設の問題、それからサービス・ケアの問題、いろいろあると思うんですね。特に独居老人の問題であるとか、それからそういったコミュニティー活動の問題とか、心の世界の問題、とりわけ宗教施設のあり方など、いろいろ指摘されていると思います。

磯野　千里では、もうその宗教施設は出来てますね。あれは府の施行ということで、やっぱり政教分離とかのからみがあったんでしょうね。

田中　お地蔵さんの話も聞いたんですがね、何とか地蔵があると。

磯野　あれも最初は、個人の家で祭ってたんですけども、個人の家で祭るものと違うということで、市の公園のほうに入れたい、と。市のほうは、それは一つの宗教施設と違うかということで、入れる、入れへんでちょっともめた。……結果的に、いま公園の一画に、宗教じゃなしに民俗的なものだということで収まってるんです。

柏原　ペリーの近隣住区の絵を見たら、真ん中に教会があるんですよ。やっぱりそういうあたりは違うんですよね、形だけ持ってきたけれども、コミュニティーの核というものがね、ある意味では日本ではちょっと違う。まあ日本だったら学校とか近隣センターという、そういうことかもしれませんけどね。

田中　心のシンボルと言いますかね。先ほどの、ヨーロッパでは特に教会が心のシンボル、……景観上のシンボルにもなっていますね。まちのどこからも塔が見えてるとかですね。かつては城下町でお城が見えてたように、そういう塔状の建築物というのは非常にシンボリックで、そういう景観上のシンボルにもなって、それがまちのアイデンティティとか地域のアイデンティティを保ち得るものにもなるんじゃないかという気もするわけなんですけどね。

磯野　たしかニュータウンの近隣センターの活性化の計画の中で、たとえばお風呂屋さんのあとをどうするかとか、福祉住宅ゾーンと言うんですか、地域の中で一人で住むようになった年寄りとか、そういう人をその近隣センターの上に住宅をこしらえて、そういう人にそこに住んでもろうたらどうかというような、一つの案があったんですが……。
独居老人も、確実に千里でもかなりのスピードでこれからも増えていくと思うんですね。そのときに住区全体、ニュータウン全体が高齢化していくわけですけれども、何か住み替えみたいな形というのを、もうちょっとメインに持ってきたほうがいいんと違うかなと思うんですけどね。
たとえば、戸建住宅地の中には、小さな子供さんのための小さなプレイロットがありますが、いま戸建住宅地に住んでいる人はかなりの高齢者になってきているということで、ほったらかしにされて、それを利用する人はもういないわけですね。



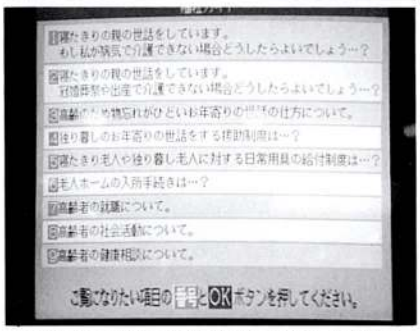
午後4時、カラオケ教室が終わって


凧がもつれた…、見知らぬ仲間(千里N.T.津雲台)



千里ニュータウン 休日のひとこま


冷たい石垣にすわって一服。近くにベンチは見当たらない(千里N.T.藤白台)



千里タウンガイド、福祉情報も次第に充実(千里中央センタービル)

それは、一部屋増築の運動でもそうなんですけれども、今度はそこそこ住めますんでね、もう入れ替わりというのはなくなりますね、いまは全戸、一部屋増えるんですけれども、その必要性があったんだろうかというような、たとえば半分、3DKないし3LDKにして、後は2DKのままでもよかったんと違うかというような……。

田中　一律にやり過ぎているきらいがある、と。

磯野　はい。それを順番にそういう部分をつくっておいて、年とって2人になるとこういう住宅、ひとりになるとこういう住宅。出ていったあとにはまた子供のいない若い人が入ってこれるというような、そういうローテーションを組めるようなまちづくりいうのが、これから必要になってくるんと違うかなと思うんですけれどね。

田中　住都公団も、かなり住宅のそういったタイプについては、ニュータウンに限らないで、多種多様にいろいろ開発されてますね。メニュー方式であるとか……。高齢化社会対応ということで、何かありませんか。

加藤　住宅のハード話ですと、それこそ風呂とかそういう話になっちゃうんですけど、システムとして社会全体でそういう人を見守っていくかというところまでは、まだ十分提案はされてないと思いますね。

田中　ペア住宅であるとかペア宅地、あるいは同居型のなんとかいうことで厨房等が2カ所あるとか、プランニングの面でもかなりバリエーションが出てきたと思うんですが…。

加藤　そういった面で、コーポラティブ化してしまうという形で住宅地をつくっていただこうと、かなり将来の一つのモデル的なケースとして、やってみたことがあるんです。ペア宅地をもう少し発展させたような話なんですけどね。大体1haぐらいの宅地をユーザーに与えてしまうんですね。その中で自分たちの画地割りをしながら、共有地をつくって集会地をつくりながら、あと自分たちで好きな画地割りをするという、こういうシステムで宅地を分譲したんです。友達同士で住みたいとか、親子で近くに住みたい、まあそういう方も結構あって、そいうのが今後一つのなんか支え合うシステムとしてね、住み方の話としてはあるのかなあということを感じているんです。

磯野　独居老人の場合は、むずかしいですね。独居老人の中でも、ひとりになってしまう人がいるし、2～3人でグループをつくる人もいてますしね、だからそれを行政の施策としてやっていくんか、どうなのかということですけど。

田中　千里ニュータウンでは、たとえば元気なときはベランダへ何か出しておくとか、そういうのを聞いたことがあるんですが。

磯野　竹見台での“黄色いハンカチ運動”ですか、地域で支え合う、助け合うという一つのあらわれなんでしょうけど、そういう高齢者も、何か地域の中で社会参加できる場というか、それをつくっていかなしようがないんと違うかな。ただ高齢者や、独居老人やということで、福祉の対象として祭り上げてしまうと、なんにもならへんような……。

田中　そういう扱いをするという発想がね……。そういう意味で、老人でも、元気な老人とか、いろいろバリエーションがあると思うんです。そういう受け皿として、働きたい人には働く場がまちの中にあるんだと、どんな形であれ。それが単に収入を得るという意味じゃなくて、社会的な参加をして生きがいを得る、あるいは自分の持ってきた人生経験なりを社会に還元するとか、あるいは地域の中のコミュニティーの核になるとか、そういう意味合いでの場と言うんですかね、ソフトな仕掛けも要ると思うんですが、柏原先生、いかがですか。

柏原　一番簡単なのはやはり併用住宅で、働く場が発生する可能性を大きく残さないかんと思うんです。いわゆる“パパ・ママ・ストア”と言いますか、大体普通のまちではみなそうなってるんですよね。それが新住法で開発されたまちでは、専用住宅と言いますか、それしか建てたらいかんとか、そういう規制をやるんですね。なぜかというと、町並みがどうこうとか、静かな環境というふうなことなんですけどね。だから、そのあたりの発想をもう根本的に考え直さないかんと思います。

女性や子供の目から見たまちは……

田中　先ほど来、高齢化社会ということで、老人を中心にした生活環境のあり方の話が出てますけれども、もう一、二点入れないといけないのは、やはり女性の視点に立ったまちづくりのあり方。
もう一点大事なのは、子供から見たまちのあり方。僕らが小さいときは、ガキ大将みたいなのがおりまして、かなり上のお兄ちゃんにいろんな山とかへ連れていってもらい、隠れ家をつくってみたり、いまだったらさっとフェンスが張られているような危険なところでも、喜んで遊んでたわけですけれども、計画された環境の中にそういう冒険をするような遊びの場が非常に少なくなっている。どこでも同じような児童公園があって、同じような遊具があって、面白いなというところにはフェンスがあって立入禁止という、そういうのが一律に計画されたまちじゃないかという感じもするわけです。
そういう子供から見た生活環境、あるいは女性から見た生活環境ということで、高齢化社会は何も老人だけの社会じゃないし、そういう多様な世代から見たまちの質と言うんですか、それをもっと高めるというところにあるんじゃないかという気もするわけですけれども、その辺についてはいかがですか。

磯野　女性から見たまちというのは……結局どう進出できるかという保証の問題だと思いますね。たとえばその地域の中で仕事をする場合に、どういう職場があるか、それから何かを公民館などの施設で学びたいときに、また、子供がいたときにそれが可能な体制かどうか……。そういうような整備が多いと思うんですね。

加藤　私も共働きですが、そういう保育ですね、まあ学齢前とか小学校へ入っても、そういう体制があれば、いまの婦人というのは結構積極的ですから、多少電車に乗っても……保育時間が多少長ければ、遅くても迎えにこれるということがあるわけで、そういう意味ではおっしゃる通りだと思います。そういうのをきちっと保証する施設づくりとか、体制づくりですね、それは絶対要るんでしょうね。
さっきからも出てますプレイロットの話ですが、いわゆる児童公園があって、近隣公園があって、地区公園があって、ヒエラルキーで全部つくってきているのは、僕はもう一回公園サイドの人には見直してほしいというのが一点。特にプレイロットについては、三種の神器という、砂場とブランコと……しかも真ん中に置いてしまって、あと何も使えないんですよね。
それからもう一点、柏原先生の話と関連させていけば、子供たちにとってニュータウンが多分一番だめな点は、労働の場を見ることがないことですよね。お父さんとかおじいさんが働いている……、畳屋さんとかがいろんな手仕事でやったりとか。そういう人達は、地域に住んでて、そこでの接触があって、大人が働くこととか、いろんなことを学んできたシステムがあったと思うんですよ、下町なんかでは、いまもそうでしょうけれど。そういうのがニュータウンでは一切ないんですね。世の中にはもっといろんな人がたくさんいて、農業から漁業から働いているわけですよね。あるいは職人さんもいるわけで、そういうのを見せる仕組みも大事だと思います。

柏原　いまニュータウンでかなり問題になってるんですが…、センターにはなんでもあるから、子供が全部そこへ行くわけですね。そこを経営している人は、よそから通勤してきているわけですよ。そうすると、その子供がどこの子供かわからんと、ある意味では無責任体制で勝手に遊ばせる。おそらく普通のまちでしたら、そこの居住者が、おばあちゃんが店番やってて、いわゆる人間関係というか、そういうものでうまく淘汰できる。あまり形式的な、最初に言いました図式化された空間構成で、しかも無責任体制というか、そういう中で働いてますからね、ある意味でもっと根深いところで、教育上の問題もいろいろあるんではないかと思いますね。

磯野　子供の目から見たそういう環境というんですか、まちというのを、大人はもっと真剣に考えるべきだと思いますね。
千里のほうで豊中市が調査をしたんですが、ニュータウンの中でも子供の目から見て嫌な環境とか怖い環境、不快な環境ってなんやというような聞き込み調査ですが、そうするとやっぱり路上駐車というのは怖いという印象。それからマンションよりも田んぼのほうがええという。というのは田んぼは遊べる、マンションは遊ばれへんという、そういう単純な比較だと思うんですけどね。
それとさっきおっしゃいましたね、ニュータウンの中にも大きな公園が各地区にあるんです、そこには比較的大きな池があって、山があって。ところがその池の周りというのは、全部トゲのついた有刺鉄線で囲まれて、水辺がありながら水辺で遊べないという、そういう環境にあるわけです。でそういうのが都市部の中で貴重な自然環境だとしたら、遊べるような環境にしてあげたほうがいいんと違うかな。

●ニュータウン散歩



若さと健康を求めるニューミセスとミドルミセスで熱気あふれるテニスガーデン（西神ニュータウン）



「やっています。会社の上司にはナイショ！」
洪水調整池を活用したゴルフセンターは、今日も満員（西神N.T.高塚ゴルフセンター）

"遊べる" まちづくり

田中　子供だけじゃなくて、大人も遊べる環境が要ると思うんですね。まあ大人にも老若男女いろいろあると思うんですが、最近特に、人生を遊ぶというか、楽しむ、豊かさ、ゆとりというか、そういう視点での仕掛け、受け皿みたいなのが求められているんじゃないかと。住宅にしても、セカンドハウス的にどこかに持ってみたり、あるいはそういうところへ頻繁に行くようなリゾート開発がかなりあってみたりしますけれど、もっと日常的な生活の中でそういう非日常的な感触も味わえるようなリゾート・ゾーンみたいなものも、新しいまちづくりの中では要るんじゃなかろうかと思います。
それから"遊び"というのをもっと大きくして、学ぶというか、もっと文化的に何か知的なものをつけ加えたいと、そういう欲求からして、生涯教育センターみたいな話とか、あるいはもっと健康を増進したいからフィットネスクラブみたいなのが要るんやとか、そういういろんな仕掛けが要ると思うんですが、いかがでしょうか。

加藤　大人の遊ぶという点は、まだまだニュータウンで十分展開できていないですね……。よく言われるのは、パチンコ屋と赤提灯をどうするかということですけれども、それすらまだ議論できてないのが実態ですね。一つは、たとえば郊外ですから、わざわざ家の近くまで帰ってきて、そこで飲むかという話もありましてね。

磯野　ニュータウンというのは聖と俗を排除したところからスタートしたというのが、一番大きな問題だと思うんですね。特にパチンコ屋なんか、千里でもあってほしいなという人は結構多いんでしょうが、やっぱり俗なものは環境を悪くする、風紀上の問題についても悪くするというタテマエ言うんですかね、なんかそのタテマエとホンネの微妙なところで、どうしてもタテマエが先行してしまうので、いまホンネでそういう施設もほしいな、そういう賑わいがほしいなと言い出す人が、言い出す勇気がなくなってしもうてるようなところがあると思うんですわ（笑）。

加藤　可能性としてあるのは、最初出ましたけれども、いろんな機能を併せ持つ複合開発ですね。学校がくれば、やっぱり学生のための本屋が要るとか、あるいは大学がくれば、洋書もあるような本屋が要るとか、あるいはちょっとしたレストランが要るとか、たとえば住宅以外の機能を入れようと思えば、かなりそれに付随したいろんな機能をセンターなりいろんなところにつくっていかなければならないという状況が出てくるんですよね。だからそういう中ではおっしゃったようなフィットネスクラブも当然出てくるでしょう。そういう空間を用意すれば、かなりそれは商売としても成り立つということで、われわれが考えていないものも出てくるんじゃないかという気がするんですけどね。

柏原　そういう開発の場合で、いま何が必要だとか、何を入れないかんとかいうのは、本来は需要があって、そのときに供給されるという関係があるんですね。ところが計画者というのは、やっぱりいつも後追い型ですね。だから需要が発生したときに即対応できる形というのは、やはり居住者というか、そこの住民が判断すべき問題なんですよ。そういう需要と供給の形に即反映できるようなまちづくりというのはね、それは基本は、やっぱり相当の自由度を残すというね。需要が発生したら、それに供給側が即対応できる、という形で、僕はあるべきだと思うんですよ。その需要に対して即対応できるという、そういう形の住民参加であるべきですよ。なんとか会議があって、住民の意見も組み入れて、要求があったからじゃつくりましょうかというのは、非常に形式的な住民参加ですよ。

田中　そうですね、まだまだ住民参加の実態として、その辺のコミュニケーションを吸い上げて動きまで持っていくには、弱いですね。

まちづくりの仕掛けのテクニック —リザーブ、リニューアル—

柏原　今後のまちづくりでは、いわゆるインフラと言いますかね、特に道の空間とか広場の空間とか、そういうものにもっとお金をかけて、たとえば喫茶店の前、将来喫茶店ができそうなところは道を広くしといてやったら、それほど近隣に迷惑をかけない、と。先ほど田中さんが言っておられた仕掛けというか、そういう意味も含めて、やっぱり発生する可能性が高いところにはしかるべきそういうインフラで吸収できるような処理をしておく、と。
だけど、インフラのどういう計画をやるというためには、将来そのまちがどういう形になっていくかということを読んだ上で、そこに仕掛けをしておくというような、かなり高等なテクニックを使わないかんのですけれども、われわれ研究者としては、まちの将来の姿

●ニュータウン散歩


子供の声がにぎやかに（千里南公園）


街角にできた喫茶店（洛西N.T.）

を予測するという方法とか、そういうのに興味があるわけですね。

田中　そういうのを読み切るというテクニックですね、あるいは哲学と言っていいんでしょうか、そういう見方につきましては、まだまだそんな一般化してないところもあると思いますし、非常にむずかしくて、むしろ出たとこ勝負というか、わからないところにドラマチックなまちづくりの楽しさもあるかもしれないんですけれど。それから先ほど先生がインフラとおっしゃった発想ですね、僕は本設・仮設という発想で考えたいんですが、まちづくりの中では、需要とかそういうニーズの変化に対応するためには、ある程度その時点での仮設的な発想で状況を受け入れるような場も要ると思います。でそれは大きなインフラというか、本設的なものは変化させないまでも、その仮設的なところでは適宜対応していけるような仕掛けは必要だと思います。

そういう意味で、計画上のリザーブ用地が、ほんとにリザーブ用地として機能したらいいんですけど、残念ながらいまのリザーブ用地は、たまたま空地で、当面使い道がないというような、マイナーなイメージがあるんですが、もっと積極的な意味でのリザーブ用地として、将来、10年先、20年先の受け皿として機能するようなものをやるべきじゃないかという気がするわけなんです。

加藤　そういう点では、公団では、サブセンター用地がね、経営が成り立たないので、ほっておいてるんですよ。とりあえずは子供の遊び場でいいからオープンにして、なんか様子を見ててね…。

かなりの単位である児童公園をどんなふうに活性化できるかとか、あるいはサブセンター用地をどんなふうにいまに合うもの、あるいは将来フレキシブルに変え得るような仕掛けを持ったものにつくるのかというのが、大事なのかもわかりませんね。

田中　最近のまちづくりで、ウォーターフロントという話でしたら、たとえば古い工場街とか倉庫、いままででしたら汚いとか、もうどうしようもないという感じで見捨てられていたところに、ある付加価値を求めて改修してやっていく、そうするとそこに人はまた寄せてくる、というような発想があるように、ニュータウンといえどもこれからはどんどんリニューアルというか、活性化いうことで、再開発がなされるであろうと思います。千里ニュータウンでも、聞くところによりますと、中央センターでも再開発みたいな発想でやられているというふうに聞きますので、公園であれ商業施設であれ、そういうリニューアルという視点でこれからやり直されるんじゃないかという気はしてるんですけどね。

行政対住民の構図

磯野　いやぁ、再開発にしろ、いろんなリニューアルでも、基本的に何か行政と住民が対立する構図いうのが、出来上がってしまってるでしょう。

加藤　そういうときにもっと行政がネックにならないような仕掛けを行政が持たないとむずかしいですね。

磯野　要するに、住民がそこに関与できるような保証と言うかね、そういうものに行政がどう柔軟に対応できるんかというのが、一番大きな問題……。

田中　そのときに、いつも住民対行政という二極構造で考えられるんですが、そういう中に、専門的な知識もお持ちの方でコーディネートされるいわゆるまちづくりのコーディネーターとか、あるいはプロデューサーと言いますかね、そういう存在の方がもっと要るんじゃなかろうかと思いますね。理想的に言えば、住民代表で運動化される方がそういう勉強をしてやっていけばいいし、あるいは行政が住民サイドの視点に立ってうまく仕組んでいけばいいと思うんです。そういう意味で、将来の建築家像として、本来あるべきような機能もやっぱり期待されると思います。

磯野　そういう組織がこれから必要になってくると思いますね。

田中　神戸市で、そういうまちづくりについてコンサルタント的な人が必要な場合は派遣しましょうという制度もあるんですけどね。そういう意味で、専門は専門としての職能を発揮できる場も大切じゃないかと思いますね。

磯野　いままでそれがないので、何かというと行政と住民との対立という構図が出来てしまうというようなね。

田中　そうですね。それと住民は、自分たちのまちって、近視眼的によく見てるんですけれど、それにも、多少いいところもあるし悪いところもあると思うんですね。ただ総論賛成、各論反対で、ゴミ工場は大事だけれど自分のそばは嫌、バス停は近くにあってほしいけれど自分の家の前は嫌だとかね、だからもっとグローバルな視点が必要だと思う。行政のほうも、住民の意見というだけで一律に考えるのじゃなくて、確かに住民の声は大事ですけれども、ほんとの意味の住民のニーズをどういうふうに具体的に持っていくかという判断の仕方、能力というのが、行政にも求められると思います。いずれにしても、行政対住民、どちらも“おらがまち”の愛情が要ると思います。行政の人も、住民も自分たちのまちをよくしようという、どこか一緒にやれる場があるし、さらにその専門的なノウハウを持っているプランナーが同じように双方の意気に感じてやるというのは非常に大事だと思いますね。

柏原　それが、最初に言いました、セネットの葛藤が必要だという話につながる…。いまのニュータウンは、あまりにも葛藤がない

●ニュータウン散歩



千里中央に接する新千里西町近隣センターは生き残りに必死



銭湯の跡地利用をめぐる住民と府の対立(新千里北町)

んですよ。家族でもお互いに議論するぐらいのそういうのがなくて、一人ずつが部屋に閉じこもっている、そういう状況がまさにニュータウンなんですよね。

均質化社会には葛藤と交流を

柏原　韓国の方というのは非常に家族の団結心が強いらしいですね。住宅が、わりに隙間だらけの住宅なんですね、で隣で何をやってるかとか、しゃべってるか、みんな筒抜けなんですね。ということは、葛藤も生じる可能性は高いけれども、要するに人間の交流というか、そういうものが非常に強いわけです。逆にヨーロッパ型の厚い壁でつくられた住宅というのは、個人個人が非常にプライバシーは守られているけれども、ある意味では非常に精神病理的な問題がいろいろ起こると。

私は、ニュータウンというのは、どちらかといえば非常にヨーロッパ的というか、西洋的な機能的な分割というかゾーニングというか、それが非常にきっちりしたまちだと思うんです。それは日本人の本性にはあまり合わないし、もっと交流するというか、ごちゃまぜというか、もっと日本型のニュータウン、泥臭くてもいいから葛藤するような…。

加藤　先生から交流という話が出たんですけれども、私がやってます関西学研都市のキー・コンセプトというのは交流なんですね。今後いろんな情報通信が発達すればするほど、何が必要かというと、フェース・ツー・フェースなんですね。

厚木ニュータウンの話で言えば、厚木ニュータウンは住宅地と大学と研究所の複合ニュータウンの例としてはかなり成功した例だと言われてはいるんですけど、そこにある富士通の研究所へ行って聞いたんですが、ほとんど大学とかあるいは研究所に通っている人は、そのニュータウンには住んでいないし、またそこの住民とも交流してないというんですね。関西学研都市の場合は、それではだめだと。その地域に住み、その地域の人たちと研究者とか大学の先生とかが交流しあう仕掛けをつくって、それでまちをつくりたいということで、やってます。今後、ニュータウンをつくるときは、交流というものをどんな形で多様に、ソフト、ハードの仕掛けをつくれるのかが、一つの大きなポイントになるような気がしますけれどね。

磯野　無菌状態の中で孤絶させられて生活してるという状況なんですかね。

柏原　まあそうですね、無菌状態ですね。生物学でも、無菌状態で培養されたものは、弱いらしいですね。そういう種は滅びてしまうと。

田中　いまは免疫をつけつつあるところですかね（笑）。

磯野　わたしら肌で感じるところでは、ここ5年ぐらい、千里に住んでいる人のタイプが、こういう言い方をしたら誤解があるかもわからんけれども、いままでとは変わった人が増えてきましたね。変にこだわりを持ち過ぎて、周辺ともなじまんと、ひとりだけでいろんなところに苦情を持っていったりなんやしている人とか……。

柏原　トイレットペーパーのときの、あのパニックも千里から、というふうなことが言われてましたね。要するに同じような行動様式というか。所得から、勤めているところから、物凄く均質化されてますね。郊外のニュータウンになりますと、もっと均質ですね。非常に異常な感じがしますね、それは。

加藤　公団は、ニュータウンをつくるときに賃貸住宅を適宜に入れてやる……、要するに住区に必ず一つ賃貸住宅というか、それも狭いのから広いのから含めましてあるようなつくり方をしないと、おっしゃったような弊害も至るところに出てますね。

田中　住宅においても分譲、賃貸、大小取りまぜて……まぜこじゃにせなあかん、と……。

柏原　価値観は、いろいろあっていいと思うんですが、ある階層の人ばっかり揃いますので、同じような価値観の人が揃うわけですね。それが一番恐ろしいことだと思います。子供でも、同じようなもので育っていくと、ある意味では非常に恐ろしい。

千里ニュータウンがつくられた当時は、住宅の形式と所得階層の関係で、学校でのいじめとかそういう問題があったんですが、最近ちょっと社会学の方の研究テーマも変わってるみたいで、もう一ぺんそのあたりの研究をやっていかなかったらいかんのじゃないかと思います。建築家は、ニュータウンとかまちの形態というものを景観とか町並みとかそういうデザインで評価しますけれど、ほんとに大事なのは人間の心理的な問題であってね、相当かかわり合いがあるんではないかと思います。

田中　そういう意味では、建築とか都市計画とかそんな話じゃなくて、もっと多様な方が行政のまちづくりにかかわる、そういうかかわり方があってもいいんじゃないかと思うんですがね。

詩や小説が生まれるまちへ

田中　最後に、皆さんのほうから、……もうかなり出てますけれども、一言ずつ、将来こういうニュータウンがいいなというような展望をお願いしたいと思います。

加藤　やはり住宅のメニューとして、いろんなものを用意する必要があるだろうと思いますね。住宅の供給タイプでも戸建から中層……まあ高層がどこまでなじむかがありますけれど、住宅のタイプ、それから供給方式ですね、コーポラティブのような仕組みとか、あるいはさっきちょっと触れましたけれど、戸建のコーポラティブをやってみるとか、あるいは集合住宅のコーポラティブをやってみるとか、それから手法でいけば、区画整理がいいのか、新住法がいいのかがありましたけれども、そういうことも含めて、さらに併用住宅も含めて、住宅のメニューとしてあげていく。街角施設とか、それからストリート沿いの併用住宅を積極的に生かしてまちをつくっていくことが必要じゃないかなというふうに思います。

それと田中さんも言われたことなんですが、やはり幹線道路沿いは、もう少しゆとりを持たせておいて、それがストリート沿いを将来豊かにするために使えるような、そういうインフラの仕掛けなんかもつくっていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

それからあと一点、私がいま一番心をいためてますのは、それは、地価の問題なんです。公団を例にとれば、いま圧倒的に多いのは、すでに家を持っている人が申し込むんですよ。どういうことかというと、持っているところはすでに含み資産として膨大な価値になっており、買い換えることによって、一挙に退職金の何倍かという資産を手に入れることができる。そういうような形で、公的ニュータウンの宅地分譲が使われてしまっているんですね。

磯野　やっぱり住民がそのまちづくりにどう関与できるかという条件ですか、それをつくっていけるような環境が必要になってくると思うんですね。千里の場合でしたら、近隣センターの活性化の議論なり計画というのは、市と千里センター、それと商業者ですね。



おや、水の中に入るのはどこの子？新しい広場のウェットスポットは子供のたまり場（西神中央センター）



緑も花も明るい太陽の中で輝くタウンハウス内の生活モール（神戸研究学園都市）



オシャレな出窓（金剛N.T.）



玄関先にもオシャレ感覚（西神N.T.）

生活のデザインを求めて



画廊もあるインフォメーションセンター（鳩山N.T.）

地区センターもやっぱり開発主体者の千里センターと、地元の行政と、そこで営業している人間です。もちろん権利は、そこにしか発生せんのでしょうけれど、やっぱり住民もそこに関与していくんやというものをどう保証できるんか追求したいと思うんですよ。

たとえば開発主体者がいろんな公園だとか住居だとか道路とか、そういう都市基盤をつくるのは、これはまちづくりのスタートだと思うんです。千里ニュータウンでも、その施設づくり、都市基盤の整備は進んだけれども、一番大事なまちを構成する住民のほんまの声というか、その意識を入れるのに、そういうシステムをようつくり得んかったと思うんです。やっぱりこれから新しいまちをつくるということで、そういうシステムとか保証とか、そこら辺を踏まえたまちづくりにしていってもらいたいと思いますね。

柏原　ニュータウンとは限らずに、いわゆる魅力的なまちづくりの条件は、大きく言えば二つあると思うんです。一つはまちのシンボルを持つということと、そしていわゆる多様な空間構成。そういう二つの条件が揃ってはじめて魅力的なまちということになると思うのです。

そのシンボルというのは、まちの構造が非常にわかりやすいと言いますか、ある意味では期待性というか、何か心のよりどころというか、そういうものを持つ。

もう一つは、きょう話にありましたいわゆる混在。これはある意味では、意外性というか迷路性というか……都市のですね、そういうものをニュータウンの中にも持たないかんということです。たとえば世界の都市を見ても、パリにしたって、シンボルにエッフェル塔がある。一方、まちの中に入ると、もう迷路状であって、街角に非常にしゃれたお店があり、非常に意外な遭遇がある。結局そういうまちから詩とか小説とかそういうものが生まれるんですね。現在のニュータウンからは、そういうものはおそらく生まれないと思うのです。われわれがニュータウン・ルネサンスとかなんか言ってこれからのまちづくりを考えるときは、結局は詩とか小説が将来生まれるようなまちをつくらないかんということです。その具体的な手法については、おそらくきょうの話の中にその片鱗があったんではないかというふうに思います。

田中　いずれにしましても、いままで多くのニュータウンがつくられ、そしてニュータウンがさらにオールドタウンとなろうとしておりますけれども、さらに新たなニュータウンとしての実験がこれからも必要じゃないかと思います。それをつくるつくり手の論理として、共につくる、ユーザーもつくり手も一緒になって考える、そして愛情をもって個性豊かな都市空間としてやっていくと…。いわゆる大きな意味の生活環境、生活のデザインをやっていかなあかんのと違うかなと思います。

きょうは時間も来ましたので、これで終わります。どうもありがとうございました。



とき／平成元年12月15日㈮午後6時～8時　ところ／日本建築協会会議室
オブザーバー／鈴木克彦、吉村英祐

ある休日の午後、千里ニュータウンで







しかし都心に職をもつ者にとってはナイスと呼べるシーンがあったことは伝えておきますので、皆様、春にでも一度確かめられては、いかがでしょうか。

編集委員　角島健二

84万坪、25㎡/1人、これは千里N.T.（広さ1160ha・350万坪・人口約11万人）の緑地の広さと人口1人当たりの緑地面積を表しています。千里は、その計画時点から敷地の約24%が緑地として計画され、現在に至るまで、N.T.のみならず近郊の市・町にまでその広大なグリーンゾーンを提供しています。



千里N.T.内のイチョウ並木



千里N.T.に近接するまちなみ

上の2枚の写真は、ともにN.T.を東西に横断する千里1号線のものですが、2枚を比較していただくとよく判るように、まちなみまでが一変してしまいます。



千里ニュータウン公園・緑地配置

ある秋の休日、N.T.のあちこちを廻ってみましたが、全体としては確かに緑が豊かであるという印象でした。が公園等にはあまり人気はなく、わずかに近隣公園とか、交通の便の良い地区センター近くの公園に見られただけでした。



ある近隣公園



地区センター近くの千里南公園

N.T.の施設としては住宅のほかには、日用品等をそろえる地区センター・近隣センターがあるばかりですが、人々は日常生活の印象をたち切るかのように都市に向かったのでしょうか。秋という季節のせいであったのかもしれません。



近隣センター



囲い配置の中庭

これからのニュータウン像を求めて

【設問】

1 これからのニュータウンのあるべき姿は、どのようなものとお考えですか。また、そのようなニュータウンを実現する手法あるいは条件としてどのようなことが必要でしょうか。

2 実際にニュータウンの開発事業をすすめてこられた立場から、今後のプロトタイプとしての事例がありましたら、ご紹介下さい。

3 これまでのニュータウンに住まわれたり、見てこられた経験から、ニュータウンに欠けていた部分、もう少し改良すべきだと思われる事項（ハード面、ソフト面）がありましたら、ご指摘下さい。

4 これから住んでみたくなるようなニュータウンのイメージ、印象のよかったニュータウン（国内外）の思い出等、これからのニュータウン像に関する自由なご意見をお願いします。

*

研究者、行政、民間ディベロッパー、コンサルタント、そして市民。何らかの形でニュータウンにかかわってこられた、あるいはかかわろうとしている方々に、上記の設問をし、それぞれのニュータウン論を展開していただきました。

以下に15人の描くニュータウン像を掲載いたします。

失われた神を求めて

神田昌幸

日本のニュータウンには、歴史をもった文化というものは存在しない。これは、日本において伝統的なコミュニティーを存続させながらのニュータウン建設という観点がなかったから、というよりも、快適な住環境の追求が、おのずと旧来のコミュニティーを否定し、日本式の住まい方に根付く文化性というものを無視しておこなわれたためであると私は考える。文化性と呼ばれるものが、景観と緑と文化施設のみによって獲得されると信じることは、とても私にはできない。かえりみて、何らかの落ち着きを有するニュータウンは、歴史をもった中核都市の周辺に存在しているケースが多く、住環境に関してニュータウンによる自立を目指した場合には、殺伐とした雰囲気もしくは無機的な様相を呈するのを禁じ得ない。

ここで、問題として取り上げたいのは、ニュータウン開発における「質」である。「基本的な生活環境は満たされた。さらにグレードの高い都市整備への希求とはいかなるものか」という問題意識である。これに対する一つの解答の方向は、ニュータウンにおいて象徴的存在を建設し、これにより人々のアイデンティティーを確立しやすくすることである。大学、大規模公園、シンボルタワー、フォーラム等の建設は、ハードを作成することにより、ニュータウンに欠落しがちなソフトを生み出す土壌を形成してきたと言えよう。しかし、これらをいかにアレンジしても、人間が自らのルーツを握ることにより得る強烈なアイデンティティーへの欲求に対する措置は、なおざりにされたままであると言わざるを得ないのである。違う表現をすれば、ニュータウンは、主として人間生活の明るい面を捉えた住宅開発をおこなってきているが、人間の安堵といったものは、必ずしも明るい側面のみを捉えて実現できる代物ではなく、いずれは、病・老・死といった人間の避け得ない「暗」の面に取り組んでゆくことが必要であるということだ。神と先祖のいない街にも、時の流れは等しく刻まれる。今後は、自然への回帰性を有する象徴的存在が必要と私は思う。

病・老・死とは、釈迦がその出家の契機となった人間の三つの苦しみであるが、現代のわれわれは、悟りではなく科学的方法により対処していかざるを得ない。まず、「病」に関しては、病院の整備、「老」に関しては、やはり病院と老人ホーム、シルバーマンション、リハビリセンター、ケアシステム、あるいは、今、さかんに日本における適応性が検討されているスペシャルトランスポート等が必要になってくる。ニュータウンとて、高齢化社会は他人事ではない。「死」に関しては、現在のところ最も取り組みが難しく、かつ、遅れている。セレモニーホールの建設はたやすいが、宗教性の伴う埋葬様式、墓地等の問題は意外と盲点であると同時に、対応の方法に窮する種類の問題でもある。

その当初より、風土を超越しているように錯覚していたニュータウンにも、やはり人為性、作為性の限界が押し寄せる時代は必ず到来する。伝承されるはずの宗教を失い、生活様式が伝えるはずの伝統的文化は衰微しながらも、利便性と快適性はどこまでも追求されていくのであろうか。新しい時代の、新しさだけを追求しないニュータウンに期待したい。

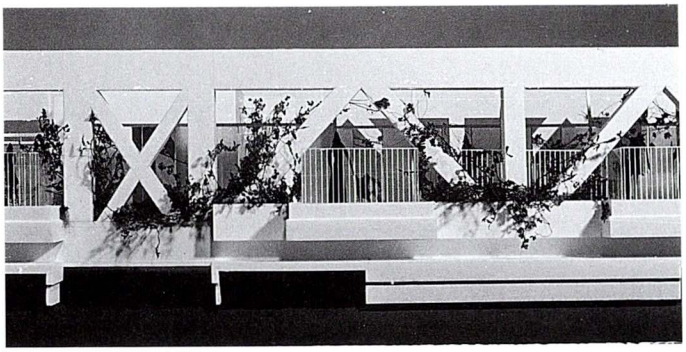
（かんだ　まさゆき　国土庁大都市圏整備局計画課主査）

ニュータウンに青い鳥はいるか?

清水治彦

1972年の夏、冷房の切れたむし暑い設計室で私は、トレーシングペーパーに汗を落としながら、ニュータウンにおけるコミュニティ構築の夢を見ていた。学生時代から続けてきた共同体（コミューン）の研究を建築という姿で提案していこうと考え、空中公園階を5層ごとに持った超高層住区をスケッチしていたのだ。

この提案がＡＳＴＭ芦屋浜高層団地として現実のものになるとは想像もしていなかった。と同時にまた、コミュニティスペースに対する夢が実現化の中で次第に挫折していくことになるとも想像していなかった。



超高層住棟における空中公園階のスタディモデル(1972)

あれから18年、高層居住の問題点は依然として解決していないが、それにもかかわらず高層住宅はニュータウンづくりの基軸として定着してきた。多くの場合、コミュニティ形成が希薄なまま、集住のメリットを生かしきれずに、近隣の住人のことを我慢しながら暮らしているのではないだろうか。

モノ・カネ志向のみが強まる世相の中で、階層混合や職住統合といったコミュニティ醸成のルーツとなる要件は切り捨てられ、ニュータウンでいくらホビー教室やスポーツ教室を開設しても、それだけでは本来的なコミュニティづくりには結びつきようもない。居住者は集住の楽しさや感動を実感できないうわべだけの豊かさの中で、日常環境から離れることこそが豊かさを実感するための必要条件と考えるようになる。これが国内、国外を問わず人々をリゾート地へとかきたてる原動力である。休日になるとニュータウンから「豊かな住民」たちが去っていく！

青い鳥を探し求めたチルチルとミチルのように、人々はどこにも見つけることができない「心のふるさと」を求めて彷徨するのだ。しかし「心のふるさと」は定住環境の中にこそ創らなければならないはずである。そのためには、住民が誇れる街、離れ難い街を創り、住民の連帯感を誘起することが重要であろう。

フンデルトバッセルが数年前建築した集合住宅は、住民の自慢の種であったが、今やオーストリアの新しい観光名所となってしまった。ハード面からでも住民の連帯感を生む街づくりは支援できる。住民の夢を大きくふくらませ、住民相互の連帯感を生む「楽しさ創造型」の街づくりを図ることが、これからのニュータウン建設の要諦であろう。そのためには計画者自身が最後まで夢を失わず、明確なアイデンティティを標榜して、実現化組織の中に共感を醸成していくことが肝要である。

（しみず　はるひこ　株式会社竹中工務店開発計画本部開発課長）

〝成人〟千里ニュータウンの若返り

桑田　潔

昭和37年、大阪府吹田市と豊中市にまたがる約1160ヘクタールの地に竹やぶを切り開いて造られた千里ニュータウン。当時、東洋一のマンモス街と言われ、ニューファミリーが入居。万国博覧会の開催（45年）もあって、ニュータウンのモデルとして全国的に注目された。しかし、27年余りの時が流れ、今や千里ニュータウンはニューファミリーの子供らが成長してニュータウンを出て、老夫婦らのお年寄りが多く残る〝オールドタウン〟に。

昨年９月現在で、65歳以上の高齢者は約7,500人（6.8%）で、特に分譲の一戸建て住宅や、開発時期の早かった吹田市佐竹台、藤白台地区などの中高層住宅でも高齢率が年々、高くなっている。

こうした高齢化の現象に合わせ、問題化しそうなのが、児童数の減少に伴う小、中学校の統廃合問題である。例えば、吹田市立竹見台小学校は52年、児童数の増加で分離することになったが、用地がなく、結局、敷地内に南竹見台小学校を新設、両校が同じグラウンドを使う珍しいケースだった。しかし、児童数の急激な減少で現在、両校合わせて約950人しかいない状況。他の小、中学校でも同様の減少傾向がみられ、統廃合はさし迫った問題になっている。

また、老朽化した建物の改修も難問の一つ。行政側が改修を予定しても、新建物で家賃が値上げされるのを警戒する居住者の反対で建て替え計画が難航している所も。

〝成人〟となった千里ニュータウンがこうした問題を抱えながら、いかにニュータウンとしての若返りを図るか。居住者らも問題の解決を行政側にまかせておくだけでなく、タウン内で交流しながら独自の解決策を提示していく必要がある。寝るために帰るだけのニュータウンではなく、居住者らの持つ情報や知恵を地元で出し合うことが大切では。

（くわた　きよし　毎日新聞大阪本社社会部記者）

左段よりつづく



フンデルトバッセルの集合住宅(ウィーン)

これからのニュータウン開発

山　地　英　雄

私は、特殊な目的でのものはともかく、一般的なニュータウン開発においては、「古いニュータウン」とか「新しいニュータウン」とかいった分け方はないと思います。

それは、開発事業主体が公共であれ民間であれ、計画の当初から施工中の各段階はもちろんのこと、事業の完成後においても、ニュータウン開発といった事業は常に、

① その事業区域と周辺地域との相互のかかわり合い
② 事業環境の変化に伴う事業期間や事業内容の変更
③ 社会環境の変化に伴う計画内容や設置施設の改変

等々を繰り返して、その中から生きた町が徐々に造り出されていくというのが実態だからです。

また、いかなるニュータウンも、最初からマスタープラン通りの姿で突然出来上がるものではなく、最も計画的にうまく事業を進めた場合でも、まず1000戸前後の近隣分区単位での入居のローテーションが精一杯です。ですから、生活に必要な諸施設はそれを対象に整備することが取りあえず不可欠になりますが、ニュータウン全体が完成して町の熟成が進んでくると、それまでの既設の施設の消長や転換は避けられなくなります。

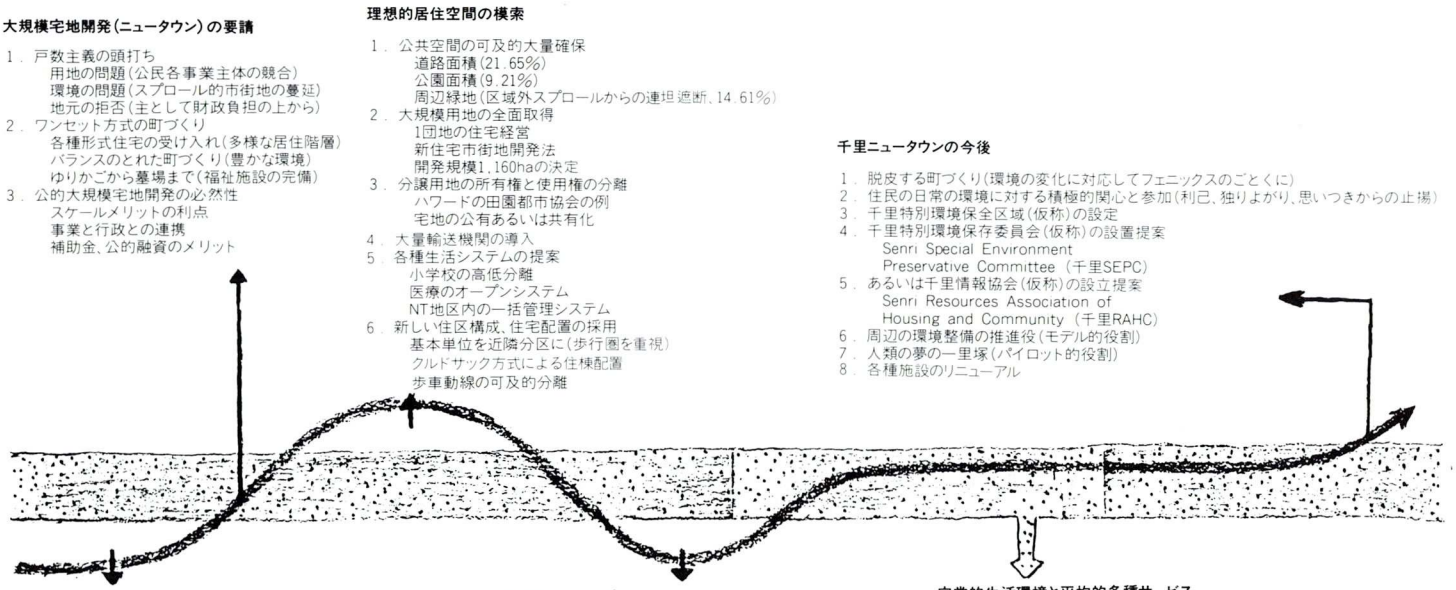
また、住民を受け入れた当初は、それらの人々の生活に関する各種サービスは、ほとんど開発事業主体の手によって行われますが、事業の進捗とともに徐々に地元市町村の行政の手にそれらのサービスは引き継がれていって、最終的にはその地元の行政の仕組みの中で、しずかに周辺の地域社会の中に融け込んでいくということになるわけです。

したがって、ニュータウン開発は、このような展開の中にしたたかに自らを改変していくシステムをこそ、私どもは当初からニュータウンの計画の中にはめこんでおかなければならないということです。

このようなシステムの一つが、事業手法としての土地区画整理方式とか新住宅市街地開発方式等であり、計画手法としてのポリセンター型とかモノセンター型等といったものです。しかし、いずれにしてもそれぞれのシステムと時代との対応について指摘するならば、それは公共と民間の参画の度合い、規制と自由との均衡をどこにとるかということです。

そしてそれはちょうど、いまの政治の争点となっている直接税と間接税との比率によく似ていて、公共が前面に出て拙速の町づくりを完成するか、あるいは地主をはじめ民間の力を活かしながらゆるやかな町づくりを目ざすかの問題だと思います。しかし、これは始めに述べたように「古い」とか「新しい」とかの問題ではなく、ニュータウン開発といった事業そのものの本質の一つだと思います。

しかしながら、最近の傾向として、できるだけ計画に余白を設けて、住民の参加で町づくりが進められるべきだという考え方もありますが、この場合はよほど良いリーダーとかアドバイザーに恵まれないと、少なくとも短期的には、町づくりそのものを取り返しのつかない混乱に陥れてしまうことになります。また逆に、公共にしろ民間にしろ、それぞれの役割を超えて、あるいは時代のニーズを自分本位に取り違えて、むやみに頑張っている例もまま見られますが、それは巨視的にみてむだであり、とどのつまりは収拾のつかない失敗に終わることにもなりかねないでしょう。



ニュータウンにおける居住環境形成の
一プロトタイプ(千里の場合)

(やまじ　ひでお　前・大阪府建設監理協会理事長
現・株式会社オオバ常勤顧問)

大都市地域問題解決型ニュータウンの登場

富安秀雄

1

ニュータウンというが、イギリス型の自立都市的なもの・大都市の住宅問題解決型の衛星都市・都市近郊の計画的新市街地(大団地)などいろいろの型がある。わが国では独立した形であってもニュータウンは地方自治体の一部であり、その意味では、大規模市街地であることを忘れてはならない。またニュータウンという名称も広い意味を持っているから、ここでは、大都市近郊の衛星都市で人口数万人以上のものについて、ニュータウンと称して使用する。

㈠ 今後のニュータウン開発は、在来の住宅問題解決に特化する条件が消失し、大都市地域の問題解決型が中心になろう。具体的には、産業・文化・交通機能などの都心への過度の集中の是正が大問題であるから、ニュータウンがこれらの機能を持ち、それによって相当自立し、その存在が地域の発展を支えつつ都市構造を変えるものでなくてはなるまい。そのためには、一定の人口は必要であるが、特に鉄道を中心とする大量輸送機関が新設され、効率よく母都市や、周辺都市と連絡する必要がある。このため、現在の道路と同等あるいはそれ以上の公的援助が、鉄道に求められる。

㈡ 形で言えば、用地入手が困難であり、分散した地区を相互に連絡して、一体的に機能させるタイプが一般的となろう。

2

関西学術文化研究都市(京阪奈丘陵)開発。

3

わが国の多くのニュータウンは、都市の発展とともに周辺市街地と一体化し、やがてその中に埋没し、水準の高いインフラとそのネットワークが，そこが計画的に形成された地区であることを物語るようになる。ところが、ニュータウンは、独立した町として計画される。これが行政的にはそうでないことはすでに述べた。周辺部との関係は十分意識されないし、またこれを求めるしくみもない。

……これはまずい。町の成熟と、それに伴う変化、周辺の発展との対応などが当初から考えられるべきである。

より具体的には、土地利用の変化に柔軟に対応できること、周辺地区の発展に対応する連絡交通整備・既成市街地中心の再開発とニュータウン開発のリンク、またその立地が永続的緑地や農地に接するときには、レクリエーション機能充実の意味を含めて、周辺部の保存・活用整備が計画的に進められることが必要である。

4

3に述べたタイプとは別に、リゾート型ニュータウンの需要が生じる方向も見える。全くの農・漁村地区に、ニュータウン区域を設定し、その中のごく特定地区を高密な市街地として(中高層住宅や、施設を中心とする)そこに居住・文化・就労機能を集中させ、20世紀に実現しなかった田園都市が生まれよう。マルチハビテーション・高齢化社会・高密居住の一般化・幹線交通網の発展などと、生活価値観の変化が、これを可能にすると思われる。

交通は、既存あるいは新設計画される全国的幹線ネットにきわめて近いことが条件で、これに結ばれねばなるまい。人口は既存人口のほかに数万人は必要で、1～2万人の地区を分散し、既存集落中心と融合する地域センターを設定する。開発事業の区域は、田園都市とするためには全区域の2～3%とし、かつ一開発地区の絶対面積は、500m角・25～30ha程度とせねばなるまい。

(とみやす　ひでお　株式会社市浦都市開発建築コンサルタンツ代表取締役社長)

神戸でのニュータウンづくりの経験から

田村健一郎

神戸市では〝山、海へ行く〟という表現の通り、内陸部と臨海部の開発をあわせ、すすめてきました。「海」においては、ポートアイランド、六甲アイランドという世界初の海上文化都市を建設し、産業・港湾の都市機能用地の拡充と新しい市民生活の経済的・社会的基盤の確立を図り、「内陸」においては、豊かな自然と調和した人間優先の須磨ニュータウンや、「住み」「働き」「学ぶ」という複合的都市機能をそなえた職住近接のまちづくりを目ざした西神ニュータウンを建設しています。

ニュータウンには、既成市街地での今後のまちづくりとの連携の中で、より多様な形でその担うべき機能が求められていくと思われます。その意味では、従来のニュータウンをより一層充実させるための計画的課題も多いように考えます。

今後、ニュータウンをはじめとするまちづくり施策には、都市空間としてのハード面の整備のみならず、これからの高齢化社会へ向けて、市民福祉の理念に基づくさまざまなサービスや情報の提供など、きめの細かい総合的なソフト面での対応が求められます。そういった視点から、住宅やさまざまな都市施設の整備にあたっても、従来の枠組みだけで発想せず、時代を先取りした形での多様なバリエーションを用意したり、実験していくことも必要になろうかと思います。そのためには現実の法制度をはじめとするさまざまな制約条件を、勇気と情熱をもってクリヤしなければなりません。

都市空間を魅力ある〝場〟としてしかけていくための、環境デザインの役割も大きくなると思います。とりわけ、都市空間のインフラとなる建築や公共空間のデザインは、都市全体のバランスおよび地域の個性化を図る中で、すすめていかねばなりません。ポートアイランドや西神ニュータウンなどでの景観形成計画の取り組みは、その第一段階だといえます。さらに「うるおい」や「やさしさ」が感じられ、文化の香りがするニュータウンの環境を実現するために、それまであった自然と新たに生み出す自然との調和の中で、アートを介した豊かな都市空間を、生活利便施設の充実や産業振興の基盤整備等と矛盾することなく実現していこうとしています。

ニュータウンもいずれはオールドタウンとなるであろうし、生活空間の中心は「人間」としての市民であり、多様な価値観や時代のニーズの変遷等を考慮すれば、いかに理想的な計画を策定しても、その実現にあたっては、私たちはより柔軟に対応し、「参加と対話」のもとに、愛情と情熱をもって取り組む必要があると思います。

(たむら　けんいちろう　神戸市開発局計画課課長)

左段よりつづく

空間の機能複合体づくりへ向けて、矛盾する価値をいかに共存させるか

大久保　昌一

1

ニュータウンのあるべき姿としては、社会的にも機能的にも融合化したものが望ましい。社会的融合化とは、どのレベルでの融合化かということについては議論のあるところだが、社会階層・職業階層・年齢階層など階層的分離を避けて融合化させること、さらには人種的、民族的にも融合化させることが望ましい。機能的融合化についても、空間的レベルの問題はあるが、いろんな機能を分離し隔絶しないで、融合化させることが望ましい。言葉を替えて言えば、空間の個別機能化ではなく、機能複合体づくりが大切だ。生産と消費、労働と遊び、遊びと勉学などかつては分離されていた機能をも積極的に融合化させることである。プロシューマー、リゾート・イン・ザ・シティ、フレキシ・タイム、ワーク・イン・ザ・ホーム、ライフ・イン・ザ・オフィスといったコンセプトや現象がより一般化することが考えられる。そのため、ニュータウンの計画は、これまでのように合理主義によって一方的に煮詰めていく方式のプランではなく、矛盾した価値をいかに調和的に共存させていくかということに、関心を集中させるプランニング・アティチュードが必要だ。

2

プロトタイプというべきものは、ないと言ってよいのではないか。これまでのニュータウンは、産業社会において必要とされ、産業社会の論理で計画され、建設されてきた。プロトタイプとみなされるニュータウンは、ポスト産業社会の必要に応えるものであり、ポスト産業社会の論理によって計画され設計されたものでなければならない。そんなものは、まだ生み出されていないのではないか。ただ、部分的にプロトタイプがもつべき特徴を備えたプロジェクトに遭遇することはできるであろう。例えば南仏地中海岸沿いのラングドック・ルシオンの自由時間都市、ベルギーのルーヴァン・ラ・ヌーブの新大学都市、新都市ではないが、ウォーターフロント関係ではテキサス、サンアントニオの都心部のリヴァウォーク、ボルチモアのインナー・ハーバー、ロンドンのドックランズ新都心開発（ニュータウン・イン・タウン）などをあげることができるであろう。しかし、あくまでも、部分的であって、トータルにプロトタイプと呼ぶべきものはない。それは、これからの仕事である。京阪奈学研都市にそれを期待している。

3

ニュータウンと言いながら、実はタウンではなく郊外(サバーブ)づくりになっていた。まちとしての連続性が実現できなかった。ストリート・アーキテクチャーを扱うことが不得手であり、まちづくりの基本的要素がストリート・アーキテクチャーであるという認識に欠けていた。これでは、ニュータウンと言いながら、ニュー・サバーブづくりになってしまうのも無理はない。中世都市は、新都市としてつくられたものが多いが、彼らはインフラと建築を同時に構想し、計画し、デザインして、都市づくりを行った。現在一般化している計画と設計の分断、インフラと建築の分断が、一体的都市づくりの範例としての中世的伝統を壊してしまったのである。それゆえ、ストリートスケーピングもタウンスケーピングも、計画－建設過程から落ちこぼれていってしまうことになったのである。

プランニングとシビックデザインの統合的プロセスを実現することによってストリート・アーキテクチャーをまちづくりの主要素として取り戻し、まちの連続性を実現し、小手先の修景ではなく、まちづくりの視覚的構造、ストリートスケーピングを実現することが大切だ。

4

ニュータウンを、方々見学に行った。それなりに見るべきところがあり、たくさんのことを教わったが、最終的な印象は、軽いものであり、われわれの価値観をランクアップさせるもの、魂を揺さぶるものにはお見にかかれなかった。例えば、イギリスのニュータウンは、われわれにとっては大先達の範例であったわけだが、バーミンガムのスケルマーズデール・ニュータウンは、バーミンガム旧市街に劣るし、リヴィングストン・ニュータウンは、エディンバラに劣る。ミルトンキーンズ・ニュータウンもミルトン・キーンズ村に比べてはるかに魅力に欠けると言わざるを得ない。初期のウェルウィン・ガーデンシティやスティーブネッジの方が、その後のニュータウンよりは見ごたえがある。もっと言えば20世紀初期のアンウィンのハンプステッド・ガーデン・サバーブの方がはるかに優れている。これはどうしたことか。機能主義的計画やデザインの限界と言わざるをえないように思う。

機械をモデルとしたニュータウンから生物をモデルとしたニュータウンづくりへの、方向転換が必要であると確信する。つまり、ニュータウン計画のパラダイム・シフトである。

（おおくぼ　まさかず　大阪大学法学部・教授）

右ページよりつづく

3．生活水準の向上により、豊かな生活を求める時代を反映した公営住宅一部屋増築問題、老朽化・狭小化する分譲中高層住宅の建て替え等の問題。

4．投機的な地価の急騰が適正な住宅流通を阻害する一方、高騰する固定資産税や相続税等が定住を困難にする等の問題。

5．高齢化の進行にともなって、プレイロットよりゲートボール場の要求が強まるなど、老人のための施設の充実問題。

以上、いくつかの問題点を述べてきたが、その問題の根底には、社会の変化につれて都市もまた変化を迫られるものであるという認識にたつということである。そうした変化に対応しうるストックのある都市、20年先、30年先を見越したフレキシブルな都市をつくれるかどうかが、これからのニュータウンをつくる上で重要なことだと思われる。

（かただ　としひこ　大阪府企業局宅地事業課課長）

社会の変化に対応するフレキシブルな都市づくり

片　田　俊　彦

昭和30年代、日本が高度経済成長をとげようとしたはしりに、日本で始めての大規模ニュータウンが大阪に生まれた。千里ニュータウンである。かつては、タヌキ、キツネの住まいと言われた竹藪が、いまや高級住宅地として変貌していった背景には、先人達の時代を見越した英知と決断があったればこそと思う。

そして、その10年後には、千里の経験を生かし、より良き都市環境を目指して泉北ニュータウンの建設も始まり、現在、その最終段階を迎えている。豊かな緑、都心まで30分という地の利、教育環境等にも恵まれ、関西屈指のニュータウンとして発展してきた。

しかし、こうして作られたニュータウンにも、社会情勢の変化にともない、さまざまな問題が浮かび上がってきている。

以下、いくつかの問題点を提起したい。

1．ニュータウン計画の基本概念では、近隣住区において日常生活全般を充足させることを基本としていたが、車社会の到来により、住民の日常行動圏が広がる一方、大型郊外店などの進出や、住民のニーズの多様化によって商圏に変化が起きている。それらに対応する地区、近隣センターの活性化の問題。

2．急激な車社会の進展にともない、集合住宅地周辺における不法駐車問題。手軽な自転車、ミニバイクによる駅前周辺における不法駐輪問題。



駅周辺に放置された自転車、ミニバイク



オープン緑地を削り、駐車場に改造（近隣センター）

人間も空間も混在させたニュータウンに

笠　原　紀　子

ベビーブームに生まれた私。何もかも私たちの世代からマンモス。競争社会でした。それゆえ、画一化され競争するためにスタートラインに立たされているような錯覚を覚えた、子供のころの千里ニュータウン。

心の安らぎが感じられないニュータウン――建物や道路に見るハードなラインと冷たい色には人影は似あわない印象でした――、には住みたくないと思いながらも、職住近接を願い選んだのが、リバーサイド友渕でした。隣にはベルパークシティが続いています。市の中心部まで地下鉄でも30分ぐらい、タクシーでも2000円だせば移動できますので、都市の空気をすいながら生活できる所だと思います。

行政や法律の知識は薄いのですが、こんな所に生活したいなあ、気持ちがリラックスできるだろうなあというイメージがあります。それは、初めて外国に行ったときに見た、オランダの田舎、ドイツの街や田舎の風景です。絵本そっくり、大人の遊園地みたい、架空の世界じゃなかったんだと感激したのを思い出します。家の形・色、庭の花や樹、塀、歩くと楽しい違った形の道などを。

最近の一般的な大阪のマンションは100㎡ぐらいの広さを取り、家族4人が部屋の中で暮らせるようにはできていますが、のんびり散歩する所、公園ではなく子供が遊んだり、日なたぼっこができる空地、管理されてない、視線を感じさせない自由な空間がありません。ぜひほしいと思います。

充実したニューライフにカルチャーセンターやスポーツのトレーニングジムを加えるのも、何かあおりたてるようで、忙しい暮らしの感じがします。

家の周りを歩くと気持ちがリラックスする、例えば石、レンガ畳の色・形が楽しい、彫刻は手でさわれる所にたくさんある、花や木や草や池etcも私たちの手がふれられる所にあり、足を踏み入れてもいいようになっている、そんな画一化されない統一されすぎないルールのある空間がほしいと思います。

それにニュータウンの入居時には比較的若年層が多く、そのまま年月が進むと、そこは老人の方が多い町になってしまうので、外景や間取り、価格も多種多様提案され、日本間が多いとか、内装は全部アメリカ式とかヨーロッパ調とか、小家族向けの2LDK、平均的家族向けに4LDKや6LDKをワンフロアーに、一棟に混在させてはいかがでしょうか。初めからいろんな年代層の方々が集まるようにしてほしいものです。特にマンション生活でも自然に年が取れますように…。私たちが高齢者になったとき、幼児や若者が目に入らない町なんて、自分が本当の年寄りにならなければいけないなんて、淋しいものです。

また、ミニホール（コンサート）、図書室、音楽室（楽器が自由に使える）、ゲストルーム（ホテルの代行）も建物内に組みこまれていれば利用したいものです。外回りは美的空間を自然志向で、建物はハイテクの24時間管理で、人間優先の住環境をもっともっと創ってほしいと思います。

（かさはら　みちこ　主婦）

海ぎわニュータウンのすすめ—「リンケージ開発」の導入を—

千葉桂司

これまでとこれからのニュータウン

—1—

1980年代は産業構造の大転換に加え、市民の生活価値観に大きな変化をもたらした時代であった。'90年代は、それらが一層進み、特に「生活・文化」に関わる動きや変化は、見せかけから本当の豊かさを発見する時代に入るのではなかろうか。こうした中で、ニュータウン（以下、ＮＴ）の考え方も変わってきておかしくはない。

千里ＮＴは、いつまでも「実験都市」と呼ばれる。ＮＴならではの副都心的利便性や住環境ストックの素晴らしさを教えてくれた反面、今まで経験しなかったさまざまなＮＴ問題（高齢化、宅地細分化、建て替え等）に直面し、解決を迫られている。同様に他のＮＴでも、機能混在・生活文化サービス・住宅需要・地域整備・開発期間の長期化といった面に十分応えられなくなると同時に、高齢化・情報化等の社会的要請もその強さを増してきた今日、これらを満たしうるＮＴづくりは大きく転換を余儀なくされている。そして一番の問題が土地問題による用地取得難・遠距離化であることは言うまでもない。

—2—

では、これからのＮＴづくりを、大まかにイメージしてみよう。まず丘陵地型大規模ＮＴから小規模クラスター型ＮＴとなり、したがって今まで以上に、①緑の保全が大切になり、②クラスター間のはざまゾーンの修復的再整備をとり込んだ総合的開発が求められよう。そしてハード中心からソフト重視へ移項し、③多機能混在型、④多様なスタイルの住宅供給とサービス、⑤生活文化施設の混入と運営、⑥街としてのしつらえ、景観デザイン、⑦住民の参加・交流できる仕組みづくり等々が計画される。そしてそれぞれのＮＴにふさわしい独創（シンプル）によって個性を獲得してゆくのではなかろうか。

ニュータウンを海ぎわに

—1—

ＮＴが大都市郊外から内陸・山なかに向けて遠くなる一方で、「海ぎわ」に眼を転じてみてはどうか。そこには素材型産業・物流機能等の構造変化により、用途転用・遊休地化による大規模用地が、既成市街地に近接して大量に発生することが予測されている。例えば大阪湾ベイエリアでは、開発可能用地は約２～４千haにも及ぶとも言われている（国土庁調査）。これは千里ＮＴの２倍以上、関西学研都市（約２千ha）や多摩ＮＴ（約４千ha）にも匹敵する。これらの用地を活用するのである。地域特性によりいくつかのセクターに分割、それぞれをＮＴとして一つの総合計画のもとに関連位置づけ、開発および再開発をしてはどうであろうか。

この海ぎわゾーンがＮＴとしての一体性を確保するのは、①計画策定と合意形成、②機能の配分と複合、③個別開発の促進と誘導、④高地価対策等、今までにない難しさがあるものの、メリットとして、①都心部に近いため高密度・複合開発の可能性大、②インナーシティー対策、③海をとり戻した魅力ある生活空間の拡大、等々大きなものがある。

そこで、市場経済を生かしつつ開発コントロールを行い、ゾーン全体がＮＴづくりに向けて動くための新たな手法が必要となる。例えば、①総合計画・誘導プログラムづくりのための官民合同組織づくり、②規制・誘導のための法または制度、および自治体の権限拡大、③用地取得を最小限にする民活策、④住宅付置義務等の供給方策、⑤開発負担ルールなどである。

—2—

こうした手法の中で、特に「リンケージ開発」を導入すべきと考える。と言うのも、単純開発の少なくなった今日、新都市開発は一つの事業で完結するのではなく、それにリンケージして他の開発・整備・再開発を行うことにより、波及効果を広く及ぼし得ること、また、開発者の良いトコ取りの開発を防ぐためにも役立つからである。例えば、①都心部ないし密集市街地整備とのリンケージ、②商業・業務・先端産業立地と住宅供給のリンケージ、③郊外ＮＴと海ぎわＮＴとのリンケージ、④海上利用・レジャー機能整備とのリンケージ等々、事業の促進と拡大につながるはずである。

海ぎわ全体の再編・総合計画をぜひすすめ、時間をかけてもそれぞれが楽しくて魅力ある新しい「海ぎわニュータウン」となることを期待したい。

（ちば　けいじ　住宅・都市整備公団関西支社淀川市街地整備事務所長）



右ページよりつづく



多摩ニュータウン稲城地区の店舗可能スペース付住宅

（ほそい　ゆかり　住宅・都市整備公団南多摩開発局事業部事業計画第２課）

多様な活動の場としてのニュータウン

細井ゆかり

平成元年は「女性が強くなった」という女性にとって大変失礼(?)な言い方がされた年でしたが、女性の生き方がもう揺り戻しがきかないほど変化している、というよりも多様化していることは事実だと思われます。私の周囲を見回しても、一般的な主婦はもちろん、結婚する気のない人、フルタイムの仕事を持ち子供もある人、近所の人と会社をつくった人、家事の傍らプロのアーティストを目指す人、留学する主婦などなど。これからももっと多様化していくことでしょう。したがって、ニュータウンの将来課題としてはさまざまなものがあると思われますが、その一つとして、このように多様化する女性の暮らし方、家庭のあり方への対応ということがあげられるのではないでしょうか。

ご承知のように、ニュータウンは都心からは離れたものがほとんどですし、今後ますます遠くなりつつあります。また既存の街の文脈からも孤立し、いわゆる従来的サラリーマン家庭を想定した住戸が建ち並ぶものが大半です。確かに近年はデザインが向上し、緑も豊富ですが、それが時折、女性のための巨大な美しい檻のように思えてしまうことがあるのです。ハウスキーパーとしての女性は住居を遠く離れることは難しいでしょうし、居住機能のみに特化したエリアの中では活動の範囲はずっとせばめられてしまうでしょう。また、このような都市から孤立したベッドタウンであるということからくるニュータウンの問題は、女性ばかりではなく、リタイアした高齢者や、サラリーマン以外の仕事を望む男性など、地域に根ざして新たな活動をしようとする人達にとっても共通点があると思われます。

これからは、住むということの意味を、働くことや生きることまで含めて捉え直し、かつて住戸レベルでダイニングキッチンという形で女性の新しい暮らし方を提示したときのように、街づくりレベルで新しい暮らし方を追求していくべきではないでしょうか。

では具体的にはどんな方法があるのでしょうか。非常に難しい問題ですが、考えられるものを以下にあげたいと思います。

① ニュータウンの多機能化……業務機能、文化機能、商業機能、レクリエーション機能などの核をニュータウンの中に設け、単なる住宅地ではなく、特徴的な都市を指向する。

② 身近な活動の場とソフトの提供……住宅とコンプレックスした、あるいは地域コミュニティの中で得られる事務所、サテライトオフィス、店舗、工房、アトリエ、スタジオ等。またこれらを支えるサービス。

③ 街づくりへの住民参加……調査、企画、一部施設管理など街づくりに関する業務への住民参加。

①については、公団のニュータウンでは、特定業務施設の導入という形で、都市としてのニュータウンづくりが進みつつあります。②を、私は重要と思っています。多摩ニュータウンなどではプラスアルファルーム付き住宅等として、店舗やアトリエ付きの住宅などはつくられていますが（**写真**参照）、今後も多様なニーズに合った形態や種類の検討が必要と思います。③については、実際はかなり難しいと思いますが、住民の個性に合った街にしていくためにも、大切なことなのではないでしょうか。

時代の変化とニュータウン開発

飯塚良太

複合都市への新しいトレンド

現在進行中のニュータウン開発計画の多くは、住の要素だけでなく働の要素をもった複合都市を指向し、職住近接の新しいライフスタイルの実現をテーマとして掲げている。この方向性は、これからのニュータウン開発の基調になるものと思われる。

東京ウォーターフロント開発の先駆けとなる大川端・リバーシティ21計画の超高層マンション「リバー・ポイントタワー」では、マンション入居者専用のプール、レストランなどを設け、ホテルなみのサービスを行い、従来の賃貸マンション、下町地区のイメージとはまったく異なったライフスタイルの実現に成功している。

また、東京から20km圏、川崎市の内陸部の「新川崎インテリジェントシティ」では、大規模面開発マンションとあわせて、31階建のインテリジェントオフィス２棟を中心とする郊外型業務地区を建設、日立製作所、キャノンなどの入居により川崎市の新副都心のシンボルとなっている。

時代の変化への対応

紹介した二つの事例は、当初いずれも分譲マンション中心の事業計画がたてられていた。しかし東京への一極集中、産業の情報化・ＯＡ化などを背景に、オフィス需要の急激な高まりに起因する地価高騰は、首都圏の土地利用に大きな影響を与えた。東京駅から２km圏内にある大川端は世間から大きく注目されるとともに、社会問題化しつつある不動産投機の絶好の標的とされる恐れが高まった。また、都心部で吸収しきれない旺盛なオフィス需要は、従来のオフィス立地を大きく拡大し、郊外へもその目を向け始めた。一方、都市生活者の意識は、自分のライフスタイルにあわせた快適性や潤いの追求を一層強めつつあった。

そういった状況のもと、当社は計画内容の全面的な見直しを行った。当時、都心部での大量の戸数の賃貸マンションや、郊外での大規模賃貸オフィスの供給はマーケット的にはきわめて不透明な事業分野であったが、いわば時代の変化にしたがって計画が変わったのである。

これからのニュータウン開発

長期にわたる開発事業では、開発コンセプトの構想から実現までのタイムラグは10～20年におよぶ。これまでのベッドタウンの開発でも、完成時点では都心外縁部のマンション立地に、当初計画の制約から戸建住宅が建ち並ぶといった時代とのミスマッチは再三経験してきているところである。そしてこの問題は、複合都市の開発をめざすにあたって一層顕在化し、街の成熟、発展に大きな影響を与えるものと思われる。

これからのニュータウン開発にあたっては、時代の変化に機敏に対応し、開発のおのおのの時点で先進的な試みを行える柔軟なフレームづくりを官民の協力のもとで行ってゆくことが、最も重要な手法となってくるのではないだろうか。

（いいづか　りょうた　三井不動産株式会社関西支社開発企画課長）

つくり続ける街なみ

森　　裕史

――今日は、これからのまちづくりということで皆さんに集まっていただきました。活発な意見をあげていただきたいと思います。――

*

A：「うちでの景観とか環境とかについての提案は、具体的には岡山ネオポリス（岡山県山陽町）でやった高規格住宅がはじめてといっていいんじゃないかな。あれは、単品から街並み、そして都市景観までを作る思想の具体化で、以後、各住宅供給公社との協同とか、事業コンペという形での提案がなされてきたんじゃないか。」

B：「この間の三田フラワータウンの事業コンペでも、外構の統一はうまくいったと思いますね。ただ外観の統一では行きすぎではないかと感じています。もっと住む人のプロフィールを表現するような形での多様性が要求されていますね。特に最近の事業コンペでも宅地計画と道路計画が決められたうえでの一部の区画での提案が要求されているから、全体を意識しながらの提案が求められていますね。」

C：「私も、統一性と多様性をどのように盛り込んでいくのかが、ポイントになると思いますね。」

A：「日本の街の魅力は、よく外国の人が言うんだけれど、その無秩序さにあると思う。作ってはこわし次々と発展してゆくスタイルが魅力的だなあ。京都とかヨーロッパでもぐちゃぐちゃだ。」

D：「僕がしばらくいたイギリスでもピクチュアレスクという景観の考え方が根底にあるんだけど、あれも素材と形はばらばらなんだけども、ある秩序があって、それが魅力的に見える。」

E：「日本の住意識は、外国と比較してみたら面白いと思うなあ。日本では、個人優先のまち、まあ、わがまま主義とでも言おうか、家に囲いを作ってしまう。家と土地に永遠性を求める定住志向がとても強い。一方、アメリカでは歴史はないから土地の永遠性は求めない、そして環境が住む人を選んで、住みわけている。ビバリーヒルズの街を見たらびっくりするんだけれども、住民がきれいに自分の庭から街路までを掃除している。これはまあ言ってみたら環境に投資して住みかえ（ｍｏｖｅ-ｕｐ）したときに高く売ろうという経済的な部分がとても大きいということで、時には環境にそぐわない住民を追い出したりする。また、ヨーロッパの場合は外観とかもとてもきれいで、出窓を花で飾ったりするけれども、あれは社会的義務であって、ファサードは社会の顔とまで言えるだろう。」

*

――これまでの話の中で、一番重要なのは、住民の意識なのではないか。特に、生活者の多様性と自主性に基づく、個性を演出しつづける街づくりを考えたときに、その中にあって調和のとれた街に求められるのは、住民の良識とそれを具体化するような環境教育なのではないか。また、開発者としたら、いろいろな未来予測も含めながら、変化に対応する余地、たとえば駐車スペース、増築スペース、都市施設を残し、まちづくりを誘導する仕掛けを用意するという態度が要求されているのではないかと思う。（まちづくり座談会より）――

（もり　ひろし　大和ハウス工業株式会社総合技術研究所研究開発部）

畑違いのディベロッパーとして

藤社　　啓

私とニュータウンとの関わりは、大規模で新しい街づくりとして注目を集めた千里ニュータウンの一角で学生時代を過ごし、目の前に拡がるニュータウンの光景を眺めながら、設計課題の「団地計画」に取り組んだことが最初であった。それ以来、住み手として以外、ニュータウンに関わることはなかったが、ここ数年来、自分自身の仕事としてディベロッパー業務に取り組んでおり、ニュータウン開発にも事業者の立場でかかわっている。なかでも神戸市が西神ニュータウンにおいて実施した中高層集合住宅の事業コンペに当選し、ディベロッパーとして計画を具体化したので、この事例を含めて、これからのニュータウンのあり方について少し触れてみたい。

まずニュータウン開発は作り手側にイニシアチブがあり、住まい手は基本的に受け身である。この点で、より良い街をつくるため公共、民間を問わずディベロッパーの責任は重く、都市づくりへの真剣な姿勢が必要とされる。画一的なマッチ箱が並ぶベッドタウンではなく、個性あふれ調和のとれたアメニティのある住環境をつくるとともに、多様化した住まい手のニーズに対応した選択肢を拡げるため、集合住宅等の住戸についてもいろんな面でバリエーションをより多く持つべきであろう。こうしたディベロッパーの責務を果たし創意工夫を引き出す手段のひとつとして事業コンペ方式があり、ここで計画されるものはそれなりにニュータウンのあるべき姿を提言しており、今後のプロトタイプのひとつとなるであろう。ただしこの方式は、行政と住まい手にとって都合の良いものである反面、ディベロッパーにとっては採算面等、なかなかしんどいものであるが……。

私どものコンペ当選案においても、新しい街づくりへの提案を行ったつもりなので、少し宣伝を兼ねて紹介させていただくと、まず、自然環境を最大限生かすことをコンセプトとし、個性的で表情豊かな全体フォルムを形成するため、1haの敷地の中で住棟を4つに分割し、各棟はワンフロア4住戸とミニマムに押さえ、さらに雁行型の住棟配置とし、風がそよぎ、光あふれる住空間を創り出し、名称もヴァンヴェール（緑の風）と名付けた。また、全体で188戸の住戸に対して、画一化を避け、73のタイプを設けて、できる限り住まい手のライフスタイルに応じた選択を可能にしている。一方、コミュニティの場として、ストーンサーカスとグリーンサーカスと名付



ヴァンヴェールＫ2完成模型写真（神戸市西神ニュータウン）

「ピーターラビット村」や「地球人村」等のある集住複合体

延　藤　安　弘

〈階層的パラダイムからコミュニケーション・パラダイムへ〉

新しい時代のニュータウンは確実にデフォルメさるべきだ。ここでいうデフォルメとは単なる訂正・変更ではなく、ピカソがヴェラスケスの『侍女たち』から出発し、ブラームスはハイドンの主題から出発して、二人とも魅力あふれる変奏をつくり出したような、独自な天啓をふくんだ造り直しあるいは変形をすることである。

新しくつくる場合も既存の改善の場合も、ニュータウンをデフォルメするには、住むことにおける想像力の質が問われてくることが最も大切だと思う。その担い手としては、専門家と住み手集団の双方があげられる。

かつて、急いで大量に住宅建設をせざるをえなかった頃は、専門家側は住み手集団のコミュニティ形成を予定調和的に仕組むために、一方的に階層別にハウジング・グループを構成した。ある意味で、その計画の方法はビューロクラティック・パラダイムであった。

しかし、ゆっくりと適量をつくりつつ個性的住文化を育てることにニュータウン開発のねらいが変わってきた今、専門家は住み手集団と対話のチャネルをひらき、住み手集団間内部では良質な人間関係含みの住まい環境づくりに向けての自由な論議をすすめながら、共歓的集住文化をデザインする方向がきりひらかれるべきである。

「官僚的パラダイムから文化的パラダイムへ」、「階層的パラダイムから相互作用（コミュニケーション）パラダイムへ」と計画・事業の基本的枠組みを変えることによって、ニュータウンのデフォルメは可能となる。

〈人間的機微を生かしたコミュニティへ〉

ニュータウンづくりに相互作用パラダイムを導入することは、それがどこにでもあるような場所（anywhere）ではなく、どこか（somewhere）に似ていると感じられる場所を創造することを可能にする。あわせてそれは、ユーザーの生の経験と想像力を反映した価値ある人間的機微（human detail）を生かしたコミュニティづくりをひきだす。

これらのことは、部分的にすでに実践されてきている。例えば、洛西ニュータウンのコーポラティブ住宅ユーコートをはじめ、いくつもの優れた事例が輩出されている。

こうしたサクセスストーリーを点から面におしひろげるには、大胆できめの細かい仕掛けがいる。これからのニュータウンの住まい・環境が、主体間の相互触媒的関係の中で発展をとげるためには、次のような居住者集団を意図的にまきこむ作戦が必要である。

第一に自立化を促すライフスタイルや価値観を推進し、第二にコミュニティにおける相互扶助やバーター（直接交換）的関係を重視するような住み手集団を組織化することである。そのためには、具体的には次のようなグループ形成をはかるとよい。

例えば、郷土愛によって結びあう県人会村、若年期の思い出を共有しあう同窓会村、のびやかな環境の中で子育てを行うフリースクール村、芸術家たちの創作と周辺住民への伝授の場としての音楽村・陶芸村・演劇村等、共同菜園にいそしむ人々のピーターラビット村、各国からの学びの徒の集う留学生村、世界各国からの日本愛好家たちの地球人村…等々。

これらの多様な集住複合体（ハウジング・コンプレックス）は、目的にあわせて10～100戸のグループをなし、自立するとともに、相互に豊かにコミュニケーションをはかることにより、すべての住み手が自己表現、創造、共生の機会をもちえ、時とともに生成するコミュニティとなっていく。

（えんどう　やすひろ　熊本大学教授）



左ページよりつづく

けた２つの広場を設けており、盆踊りなど四季折々のシーンは、住まい手によって演出されることになろう。

次に、私どもはウォーターフロントなどの社有遊休地再開発という課題を抱えており、まさに21世紀のニュータウンづくりを目指しているが、これについては別の機会に触れることとしたい。

それにしても異常な地価高騰（と建設費高騰）は、街づくりへのわれわれの夢と想いをつぶしていく。何とかならへんかな……。

（とうしゃ　ひらく　株式会社神戸製鋼所アメニティビジネス本部地域開発部課長）



既成市街地に計画的に住機能を

再開発型ニュータウン
—都市の住まいづくり—

山本英夫

ここでいう「再開発型のニュータウン」は、都市機能が低下した既成市街地を再整備して、新たな住機能に計画的に転換するものをさす。1960年代後半から大都市圏の住宅・宅地需要に対応してきた、いわゆるニュータウンが計画人口30万人以上にも及ぶのに対して、再開発型のそれは規模でいうと1住棟の建て替えなどの小規模なものから、大きくてもせいぜい1万人程度までではあるが、都市住宅の供給方法としては極めて重要で、近年取り組みが進みつつある。

「再開発型」の分類——大きく4つのタイプ

再開発型といってもさまざまなタイプがあるので、ここで、大きく4つに分類してみる。

①市街地再開発型

駅前の再整備に多いタイプで、中心市街地に住宅を供給する最有力手法といえる。商業の活性化や新しい都市機能の導入とあわせて住宅供給を行おうというもの。

②住環境整備型

木造賃貸住宅や不良・老朽住宅が密集する地区で、それらの共同建て替えや更新等を行うもの。

③基盤施設整備型

市街化が進むことが予想される都市内農地や未利用地等の空閑地と周辺を含めた一体的な基盤整備と住宅供給を行うもの。

④土地利用転換型（跡地利用型）

住工混在地区等の工場跡地や貨物跡地などで、都市機能の変化に伴い、土地利用の転換をはかる中で住宅供給を行うもの。

以上の中で③と④はかなりまとまった規模の住宅供給が期待でき、複合機能を持つまちとして共通の理念のもとに計画されるケースが多い。事業主体が住宅整備の目的に応じて地方公共団体や公団、公社、民間の複数に渡るケースと単独事業主体のケースがある。

①と②については必要性が高い事業であるが、なかなか進みにくい。権利者の主体的な参加が求められることから、権利調整等に手間取るためであるが、逆にこれらの方法は居住者がプロジェクトに直接参加する形で都市型ハウジングが実現される。もちろん従前居住者がいない③と④のケースでも、都市の新しい職業層やライフスタイルに応えるよう、職住近接などのコンセプトのもとに供給されている。しかし権利者が参加することで、個々の事情に合致した住まいづくり像が、都市生活の再生のシナリオの中で新鮮に浮かび上がるし、また集住の運営システムが継承される可能性も持ち合わせている。

参加型の再開発型ニュータウン——神戸市新開地でのとりくみ

従前権利者を地域住民の概念にひろげてみる。たとえ跡地利用型であっても、地域住民が参加する、地域に根ざした住宅供給が可能とならないだろうか。神戸市兵庫区新開地地区では地元主導のまちづくり構想の中で「いろんな人が住む　新・下町づくり」を基本理念の一つに掲げ、行政と地元の協力でコーポラティブハウス神戸・1を生みだした。まちづくり協議会が入居を呼びかけた全38住戸の

再開発型ニュータウンの事例

地　区	タイプ、事業主体	概　要
高見フローラルタウン （大阪市此花区高見ほか）	・②住環境整備型 ・④土地利用転換型 （工場跡地） ・大阪市、公団、市公社	・工場と老朽木造住宅が密集する地区（約51.8ha）で、道路、公園、下水道を一体的に整備。 ・事業計画に「浪花の町好きやねんクラブ」が参画。計画戸数約3,400戸、計画人口約1万人。 ・老朽木造住宅（約700戸・約4ha）は住宅地区改良法を適用。 ・住宅・都市整備公団が超高層賃貸住棟（地上31階建・約99m・309戸）を供給。
ツイン雲井 （神戸市中央区雲井）	・①市街地再開発型 ・組合施行	・神戸三宮東地区の再開発計画（サン・シティ計画）の中の都心住区ゾーン。 ・インナーシティ対策として、人口定着、人口増加をはかる。 ・住棟計画は景観と住機能を重視し、塔状のツインタワー方式を採用（地上14階建）。 ・住宅は128戸で、このうち114戸が再開発住宅、権利床6戸、民間住宅8戸。
ベルパークシティ （大阪市都島区友淵）	・④土地利用転換型 （工場跡地） ・民間	・工場跡地（約17.5ha）に計画戸数約3,600戸。 ・水と緑の公園都市、環境形成型・地域融和型・都市型住宅の開発。 ・超高層住棟（36階建・約116m・330戸）により、空地率約71%を確保（総合設計制度を適用）。 ・中庭はノーカーゾーンとし、アーティストグループ参加による演出。
桜之宮リバーシティ （大阪市都島区中野）	・④土地利用転換型 （貨物跡地） ・市公社、公団、民間 ・大阪労働者住宅生活協同組合	・旧国鉄淀川貨物駅跡地（約4.6ha）で事業コンペを実施、計画戸数約1,100戸。 ・ライフスタイルの多様化に応じた高品質の集合住宅を開発。 ・民間が超高層住棟（41階建・約139m・約300戸）を供給。 ・建設中。
淀川リバーサイドタウン （大阪市北区長柄橋通）	・②住環境整備型 ・④土地利用転換型 （工場跡地） ・大阪市、公団、市公社	・工場と老朽木造住宅が密集する地区（約35.6ha）で道路、公園、下水道を一体的に整備。 ・計画戸数約3,200戸、計画人口約1万人。 ・老朽木造住宅（約400戸・約4ha）は住宅地区改良法を適用。 ・建設中。
弁天町駅前開発事業 （大阪市港区弁天1丁目）	・④土地利用転換型 （市有地） ・公有地信託制度	・大阪市の所有地約3haを公有地信託制度で活用、事業コンペを実施。 ・ホテル、オフィス、賃貸住宅が入る超高層住棟（50階建・約182m）と、分譲マンション（50階建・約162m）のツインビル、アミューズメント施設など。 ・建設中。



市街地再開発型 ―ツイン雲井―



市有地を活用した跡地利用型 ―コーポラティブハウス神戸・1―



跡地利用・住環境整備型 ―高見フローラルタウン―



跡地利用・住環境整備型 ―淀川リバーサイドタウン―



跡地利用型 ―ベルパークシティ―

うち17戸が地元の兵庫区から移り住んだ人で、職場が地元である人を含めると全体の7割近くになる。都市型住宅であるため設備面で管理は大変だが、十分ヒューマンスケールといえる。ようやくつい先日入居者達で手づくりの管理規約を作成した。

おわりに

再開発型の住宅供給は、高層化の方向で巨大化、複雑化している。事例として掲げている各プロジェクトは、特に意図的に選んだわけではないが、中高層住宅の中にプロジェクトの目玉となる超高層住棟が配置されている。高層化によってオープンスペースを広くとり、そこに環境づくりを行う。超高層棟は高ければ高い方が話題を呼ぶし、シンボル性が付加され、人気も高まる。市街地再開発型でもその傾向が顕著になっている。当然、地価高騰の影響が大きい。

これらが、都市の中に集住するためのシステム―かつての長屋の供給にみたような安定した都市居住システム―として確立され、まちとして維持運営されていくのか、今後も考察を続けたい。

（やまもと　ひでお　COM計画研究所研究員）

再開発期を迎えた千里ニュータウン

吉　村　英　祐

1962（昭和37）年に入居を開始した千里ニュータウンは、大阪のベッドタウンとしてその使命を十分に果たしてきたが、近年、住宅や公共施設、商業施設などの老朽化・陳腐化が目立つようになった。

住宅

戸建て住宅では世帯主の世代交代が進み、敷地内に息子夫婦のために別棟を増築する家が目立つようになった。また、近年の地価高騰により、相続税対策として広い宅地が分割されたり、戸建て住宅を壊してマンションが建設されるなど、住環境が悪化し始めている。

一方で、初期に建設された公団住宅や府営住宅が老朽化し、改修時期を迎えつつあり、高野台では府営住宅の建て替えが始まり、すでに一部が完成している（**写真－１**）。しかし、住民が建て替え後の家賃値上げを嫌って計画が難航したり、容積率に十分余裕がある分譲集合住宅の住民が、容積率いっぱいの集合住宅に建て替え、建て替え費用を増えた床面積の分譲益でまかなう計画が持ち上がっているが、その圧倒的なボリュームが近隣との調和を欠くという問題も生じている。



写真－１　改築された府営住宅（千里N.T.高野台）

近隣センター

千里ニュータウンへの入居が始まってしばらくは、近隣センターは買物客で賑わったという。しかし千里中央、北千里、南千里の各地区センターが整備され、大規模スーパーが進出したり、市役所の出張所や銀行などが開設されるにつれて、次第に客足が遠のき始める一方で、路上の露店が繁盛する光景が見られるようになった。衰退の激しい近隣センターの経営者は危機感を強くし、生き残りをかけて、近隣センターの改修に着手しつつある。古江台では銭湯の跡地に店舗付きマンションを建て、現在も近隣センターの建物を建て替え中で、間もなくそのイメージを一新する（**写真－２**）。また佐竹台では、５人の経営者が共同で近隣センターの敷地に分譲マンション付きの８階建てビルを新築し、その１階にスーパーを入れて生き残りにかけている。



写真－２　イメージを一新する古江台近隣センター、左のマンションは元は銭湯だった（千里N.T.古江台）

銭湯

千里ニュータウンの建設当時は公営住宅法の規定により、風呂付きの公営住宅建設には国の補助が付かなかったため、府営住宅には風呂が設置されなかったうえに、工事関係者の利用もあって、しばらくは近隣センター内の銭湯は結構賑わったが、間もなく内風呂への要望が高まり、バルコニーに設置する簡易浴槽が、府の撤去通達にもかかわらず急速に普及していった。さらに昭和50年に公営住宅法が改正され、一転して内風呂のない住宅建設には国の補助がつかなくなった。昭和53年には府営住宅で浴室＋１部屋の増築が始まり、府が銭湯経営者に減収分を補填する営業補償を行いつつも、銭湯は衰退の一途をたどる。この工事は間もなくすべて完了し、銭湯はその使命をひっそりと終える。すでに廃業した銭湯の跡地はすでに店舗付き高層マンションになったり改築計画が進行中であるが、新千里北町では跡地利用をめぐって大阪府と対立しており、その前途は多難である。

小学校

ピーク時には超過密校であったニュータウン内の公立小学校も、児童数の減少により空き教室が生じ始めた。空いた教室は図書館、視聴覚室、児童会室などに転用されたり、空いた２教室間の壁を撤去し、広い部屋として活用する、児童が給食を食べる「ランチルーム」に転用するなどの試みが増えつつある。今後さらに空き教室が増える見込みで、これらの有効な活用方法を今から考えておかねばならない。

第二世代の千里ニュータウン

この春には大阪モノレール（千里中央～南茨木間）が開通し、来年には千里中央の専門店街のリニューアルが完了する（**写真－３**）。千里ニュータウンは一層便利になる一方で、やがて中・高層住宅の建て替え、地区センターや近隣センターの再開発、小学校の統廃合にともなう跡地利用などが問題となる。これらは老人福祉関係施設、周辺に多数分布する大学や研究機関と連繋した外国人用宿舎や国際交流センターなどの、有力候補地となろう。

ニュータウン住民、国、大阪府、吹田・豊中両市、住都公団その他を相互に調整し、住環境の質を保ちながら時代の変化に柔軟に対応して更新しうるシステムを整備していくことが、千里ニュータウンが来世紀も活力を維持していくための条件である。



写真－３　専門店街のリニューアル工事は来年７月完成（千里中央）

（よしむら　ひでまさ　大阪大学工学部建築工学科助手）

住宅供給の一方策
－泉北ニュータウンの賃借権付分譲住宅－

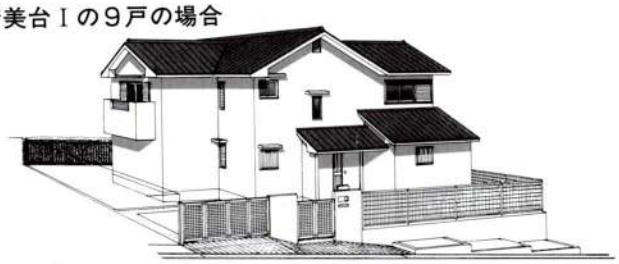
鑓　　哲男

土地を借地し建物を買い取る、ただし一定の約束のもとに将来その借地を自分のものにもできるという、いわゆる土地賃借権付分譲住宅については、住宅販売が不況のとき(昭和58年～62年頃)に、買いやすくする便法として民間会社や関東の各公社で実施されたもので、ことさら新しいものではない。

大阪府住宅供給公社が泉北ニュータウンで実施した晴美台の事例は、泉北ニュータウン内での地価が急激に高騰し（年間64%上昇)、また公的機関の役割の一つとして快適さと住宅の質を高めるとともに、きたるべき高齢化社会への対応としての三世代住宅、隣居住宅の建設により、敷地面積、建物規模が大きくなったことなどから分譲価額が非常に高額になり、それを多少とも買いやすくするために生まれたものである。

晴美台は、昨年８月に募集した。46戸のうち９戸をその対象とし、敷地面積172㎡～356㎡、４ＬＤＫを中心に分譲価格は4,000万円～7,000万円台である。この方式では、建物は100%所有権、土地のうち土地価格の68%を借地権（今回はすべて賃借権）価格として公社へ支払い、残り32%（底地権価格という）に対して賃料を公社へ毎月支払うことになる。底地権価格は毎年６%上昇させ、６年目以降に買い取ることもできる。

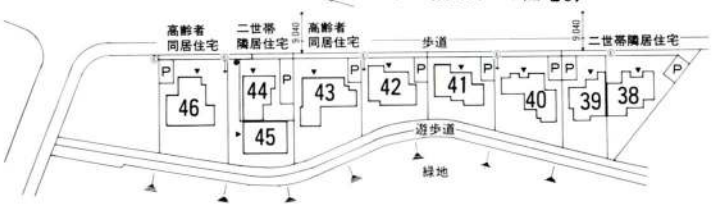
晴美台Ｉの９戸の場合



晴美台Ｉの41号地住宅



土地賃借権付分譲の泉北ニュータウン晴美台Ｉの住宅9戸



具体的には、41号地では、所有権分譲の場合（土地、建物とも）7,311万円の住宅も、この方法では、5,532万円になり、毎月44,464円の賃料を支払うことになる。所有権分譲の場合は、この差1,779万円を銀行から借り、公社に支払い、月々銀行に返済していくわけであるが、銀行には118,553円（年利6.36%公社提携ローン）の返済になるので、約74,000円楽になることになる。ただ、賃料は何年たっても銀行ローンとは違い元金が減ることはない。

晴美台の例では、９戸について約2,000万円程度の初期負担が軽減され、その代わり購入者は月33,000円～67,000円の賃料を公社へ支払うこととなる。所有権分譲で取得する場合の銀行ローンで借りて返済するのに較べれば、負担は半分以下ですむ。また月々約１万円程度かかる固定資産税も公社が負担する。

土地賃借権付分譲住宅の内容は、以下の通りである。

権利形態	建物…所有権、土地…賃借権
借地権割合	土地価格の68%
借地期間	木造25年、簡易耐火30年 〈借地法20年以上（非堅固)〉
目的	非堅固な建物の所有を目的とする。
賃料	年３%、ただし3年目ごとに９%
更新料	更新時における不動産鑑定評価額×賃借権割合×$\frac{1}{100}$
名義変更料	承諾時における不動産鑑定評価額×賃借権割合×$\frac{1}{100}$
底地権の譲渡	毎年６%上昇、６年目以降（７年目７%）買い取り可能。ただし８年目以降は不動産鑑定評価による。
保証金	月額賃料の６ヵ月分（改定時差額必要）

借地権割合の設定

“借地権割合とは何か”、一般にはなかなか馴染みがうすい言葉であるが、“借地権価格の更地または建付地に対する割合”ということで、今回は借地権割合(68%)、底地権割合(32%)とし、それにもとづいて借地権価格および底地権価格を算出している。その割合は、都心部で地価の高い地域ほど高く、商業地は住宅地より高く、住宅地は工業地よりも高い。また、堅固な建物の所有を目的とする場合は、非堅固な建物の所有を目的とする場合よりも高いということになる。東京、大阪等の大都市では、一般の住宅地で70%～75%が慣行的借地権割合ということである。したがって当公社でも事業費を考慮にいれて、68%で設定している。賃料もいろんな条件によって設定されるようであるが、一般的には固定資産税、都市計画税に連動させその倍率を採用したものが慣例的賃料と言われている。また底地権の買い取り価格の設定については、公社は事業費を公庫資金、銀行資金等でまかなっているため、底地権部分の未回収金については、それだけ金利が必要であり、８年目以降は、不動産鑑定評価によるものとしている。

まだスタートしたばかりであるが、価格の一部が長期間にわたって回収できないことや、賃料で固定資産税やそれに係る人件費、事務費がまかなえるかどうか、また土地（借地権）について、担保力が弱いため、公的融資等がなされないことなど、多くの問題をかかえている。

いずれにしても、現今のようなきびしい地価上昇にあって、泉北ニュータウンのような理想的な住宅地に勤労者が住むことができるようにするためには、土地を、所有するから利用する方向へ、何らかの方策を模索していかなければ、今後、公社の目的としている勤労者に住宅を供給することがますます困難になっていくのではないかと考えている。

（やり　てつお　大阪府住宅供給公社建設部分譲課課長）

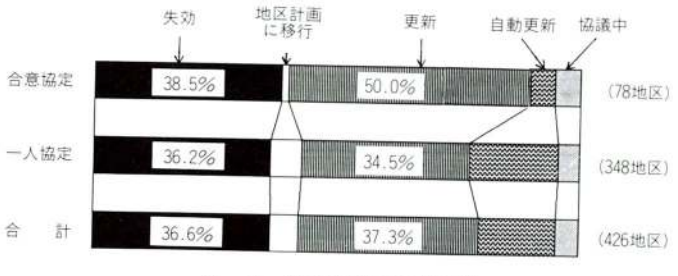
住民参加によるニュータウンづくり—建築協定による住環境形成—

鈴木克彦

住民みずからの手で住環境をより高度に維持・増進することを目的とした「建築協定」が、住環境に対する関心の高まりもあって広く普及するようになった。ニュータウンにおいても、最近では分譲時から「建築協定」や「地区計画」を設けている地区が多い。埼玉県の〈鳩山ニュータウン〉では、入居当初から全地域にわたって建築協定が締結され、各地区の協定運営委員会で組織された「建築協定合同運営委員会」を設立し、建築協定会報を発行するなど、積極的な協定運営が進められている。

建築協定は締結形態の特徴から、環境問題を契機として地区住民が合意して締結した「合意協定」と、事業主体が分譲前に締結した「一人協定」とに分けられる。地区住民が主体となって締結する建築協定は、住民の合意を確保することがなかなか容易でなく、締結に至った地区は少ないが、ニュータウンにおいても締結事例は見られる。「新住宅市街地開発法」が期限切れになった地区では住環境の悪化が懸念され、環境保全運動が展開されている。その結果として、泉北ニュータウンの〈茶山台〉や〈晴美台〉では建築協定が締結され、洛西ニュータウンの〈大枝北福西町〉では地区計画が決定されている。

一方、一人協定地区でも、協定が有効期限に達して更新時期をむかえた所が多くなってきた。**図－1**のデータは、建築協定が有効期限に達した地区（1989年4月現在で426地区）が協定の期限切れ後、どのように対応しているかを調査した結果である。これによると、半数以上の地区が建築協定を更新しており、約40%の地区が新たに合意手続きをとり、更新（再締結）していた。協定の失効率は、合意協定地区と一人協定地区とに大きな差が見られず、むしろ用途地域による影響が強く現れている。



図－1　建築協定の更新実態

また、一人協定地区では約70%が、更新を機会に協定内容を変更しているが、特に協定の有効期間を自動更新制にしている地区が多くなっていた。将来とも協定が継続することを願っての結果であろう。敷地の最低面積の規定や敷地分割の禁止を新たに盛り込んだり、用途制限の内容を見直している地区も多く見られた。このように、更新を機会に協定内容や協定区域を変更するなど、「与えられた協定」から地域の実情を反映した「自らの協定」に発展し、定着化しつつある地区が多く見られた。建築協定の評価も、更新後は住環境に対する意識が高まった、地区のイメージアップになったなどと評価されていることからも、一人協定の有意性が十分に評価されてよいであろう。

今のニュータウンは、住環境が完成されすぎているような気もする。住民自治による住環境形成の基盤を備えるためにも、住環境に非計画性を付与した弾力的なコントロールも必要であろう。埼玉県の〈西武フラワーヒル〉（**写真－1**）や神奈川県の〈マボリシーハイツ〉（**写真－2**）では、道路に面した敷地境界に約70cmのフラワーベルトを設け、住民共同の自主管理で季節ごとに花木を植え替え、彩りのある町並みが形成されている。ニュータウンの成熟化にともない高齢化社会が進行し、定年退職後の経済的自立の基盤も必要となってこよう。



写真－1　フラワーヒル憲章



写真－2　マボリシーハイツのフラワーベルト

今後のニュータウンには、法制度を豊かな住環境を創造する設計手法として積極的に位置づけていく試みが大切である。住民参加による住環境形成のためにも、「ソフトウェアのデザイン」がますます重要な課題となるであろう。

（すずき　かつひこ　京都工芸繊維大学助教授・工学博士）

高齢化に向けたニュータウン

吉村英祐

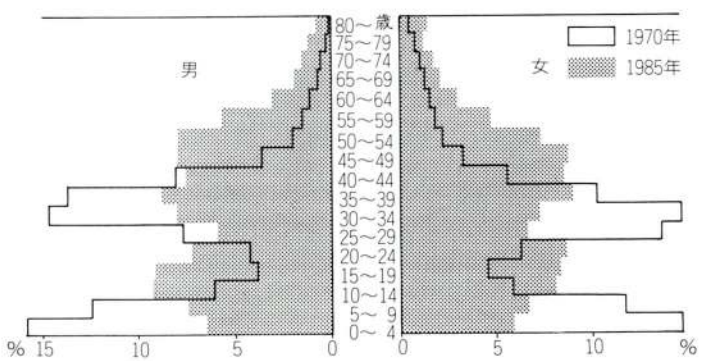


写真－1　この初老の夫婦にとって住みよい街になるか…（千里N.T.藤白台）

千里ニュータウンが、1962（昭和37）年11月2日に最初の入居者を迎えてから27年余りが経過し、千里ニュータウンは街として成熟期にさしかかったと言えるであろう。しかし、千里ニュータウンの計画は、働く若い人への住宅供給を念頭に置いていたため、高齢者に対する計画上の配慮が欠けていた。着実に進行している住民の高齢化に対応して、千里ニュータウンが住みよい街として生き続けるためには、今から高齢化対策を講じておかなければならない。

高齢化する千里ニュータウンの住民

千里ニュータウンの開発予定事業がすべて完了した1970(昭和45)年と、15年後の1985（昭和60）年でのニュータウン内住民の人口構成（人口ピラミッド）を比較すると、入居当初の人口構成の特異性と、その後の高齢化が容易に読み取れる（**図－1**）。1970年頃の年齢構成のピークは男女とも30～34歳と0～4歳にあったが、やがて子供が独立してニュータウンを去る一方で、若年層の流入が少なかったため、今ではニュータウンを除いた吹田市や豊中市よりも高齢化が進んでしまった。



図－1　千里ニュータウンの年齢別人口構成の経年変化

高齢化に対応した住宅づくり

高齢者が増えるにつれて、住棟の階段の昇降や入浴に困難をきたすケースが目立ってきた。特に、戸数で圧倒的に多い公団や府営の中・高層住宅において、この問題が顕在化しつつある。そこで住宅・都市整備公団では、1987年から1階に発生した空家を対象に、浴室の改造（浴槽と洗い場の段差を50cm以下にする、手摺を付ける）、便所の改造（手摺や暖房便座用のコンセントを付ける）、緊急通報装置付き電話の設置などの対策を講じたうえで、老人用住宅として入居募集を始めた。また府営住宅では、65歳以上の高齢者や昇降困難な身体障害者を最優先に「住宅替え制度」を適用し、より低い階への引っ越しを促進している。

高齢者のコミュニティ活動

千里ニュータウンおよびその周辺には、大正元年からある大阪市立弘済院（古江台）をはじめとして、府立軽費老人ホーム「豊寿荘」（新千里西町）などの公的な老人施設があり、盆踊りや人形劇、作品展示会などを通じて地域との交流が行われている。またニュータウン内にある数多くの老人クラブは囲碁、川柳、洋裁、書道、カラオケなどの活動を通して、高齢者のコミュニケーションの場となっている。その一方で、高齢者を囲んだ昼食会や高齢者への家事サービスなどを行う自主活動も見られる。これらの活動の普及・定着は、「高齢者予備軍」が考え出した、将来に備えた自衛策でもある。

千里ニュータウンに何が欠けているか

以上のように、千里ニュータウンも徐々に高齢化社会に対応しつつあるが、施設の実態は貧弱である。一方で、高齢者のなかには老人クラブの活動に関心を示さず、一日中テレビを見て過ごす人もあるという。このような人をむりやり引っぱりだしても良い結果は得られない。これからの街づくりには、高齢者が気軽に屋外に出られる環境整備が必要である。温か味のあるベンチや涼しい木陰が、歩きやすい安全に歩ける道に沿って配置され、そこは高齢者の交流の場となる。外に出れば知っている人に会え、歩き疲れたら、どこででも休憩できる。こういうスペースが今の千里ニュータウンには少ない。たとえば、あまり利用されなくなった児童公園を、高齢者と子供あるいは高齢者どうしの交流の場として整備できないだろうか。

ふたたび実験都市となる千里ニュータウン

千里ニュータウンは、やがて住宅や地区センター、近隣センター等が大幅な更新時期を迎え、高齢化に対応した街づくりを進めるまたとない機会がやってくる。高齢化社会に向けてどのような対策を講じ、それらをいかに実現させるかの方策を、今から考えておかねばならない。自主活動への援助や、高齢者に関する情報を簡単に得られるCATVなどのシステムの導入、高齢者用品を扱う専門店などが今後必要となろう。

大いなる実験都市としてスタートした千里ニュータウンは、その後のニュータウンづくりに必要な貴重なデータを提供してくれたが、30年後の今、高齢化社会に向けたニュータウンの実験都市の役割をふたたび与えられたのである。

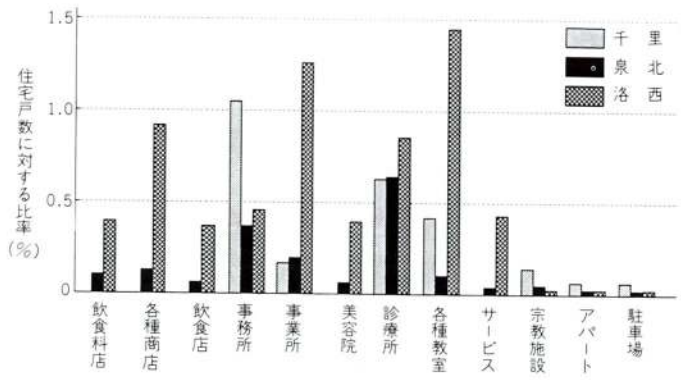
（よしむら　ひでまさ　大阪大学工学部建築工学科助手）

ライフスタイルの多様化に向けたニュータウン

鈴木克彦

ライフスタイルの多様化の時代を迎え、自分達のライフスタイルにあった住宅を求める要求が高まっている。そのような住要求に対応できる住戸計画の手法も提案されているが、ここでは住環境の多様化に向けたニュータウンづくりの動向について着目したい。

図－1は、「新住宅市街地開発法」が期限切れになったニュータウン（千里、泉北、洛西）において、分譲後に発生した用途変更の実態を調査した結果である。各ニュータウンともおのおの特徴をもって成熟化しているが、分譲当初は専用住宅のみで構成されていたことを考えると、たいへんな様変わりである。



図－1　ニュータウンにおける住宅用途の変更実態



写真－1
プロムナード多摩中央（多摩NT）

最近では、ベッドタウンと言われた専用住宅ばかりで構成されたニュータウンづくりの反省から、余暇時間の増大や社会ニーズの変化に対応した住宅が供給されるようになっている。多摩ニュータウンの〈プロムナード多摩中央〉では、歩行者専用道に面したフリールームが1室備えられている。このプラス1住宅のフリースペースは、画廊や趣味・創造活動・書道教室等に使用されており、索漠としたニュータウンの街並みに潤いを与えている（**写真－1**）。これに似た試みは戸建て住宅地でも展開され、常総ニュータウンの〈守谷御所ヶ丘〉では、空間の用途を居住者が自由に選択できるフリールーム付住宅が供給されている。「建築協定」も締結されており、フリールームの使用用途に一定の制限を設けている。



写真－2　フリースペースを備えた住宅（多摩NT稲城地区）

また、住宅地の街角に店舗や利便施設が散在したニュータウンづくりも展開されるようになった。〈多摩ニュータウン稲城地区〉では、住宅併用店舗を自然発生的に誘導する開発方針を目指している。その自然発生による店舗の立地を誘導する手法として、住宅地内の沿道にフリースペースを備えた併用住宅が配置されている（**写真－2**）。このフリースペースの具体的な利用事例として、分譲パンフレットには、自ら使用する場合に限るとして、①日用品、食料品などの販売店舗、②飲食店、喫茶店、理容室、③各種教室、④アトリエ、工房、⑤弁護士事務所、税理士事務所などがあげられている。このニュータウン地区では、カルチャー関係者を優先入居させて文化・教育系店舗を計画的に配置する“カルチャー・パス”なども計画されている。これに併せて、独立住宅地区では「地区計画」が定められており、低層一般住宅地区、低層生活文化街区、低層生活利便街区に区分されて、おのおの「地区整備計画」が定められている。

土地区画整理事業によってニュータウンづくりが進められている〈港北ニュータウン〉では、学校・サービス施設・公園などの主要な施設が歩行者専用道に面するように配置計画され、近隣センター地区では「街づくり協定案」に基づいて、歩行者専用道に接する階は賑わいを演出するために店舗とするように誘導を図っている。また、地権者の意向を反映する「申し出換地方式」を採用するなど、市民参加のまちづくりが推進され、いくつかの地区では「建築協定」の締結も実現している。

多様化に向けた住環境の誘導には、計画者側が意図したとおりにフリールームを使用してくれないことなど、悩みの種が多いようであるが、今後は建築的な〈しかけ〉とともに〈ルールづくり〉が必要不可欠となろう。それにしても、多摩ニュータウン内で営業していた「エキサイトルーム多摩○○○○○」と書かれたF.マッサージのネオン看板は、なんとも印象的であった。

（すずき　かつひこ　京都工芸繊維大学助教授・工学博士）

千里ニュータウン・駐車場問題

角島健二

昭和40年代に続いて、現在は「第二次交通戦争」といわれる。バイクを含めて7300万台もの車が日本中にひしめき、その台数の占める面積は道路面積のすでに1.4倍に達するという。一方、昨年、千葉・幕張メッセで開催された第28回モーターショウには、12日間の期間中に、過去最高の192万人が訪れた。ますます肥大するクルマ社会——今年、28年目を迎える千里N.T.もその例外ではない。

❖

A：ということなんですが、ずっと千里N.T.に住んでおられて、自動車・駐車場の問題というのは、いかがでしょうか。
B：ひどいもんです。ずっと住んでいますけれど、今のクルマ社会を全然予想すらできなかったんだと思いますね。
A：といいますと？
B：住み始めてから約4年、昭和40年の初めにはもう駐車場問題・クルマ公害が出ていまして、当初の基本計画では自動車の保有台数を、分譲－1台/1戸、テラス分譲－2台/1戸、中層住宅－1台/4戸という条件で配置したんですが、少なすぎました。これが大きな誤算だったんですね。
A：そういえば、昭和45年から63年の間に、全国の車輌台数は2.9倍に増えたといいますし。で、昭和40年頃にはどんな問題が起こっていたのですか。
B：不法駐車です。N.T.の「事業主体別駐車状況」という資料があり、1戸建て分譲のうち92%は自宅にガレージがあって、路上駐車はわずか2%なんですが、問題は他の事業主体の場合で、「公団」の世帯の85%、「公社」の44%、「公営」の21%、これだけの人達が駐車場以外の所に車をとめていたんですよ。今は、もっとひどくて、住民の約7割がクルマを持っているといいますから…。



写真－1　路上にはみ出した車、車…

A：すると、路上などにはみ出した車の影響も大変なものでしょうね。
B：まず救急車が入れない、ゴミ車が近づけない。悲しいことに子供の事故が相つぎましたよ。
A：けれど千里の場合は、緑地・空地がずいぶんとあって、駐車場をとろうと思えば不可能ではないでしょう。
B：行政と話もし、私達も背に腹はかえられないということで、提案し続けていました。初めの頃は「緑を守れ」という声が強くて、難しかったんですが、やっと10年ほど前からあちこちの団地で、駐車場の新設が始まっています。
A：「新千里北町」の団地でも、5階建て730世帯で、駐車場が63台であったのを、新たに419台分を増やすということが決まったそうです。
B：で、失う緑地が5000㎡ということですが…。
A：千里以外で、こういう例もありました。土地値上がりの影響をうけながら、駐車場を確保しなければということで、2段式、3段式の機械設備で、住戸の81.5%をまかなったというんですが、1台当たり140万円の工費がかかったということです。



写真－2　クルマ並木（?）



写真－3　元クルド・サック

B：緑地を失うか、お金をかけるのか、それとやはり住民のモラル、迷惑駐車を追放しようという意識も大事でしょう。駐車場のことなどを考えずにどんどん車を売りまくるメーカーと、それを黙認するような国・自治体の姿勢にも問題はあると思うんですがね。住民・自治体とこれからも根気よく検討してゆかねばと考えていますよ。
A：今後とも、双方の地道な努力がなければ駐車場問題は解決してゆかないということなんでしょうね。

❖

高地価、大型耐久消費財へ向けられる関心、消費者運動の育ちにくい国、熱しやすくさめやすい国民、集合して住むことになかなか慣れない国民。N.T.内での土地の転売や用途変更を禁止した「新住宅市街地開発法（新住法）」の期限が切れた数年間から民間による高層住宅の計画もあり、高地価を背景に千里N.T.もつぎの時代への準備が急がれている。昨年の11月に全国各地のN.T.の関係者が集まり、今秋を目標に「日本ニュータウン協会」を設立し、種々の課題を克服してゆく体制づくりが始まった。駐車場のことも含めて。

（かどしま　けんじ　株式会社竹中工務店設計部）

魅力あるニュータウンへのデザイン戦略

田　中　直　人

——人に表情があるように、まちにも表情がある。
この世に生まれて後より、時の移りゆくままに、
多様な交歓の歴史をその中に映す——

この表情とそれを生み出す心の仕掛けを仮に“デザイン”とすれば、僕たちは、“ニュータウン”という新しい都市空間に、“デザイン”をどのように関与させうるだろうか。

ニュータウンは自然発生的に形成されるまちと異なり、当初から計画的に作られることが多く、マイナス要素と思われる部分を意図的に削除したり、必要な生活空間を体系的に構成しやすく、プランナーやデザイナーからは、自由に創造しうる都市空間だと思われるかもしれない。しかし反面、人間生活の中で営まれるさまざまな空間との関わりから生み出されるドラマチックな場面や泥臭いが人間味のある都市空間に仕立てるには、やや融通のきかない代物だろう。

ニュータウンに限らず、まちを魅力的にするために、さまざまな試みがなされている。その空間および生活を演出するために、いくつかの要素がイメージされるが、“デザイン”という作用で、まちづくりを展開していくアプローチの存在は大きい。とりわけ、ニュータウンの場合、画一的に処理されるのではなく、他のまちづくりとの差別化、個性化という視点から、積極的に戦略として、アピールしていこうという事例をいくつか、紹介したい。

デザイン戦略の目的としては、このようにまず他と一線を画し、ニュータウンそのもののアイデンティティを確保しようということがある。もちろん、生活空間としての機能性を高め、老人、体の不自由な人、子供をはじめ、あらゆる住民にとっての安全で快適になることや高い利便性のもとに活性化させることも大切である。そしてまた、自然豊かに、美しい街並みを保持し、アメニティの高いうるおいのある環境づくりも大きな目的の一つである。デザイン戦略によって生み出された空間により、住み手は、わがまちとしての愛着や誇りをもつ「ふるさと」を意識し、プランナーやデザイナーという作り手は、付加価値の高い空間の創造に出会い、事業者は、事業推進のための大きな武器を得たことになるのかもしれない。また、住み手が作り手の一部として、ともにデザインプロセスの中で、その存在から生活へのイメージを培うことができれば、また大きなコミュニティ形成への第一歩をすすめることができるだろう。

最後に、数多くの先進事例からマニュアル化または標準化し、全国各地どこでも同じという個性や地域性の欠如した状況を生み出すことにならぬよう、実際の人々の生活や管理運営上のソフト面での配慮を欠いた結果、せっかくの成果がマイナスのモニュメントとならぬよう、そして魅力ある表情に出会えるよう、きめ細かいデザイン戦略が展開されることを期待したい。

（たなか　なおと　神戸市開発局計画課主査）

事例1　活気とうるおいのあるプロムナード

——多摩ニュータウン

緑とペーブメントによるデザインのプロムナードに沿って、オシャレなお店や住戸のフリースペースを配置し、まちなみに活気とうるおいを演出している。



事例2　グリーンマトリックスシステム

——港北ニュータウン

港北ニュータウンの周辺は昭和40年代に入って急速に市街化が進展し、豊かな自然環境が次々と失われていった。このため、計画にあたっては、アーバニティの追求とあわせて「自然」を、あるいは「より自然的なもの」を地区の中に可能なかぎり残し、また創出することを前提として考えられた。

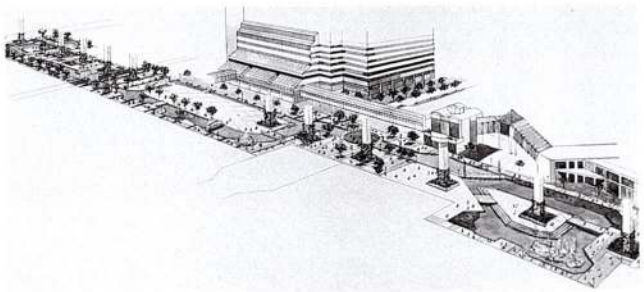
この理念をニュータウンの中で具現化するために、限られた公共空間としての公園・緑地ばかりでなく、広場・神社・仏閣・屋敷林など、地区内に現存し、また創出されるオープンスペース群をすべて用い、これらを緑道により結び、連続性を保たせ、限られた空間の中で最大限のアクティビティを可能とするしくみを考え、この新しい体系を、「グリーンマトリックスシステム」と呼んでいる。



歩行者空間の全体ネットワーク

事例3 彫刻のあるリバーモール

——六甲アイランド



六甲アイランドのシンボルとして、周辺の業務・商業施設と一体となり、南端のマリンパークまでの中央都市軸上、約1kmにわたって整備される、噴水や彫刻が配された親水性の高い水路。

事例4 CIによるデザイン展開

——西神ニュータウン

シンボルマークは、太陽と緑の街、西神ニュータウンを象徴し、それぞれ、太陽が西神工業団地、樹木が西神住宅団地、その幹が地下鉄(および西神中央線)を表している。



西神ニュータウン内の近隣センター、サブセンターについても、CIによるデザイン展開を試みた。固有のアイデンティティを持たないニュータウンでは、ネーミング、シンボルカラー、ロゴタイプ、シンボルマークなどが環境デザインの前提として必要と考えたからである。

両センターに付属する派出所では、トランプのハートとスペードをプランとしてデザインが展開された。一方は「心通うハートの派出所」、他方は「力強くまちを守るスペードの派出所」としている。



かりばプラザ



かすがプラザ



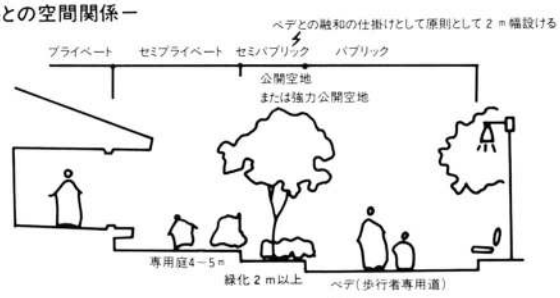
たけのプラザ

事例5 デザインコード

——金沢シーサイドタウン

5つの事業主体が混在する金沢シーサイドタウンにおいて、町並みのデザインに統一性を与えるために作成された、全部で27項目に及ぶデザインコードは、ペデへの参加(歩行者専用道をはさんで向かい合った他事業主体の街区は、一つのまとまりとしてとらえ、生活表情を解放的に表出する)、公開空地(歩行者専用道沿いに幅2mの公開空地を設ける)、住棟配置・屋根(特に、歩行者専用道に面した住棟は3階建てとし、勾配屋根付きとする)などの項目が並び、それぞれ言葉、図、表、記号などでまとめられている。

ーペデと住宅との空間関係ー



デザインコードの一例

事例6 カラーコーディネート

——レインボータウン武庫川



美しい街の景観づくりとうるおいのある生活づくりをめざして、色彩計画を実施している。地区全体を4つに区分し、それぞれの住棟を青空(青)、新緑(緑)、樹木(落葉色)、花(赤)の4色で特徴づけている。団地入口に立つと、そのカラフルな建物が印象的で、サインの役割も果たしている。この色は、街区の名前にも使われており、あおぞらのまち、みどりのまち、樹のまち、はなのまちとなっている。

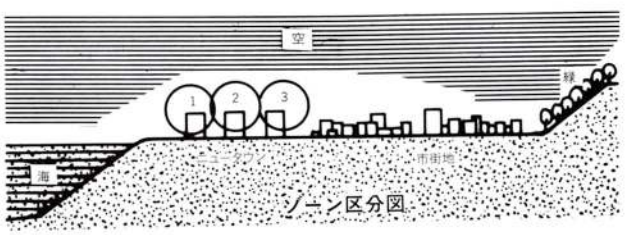
事例7 色彩コントロール

——鹿児島鴨池ニュータウン

このニュータウンは、周辺の自然美に調和した、個性ある都市空間をつくり出すために、全国的にも珍しい色彩コントロールを行っている。

色彩コントロールは、空間的な規模と対象物の大きさを考えて、つぎの3つの範ちゅうに分けている。

①景観色…建物の外壁・屋根・タワーなどの屋上施設が対象
②環境色…歩道・広場・売店・公衆便所・ベンチなどが対象
③標識色…掲示板・看板・バス停標示などが対象



ゾーン区分図

「海ーニュータウンー市街地ー丘陵地帯の緑」という隣接する環境の色彩的変化に対応して、計画区域を上図のように3つのゾーンに区分する。

複合機能都市の再生へ向けて

河端秀直

わが国のニュータウンについて語るとき、「ニュータウン」についての概念規定を明確にすることが不可避であろう。

住宅供給を中心とした地域開発としては、大阪を中心とした資産家の別荘地開発や私鉄の沿線開発にその起源を求めることができる。これら戦前の阪神間地域における「郊外居住」の開発は、E・ハワードによる『田園都市』思想とその建設事例により多大な影響を受け、都市生活の大きな潮流としてわが国の大都市圏に波及したのであるが、その大半は、ハワードの提唱する『田園都市』としては不十分なものと言わざるを得ない。この意味において、「英国型ニュータウン」と「日本型ニュータウン」という区分によって、わが国における独自の「ニュータウン」の概念が定着していることは論を待たないであろう。

*

わが国の経済の高度成長期における大都市への人口と産業機能の集中は、一方で地方の人口減少や活力の低下をもたらすと同時に、大都市における過密問題を深刻化させたため、都市政策は、ニュータウンと工業団地の開発を推奨し、多核分散型の都市構造への変容を目指すと同時に、大都市圏内部を「生活圏」と「就業圏」に二分する方向へ歩み出したのである。

言うまでもなく、都市部への諸機能の集中は、住宅団地の立地を郊外化させるとともに、その大規模化をもますます助長し、集会所や商業施設をはじめ、コミュニティ形成の核として位置づけられた「タウンセンター」を内包するようになったのである。

さらには、昭和40年代前後に開発が始まった大規模ニュータウンにおいては、上下水道等の基盤施設整備はもちろんのこと、学校・病院や大規模な商業施設の立地をも開発計画に盛り込んだ「計画的」・「総合的」な新しいまちづくりを志向するようになったのである。

また、既成市街地から孤立した単調で退屈な大規模住宅団地ないしは住宅団地群から脱皮しようという試みから、「職住一体型」の構成についてこの当時すでに議論されているのであるが、社会経済情勢がそれを許容するまでに至っておらず、実際に都市機能の立地が具体化し、職住一体型あるいは職住近接型のニュータウンと呼ぶことができるものの出現は、西神ニュータウンや筑波研究学園都市を待たなければならないのである。

もっとも、昭和50年代後半から顕著になり始めた郊外中高層集合住宅に対する不人気が、当時の大規模宅地開発における土地利用計画の変更を余儀なくし、住・職・遊複合のまちづくりへの志向を助長したことは異論のないところであろう。

*

一方、都市部に視点を移すと、周知のごとく戦前からわが国の経済基盤を支えてきた産業構造の変革や社会情勢の変化などにより、都心部および都市周辺部（特に臨海部）において急激な土地利用転換の動きがクローズアップされている。これらの地区においては、「ニュータウン」とは多少内容を異にした複合機能都市論が展開されている。

概して、近代の都市は産業革命を経て誕生し、経済空間として形成されてきたと考えることができる。都市経済の変動が都市の衰退や土地利用の変容を規定する宿命を、都市それ自体が担っているのである。

関西国際空港の建設を契機として、また、土地への投機が、国土法や超短期不動産取引に対する重課税制度などの規制に伴い、地価の上昇しきった感のある東京圏から流入したことが手伝って、関西地区は現在、次頁に示すように、開発プロジェクトが目白押しの状況である。新規に発生した都市部の貨物ヤード跡地や工場跡地などの再開発だけでなく、従来から足踏み状態にあった郊外での大規模宅地開発でさえも、急激に具体化に向けて動き出している。

しかし、あまりにも多くのプロジェクトが、同時併行的に検討されているため、似たような開発コンセプトを持つものも少なくない。事業サイドから見ても、地価と建設コストの異常なまでの高騰は必然的に土地利用の可能性の幅を狭めていることも事実であろう。また、一方では、地価負担力の高いオフィス床であっても、未曽有の需要増を見込むことができるわけではなく、各プロジェクトが今後具体化していく過程で、明確なコンセプトを持たないものや基礎固めがしっかりしていないものについては、淘汰されるプロジェクトも出てくるであろうことは当然考えられることであろう。

*

ある意味において、京阪神地域は今、その都市構造を再構築できる絶好の機会に遭遇していると言える。その渦中にあって、個々のプロジェクトがあまりにも速いスピードで動いているため、民間企業はもとより、行政においてすら広域的かつ長期的視点に立って物事を判断しようという姿勢を見失っている感が強い。

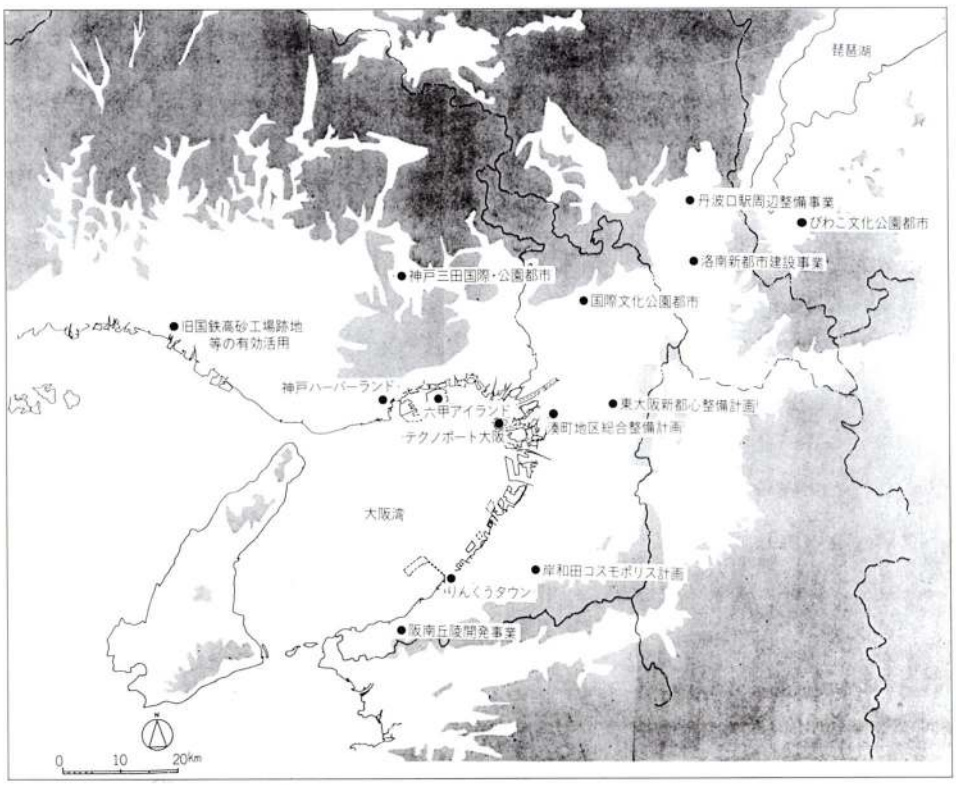
郊外居住を主たる目的として開発された「ニュータウン」において、居住以外の機能を付加することにより、複合機能都市として再生することが望まれる一方、都心居住が行政サイド、ユーザーサイドの双方から見直されている現在、もともと複合機能を有していた都心部の再生を図ることが必要ではないだろうか。

都心におけるアフォーダブルな居住空間の確保や文化拠点の形成、都市機能の適性配置および快適な都市環境の形成など、総合的なまちづくりの実現に向けて、官民の真の協調体制が必要とされているのではないだろうか。

（かわばた ひでなお 株式会社日建設計計画事務所）

平成元年6月現在

プロジェクト名	位置	規模	現状	機能								
				生産	研究開発	業務・商業	文教	居住	交通・情報	国際	余暇	環境保全
洛南新都市建設事業	京都市伏見区	127ha	構想段階		○	○	○	○				○
テクノポート大阪	大阪市南港、北港	約 775ha	実施段階		○	○	○	○	○	○		
湊町地区総合整備計画	大阪市浪速区	17.5ha	実施段階			○	○	○	○	○		
六甲アイランド	神戸市東灘区	580ha	実施段階	○	○	○	○	○	○	○	○	
神戸ハーバーランド	神戸市中央区	23ha	実施段階		○	○	○	○	○	○		○
びわこ文化公園都市	大津市、草津市	520ha	実施段階		○		○	○				
国際文化公園都市	茨木市、箕面市	約 740ha	計画段階		○	○	○	○	○	○	○	
岸和田コスモポリス計画	岸和田市	160ha	計画段階	○	○	○	○	○	○	○		
りんくうタウン	泉佐野市、田尻町、泉南市	318ha	実施段階	○		○		○	○	○		
東大阪新都心整備計画	東大阪市長田・荒本地区	140ha	計画段階		○	○	○	○	○	○		
阪南丘陵開発事業	阪南町	171ha	実施段階		○	○	○	○	○			
神戸三田国際・公園都市	三田市、神戸市	2,016ha	実施段階	○	○		○	○		○		
旧国鉄高砂工場跡地等の有効活用	高砂市	約 78ha	計画段階	○	○	○	○	○	○			
丹波口駅周辺整備事業	京都市下京区	17.1ha	計画段階		○	○	○	○		○		




神戸ハーバーランド完成イメージ図


国際文化公園都市イメージ図


阪南丘陵開発事業イメージ図


りんくうタウンの商業ゾーンイメージ図


岸和田コスモポリス計画イメージ図


テクノポート大阪イメージ図

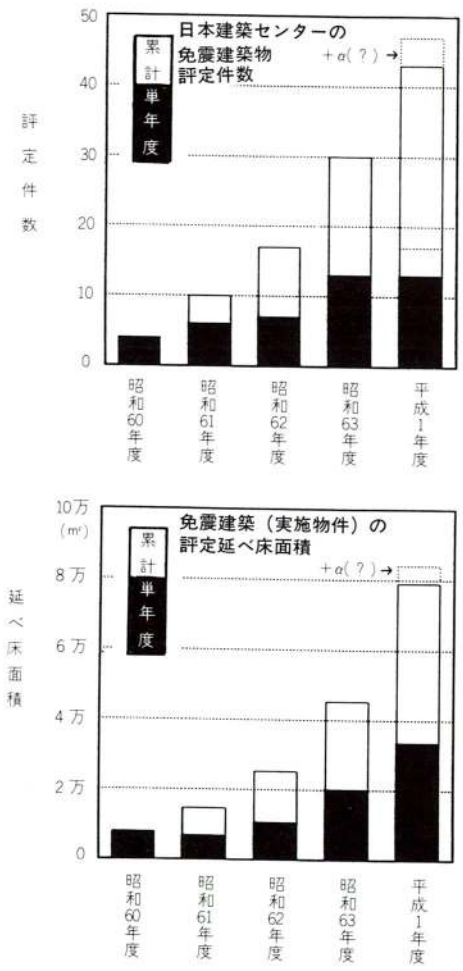
構造の頁

177 中間階で免震したインテリジェントオフィス

宮崎　光生

昭和60年度に日本建築センターの免震構造評定を受けた免震建築は4件・延べ床面積約8,000㎡であったが、平成元年末における評定件数はすでに40件に達し、実施物件の床面積も約80,000㎡となっている（**図－1**）。何ごとにつけ急成長を得意とする日本は、免震建築の分野でも今や世界一の実績を有することになり、免震装置の方式や建物自体のバラエティーも豊かになってきている。

なかでも、これまで最下階に限定されていた免震装置を1階と2階の中間に設置した免震建築が出現したことにより、免震の建築計画の自由度は飛躍的に拡大されることになった。



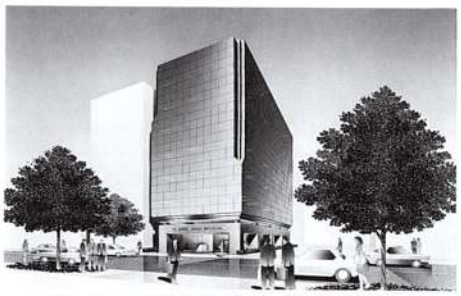
図－1　免震構造建築の普及状況（1989年11月末現在）

設計条件と初期構想

アサノビルディングは、名古屋市内に建設された、首都圏以外では初めての免震ビルであり、RC造7階建て、延べ床面積約3,000㎡のオフィスビルである。

①市街地の狭い敷地幅いっぱいに免震建物を計画すること、②敷地最奥の立体駐車場へ出入りする車の振動を遮断すること、の2条件を満足するためには、「1階より上で免震する」ことが自然な解決策であるが、これはもはや"Base Isolation"の範疇を越えるものとなる。また敷地は準防火地域にあり、建物は耐火建築物とする必要がある。

これらの条件のもとに計画した初期構想が、**図－2**である。建物は1階と2階で分離されており、街路の歩行者には、免震装置に支えられたハーフミラーの巨大なガラス箱が、あたかも宙に浮かんでいるかのように見えることをねらったものである。



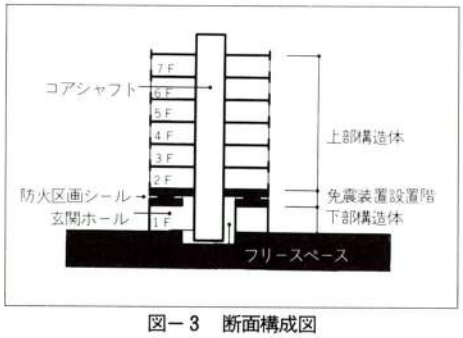
図－2　アサノビルディングの初期構想

中間階免震の建築・防災計画

免震装置により、建物は1階と2階の間で分離されており、2階以上がオフィス空間として利用される。各階へは1階エントランス部のエレベータと階段からアクセスする。このコアの1階部分は、2階以上の上部構造体から吊り下げられており（**図－3**）、地震時に上・下構造体間で生じる相対変位が建物利用者の動線上に現れるのは1階のエレベータ前のみとなっている。これによって通常免震建築の周囲に必要となる犬走りを排除し、敷地境界線から50cmだけ後退した位置に外壁を置くことを可能にしている。

免震装置設置区域は、外部および建物内の他区域から防火区画され隔離された空間として、無用な立ち入りを制限しているが、免震装置の点検や維持管理作業は確実に行える空間を確保している。

この区域を囲む防火区画壁は、地震時に生じる相対変位を許容でき、万一地震後に火災が発生した場合でも、支障なく防火区画として機能するように設計されている。



図－3　断面構成図

この区域にはガスの漏洩検知システム、自動火災報知設備・屋内消火栓設備等が用意されており、さらに万一の火害に対するフェールセーフ機構も設置されている。本建物は免震構造・防災性能の2評定を受け、耐火建築物としての建設大臣認定を得たはじめての免震建築物となった。

耐震設計目標

本建物では、下記の高い耐震設計目標を実現するために免震構法を採用し、目標耐震性能を達成していることを地震応答解析によって確認するというアプローチを採用している。

設計用地震動としての、

①発生確率の高いレベル1の強い地震動（最大地表面速度25cm/s）

②発生の可能性のあるきわめて強いレベル2の地震動（最大地表面速度50cm/s）

に対して、いずれも無被害であること。

さらに、安全性検討用の地震動としての、

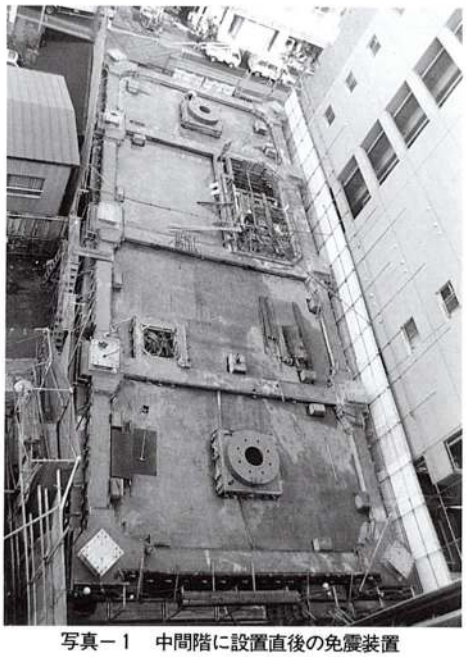
③最大地表面速度75cm/sの仮想地震動

に対しても、実質的にほとんど被害が発生しないこと。

また、建物内収容物の安全性を確保するために、各階の最大応答加速度を、設計用地震動に対して200cm/s²以下に、安全性検討用の地震動に対して300cm/s²以下に抑制すること。

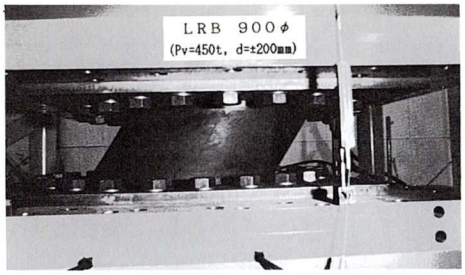
免震装置の設計とその性能

本建物は、主免震装置としてアイソレータ・ダンパー一体型の「鉛プラグ入り免震装置ＬＲＢ」を使用しており（**写真－1**）、そのバックアップシステムとして、「水平変形制限装置」を備えている。

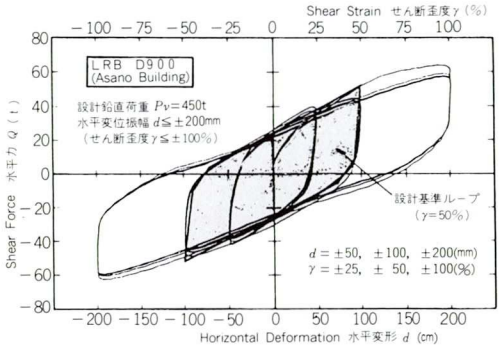


写真－1　中間階に設置直後の免震装置

(1) 主免震装置：ＬＲＢ　上部構造体各柱の下には、直径80cmと90cmのＬＲＢを各1個ずつ、総数で10個配置しており、上部構造体重量3,800tonを支持させている。ＬＲＢ全数の剛心が建物の重心に一致するようにＬＲＢは設計されている。なお、免震装置ＬＲＢは全数の性能試験を行い（**写真－**



写真－2　免震装置ＬＲＢの性能試験状況



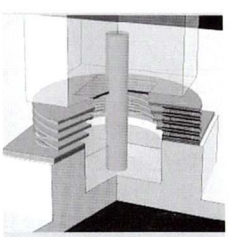
図－4　ＬＲＢの設計性能と試験結果例

2）、設計性能とほとんど誤差のない性能を確認している。また、設計領域をこえる大変形に対しても、最大変形 $d=\pm 50$cmまでの安定した性能を確認している（**図－4**）。

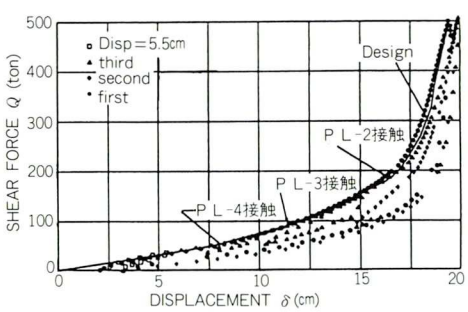
(2) バックアップ装置　水平変形制限装置（**写真－3、図－5**）は、レベル２までの設計用地震動では作動しないが、万一これを上回る不測の入力があった場合に、ＬＲＢの水平変形を設定値45cm以下に抑制するためのバックアップシステムである。この装置は、多段式のゴムパッドで構成されており、ＬＲＢの水平変形が一定のクリアランス(25cm)を越えると、徐々にゴムパッドの復元力が加わり、上部構造体にハードニング型の水平抵抗力を付加する機構になっている。本建物にはこの装置を２体設置しており、レベル３以上の地震動に対してその効果を発揮することを応答解析により確認している。本装置も実物での性能試験を行い(**図－6**)、設計どおりの性能を発揮することを確認している。



写真－3　水平変形制限装置

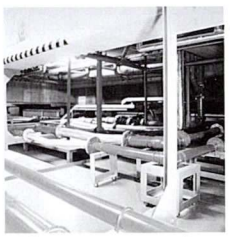


図－5　水平変形制限装置構成図

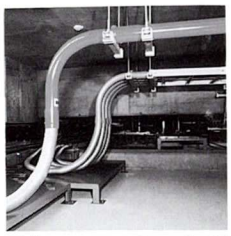


図－6　水平変形制限装置の性能

(3) 地震時相対変位対策　建物の周囲および免震装置設置区域を鉛直方向に貫通する階段室周りには50cmのクリアランスを設け、大地震時に生じる上・下部構造体間の相対変位に対して、支障がないように設計している。また各設備配管類も、この相対変位に対して支障なく追随できるように、フレキシブルジョイント等を用いている（**写真－4、5**）。



写真－4　フレキシブル配管(衛生設備)

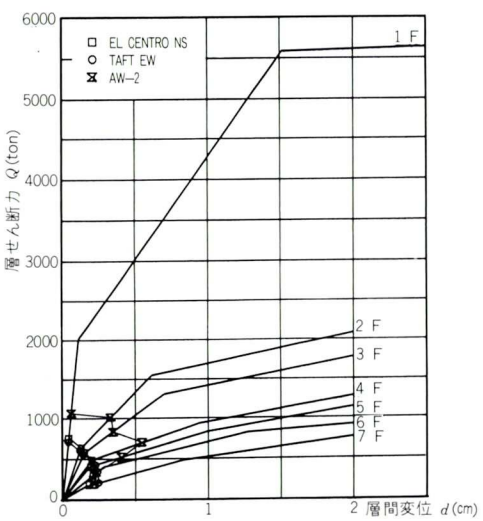


写真－5　フレキシブル配線(電気設備)

各部の設計と耐震性能

(1) 地盤・基礎構造　敷地は洪積層の熱田台地上にあり、第２種地盤にある。地盤条件は比較的良いが、場所打ち鉄筋コンクリート杭を用いてＧＬ－35m以深の砂れき層を支持層としている。レベル２の地震動によって発生する杭頭の最大水平力を上回る設計力を採用しており、大地震時にも基礎構造体に被害が発生しないように設計している。

(2) 下部構造体骨組　免震装置の支持構造体となる１階の下部構造体骨組は、高い水平剛性と構造耐力を確保している。中間階免震による免震装置の入力の増幅を避けるために目標水平剛性を20Hzとし、また骨組の塑性化に伴う入力の増幅が発生しないように、１階のひびわれ耐力をレベル３の応答層せん断力以上としている（**図－7**）。

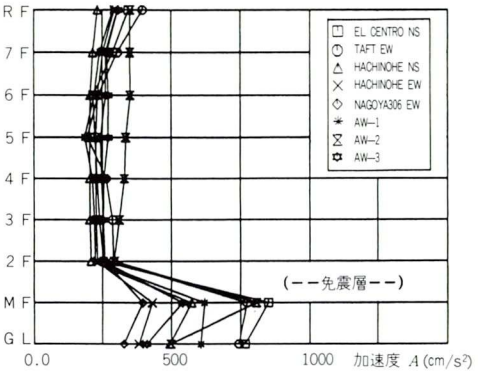


図－7　各階復元力特性と最大応答(Ｘ方向、入力レベル３：Ｖmax＝75cm/s)

(3) 上部構造体骨組　免震装置に支持される２階以上の骨組は、Ｘ、Ｙ方向ともに耐力壁を含むラーメン構造として、上部構造体として必要な剛性と耐力を確保している。

レベル２に対しては無損傷(ひびわれ耐力以下)であり、レベル３のきわめて厳しい入力波形に対してのみひびわれ耐力を越える応答が生じる程度である。

(4) 加速度応答特性　レベル１の入力に対する



図－8　各階最大応答加速度（Ｘ方向、入力レベル３：Ｖmax＝75cm/s）

上部構造体各階の最大応答加速度はほぼ150cm/s²以下、レベル２に対しては200cm/s²、レベル３に対しては250cm/s²程度の応答に抑制されている。（**図－8**）

(5) 免震装置の変形量　レベル１の地震動によって発生するＬＲＢの最大水平変形は５～10cm、レベル２の入力に対して13～24cmであり、水平変形制限装置は作動しない。レベル３の入力に対する変形は20～38cmとなり、バックアップ装置が作動しはじめるが、実記録地震動波形に対しては、どれも30cm以下の応答に収まっている。

(6) 風に対する配慮　本建物の設計用風荷重は設計用地震力の14%程度であり、構造体骨組の安全性は十分である。免震装置の降伏耐力は設計用風荷重の２倍以上としており、風によるエネルギー入力は排除されている。また、ＬＲＢは微小変形領域で高い初期剛性とともに減衰性能も有しており、風振動に対する拘束・抑制効果も十分に確保した設計となっている。

まとめ

以上のとおり、本建物は、実質的にレベル３の強さ（Ｖmax＝75cm/s）の地震動に対してもほとんど被害を受けない設計が達成されており、免震構造の採用によって、収容物の安全性も含めて建物全体の耐震安全性を飛躍的に高めることができた。

敷地条件の厳しい市街地において、本建物を中間階免震建築として実現する過程において、積層ゴムの火災安全性に対する知見も深まり、より魅力的な免震建築に至る設計自由度の拡大に幾分か寄与できたものと考えている。



写真－6　完成したアサノビルディング（1989年８月）

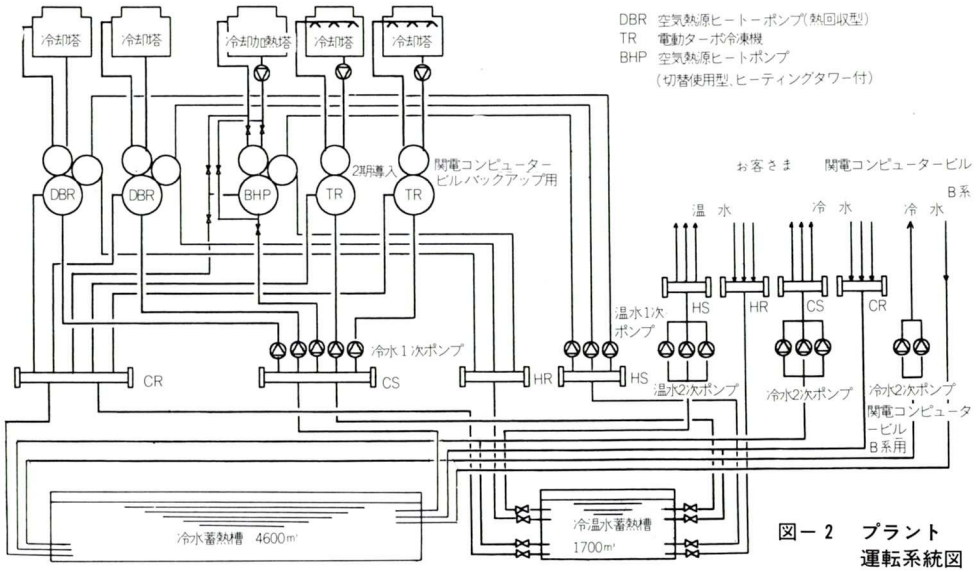
アサノビルディングは平成元年８月に無事竣工した(**写真－6**)。現在は１階床下で免震された地下２階・地上12階建ての免震ビルが東京都豊島区において工事中であることを報告しておきたい。

(みやざき　こうせい
住友建設株式会社建築部建築開発課課長代理)

設備の頁

179
最近の地域冷暖房
―大阪本庄東地区の熱供給

宮本　庄三



図－2　プラント運転系統図

現在、関西地区では、関西国際空港、関西文化学術研究都市をはじめとするさまざまなプロジェクトが構想、計画、実施されている。㈱関西産業活性化センターの調査によれば、その数は、およそ560にも及ぶとのことである。

このような地域開発ブームを背景として、関西地区においても、近年、新しい都市形成に対し、資源・エネルギーの有効利用、環境保全、都市アメニティの確保という観点から、地域冷暖房システムへの関心が急速に高まってきている。

関西電力では、電力供給において永年にわたり培ってきた経験ならびにノウハウを生かして、こうした関西の地域開発の一助になることを願って、地域冷暖房事業と取り組んでいる。

電気による地域冷暖房

電気による地域冷暖房の意義は、大きくつぎの2点にある。

(イ) 電力負荷平準化によるコストの低減

周知のように、電力負荷は季節的な負荷変動とともに、昼夜間にも大きな負荷変動を生じており、この負荷変動の平準化を図ることができれば、電力施設を有効に利用することができる。そして電源開発の抑制、設備形成の効率化などのコスト低減につながることとなる。

こうした観点から現在、当社をはじめとする電力会社では蓄熱調整契約等を制度化しており、昼間に比べきわめて安価である夜間電力の利用を推奨している。

電気による地域冷暖房は、従来各建物ごとに設置していた熱源機器を、共有化することにより、設備容量の低減化、省スペース化等の実現を図ることができるほか、この夜間電力を活用することにより、電力負荷の平準化によるコスト低減に貢献することができる。



図－1　供給区域

(ロ) 環境保全、アメニティの確保

現在、窒素酸化物による大気汚染が深刻化している。こうした中にあって、環境庁は全国都道府県知事、政令市長に対し、大気汚染に効果のある地域冷暖房導入に積極的に取り組むよう求めるところとなった。

電気による地域冷暖房は、燃焼部分を持たない安全かつクリーンなシステムであるばかりでなく、ヒートポンプにより、都市に溢れているさまざまな排熱を回収して利用できることや河川水、海水等の無尽蔵な熱を利用できるなど、環境保全、改善に貢献することができるという優れた特質を持っており、都市美観の向上、防災性の向上等地域冷暖房の持つ本来の特質と合わせて、今後の都市形成に重要な役割を果たすと考えられる。

大阪本庄東地区における地域冷暖房計画

以上のような地域冷暖房の意義に基づき、当社は大阪市北区本庄東地区の地域冷暖房を計画し、平成元年8月、通産大臣より事業許可を受けた。

この事業許可は、当社としては、北区中之島六丁目西地区の地域冷暖房事業について二番目のものとなったが、営業開始は平成3年10月の予定であり、中之島六丁目西地区の営業開始が平成4年となることから、当社の電気による地域冷暖房では、最初のプラントとなる予定である。

(イ) 供給区域概要

本庄東地区は、大阪市の中心地である北区に位置し、現在、近畿電気工事本社、関電興業本社など電力関連企業が隣接している地域である。

この一角に、21世紀のニューコンピュータリゼーションの推進のためには、現在の計算センターが狭あい化しているなどの理由から、当社は、新ビル「関電コンピュータービル」を建設することとなった。また、近畿電気工事、関電興業においても新ビルを建設する計画が進み、この地区において全電気方式の地域冷暖房を行うこととなった(**図－1** 参照)。

事業主体は、当社の全額出資会社である㈱関西都市センターがあたることとなっており、供給開始は、第1期がすでに述べたように平成3年10月を予定しているが、さらに第2期として、周辺の既設ビル、再開発ビルにも供給を行う計画である。

(ロ) プラントの概要

熱源機器としては、第1期が、空気熱源ヒートポンプ(熱回収型)2台、空気熱源ヒートポンプ(切替使用型・ヒーティングタワー付)1台の計1,840RT、第2期の増設として電動ターボ冷凍機1台600RT、合計2,440RTの設備を予定している。

また、蓄熱は水蓄熱方式により、冷水蓄熱槽容量4,600m³、冷温水蓄熱槽1,700m³を予定している。

プラントの特徴としては、コンピューターセンターという中枢機能への熱供給を行うため、その信頼性を確保することが重要であり、バックアップ用の冷凍機を設置するなどのシステムの二重化を図っている点と、コンピューター室ならびに受変電室の排熱を回収し有効利用を図っている点にある(**図－2** 参照)。

最後に

わが国における地域冷暖房事業は、欧米に比べ、まだ歴史的に浅いことなどもあって、熱供給導管の道路占用や河川水利用などのスムーズな実施、街づくりとの一体化、税制や融資、助成等の制度の充実などについて、必ずしも条件が整備されているとは言えないのが現状であり、今後、これら地域冷暖房推進上のさまざまな課題について、改善が図られることを強く期待しているところである。

当社としても、中之島六丁目西地区、大阪本庄東地区での経験とノウハウの蓄積、そしてより一層の研究開発を進めることにより、電気による地域冷暖房の普及に努めるとともに、さらに電力供給、情報通信サービスを加えた「電気」「熱」「情報通信」という都市インフラを中心とした複合的なサービスをもって、良好な環境を有する新しい都市づくりに積極的に協力していきたいと考える次第である。

(みやもと　しょうぞう　関西電力株式会社市場開発部
地域冷暖房関連チームプロジェクト部長)

施工材料の頁

174
視野選択ガラス

小垣　敦洋

日本の住宅のガラスは、長い間採光の目的だけであったため、透明ガラスに馴れきっていたが、住まいの環境悪化、住まいの機能要求の多様化・高級化は、採光のための開口部にも影響を与えている。昨今では採光以外の機能として、省エネ・断熱・安全・装飾・防音等、さまざまな機能を持ったガラスが開発されてきた。

ここで新たに高まってきたニーズとして、『プライバシーの保護』というものがある。都市周辺では、地価の高騰から住宅の過密化・高層化が進み、プライバシーの保護が深刻な問題となっている。一方で、自然光を十分に採り入れたいというニーズから、採光部の拡大はますます進んでいる。この対立するニーズを満たすために開発されたガラスが、『アングル21』である（**写真－1**）。



▲離れた場所から見ると透明ガラスのベランダ

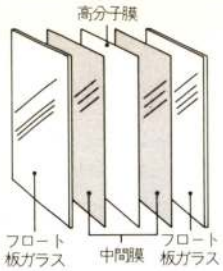
▼接近して見上げるとベランダのガラスは不透明に変わる



写真－1　視野選択ガラス

アングル21とは

アングル21は、**図－1**のように「特殊な光学特性を持つ高分子膜」を2枚のガラスではさみ込んだ合わせガラスである。この「特殊な高分子膜」が入射角度で光の透過状態を変化させるため、視点からの角度によってガラスに「透明状態に見えるところ」と「不透明状態に見えるところ」が生じることになる。透明領域での平行光線透過率は80%以上と高く、不透明領域では20%となり、光線を散乱してスリガラス状となる。またその透視、不透視の状態はあざやかに変化する。



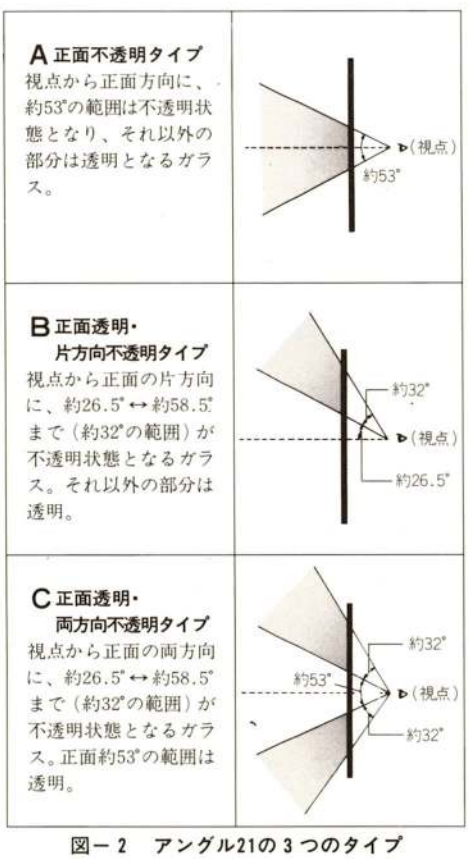
図－1 アングル21の構造

アングル21の種類と特長

アングル21の視野選択のタイプには、**図－2**のように3つのタイプがある。Aタイプでは、視点から正面方向に約53°の範囲は不透明状態となり、それ以外の部分は透明となる。Bタイプでは、視点から正面の片方向に約26.5°～約58.5°まで（約32°の範囲）が不透明状態となり、それ以外の部分は透明となる。Cタイプは、視点から正面の両方向に約26.5°～約58.5°まで（約32°の範囲）が不透明状態になり、正面約53°の範囲は透明状態となる。この場合、ガラスの一方から見えない場合は反対側からも見えないし、見える場合は反対側からも見えることになる。

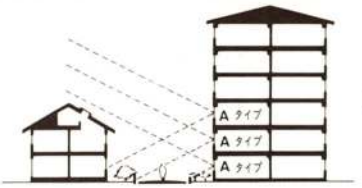
採光性についても、全光線透過率が不透明（散乱）領域でも80%あり、やわらかな光をとり入れることができる。また合わせガラスなので割れにくく、たとえ割れても破片が飛散しないので安全である。

このガラスの製品仕様は、縦方向に視野変化をつける場合は$H1829 \times W1219$、横方向に視野変化をつける場合は$H1219 \times W1829$が最大寸法になる。厚さは、6㎜～11㎜であり、各種板ガラスとの組み合わせが可能なので、乙種防火戸にも適合できる。



図－2　アングル21の3つのタイプ

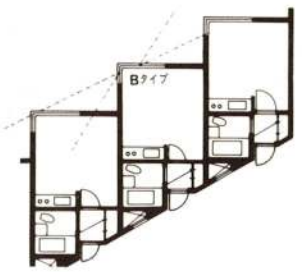
アングル21の使用方法



図－3



図－4



図－5

プライバシーの保護という観点から、使用方法について、実際のモデルで解説する。

戸建て住宅と高層住宅の問題は、高層住宅が後から建てられ、戸建て住宅側がプライバシーの主張をするというケースがほとんどである。これらの解決に、アングル21の有効性が発揮される。**図－3**のように1～3階の窓にはアングル21のAタイプ、すなわち正面が透視できないガラスを取りつける。そして**図－4**のように、4～6階の窓には下方向が透視できなくなるBタイプを取りつける。こうすれば高層住宅の住人は、戸建て住宅のプライバシーを侵すことなく、視野の広がりも十分に確保できる。

また**図－5**のような雁行型といわれるレイアウトが、マンション・ホテル等で増えてきている。しかし問題となるのは、隣との窓の位置関係で、覗き込みが気になるために、外部に開かれるせっかくの壁面に窓を設けられないケースも出てくる。この場合でもアングル21のBタイプを横使いにすれば、明るく快適な間取り設計が可能となる。

アングル21の使用にあたっては、図－3～5のように正確な環境図を書いて、どのタイプを選べば目的の効果をあげることができるのかを確認することが必要である。

あとがき

アングル21は、プライバシーの保護を重点に開発された商品であるが、視野選択の機能を生かして、アクティブなディスプレイ演出や、建築以外の自動車や照明器具等さまざまな分野での用途が考えられる。

またアングル21のほかにも、電気的な制御により透視不透視を作り出す瞬間調光ガラス「ウム」もあり、調光の分野での市場創造をますます進めていきたい。

注）瞬間調光ガラスは、本誌1989年6月号「設備の頁」で取りあげているので、ご参照願いたい。

（おがき　あつひろ　日本板硝子株式会社硝子建材営業部）

シンポジウム「建築とアート――その不協和音」

――関西設計者会議「飛田百番」で開催

年末に大阪市西成区の「鯛吉飛田百番」で、関西設計者会議の「建築とアート」をテーマにしたシンポジウムが開かれた。

最近、一連のデザイン会議や博覧会、また金あまり現象にも影響された、豊かさを求める傾向などからアート指向の風潮が強くうちだされている。建築界においても、建築家とアーティストの共働作業が多くみられるが、うまくいった例はそう多くない。そこで、こうした問題に焦点をあてるため、アーティスト、建築家の双方の考え方を提示し、話あって将来のよりよい関係を築いていこうと今回のシンポジウムは企画された。

関西設計者会議は、京阪神で活動する30～40歳の建築家、インテリアデザイナー、官公庁、大学の研究者、建築写真家、建築に関係するマスコミ、専門誌などの関係者など約50名で構成される関西の建築に関わる文化・情報の発信基地をめざす集まりで昨年6月に発足した。

会場にあてられた料亭「飛田百番」は、大阪の建築家にはよく知られた建築作品で、戦前の遊郭の粋を極めたもの。会場を訪れた参加者も、その時代を超えた装飾の見事さにしばし時間の立つのを忘れて、みとれるほどであった。

シンポジウムのテーマは「建築とアートその不協和音――文化のクリエータとしての認識」と題し、ゲストにアーティストの今井祝雄（造形作家）北山善夫（彫刻家）、清水柾博（彫刻家）、横溝秀実（画家）の各氏を迎えて行われた。

まず、建築家を代表して北村陸夫氏が「建築も彫刻もビジュアルな面では同じ造形ではないか」と問題提起をした。

これに対しゲストのアーティストはそれぞれの考え方、作風をスライドで紹介しながら説明。建築とアートの共働やアートのプレゼンテーションについてつぎのように発言した。

今井祝雄氏「自分の考えをうまく言葉に表現するのは難しい。だからアート作品に置きかえて、作品をとおしてコミュニケーションしようとしている」。

北山善夫氏「磯崎新氏設計の草月会館で竹と紙の彫刻作品をつくったが、存在感がうすかった」。

清水柾博氏「一作だけ建築家と共働したが、パーツを組み合わせた作品づくりは、建築家の思考に通じる部分がある」。

横溝秀実氏「画廊の空間を前提にした画家の仕事と建築空間での仕事の質は当然、異なっている。両者の対話で接点をみいだせるのではないか」。

建築家からのおもな発言はつぎのとおり。

貴志雅樹氏「アートを置いただけで空間構成を済ませてしまうような建築の方に問題がある」。

本多友常氏「建築家はアーティストでなく、アーキテクトである。建築とアートが同意義とは思わない方がいい。アートの表現性と建築の表現性をつきつめたところに接点があるのではないか」。



関西設計者会議シンポジウム風景

安原盛彦氏「日本の建築家は芸術家をとじこめるのがうまい。そうして〝床の間アート〟という狭い場に範囲をかぎってしまう」。

若林広幸氏「建築とアートは〝メッセージ〟性という意味で同じではないか」。

池上俊郎氏「私もアートをやっているが、小さな空間で、巨大な建築といかに戦うか不安だ。建築家とアーティストの共通の言語をみいだせないか」。

ユーザの立場から神戸市の田中直人氏が「建築家やアーティストだけの立場でなく、利用したり鑑賞する市民の立場にも目を向けてほしい」。

など、2時間余りにわたって活発な意見が続出したが、議論は併行のまま時間切れになり、明確な方向性や解決策は見いだせなかった。

関西設計者会議では、建築家とアーティストの接点を引き続き模索する意味からも、同シンポジウムのパート2を考えている。

第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ募集

昨年に引き続き、第2回横浜アーバンデザイン国際コンペを実施される。これは横浜の実際の場所をテーマに、これからの都市のあり方を探り、都市のデザインを提案するアイデア・コンペである。

同コンペは、都市をデザインするため多様な背景を読みとり、さまざまな視点から提案を試みるため、商店街、道、広場、港など多様な場所とテーマをシリーズで取り上げる。そして（仮称）ヨコハマ国際デザイン展の重要な題材とするとともに、今後の横浜の街のデザインへと反映させていく。同時に参加する多くのデザイナーや関係者に対して、都市と横浜についての理解と協力を得ることを期待している。

テーマ　「ウオーターフロントの再生に向けて・横浜海岸通り」

古くから港湾関係施設や商社、海運等の企業が集まり、ウオータフロントの通りとして特色ある地区を形成してきた海岸通りを取り上げる。海岸通りとその周辺地区のアーバンデザインプランとともに、その一角にある日本郵船横浜ビルとその周辺を想定敷地として、アーバンデザインプランに連係した魅力的な核となる施設のコンセプトとデザインを考える。

スケジュール　平成2年1月～5月募集
〃　6月審査、発表、表彰式
記念シンポジウム

審査委員
委員長　槇　文彦（建築家）
委　員　蓑原　敬（アーバンプランナー）
陣内秀信（建築・都市史家、法政大学助教授）
シー・ユー・チェン（建築プロデューサー）
リチャード・ベンダー（カリフォルニア大学教授）
江口昭悟（横浜市技監兼都市計画局長）

賞　金　最優秀1点100万円
副賞　日本郵船賞（50万円相当）
優秀　2点　50万円
副賞　日本郵船賞（25万円相当）
入選　10点　各10万円
（賞金はすべて税込み）

問い合せ　横浜アーバンデザイン国際コンペ実行委員会事務局
TEL 045－671－2023

都心型ニュートレンドハウジングの供給

——住宅・都市整備公団関西支社

住宅・都市整備公団関西支社では、都心の集合住宅のレベル・アップを図るため、住む人々のライフスタイルに対応した新しいプランの住宅の供給を発表した。用意するのは「DINKS（共働きで子供がいない家庭）向きプラン」「女性に親切プラン」「お年寄り向きプラン」など計15種類。

例えば、「DINKS 向きプラン」は、食堂兼居間とは別に寝室２つがあり、互いのプライバシー、ライフスタイルを尊重しあえるようにする。うち一室には、書斎コーナーを設ける。

「女性に親切プラン」は炊事、洗濯など家事作業の動線を一ヵ所にまとめ、読書もできる「ミセスコーナー」を設置。浴室には大型換気乾燥装置を備え、夜でも洗濯物が乾かせるようにするなど、共働き家庭にも配慮している。

「お年寄り向きプラン」は、湯船をまたがずにすむ落とし込み式の風呂がある。台所やトイレを二カ所設けた「二世帯向き」、棚と物入れを全部壁面に収納した「スタジオ感覚派向き」、趣味や芸術活動に使える「多目的室のある間取り」など各種タイプが考えられている。

これらの「都心型ニュートレンドハウジング」は下記のとおり。

都心型ニューライフスタイルの住宅

ライフスタイル	都市型　ニュートレンド　ハウジング	供給予定団地
都心生活感性重視たのしみ派には	●女性に親切な都会的住宅	桜宮リバーシティ
	○大きなリビングルームのある都会的住宅	淀川リバーサイドタウン
	○眺望重視都会的住宅	高見フローラルタウン
	○ペントハウス	ハーバーランド神戸駅前
利便性重視都心わりきり派には	○熟年夫婦向きの都会的住宅	淀川リバーサイドタウン
	○お年寄り向きの都会的住宅	
	●戸建感覚の都会的住宅	桜宮リバーシティ
	○二世帯同居向きの都会的住宅	淀川リバーサイドタウン 高見フローラルタウン
ファッショナブル派には	○洋室指向の都会的住宅	高見フローラルタウン
	●屋根裏部屋（グルニエ）のある都会的住宅	桜宮リバーシティ
	○壁面収納のたくさんある都会的シンプル住宅	淀川リバーサイドタウン
	○家具付き単身者向きの都会的住宅	高見フローラルタウン
プライバシー尊重派には	●共感共棲の都会的住宅	桜宮リバーシティ
コミュニティ重視協調派には	○趣味の部屋のある都会的住宅	
ナチュラル指向生活派には	●インテリアがウッディ調の都会的住宅	淀川リバーサイドタウン



桜宮リバーシティ「女性に親切プラン」

建築家のビデオを無料レンタル

——東陶機器大阪支社

東陶機器㈱では、建築家の講演会や作品展をビデオ収録したものを、無料で１週間程度、貸し出しを行っている。

詳細は、下記に問い合わせ下さい。
東陶機器㈱大阪支社
〒530 大阪市北区曽根崎２－３－７　梅新第一生命ビル東館　TEL 06－364－1622
市場開発第１部 今里明朗

GALLERY・MA ビデオリスト

No.	講演会ビデオ	収録	所要時間
A－01	石山修武　技術の万華鏡　石山修武の仕事	1986．6．11	35分
A－02	早川邦彦　風景としての建築	1986．7．8	45
A－03	ヘルムート・ヤーン ロマンティック・モダニズムに向かって	1986．10．8	55
A－04	伊東豊雄　風の街の建築たち	1986．11．20	42
A－05	高松　伸　かたちの奇跡　高松伸の建築	1987．3．11	50
A－06	葉　祥栄　人と自然とインターフェイスデザイン	1987．4．24	40
A－07	相田武文 「沈黙・遊戯・ゆらぎ」	1987．9．22	42
A－08	ヴィットリオ・グレゴッティ　領域としての建築	1987．10．15	40
A－09	毛綱毅曠　都市の遺伝子	1988．2．9	40
A－10	鈴木エドワード　FULL METAL JACKET	1988．6．16	40
A－11	出江　寛　齣玄——神とエロスとデザイン——	1988．9．6	40
A－12	OMA：レム・コールハース 都市のための建築・建築のための都市	1988．10．12	40
A－13	六角鬼丈　地水火風空	1988．11．17	40
A－14	木島安史　堂夢の世界	1989．1．18	40
A－15	長谷川逸子　第二の自然としての建築「空中庭園」	1989．3．28	40
A－16 3本組	シンポジウム　ソウル発1989　東アジアの建築的展望 〈セッションI〉120分　キム・ギーソク、相田武文、キム・インチョル 司会：植田　実 〈セッションII〉120分　チョー・ソンヨン、早川邦彦、崔 在銀、三宅理一 〈総括対談〉　30分　金 晶東、植田 実	1989．5．9	120 120 30
A－18	竹山 聖 不連続都市 AMORPHE WORLD DISCONTINUOUS CITY	1989．9．11	45
A－19	バーナード・チュミ TRANSPROGRAMMING, DISPROGRAMMING	1989．10．13	55

	作品展ビデオ　タイトル所要時間：約20分	会　期
B－01	毛綱毅曠　都市の遺伝子	1988．2．8～3．12
B－02	杉本貴志　線・空間	1988．3．18～4．16
B－03	粟辻　博　自立した表層	1988．5．10～6．8
B－04	鈴木エドワード　FULL METAL JACKET	1988．6．15～7．20
B－05	出江　寛　真行草神とエロスとデザイン	1988．9．5～10．4
B－06	OMA：レム・コールハース	1988．10．11～11．9
B－07	六角鬼丈の建築　地水火風空	1988．11．16～12．20
B－08	木島安史　堂夢の世界	1989．1．17～2．16
B－09	喜多俊之　MOVEMENT AS CONCEPT	1989．2．23～3．20
B－10	長谷川逸子　第二の自然としての建築－空中庭園	1989．3．27～4．26
B－11	金 珦碩・金 仁喆・趙 成龍 新世代の韓国建築家三人展－マダンの思想	1989．5．8～6．7
B－12	安藤忠雄　水の教会＋光の教会 建築の地平	1989．6．15～7．20
B－13	追悼　大江　宏　展	1989．8．21～8．30
B－14	竹山 聖 DISCONTINUOUS CITY不連続都市 AMORPHE WORLD	1989．9．5～10．4
B－15	バーナード・チュミの建築	1989．10．12～11．11

日本建築協会

月間の動き

平成元年12月分

理　事　会

第5回定例理事会

14日　5時～5時半　於太閤園
出席者　佐野会長ほか29名
議事　(1)通常総会開催の件
(2)ＪＩＡセミナー1990「建築家が損をしないための法律知識」後援の件
(3)「ヴォーリズの建築と関西1910～30年代の都市風景」後援の件
(4)「平成2年度1級・2級建築施工管理技術検定試験受験準備講習会」後援の件
(5)「建築におけるＣＡＤの現況と将来について」協賛の件
(6)事務局職員下期賞与支給の件
(7)入退会者承認の件
(8)報告事項

編　集　委　員　会

第10回施工材料分科会

5日　4時半～6時　於本会会議室
出席者　志水幹事ほか4名
議事　(1)「施工材料の頁」の企画
(2)4月号「プレハブ住宅の過去・現在・未来」

第9回会員企画小委員会

5日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか4名
議事　(1)「建築と社会」（シリーズもの）11月号の報告と今後の掲載予定
(2)「女性会員の集い」の企画について

第9回編集委員会

11日　4時～6時　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか5名
議事　(1)11月号「第36回青年技術者」特集報告
(2)12月号「最近の博覧会パビリオン」特集経過報告
(3)1月号「商品化住宅のデザイン」特集経過報告
(4)2月号「ニュータウン・ルネサンス」特集経過報告
(5)3月号「スケール感」（仮称）・「東海支部」（仮称）特集経過報告
(6)4月号「プレハブ住宅技術の現在と未来」特集経過報告
(7)来年、次年度の企画検討・その他
(8)収支状況報告

第9回作品作風小委員会

14日　5時半～7時　於本会会議室
出席者　塘副委員長ほか5名
議事　(1)「新建築調査表」の作品の選定
(2)最近の掲載状況・予定の報告
(3)「Gallery」内容報告と今後の検討

2月号「ニュータウン・ルネサンス」特集座談会「21世紀のニュータウン」

15日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　磯野　新(千里タイムズ)、加藤育生(関西文化学術研究都市推進機構)、柏原士郎(大阪大学)、田中直人(神戸市)
オブザーバー　鈴木・吉村委員
テーマ「21世紀のニュータウン」

第11回施工材料分科会

18日　4時～6時　於本会会議室
出席者　志水幹事ほか4名
議事　「施工材料の頁」の企画

25日　4時～6時　於本会会議室
出席者　志水幹事ほか4名
議事　「施工材料特集」の企画（4月号予定）

3月号計画分科会「スケール感」特集第5回幹事会

21日　7時～9時半　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか4名
議事　平成2年3月号「スケール感」特集案検討

第9回広告企画小委員会

25日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか4名
議事　(1)12月号「最近の博覧会パビリオン」特集広告収入報告
(2)1月号「商品化住宅のデザイン」特集・「謹賀新年挨拶」広告収入報告
(3)2月号「ニュータウン・ルネサンス」特集広告途中経過報告
(4)3月号「スケール感」特集・「東海支部」特集広告途中経過報告
(5)4月号「プレハブ住宅の工業化」特集広告途中経過報告
(6)平成2年度独自特集企画
(7)収支状況報告

事　業　委　員　会

第2回1泊見学分科会

7日　6時～8時　於本会会議室
出席者　伊東副委員長ほか3名
議事　見学会の企画について

第7回エコロジカル企画分科会

11日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　田中主査ほか2名
議事　(1)ゲストへの依頼
(2)当日の内容

第2回関東地区建築見学分科会

12日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　伊東副委員長ほか4名
議事　見学会の企画について

第11回若い会員の集い「関西の祭事」研究会

13日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　大森主査ほか1名
議事　(1)予備調査報告のまとめ
(2)今後の作業予定

第2回リゾート施設見学分科会

18日　6時～7時45分　於本会会議室
出席者　中川委員ほか1名
議事　見学会企画のための情報収集について

第5回若い会員の集い「北村陸夫氏」企画分科会

21日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　大川主査ほか3名
議事　(1)テーマ、内容
(2)見学スケジュール
(3)ポスター

建　材　委　員　会

第8回委員会

13日　3時半～5時半　於本会会議室
出席者　金井委員長ほか16名
材料説明：外防水材（ＩＳスプレイコート）／元木副委員長
今後の検討建材：デッキコーティング防水／猪野委員
：アルミ鋳物と光ファイバーシャンデリアシステム／元木副委員長

見　学　会・講　習　会

ライカグループ本社ビル見学会

4日　2時～4時
参加者　287名
●建築概要
所在地　大阪市住之江区南港北1－6
設計監査　安藤忠雄建築研究所
施　工　大林組

建築工事実務講習会

6日　9時～5時　於大阪建設交流館
科目・講師　施工計画：藤井俊彦氏(大成建設)
：藤井孝晏氏(大林組)
仮設見積：水落和則氏(大林組)
積算業務：中山雅博氏(竹中工務店)
受講者　116名

建　築　ク　ラ　ブ

第212回朝食会

12日　8時半～10時　於大阪グランドホテル
演題　人間魚雷「回天」16㎜併用
講師　三谷与司夫氏（㈱統計サービス顧問）
出席者　68名

講師打合会

5日　5時～5時半　於本会会議室
出席者　三谷与司夫、里村年人氏
議事　講演の内容について

建築関係団体合同忘年懇親会

14日　6時～7時半　於太閤園
出席者　350名

住宅管理研究会

第2回住宅管理研究会

12日　9時半～12時半　於本会会議室

出席者　巽主査ほか23名

議事　(1)作業委員会の経過報告

(2)大森委員からの中間報告

(3)高田委員からの中間報告

12月の入会者（敬称略）

〔団体会員1社〕

エヌ・ティ・ティ関西不動産㈱

〔個人会員5名〕

大塚　裕弘（東畑建築事務所）　楠本　望（竹中工務店）　佐々木晴子（大阪市都市整備局）

松島　清（住友信託銀行）　水原　研三（鹿島建設）

●プロのノウハウ新刊紹介

出版委員会 川道麟太郎

「インテリアコーディネートの100ポイント」



町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子共著

定価 1,648円　学芸出版社刊

この本の著者たちには、インテリアコーディネートのくさわけとしての自負と責任感がみなぎっている。インテリアコーディネートの職能は、ともすれば、通産省認定の資格規定にインテリアコーディネーターとは「インテリアエレメントの流通過程において、消費者に対し、商品選択とインテリアの総合的構成などについて、適切な助言と提案を行う人」とあるように、インテリア商品の販売促進に寄与する職能のように狭くとられがちである。筆者たちは、この偏ったイメージを越えて、生活環境のプラニングや設計を行う、より専門的な職能として、これを健全に育て上げようとしている。

実際、この分野は本来、わが国にあって極めて高い社会的需要があるにもかかわらず、衣・食・住の衣における服飾デザイナー、食における調理士のようには、健全に育ってこなかった。このことは、あたかも、わが国における衣・食・の異常なまでの繁栄と、それに引き比べての住のこれまた逆に異常なまでの貧困に平行しているようにみれる。わが国では、今日ともすれば投げやりがちになっている住生活や住空間の問題に対して、今後、住生活や住空間をもっと真剣に考え、大切に思う生活者の思想を育てていかねばならない。

この本には、インテリアコーディネートという仕事のフィロソフィ（と言っても堅苦しいものではない、要するに「暮らしの思想」や生活者のセンスを持つことを意味する）とインテリアコーディネートのための数々の「プロのノウハウ」が埋め込まれている。また、同時にこの本は、インテリアコーディネーターになるための学習の仕方やセンスの磨き方、それに暮らしの空間を考え工夫することの楽しみを教える本でもある。多くの愛読者が生まれることを期待します。

（かわみち　りんたろう／工学博士・関西大学助教授）

インテリアコーディネート
――の100ポイント――

プロのノウハウ

町田ひろ子監修／松本茂・村元俊子著

四六判・240頁・定価1648円（本体1600円）

インテリアコーディネーターの必読書!!

町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミーが培ってきた新しい職能としての認識とコーディネーションの実際的なテクニックをわかりやすい100ポイントに表現.

〈目　次〉

1．インテリアコーディネーター前史
2．インテリアコーディネーターの仕事
3．インテリアイメージ
4．住まいやすさ（スペース・寸法）　5．住まいと色彩
6．カラースキームのテクニック　7．家具計画
8．ウインドトリートメント・ライティングプランほか
9．インテリアと女性と仕事
10．インテリアコーディネートビジネス
11．コーディネートの学習術

淡い色は天井を高く



縦のストライプは天井を高く見せる

濃い色は天井を低く



横のストライプは高い天井を低く見せる

企画／日本建築協会

〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811　振替／京都 0-26789

㈱学芸出版社

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL 06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電 話 06(361)3671(代)
支 店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電 話 03(666)1478(代)
営業所 堺・泉 州・泉 南・滋 賀

誠実と技術でお応えする

住友電設株式会社

取締役会長 代 谷 正 元
取締役社長 相 馬 一 男

本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代) 東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理
●電力工事：発変電設備工事／架空送配電線工事／地中送配電線工事
●設備工事：ビル電気設備工事／工場電気設備工事／防爆電気設備工事／空調工事／給排水衛生工事／特殊配管工事／計装工事／消防施設設備工事
●プラント工事
●情報システム工事：光伝送システム工事／CATVシステム工事／各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471
TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231
TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06(385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574)0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771)6168

特殊壁装材製造販売 和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)

(株)ホクシンクロス

〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610

工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

専務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

営業種目

●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可(般－53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)0701

(株)特殊技研

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材

Master Builders Technologies
ポゾリス物産株式会社
日曹マスタービルダーズ株式会社
本 社：東京都港区六本木3－16－26 TEL03-582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依 藤 孝 行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351—5428(代)
FAX(06)351—5299

省エネルギー時代の断熱用シート防水材

日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは,日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

空気調和・給排水・衛生・防災設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851（大代）　大阪本社☎06－448－3603（代）
大阪支社　☎06－448－5851（代）　名古屋支店　☎052－211－1535（代）　中国支店　☎082－247－5541
九州支店　☎092－431－2147（代）　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和
給排水衛生

搬送機設備
設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511（代表）

空気調和設備
給排水設備
電気設備

産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

MODAIRA

空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社 大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市青葉区大町2丁目2番10号　電話022－261－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　**電話大阪(458)3628番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1．2階）
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031　代表
メンテナンス部　電話　大阪（06）768－1651　代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京（03）262－3241 代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

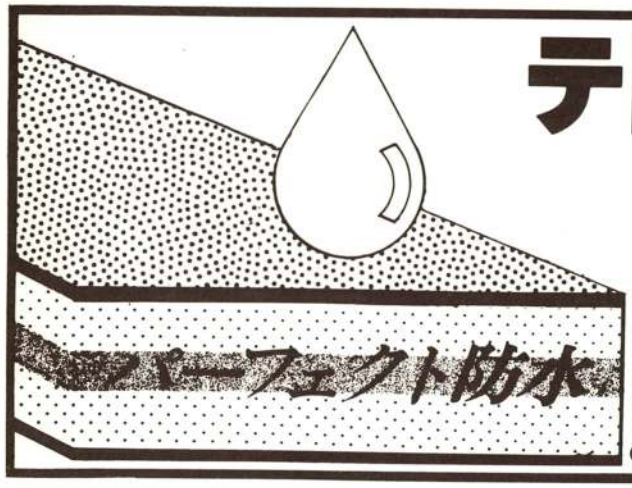
本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話（06）352－3501代
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610代
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431代
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738代

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610)



テトカッパー防水層

防水事業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

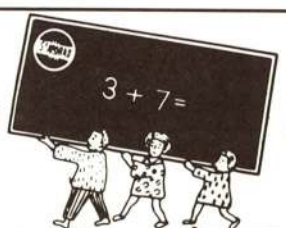
本　社	東京都中央区銀座8−4−9	電話03 (571) 2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6−1−41	電話06 (391)1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1−3−30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462 (21) 1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052 (811) 3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952 (47) 2945

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1−3−8（日本生命谷町ビル）
TEL (06)943−6571 (代)
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市



Standard　Board&Slate

フタバ工業

〒547　大阪市平野区加美北3−4−5　TEL 大阪06(792)5858(代)

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　〒550 大阪市西区西本町1−13−33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町50

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社	〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30	☎06(606)1111代
日本写植センター	〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル	☎0992 (26)4371
津山写植センター	〒708 津山市大手町8番5号横綱店会館	☎08682 (4)1771



ナニワ瓦株式会社

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
☎ 五六一〜七四五四
ファックス 五六一〜七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム

波板規格　Ｓ小波・Ｓ大波・Ｖ波・ボックス波・Ｗジャンボ波・Ｖデッキ
ＳＶジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい


体育館屋根フネンシングル

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26　松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

デンカCSAファミリー製品

- **デンカCSA**（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
- **デンカタスコン**（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
- **デンカキューテックス**（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
- **デンカES**（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
- **デンカΣ1000**（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(0775) 83－2381

建築と社会
第71輯第2号

TOYO Shutter

シャッター新世紀

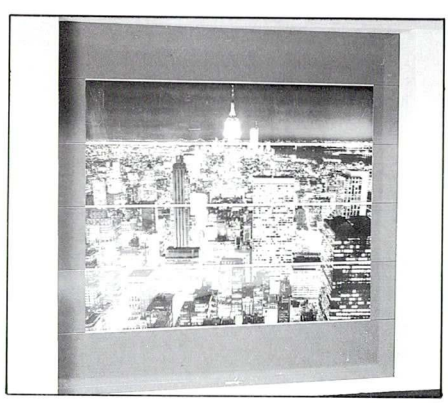
輝くのは、私です。



新登場

シャッターに描かれたメッセージが、閉店後のお店をアピール。

絵や写真、文字、ロゴタイプなどを使って自由に描けるスクリーンと、バックライトを、シャッターに組み込んだ〈アドビジョン〉。浮かびあがる美しいメッセージが、閉店後のお店を効果的にアピールし、前を通る人に、お店を強く印象づけます。
〈アドビジョン〉は、今、新しい時代の、新しい扉を開きました。



アドビジョン

東洋シヤッター株式会社
本　社／大阪市中央区常盤町1-3-8(日本生命谷町ビル) 〒540 TEL.06 943-6571㈹　東京本社／東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル) 〒106 TEL.03 479-2911㈹

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635　FAX06(348)0634

振替口座大阪一二九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円送料共）
（消費税一九円）